

人文社会学科 人間論コース

開設科目	人間論入門	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘、高木、豊澤、脇條、林(文)、アラム、柏木、奥津、藤川				

授業の概要 この講義では、哲学・思想コースの教員全員が交代で1～2回ずつ授業を担当します。それぞれの教員が専門とする学問分野で扱われる実際の内容に接することが、哲学・思想コースの学問分野への最良の案内となると考えます。/ 検索キーワード 哲学・思想、哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想、美学・美術史

授業の一般目標 哲学・思想コースの各分野(哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想、美学・美術史)が扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各分野の扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。 思考・判断の観点: 各分野にふさわしい思考、判断ができるようになる。

授業の計画(全体) 哲学(脇條)、倫理学(古荘)、宗教学(アラム)、中国哲学(高木、林)、日本思想(豊澤、柏木)、美学・美術史(奥津、藤川)の各教員がそれぞれ1～2回の授業担当の予定。各教員の専門分野から入門に適した内容を取りあげて講義を行う。

成績評価方法(総合) 各教員ごとにレポート(あるいは試験)を課し、合計点を100点に換算する。出席80%程度必要。

メッセージ 哲学・思想コースってどんな勉強をするんだろう、と思っている皆さんにより導入となる授業にしたいと思います。

開設科目	哲学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。 / 検索キーワード 哲学、必然的真理、科学、自由、心と身体、神

授業の一般目標 最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋哲学の基本問題を理解する。 思考・判断の観点：哲学的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 「必然的真理」、「科学的知識」、「因果と自由」、「心身問題」、「神の問題」などの基本的な哲学の問題を取り上げ、それに対する諸哲学者の試みを概観する。

成績評価方法（総合） 試験による。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を 探究する。 /
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観
 点： その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と
 時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。

成績評価方法（総合） レポートもしくは試験による。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。/
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点：その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体）内容は未定であるが、取り上げた問題について、掘り下げた哲学的考察を加える。

成績評価方法（総合）レポートもしくは試験による。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 / 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。

授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 / 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。

授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 取り上げた哲学的議論を理解する。 思考・判断の観点： 取り上げた問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 前期は、主に日本語訳をもちいて学生がテキストを分担してレジюмеを作成、発表した後、ディスカッションを行います。

成績評価方法（総合） 授業中の発表、あるいは、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 前期に取り上げた古代ギリシアのテキストに関連する二次文献を読む。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 古代の文献に関して現在なされている哲学的議論を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：取り上げた二次文献の議論を理解する。 思考・判断の観点：取り上げた文献について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体）各自が二次文献を一つ（ないし複数）担当し、要約を作成して授業中に発表する。

成績評価方法（総合）授業中の発表、あるいは、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	倫理学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 「善と悪」「正義」「幸福」「社会契約」「自由」等に関する西洋倫理思想史上の諸見解を批判的に検討しつつ、「倫理」をめぐる私たちの思考の隘路からの脱出口を探る。

授業の一般目標 「善悪」「幸福」「自由」等をめぐる私たちの理解の根本前提をあらためて問いなおす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 西洋倫理思想史に関する基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点： 「倫理」の基礎に関する原理的な思考をみずから展開する。

授業の計画（全体） 教科書を批判的に読解していく。

成績評価方法（総合） 期末試験および授業内レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：『善と悪 倫理学への招待』, 大庭健, 岩波書店, 2006 年

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 毎週水曜日 12:50 ~ 14:20

開設科目	倫理学原理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く…とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。

授業の一般目標 生・死という観念のうちに映る私たちの現実を、哲学的に掘り下げる。そのために、「人間的な意味の秩序」と「自然の秩序」とのズレあるいは落差、ということ、そして、私 と他者たちとの共同性の問題に着目しながら、考え進めていきたい。

授業の計画（全体） 生と死をめぐる展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。

成績評価方法（総合） 期末レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	倫理学原理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村瀬 鋼				

授業の概要 二十世紀フランスの思想家エマニュエル・レヴィナスの思想を題材にして、レヴィナスの倫理学・哲学、および自己と他者をめぐる諸問題について講義する。 / 検索キーワード 哲学、倫理、自己、他者、レヴィナス、現象学、フランス思想

授業の一般目標 1. 現代思想において重要な位置を占めるレヴィナスの倫理学・哲学の内容を理解する。
2. レヴィナスの思想に示されている、「倫理」のある根本意義を理解する。 3. レヴィナスの思想を実例として、自己と他者をめぐるある哲学的な思考のスタイルに馴染む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. レヴィナスの思想とその関連諸事項について、一定の知識を身に付け、その諸要点を理解する。 2. 自己と他者をめぐる諸問題とそれらについての諸観点を理解する。 思考・判断の観点： 1. 例示されるレヴィナスの文章を実際に読み、倫理学・哲学の難読テキストの読解能力を養う。 2. レヴィナスの思想を実例として、哲学的な思考法に触れ、そのような思考の実践能力を養う。

授業の計画（全体） 1. レヴィナスと現代思想 2. レヴィナスと主体性の哲学 3. レヴィナスと他者の倫理学 4. 自己と他者をめぐる諸問題

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 レヴィナス紹介
- 第 2 回 項目 レヴィナスと現象学
- 第 3 回 項目 レヴィナスと存在論
- 第 4 回 項目 存在からの逃走
- 第 5 回 項目 私 とそのエゴイズム (1)
- 第 6 回 項目 私 とそのエゴイズム (2)
- 第 7 回 項目 私 とそのエゴイズム (3)
- 第 8 回 項目 他者の問題と現代思想 (1)
- 第 9 回 項目 他者の問題と現代思想 (2)
- 第 10 回 項目 他者との関わり (1)
- 第 11 回 項目 他者との関わり (2)
- 第 12 回 項目 他者との関わり (3)
- 第 13 回 項目 他者との関わり (4)
- 第 14 回 項目 レヴィナス思想の問題点
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業終了後のレポートによる。

教科書・参考書 教科書： 授業に必要な資料は、授業時にプリントで配布する。 / 参考書： 特に指定しない。レヴィナスの主要著書および関連書については、授業時に紹介する。

備考 集中授業

開設科目	倫理学応用論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く…とは、いったいどういうことなのだろうか。私たちが生きてある現実を分節してしまっている「所有」乃至「私有」という概念の問題性に着目しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる今日的な諸問題の本質を探索する。いわゆる「生命倫理」への批判的入門を試みる。

授業の一般目標 「人間的な意味の秩序」と「生命(自然)の秩序」とのズレあるいは落差が、とりわけ「私的所有」という概念を結節点としながら顕在化する仕儀について考察する。いわゆる「生命倫理」の諸問題の核心をなす事柄への哲学的アプローチを試みる。

授業の計画(全体) いわゆる「生命倫理」をめくって展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。

成績評価方法(総合) 期末レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。/ 参考書：『私的所有論』, 立岩真也, 勁草書房, 1997年; その他、適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	倫理学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ヘーゲルの『精神現象学』の緒論 (Einleitung) を読む。ドイツ語原文および英訳ならびに各種の日本語訳を参照しつつ、その一字一句の意味を検討し、読み進める。

授業の一般目標 ヘーゲル『精神現象学』序文の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。

授業の計画 (全体) 毎回、テキストの担当箇所 (あるいは課題) についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法 (総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：“Phaenomenologie des Geistes”, G.W.Hegel, Suhrkamp, 1986 年；『精神の現象学』, ヘーゲル (金子武蔵訳), 岩波書店, 2002 年；『精神現象学』, G . W . F .ヘーゲル (榎山欽四郎訳), 平凡社, 1997 年 / 参考書：『ヘーゲルの精神現象学』, 金子武蔵, 筑摩書房, 1996 年；『ヘーゲル「精神現象学」入門』, 加藤尚武編, 有斐閣, 1996 年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	倫理学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ヘーゲルの『精神現象学』を読む。ドイツ語原文および各種の日本語訳ならびに英訳を参照しつつ、その一字一句の意味を検討し、読み進める。

授業の一般目標 ヘーゲル『精神現象学』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：“Phaenomenologie des Geistes”, G.W.Hegel, Suhrkamp, 1986年；『精神の現象学』,ヘーゲル(金子武蔵訳),岩波書店,2002年；『精神現象学』,G.W.F.ヘーゲル(榎山欽四郎訳),平凡社,1997年 / 参考書：『ヘーゲルの精神現象学』,金子武蔵,筑摩書房,1996年；『ヘーゲル「精神現象学」入門』,加藤尚武編,有斐閣,1996年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ベルクソンの『道徳と宗教の二つの源泉』を読む。

授業の一般目標 ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』の精密な読解を通じ、人間がどのような生き物である(または、あり得る)のか、を、原理的に考察するための指針を得る。

授業の計画(全体) 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書:『道徳と宗教の二つの源泉』,ベルクソン,中央公論新社,2003年;原書(フランス語)のコピーを適宜配布する。

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 前期に引き続き、ベルクソンの『道徳と宗教の二つの源泉』を読み進める。

授業の一般目標 ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』の精密な読解を通じ、人間がどのような生き物である(または、あり得る)のか、を、原理的に考察するための指針を得る。

授業の計画(全体) 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書:『道徳と宗教の二つの源泉』,ベルクソン,中央公論新社,2003年;原書(フランス語)のコピーを適宜配布する。

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	中国哲学史 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。
 / 検索キーワード キーワード 古代中国、考古学、神話学、甲骨文、金文、木簡、四書五経、諸子百家

授業の一般目標 中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落（新石器時代）、邑制国家（夏殷周）、領域国家（春秋戦国）、統一帝国（秦漢以降）について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的文脈に即して理解できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国古代について全般的な知識を獲得する。漢文や中国語の原初の段階にさかのぼって、それらに慣れ親しむ、思考・判断の観点：中国古代の理解を例として、他者理解の前提は、自己の価値観から自由になるということであるという異文化理解の観点を学ぶ 関心・意欲の観点：いま盛んに持て囃されているのは、アメリカと現代であるが、中国、古代という対極にある世界にも、豊かで、深く、すばらしい文化が有ったことを感じ取り、人間の文化・社会全体に対する見方を広げる。

授業の計画（全体） 新石器時代に関しては神話ならびに考古学、夏殷周については甲骨金文、春秋戦国については木竹簡、秦漢以降については帛書といった新出土史料を詳しく解説して時代状況を明らかにしたうえで、経書や諸子などの文献史料の内容を解釈・説明する。

成績評価方法（総合） 基本的にレポートによる。講義の内容を咀嚼したうえで、論理力および構想力により、どれほど自らの意見を表現し得ているかによって評価する

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：中国考古の重要発見, 朱乃誠・黄石林, 日本エディターズスクール, 2003 年； 伝統中国の歴史人類学, 鄭振鐸, 知泉書館, 2005 年； 中国出土文献の世界, 朱淵清, 創文社, 2006 年

メッセージ 原史料に直接触れて、古代中国の世界を身近に感じられる講義を目指す。

連絡先・オフィスアワー 連絡先・オフィスアワー 人文学部 5 階 火曜日 15 時から 16 時

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の祭祀、戦争などの具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。/ 検索キーワード 古代中国、国家共同体、君主、民衆、

授業の一般目標 講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する。 思考・判断の観点： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する。 関心・意欲の観点： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。

授業の計画（全体） 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の研究者 晁福林氏の研究を意識して授業を進める。

成績評価方法（総合） レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書： 特になし / 参考書： 先秦の社会と思想, 高木智見, 創文社, 2001 年 ; 授業の中で指示する

メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 火曜日16時から17時

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 前期に同じ

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黄 曉芬				

授業の概要 古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、秦の始皇帝陵、漢長安城をはじめ、都城と陵墓の考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとする。 / 検索キーワード 陰陽死生 宇宙観 天・地・人・神 都城と陵墓 景観と方位

授業の一般目標 中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ（遺跡・遺物）を通して理解することができる。 思考・判断の観点：人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。 関心・意欲の観点：現代における新旧の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。 技能・表現の観点：問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。

授業の計画（全体） ・本授業は、古代中国における都城と陵墓の考古学資料を時代順に整理・紹介し、また文献の史料調査を含め、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に考察し、それらの時代特徴と思想的な背景を探り、古代中国人の世界観と創造力を探求しようとするものである。

成績評価方法（総合） 資料調査とレポート提出

教科書・参考書 教科書：『上海博物館蔵戦国楚竹書（二）』，馬承源主編，上海古籍出版社，2002年；プリント配布 / 参考書：中国研究集刊，大阪大学文学部中国哲学研究室

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	黄 曉芬				

授業の概要 古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、前期の内容につづき、都城と陵墓の考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。 / 検索キーワード 陰陽死生 宇宙観 天・地・人・神 都城と陵墓 景観と方位

授業の一般目標 中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ（遺跡・遺物）を通して理解することができる。 思考・判断の観点：人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。 関心・意欲の観点：現代における新旧の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。 技能・表現の観点：問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。

授業の計画（全体）前期の内容につづき、古代中国における都城と陵墓の考古学資料を時代順に整理・紹介し、また文献の史料調査を含め、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に考察し、古代中国人の世界観と創造力を探してみたい。

成績評価方法（総合）前期と同じ

教科書・参考書 教科書：前期と同じ

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小南一郎				

授業の概要 漢代の墓室や祠堂などに画かれた画像を分析し、当時の人々の世界観、とりわけ生と死、および来世に対する観念を抽出する。画像を通して窺われる漢代の人々の価値観は、当時の文献などに遺る公式的な観念とは、相当に異なっている。画像からは、より基礎的な生活観念をとらえることが可能である。一方で、死後の世界や神仙世界への強い興味は、魏晋時代以後の、仏教・道教信仰へとつながっているのである。／検索キーワード 画像石・画像磚・神仙思想・来世観念

授業の一般目標 漢代思想史に対する一般的な理解を深めると同時に、画像資料を通して、これまでの思想史が十分には語ってこなかった、士大夫階層以外の人との生活観念に対する理解をも深くする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：画像資料をあつかうための基礎知識を授ける。基礎的な資料の紹介とそれを分析するための方法について述べる。

授業の計画（全体） 画像資料を、その素材、地域、年代別に紹介しつつ、個別の特色と、全体に共通する問題点とを分析する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 漢代画像資料全般の紹介
- 第 2 回 項目 これまでの研究 内容 方法論について
- 第 3 回 項目 漢代における墓葬制度の変革 内容 多様な墓葬制度の出現
- 第 4 回 項目 地域性の問題
- 第 5 回 項目 編年の問題
- 第 6 回 項目 山東の画像石
- 第 7 回 項目 沂南画像石墓と武氏祠堂 内容 孝子伝図などの分析
- 第 8 回 項目 南陽の豪族と画像石
- 第 9 回 項目 陝北画像石と北方異民族
- 第 10 回 項目 四川画像石と画像石棺
- 第 11 回 項目 伏羲・女力和西王母
- 第 12 回 項目 漢代豪族たちの生活基盤とその思想
- 第 13 回 項目 生死観と昇仙思想
- 第 14 回 項目 神仙思想との交わり
- 第 15 回 項目 魏晋の宗教へのつながり

成績評価方法（総合） 画像を思想史の資料としてあつかうための基礎知識の獲得。

教科書・参考書 参考書：プリントの配布

連絡先・オフィスアワー フランス極東学院京都研究所 075 - 761 - 3947

備考 集中授業

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 司馬遷の史記を精読する。昨年に引き続き、孔子世家を読む。テキストは瀧川亀太郎の史記会注考証を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隱、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。
/ 検索キーワード 史記、孔子 春秋時代 歴史、思想 人物

授業の一般目標 自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 古代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方など古典理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得したい。 思考・判断の観点： 一つの文字や単語の理解の仕方如何で、全文の解釈が変わってしまうといった古代中国語理解の困難さを面白いと感じられるような思考力を養う。 関心・意欲の観点： いわゆる漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

授業の計画(全体) 史記の原文、歴代の注釈を順に読み進めていく。史記の原史料とかつての日本人が行った訓読読みの資料を配布して、毎週、議論しながら少しずつ読み進めていく。進度は、原史料に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。一字の解釈で2時間使うことも考えられる。

成績評価方法(総合) 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、古代世界を理解しようとする積極性を基準にする

教科書・参考書 教科書： テキストはプリントを配布します / 参考書： 授業の中で指示

メッセージ 古典は、帰納的な意味解釈を重ねていけば、誰でも理解できます。難しくはありません。要するに、自分の頭で自分の読み方をすれば良いのであって、やる気と根性のみが問題です。

連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 火曜15時から16時

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 火曜日15時から16時

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黄 曉芬				

授業の概要 適当な文献をたび重ねて読むことにする。例えば、1993 年湖南省荊門市で発見された『郭店楚墓竹簡』には、『礼記』緇衣篇や『五行』と類似する内容など、儒家系史料が豊富に含まれている。それらを伝世の儒家系文献とを精読・対照することによって、戦国時代における儒家思想の位置について考える。 / 検索キーワード 漢字・漢語・文法・中国文化

授業の一般目標 中国思想史の文献を繰り返し精読し、史料の読み解く力を少しずつ身につけることができる。

授業の計画(全体) 適当な文献をたび重ねて読む。そして、中国思想史において習得すべきさまざまな事柄(漢字・文法・文体・文化知識)を、文献の読む練習を通じて整理・説明していく。

成績評価方法(総合) レポート提出

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：『郭店楚墓竹簡』, , 文物出版社, 1998 年

開設科目	中国思想演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 中国語によって書かれた論文を読み進め、中国語の語学的能力を向上させるとともに、引用されている古代漢文をも丁寧に読み、その読解能力をも養う。 / 検索キーワード 中国語、思想、身体、気功

授業の一般目標 中国語の論文に対する抵抗感を少なくする。 ある程度難しい論文でも、最後まで読み切る能力と意欲を作り出す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方などに加えて、古代漢語理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得する 思考・判断の観点： 中国語の文章の論理展開に慣れ、自分で読みとることが可能になるようにする。 関心・意欲の観点： 中国語の文章や漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

授業の計画（全体） 中国語の論文を順に読み進めていく。資料を配布して、毎週、議論しながら、なるべく多くの文章を丁寧に読み進めていく。ただし進度は、文章に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。

成績評価方法（総合） 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、受講生の学問に対する積極性を判断して、評価する

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 読む文章は、受講生と話し合っ決めて決めるつもりですが、第一候補は疑古派の研究法に関する文章を考えています。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 高木研究室 火曜日15時から16時

開設科目	中国思想演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 中国哲学の論文作成を目指す学生が、具体的なテーマの決定、先行研究の有無の確認ならびに検索方法、関連史・資料の収集、論文の構想ならびに論理構成などについて、それぞれの段階において報告し、参加者全員で討論しつつ授業を進めていく。/検索キーワード 卒論、資料収集、構想、討論

授業の一般目標 与えられたものを型どおりに消化する姿勢ではなく、各自が何を知りたいのか自分自身に問いかけ、求める物を明確にした上で、自らの力でそれを追求するという積極的な姿勢が望まれる。卒論の完成度は、この授業への取り組み方によって大きく異なるはずである。3年生は、先輩の論文作成作業の進め方を間近で観察し、様々な教訓を得て、実際の作成作業に生かす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らのテーマを確定することが出来る。史料状況を明確に把握する。過去の研究の蓄積を把握、消化する。思考・判断の観点：自分の考えを明確にして、論理的に文章表現できるようにする。関心・意欲の観点：自らが問題を発見し、自らの力で解決していく積極的な姿勢をもてるようにする。

授業の計画(全体) 学生諸君の様々な条件により、授業の進め方は様々に変わってくる。しかし、5月中には、テーマを具体化して、論文の骨組みを作り、夏休みにそれについて各自が研究する。10月には論文の構想を明確化して、それ以降、軌道修正などを行い、12月半ばで9割の完成度を目指す。

成績評価方法(総合) 日常的な授業における姿勢、ならびにレポートの完成度により、判断する。

教科書・参考書 教科書：特になし / 参考書：授業の中で指示

メッセージ 研究は、積極性とねばり強さだけでほとんどが決まる。

連絡先・オフィスアワー 5階 火曜日15時から16時

開設科目	中国思想演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期と同じ / 検索キーワード 前期と同じ

授業の一般目標 前期と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画(全体) 前期と同じ

成績評価方法(総合) 前期と同じ

教科書・参考書 教科書：特になし / 参考書：授業中に指示

メッセージ 前期と同じ

連絡先・オフィスアワー 5階 火曜日15時から16時

開設科目	日本倫理思想史 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 日本の倫理思想の諸相 日本の倫理思想の諸相をさまざまなトピックスを取り上げて考察します。指定教科書『日本文化の歴史』は歴史家の執筆にかかるものですが、それを垂直に、倫理思想詩風に、掘り下げを試みます。過去の日本の思想が実に豊穡で、しかも自己自身のものの感じ方、考え方の基盤を形成していることを自覚できるはず。 / 検索キーワード 日本の倫理思想

授業の一般目標 (1) 日本思想のさまざまな内容の要点を正確に理解し、自らの先入見を打破すること。(2) 日本思想に関する俗説を、俗説として認識し、それと距離を置くこと。(3) 日本思想の諸相に関する自らの見解を構成すること。

授業の計画(全体) テキスト『日本文化の歴史』(岩波新書新赤版 668)を参照しつつ、聖徳太子、空海、浄土教、『平家物語』、中世神道、近世儒学、国学、等々を解説します。受講者は、予め、該当周辺箇所を読んできてください。

成績評価方法(総合) 各授業時間の最後に 10 分程度を費やして、授業内レポートを課します(30 点)。学期途中でレポートを 1 回、提出してください(30 点)。 期末試験を実施します(40 点)。

教科書・参考書 教科書：『日本文化の歴史』, 尾藤正英, 岩波新書, 2000 年 / 参考書：『日本倫理思想史』, 佐藤正英, 東京大学出版会, 2003 年; 『日本思想史入門』, 相良亨編, ペリかん社, 1982 年; 『概説日本思想史』, 佐藤弘夫他, ミネルヴァ書房, 2005 年; 参考書は、講義の際に、適宜紹介いたします。

メッセージ 現代のわれわれは、過去の日本のことについて疎くなっています。先ず出席して、知識を獲得してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本倫理思想史 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 - 神をめぐる思想を考える - 昨年度は同じ教科書『日本倫理思想史』の「第二章 仏法をめぐる思想」を採り上げました。今年度は「第一章 神をめぐる思想」を扱います。日本古代における原初神道の思想について、倫理思想史の視点から考えていきます。具体的には、例として挙げられている神話や説話（『古事記』『風土記』『日本霊異記』など）をそのつど参照しつつ、教科書でいわれるところのもの 神や たま 神とはいかなるものであるか、理解できるようになることを目指します。/ 検索キーワード 神 神話 『古事記』

授業の一般目標 神話や説話の形で伝えられる原初神道の諸相に触れ、古代日本倫理思想の一端について 関心・理解をもつこと。

授業の計画（全体）教科書中に言及のある神話や説話、関連する類話があればそれも含めて読み解きつつ、教科書「第一章」を熟読します。それに先立ち、“倫理思想史”とはどのような学であるかを知るために「序章」も扱います。時間があれば、「第二章 第四節」も部分的に採り上げたいと考えています。受講者には、教科書の該当箇所を予習あるいは復習して授業に臨むこと、毎授業の終了時に 10 分程度で小レポートを書き提出すること、が課せられます。

成績評価方法（総合）(1) 授業内の小レポート（論理的な思考と文章表現、および、自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます）。(2) 期末試験（基本的なことがらについての知識と理解を求めます）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書：『日本倫理思想史』、佐藤正英、東京大学出版会、2003 年；上記図書を教科書として用いますが、今年度は使用箇所が限られますので、そのつどコピーを配付する予定です。本として入手したい方は各自で発注して下さい（定価 ¥2,730）。その他の参照資料はプリントを配付します。/ 参考書：『古事記』新潮日本古典集成、西宮一民校注、新潮社、1979 年；『風土記』新編日本古典文学全集 5、植垣節也校注・訳、小学館、1997 年；その他授業中に随時紹介します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 荻生徂徠の思想 徂徠は近世儒学思想の高峰、分水嶺です。儒学の政治的側面をクローズアップしましたので、「日本のマキャベリ」と言われることもあります。儒学者ですので、マキャベリほどあられもないことは言っていません。また、漢文だけではなく和文の著作もあって、当時の世態・人情を活写しています。徂徠を考察していると、現代の問題が見えてきます。/ 検索キーワード 荻生徂徠

授業の一般目標 徂徠の思想を理解します。そのことによって自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。

授業の計画(全体) 徂徠の『答問書』、『政談』、『学則』、『辨道』、『辨名』等を考察します。

成績評価方法(総合) 各授業時間の最後に10分程度を費やして、授業内レポートを課します(40点)、期末試験を実施します(60点)。

教科書・参考書 教科書: 授業の際に、適宜、複写資料を配付します。/ 参考書: 『近世日本社会と儒教』, 黒住真, ぺりかん社, 2003年; 『複数性の日本思想』, 黒住真, ぺりかん社, 2006年; 授業の際に、適宜、紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー: 木曜日 12:50~14:20
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 - 『神道集』説話を讀む - 『神道集』は 14 世紀半ばに成立したと見られる神道説話集で、編者・編纂目的は未詳ですが、唱導の話材として編まれたものと推測されています。全 50 篇のうち、とくに“物語的縁起”と呼ばれる類の説話を採り上げ、神化、すなわち人が神となるという思想の実態を探りたいと考えます。神化における情念および受苦の契機を明らかにすることが主な課題となります。 / 検索キーワード 『神道集』 神仏習合 神化

授業の一般目標 『神道集』説話に触れ、倫理思想史的視点からその思想を考え、中世日本における神仏習合思想の一端について関心・知識・理解をもつ。

授業の計画(全体) 『神道集』所収説話のうち、とくに“物語的縁起”と呼ばれる説話を採り上げ、読解していきます。採り上げる説話については、事前にコピーを配付し、各自予め一読して授業に臨んでいただくようにしたいと思います。現代語訳のテキストですので、難なくあらすじは追えますが、テキスト表面に露出していない思想構造を探り、組み立てていくに際しては、主体的な読解作業が必須となります。毎授業の終了時に書いていただく小レポートでは、予習と授業内容をふまえ、考察を展開していただきます。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および、自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2) 期末試験(基本的なことがらについての知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書：品切中につきコピーを配付しますが、次の図書を用います。『神道集』東洋文庫 94、貴志正造訳、平凡社、1967 年。 / 参考書：参考書は授業中随時紹介します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 近世日本思想文献を読む 近世日本思想の基本的文献を何冊か読みます。はじめに、最近復刊された伊藤仁斎の『童子問』(岩波文庫)を読みます。続いて、石田梅岩の『都鄙問答』、本居宣長の『うひ山ふみ・鈴屋答問録』、山本常朝『葉隠』等を予定しています(後期の予定も含まれます)。文献の選択については、受講者からの希望も考慮します。 / 検索キーワード 近世日本思想

授業の一般目標 文献を内在的に読む姿勢を養います。相手の見解が自らの見解と異なるとき、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度を身につけることが目標です。

授業の計画(全体) まず、伊藤仁斎の『童子問』(岩波文庫)を6~8回で読む予定です。他については、受講者の希望を考慮します。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書: 『童子問』, 伊藤仁斎, 岩波文庫; 『都鄙問答』, 石田梅岩, ; 『うひ山ふみ・鈴屋答問録』, 本居宣長, ; 『葉隠』, 山本常朝, / 参考書: 講義の際に, 適宜, 紹介します。

メッセージ 文献を内在的に読む姿勢を、くれぐれもお忘れなきよう。相手の見解が自らの見解と異なるとき、批判を先立てずに、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度は、生活の基本ではないでしょうか。

連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー:木曜日 12:50~14:20
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 近世日本思想文献を読む 前期から引き続き近世日本思想の基本的文献を何冊か読みます。前期を参照してください。後期からの参加でも、すこしも差し支えはありません。文献の選択については、受講者からの希望も考慮します。 / 検索キーワード 近世日本思想

授業の一般目標 前期を参照してください。

授業の計画(全体) 前期を参照してください。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書：前期を参照してください。 / 参考書：講義の際に、適宜、紹介します。

メッセージ 文献を内在的に読む姿勢を、くれぐれもお忘れなきよう。相手の見解が自らの見解と異なるとき、批判を先立てずに、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度は、生活の基本ではないでしょうか。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 『御伽草子』を読む 昨年度にひきつづき、御伽草子とよばれるジャンルのテキストを採り上げます。昨年度は『室町物語草子集』(新編日本古典文学全集,小学館)『御伽草子集』(新潮日本古典集成)を用いましたが、今回は江戸時代に刊行され流布した渋川板 23 篇を読みます。一篇一篇は短く、素材は多様で、表現はしばしば典型的、“思想”へのアプローチといわれてもはじめは戸惑うかもしれません。しかし、このような形態だからこそ表し得ていること、ものの見方の大きな枠組がありそうです。どのような角度から光をあてれば思想的読み解きが可能になるのか、参加者一同で知恵をしまりたいと思います。/ 検索キーワード 御伽草子

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 「文正さうし」
- 第 3 回 項目 「鉢かづき」
- 第 4 回 項目 「小町草紙」
- 第 5 回 項目 「御曹司島渡」
- 第 6 回 項目 「唐糸さうし」
- 第 7 回 項目 「木幡狐」
- 第 8 回 項目 「七草草紙」
- 第 9 回 項目 「猿源氏草紙」
- 第 10 回 項目 「物くさ太郎」
- 第 11 回 項目 「さざれ石」
- 第 12 回 項目 「蛤の草子」(『御伽草子』(下)より)
- 第 13 回 項目 未定
- 第 14 回 項目 未定
- 第 15 回 項目 期末レポート

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読,自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢,および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし,授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお,出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書:『御伽草子(上)』岩波文庫(黄 126-1),市古貞次校注,岩波書店,1985年;文栄堂にて販売。定価 693 円。/ 参考書:『御伽草子集』日本古典文学全集 36,大島建彦校注・訳,小学館,1974年;『御伽草子 物語・思想・絵画』,黒田日出男・佐藤正英・古橋信孝編,ペリかん社,1990年

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は,二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し,予習の上授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など,授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 『御伽草子』を読む 前期に引き続き、御伽草子とよばれるジャンルのテキストを採り上げます。内容については前期シラバスを参照してください。後期からの参加も可能です。テキストは岩波文庫『御伽草子(下)』を用います。この文庫版テキストには現代語訳がついていませんので、必要に応じて『御伽草子集』(日本古典文学全集 36, 小学館, 現在は刊行されていません)を参照してください。/ 検索キーワード 御伽草子

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします。場合によっては、途中で関連論文を読む回を設けることもあります。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 「小敦盛」
- 第 3 回 項目 「二十四孝」
- 第 4 回 項目 「梵天国」
- 第 5 回 項目 「のせ猿さうし」
- 第 6 回 項目 「猫のさうし」
- 第 7 回 項目 「浜出草紙」
- 第 8 回 項目 「和泉式部」
- 第 9 回 項目 「一寸法師」
- 第 10 回 項目 「さいき」
- 第 11 回 項目 「浦島太郎」
- 第 12 回 項目 「横笛草紙」
- 第 13 回 項目 「酒呑童子」
- 第 14 回 項目 未定
- 第 15 回 項目 期末レポート

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読, 自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢, および論理的な思考と文章表現を求めます)。 (2) 宿題とそれをふまえての授業参加。 (3) 期末レポート(ただし, 授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお, 出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書: 『御伽草子(下)』岩波文庫(黄 126-2), 市古貞次校注, 岩波書店, 1986年; 文栄堂にて販売。定価 693 円。 / 参考書: 『御伽草子集』日本古典文学全集 36, 大島建彦校注・訳, 小学館, 1974年; 『御伽草子 物語・思想・絵画』, 黒田日出男・佐藤正英・古橋信孝編, ペリかん社, 1990年

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は, 二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し, 予習の上授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など, 授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤 一				

授業の概要 近松門左衛門を読む 近松門左衛門(1653~1724)の世話物のうちから、『曾根崎心中』『心中天の網島』『堀川波鼓』『鍵の権三重帷子』等を読みます。/ 検索キーワード 近松門左衛門

授業の一般目標 先入見を超え、テキストに内在的に読む姿勢を養います。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書:『新編日本古典文学全集 75 / 近松門左衛門集 2』(小学館、¥4,889(税込))を予定していますが、なお、あれこれ検討し、授業開始時に指定します。

連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー:金曜日 12:50~14:20
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 「卒業論文執筆のための演習」 日本思想を卒業論文のテーマとする3、4年生を対象として、研究を具体的に指導します。受講生は、各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は、その発表を聴いて知見を共有するとともに、そのテーマについて討論します。また、期末レポート相互に批評します。

授業の一般目標 論文執筆の作法を身につけることを目指します。日本思想に関する知見を広め、幅広い考え方ができることを目指します。学友の前で研究の成果を発表し、質疑応答の場を経験することによって、他者にかかれたより柔軟な態度を涵養することを目指します。

授業の計画(全体) 論文執筆作法、また研究作法の書物を数冊読みます。受講生は、自らのテーマについての研究成果を発表します。他の受講生は、その成果発表に質問をします。

成績評価方法(総合) 各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。その成果を文章化する期末レポートを課します。

教科書・参考書 教科書：未定。2006年には、ウンベルト・エーコ『論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順』(而立書房、1991)を読みました。/ 参考書：参考文献リストを配付します。

連絡先・オフィスアワー 大抵の時間は研究室にいますので、いつでもどうぞ。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 前期を参照

授業の一般目標 前期を参照

授業の計画(全体) 前期を参照

成績評価方法(総合) 前期を参照

教科書・参考書 教科書：前期を参照 / 参考書：前期を参照

連絡先・オフィスアワー 前期を参照

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 - 『今昔物語集』(震旦部)を読む - 『今昔物語集』の巻第六から巻第十,震旦(中国)部を読みます。天竺(インド)に興った仏法がどのように伝播・展開していくかを描く部分です。昨年度は先行する天竺部を読み,仏がどのようにこの世界に生まれ,はたらいたか,人々は仏とどのように出会い,生きたか,考えました。どちらかといえば読まれることの少ないテキストですが,教説からだけではわからない,日本における仏教受容の実態が見えて,興味深い読書になると思います。毎週 10 数話のペースでゆっくり進みますので,古典を読み慣れない方,仏教用語になじみのない方も,じきに慣れると思います。/検索キーワード 『今昔物語集』

授業の一般目標 恣意を排し,かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み,問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり,読解上の要点や疑問点を示し,それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお,予習時点で考えたことをカードに記し,授業後に提出することとします。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読,自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢,論理的な思考と文章表現,を求めます)。(2) 期末レポート(ただし,授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお,出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書: 『今昔物語集 二』新日本古典文学大系 34,小峯和明校注,岩波書店,1999年; 定価¥4,410。大学生協ブックセンターにて販売。

メッセージ 各回の予習箇所など詳細な計画は,初回授業時にお知らせします。初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は,二回目の授業以前に一言知らせに来て下さい(資料等を受け取り,予習をして授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など,授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を義務として課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得すること。

授業の計画(全体) 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

成績評価方法(総合) (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート(3000字程度)。

教科書・参考書 教科書: 受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中にお知らせします。 / 参考書: 参考文献リストは授業中に配付します。

メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を義務として課します。時には受講生同士、期末レポートを読み合い質疑応答を行う機会も設けます。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想, 精密な推論, 広い視野, 有機的な関心, 明晰な文章, 等々を獲得すること。

授業の計画(全体) 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

成績評価方法(総合) (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート(3000字程度)。

教科書・参考書 教科書: 受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中にお知らせします。 / 参考書: 参考文献リストは授業中に配付します。

メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	宗教学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 「宗教とは何か」について、主に世界宗教を紹介しつつ、考究する。 / 検索キーワード アッラー、最後の審判、神の御心、覚、縁起、他力念仏

授業の一般目標 今年度は主としてイスラームと仏教との比較検討を中心に「宗教とは何か」を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界宗教の基本的知識を獲得する。 思考・判断の観点：「宗教とは何か」を主体的に考える力を育成する。 関心・意欲の観点：宗教への関心を喚起する。 態度の観点：生と死に対する真摯な態度を涵養する。

授業の計画（全体） イスラームと仏教の歴史、教義等を中心に「宗教とは何か」を考える機会を提供する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 テキストおよび評価の仕方
- 第 2 回 項目 イスラームとは何か 内容 歴史
- 第 3 回 内容 信仰
- 第 4 回 内容 実践
- 第 5 回 内容 神秘主義
- 第 6 回 内容 分派
- 第 7 回 内容 現代
- 第 8 回 項目 まとめ
- 第 9 回 項目 仏教とは何か
- 第 10 回 内容 ブッダの生涯
- 第 11 回 内容 空について
- 第 12 回 内容 業
- 第 13 回 内容 日本仏教について
- 第 14 回 内容 現代
- 第 15 回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎時間のレポートおよび最終試験に拠って評価する。

教科書・参考書 教科書：イスラーム教入門, 中村廣治郎, 岩波新書, 2001 年 ; 仏教とは何か, 山折哲雄, 中公新書, 2001 年

開設科目	宗教学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域（宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など）の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教の様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学、宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学、民族宗教、民間信仰・民俗宗教、国教、世界宗教、シャーマニズム、呪術、アニミズム、自然崇拜、トーテミズム

授業の一般目標 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は、レジュメと映像的な資料に沿って進める。

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。 2．小テストは13回（ほぼ毎回）行うが、10回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。 3．筆記試験を学期末の試験期間中に行う。

教科書・参考書 教科書：授業のレジュメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 今年度前期の特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを扱う。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、その力を上回る神妃や女神が常につくのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？ / 検索キーワード 宗教、女性、シャーマン、巫女、呪術、妖術、魔女、女神、神秘、性差

授業の一般目標 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。 ・映像（VHS / DVD） ・解説 ・講義またはフリーディスカッション

成績評価方法（総合） 1 . 出席は10回を単位取得の条件とする。 2 . 毎回、宿題 / レポートを課す。 3 . 学期末の試験期間中に最終レポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業のレジメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 今年度後期の特殊講義は「宗教とアート」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。およそすべての宗教的現象にはアートの要素が含まれ、またおよそすべてのアートには宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教もアートも人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教とアートはどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教とアートはどこへ、どのように、なぜ変容するのか？ / 検索キーワード 宗教、アート、芸術、美術、芸能、舞踊、舞踏、絵画、彫刻、シャーマニズム、呪術、観光、放浪芸

授業の一般目標 「宗教とアート」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS / DVD）・解説・講義またはフリーディスカッション

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．毎回、宿題/レポートを課す。 3．学期末の試験期間中に最終レポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業のレジメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村瀬ひろみ				

授業の概要 現代社会は、複雑さを増し、多様な価値観が錯綜しています。私たちの生活世界において「宗教」というものは前景には出てきませんが、世界を構築する大きなひとつの柱であることは間違いありません。この講義においては、「宗教」を自分の問題として考える感性を養います。さまざまな生活世界の問題、(それは、「性」であったり、「オカルト」や「医療」だったりします)について、「自分の問題」として受け止められるでしょうか。一緒に、さまざまな問題について考えていきましょう。

授業の一般目標 私たちの生活世界の営みにおいて、普段意識されない当たり前のことがたくさんある。しかし、視角を変えれば、多くの見方があり、考え方があ。ここでは、「他人事」の学問ではなく、「今」「ここにいる」「私」という存在から、世界を考える取り掛かりを作っていくことを目標とする。具体的には、「性」「サブカルチャー」「オカルト」などの身近な問題を通して、自分たちのアンテナを磨いていきたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代社会におけるさまざまな問題群が、自己存在とかかわるものとして理解できる。 思考・判断の観点： 身近な問題について、気づき、思考、判断することができる。 関心・意欲の観点： 積極的に授業に参加できる。

授業の計画(全体) 「性」「死」「医療」「オカルト」などのトピックスについて、身近なところにある問題点について整理していきます。題材としてサブカルチャー的なものも使っていきます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 私たちをめぐる世界・性 内容 水子、間引き、中絶からみる「性」
- 第 3 回 項目 私たちをめぐる世界・性 内容 「性」と出会う、「性」と暮らす
- 第 4 回 項目 私たちをめぐる世界・性 内容 性表現と文化、宗教
- 第 5 回 項目 私たちをめぐる世界・死 内容 「死」の表現…文化から見る
- 第 6 回 項目 私たちをめぐる世界・死 内容 死後の世界…エリザベス・キューブラー・ロスを読む
- 第 7 回 項目 私たちをめぐる世界・死 内容 オカルトという文化表象を考える
- 第 8 回 項目 サブカルチャーから見る宗教 内容 アニメに見る宗教意識
- 第 9 回 項目 サブカルチャーから見る宗教 内容 共通体験としてのマンガ
- 第 10 回 項目 サブカルチャーから見る宗教 内容 「萌え」文化を読む
- 第 11 回 項目 ケーススタディーズ 内容 性と死について
- 第 12 回 項目 ケーススタディーズ 内容 性と死について
- 第 13 回 項目 ケーススタディーズ 内容 サブカルチャーについて
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法(総合) 基本的にはペーパーテストとしますが、途中、レポートなども実施します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：世界が分かる宗教社会学入門, 橋爪大三郎, 筑摩書房, 2001 年; 文化人類学キーワード, 山下晋司・船曳建夫編, 有斐閣双書, 1997 年; 適宜プリント 配布予定。

メッセージ 積極的な参加を期待します。

開設科目	宗教学文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 宗教学の基本文献を講読し、理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、宗教研究における聖俗理論を中心に、身近な宗教現象について分析する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学、聖性、聖俗

授業の一般目標 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学の主要な理論と方法論を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 講読箇所は主に日本語訳を扱うが、英語の場合もある。講読範囲は、和文の場合は毎回20～30ページ、英文の場合は4～5ページとする。順番方式のレポートは行わない。毎回、次週のための講読箇所を指定し、それに対するいくつかの問い / 課題を設定する。当日の授業では、そうした問い / 課題を中心にディスカッションと解説を行う。

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。

教科書・参考書 教科書：該当箇所のコピーを毎回配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	宗教学文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 宗教学の基本文献を講読し、理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、宗教研究における聖俗理論を中心に、身近な宗教現象について分析する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学、聖性、聖俗

授業の一般目標 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学の主要な理論と方法論を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 講読箇所は主に日本語訳を扱うが、英語の場合もある。講読範囲は、和文の場合は毎回20～30ページ、英文の場合は4～5ページとする。順番方式のレポートは行わない。毎回、次週のための講読箇所を指定し、それに対するいくつかの問い / 課題を設定する。当日の授業では、そうした問い / 課題を中心にディスカッションと解説を行う。

成績評価方法（総合） 1 . 出席は10回を単位取得の条件とする。 2 . 筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。

教科書・参考書 教科書：該当箇所のコピーを毎回配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	宗教学研究実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 基本的には、参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。ただし研究実習として、個別テーマのほか、全員の共通テーマを定める。個別テーマは共通テーマの一環となってもよい。共通テーマは参加者と相談して決めるが、およそ山口県内の宗教現象や信仰文化・伝統に関することを取りあげる。調査の実施方法に関しても、参加者と相談して決める。一つの選択は、各自が独自で行う方式である。もう一つの選択は、夏休み期間中に参加者全員が県内の一定の地域を拠点とする場所に調査に出向き、周辺地域で行われるさまざまな宗教現象（祭り、神楽、放浪芸、年間行事、例祭、個々の宗教意識等）を観察・記録する、という方式である。個別テーマにしても共通テーマにしても、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、調査の準備段階からデータ収集とプレゼンテーションの段階まで、教員が関わって指導する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学

授業の一般目標 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教現象を研究・調査するスキルを身につけ、それを記述・表現する力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は全14回行う。方式は参加者と個別テーマ・共通テーマを話し合ってから決める。

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．プレゼンテーションは各参加者に2回行ってもらう予定である（初回と2回目の間に1ヶ月以上の期間をあける）。 3．プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3回に一度の発言を期待する）。 4．学期末の試験期間中にレポートを一回課す。

教科書・参考書 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する

メッセージ 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（大歓迎）。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	宗教学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。 / 検索キーワード 宗教、宗教学

授業の一般目標 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は全 14 回行い、毎回の授業では、二つのプレゼンテーションを行う。

成績評価方法（総合） 1．出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2．プレゼンテーションは各参加者に 2 回行ってもらう予定である（初回と 2 回目の間に一ヶ月以上の期間をあける）。 3．プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3 回に一度の発言を期待する）。 4．学期末の試験期間中にレポートを一回課す。

教科書・参考書 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する

メッセージ 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（大歓迎）

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

人文社会学科 地域歴史文化論コース

開設科目	史学概論 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 史学概論とは、史学発展の特徴や成績についての概括な論述である。この講義の内容は、歴史と史学との関係を中心として、史料・史書・史学及びその現代価値を述べるものである。又、本講義は、講師の知識によって、中国史学に制限されるのである点を説明すべきだ。

授業の一般目標 本講義は歴史的遺産と史学的遺産についてどう受けたらよいか諸問題を説明することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：なるべく多くかつ奥深い史学的知識を学生に教えてあげる。 思考・判断の観点：教員の思考を教えた上に、授業の対象にも考えられるように努力する。 関心・意欲の観点：受講生の関心・意欲を喚起しようと工夫する。 態度の観点：精いっぱい教育の熱意を出す。 技能・表現の観点：討論・質問・レジュメなど手段で分かりやすく表現する。 その他の観点：授業者と受講者の交流を大切にする。

授業の計画（全体） 本講義は全部で6講の15回に分けて、進む予定である。それは、第一講、「学問以上のものである」史学は何か； 第二講、伝承から文献への史学形成；第三講、史学の超大国の「汗牛充棟」； 第四講、技がある史書の読み方；第五講、方法論と歴史研究； 第六講、史学の科学性と大衆文化性などである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 本講義の内容と目標の紹介。
- 第 2 回 項目 第一講、「学問以上のものである」史学は何か（上） 内容 史学と他の学問の関係は何であるか。
- 第 3 回 項目 第一講（下） 内容 なぜ史学は他の学問と違うか。
- 第 4 回 項目 第二講、伝承から文献への史学形成（上） 内容 伝承的な史学。
- 第 5 回 項目 第二講（下） 内容 文献的な史学。
- 第 6 回 項目 第三講、史学の超大国の「汗牛充棟」（上） 内容 史料の分類
- 第 7 回 項目 第三講、（下） 内容 史料の特徴
- 第 8 回 項目 第四講、技がある史書の読み方（上） 内容 史書の読み方（1）
- 第 9 回 項目 第四講、（中） 内容 史書の読み方（2）
- 第 10 回 項目 第四講、（下） 内容 史書の読み方（2）
- 第 11 回 項目 第五講、方法論と歴史研究（上） 内容 歴史研究法（1）
- 第 12 回 項目 第五講、（中） 内容 歴史研究法（2）
- 第 13 回 項目 第五講、（下） 内容 歴史研究法（3）
- 第 14 回 項目 第六講、史学の科学性と大衆文化性（上） 内容 史学と哲学
- 第 15 回 項目 第六講、（下） 内容 史学と文学

成績評価方法（総合） レポート（8割）と出席（2割）を合わせて評価する。

教科書・参考書 教科書：特になし。 / 参考書：史学概論, 白寿彝, 寧夏人民出版社, 1983年；支那史学史（全集第11巻）, 内藤湖南, 筑摩書房, 1969年；中国歴史研究法, 趙光賢, 中国青年出版社, 1988年

開設科目	日本史概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。/ 検索キーワード 日本古代史、宮都、複都制、平城宮、平城京、恭仁宮、難波宮、甲賀宮、保良宮、由義宮、文献史料、遺跡、遺構

授業の一般目標 宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。**思考・判断の観点**：授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。**関心・意欲の観点**：歴史及び歴史学への興味・関心をいただく。**態度の観点**：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。**技能・表現の観点**：正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。

成績評価方法（総合） 学期末の試験によって評価する。その際授業の到達目標に基づき、授業の内容を理解し、それを適切に文章化できているかどうかを中心に評価を行う。なお欠席は受験の欠格要件となるので注意して欲しい。

教科書・参考書 教科書：指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。/ 参考書：授業中に適宜指摘する。

メッセージ 高等学校で日本史の授業を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代について高等学校修了程度の予備知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンを携帯することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する立場から、日本史研究に関する諸問題についてお話しする。

授業の一般目標 (1) 歴史学の研究方法の一端を理解する。(2) 中世日本の捉え方をめぐって考究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本史研究に関する基本的な事実関係について説明できる。中世日本の捉え方をめぐる諸論点について理解する。思考・判断の観点：史料・先行研究・通説を独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。関心・意欲の観点：関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

授業の計画(全体) つぎの3部構成でお話しする予定である。(1) 歴史学とその周辺 (2) 史料収集と史料解釈 (3) 日本の中世は如何なる時代か

成績評価方法(総合) 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的に立って評価する。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。 / 検索キーワード 古文書、くずし字、史料

授業の一般目標 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 近世史料を原本で読解する醍醐味を味わう。

授業の計画(全体) 最初の3コマくらいは、平仮名のくずし字に慣れる。4コマ目から毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで積文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

成績評価方法(総合) 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所間違いがあれば不可とする)がある。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書: くずし字解読辞典(新装;普及版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1993年; くずし字解読辞典(毛筆版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1999年; くずし字用例辞典(新装;普及版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1993年; 古文書解読辞典を各自持つこと。例えば、児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版) 同編『くずし字用例辞典』など。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 1．近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2．近世の基本的用語の読み・意味を説明する。 / 検索キーワード 古文書、くずし字、史料

授業の一般目標 1．1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば読解できる。 2．近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2．近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の計画(全体) 毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。前期よりも少し難度の高い史料の写真版を用いる。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで釈文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

成績評価方法(総合) 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所間違いがあれば不可とする)がある。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書：古文書読解辞典を各自持つこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰録時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。 / 検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

授業の一般目標 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

思考・判断の観点: 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点:** 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点:** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点:** 1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。 2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰録時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

成績評価方法(総合) 1, 学期末試験期間に試験を実施する。 2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書: なし。最初の授業で指示する。 / 参考書: なし。

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部3階 オフィスアワー: 一応、月・火の5時40分~6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。 / 検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

授業の一般目標 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

思考・判断の観点： 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点：** 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。 2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

成績評価方法(総合) 1 , 学期末試験期間に試験を実施する。 2 . 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：なし。最初の授業で指示する。 / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：中世の古文書（前期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

授業の一般目標 (1) 中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。(2) 中世の古文書について、内容解釈力を養う。(3) 中世の文書様式の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世のくずし字をある程度判読できる。(2) 中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点：古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。

授業の計画（全体） 受講者が読解を分担して原稿を作成し、それに基づいて検討し、復習を重ねる。

成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する（片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける）。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。 / 参考書：(1) くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み¥6,090) (2) くずし字解読辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み¥2,310) いずれかの購入が望ましい。(1)のひき方は、漢和辞書に近い。(2)は、一筆目の形からひくことができる。私見では(1)がおすすめ。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）、日本史関係辞書（例えば『角川日本史辞典』など）、日本史年表（例えば歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：中世の古文書（後期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

授業の一般目標 (1) 中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。(2) 中世の古文書について、内容解釈力を養う。(3) 中世の文書様式の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世のくずし字をある程度判読できる。(2) 中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点：古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。

授業の計画（全体） 受講者が読解を分担して原稿を作成し、それに基づいて検討し、復習を重ねる。

成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する（片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける）。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。 / 参考書：(1) くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み¥6,090) (2) くずし字解読辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み¥2,310) いずれかの購入が望ましい。(1)のひき方は、漢和辞書に近い。(2)は、一筆目の形からひくことができる。私見では(1)がおすすめ。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）、日本史関係辞書（例えば『角川日本史辞典』など）、日本史年表（例えば歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 「萩藩前期の藩財政」という主題で講義を行う。前期藩財政の概要・仕置銀の成立・寛文期藩財政の実態にわたって考究する。 / 検索キーワード 萩藩、藩財政、仕置銀、山代紙、和市

授業の一般目標 1 . 初期の藩財政について、構造的に理解する。 2 . 藩政全般の中での財政の持っている位置を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 近世の財政について基本的知識を得る。 2 . 時期的な特徴を理解する。 思考・判断の観点： 1 . 重要要素の連関を把握する。 2 . 自分の見解を論理的に述べる力を培う。 技能・表現の観点： 1 . 理解したことを文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 「萩藩前期の藩財政」という主題について、(1) 近世前期萩藩財政の概要、(2) 財政システム、(3) 仕置銀、(4) 山代請紙の財政上の比重、(5) 寛文期藩財政の実態、等にわたって解明する。

成績評価方法(総合) 定期試験をレポートにかえ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、400字詰10枚以上。

教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をにおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「葬」について話しました。本年度は引き続き「葬」について話します。 / 検索キーワード 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓

授業の一般目標 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。

思考・判断の観点： 史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。

関心・意欲の観点： 古代貴族社会に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語(書言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をにおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。

成績評価方法(総合) 1 . 学期末にレポートを提出する。 2 . レポートの分量と内容については別途指示する。

教科書・参考書 教科書： 指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。 / 参考書： 授業中に適宜指摘する。

メッセージ 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー：一応、月・木の 5 時 4 0 分～ 6 時 4 0 分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 中世寺社勢力と強訴(2) 前年度は、平安時代における寺社勢力と強訴に関して、保元の乱までの時代を中心にお話しをした。そこで今年度は、これにひきつづき当該問題に関して、保元の乱以降、治承寿永の内乱前後、そして鎌倉時代前期までの時代を中心に検討したい。

授業の一般目標 (1) 当該問題について理解を深める。(2) 歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係や諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山岸 常人				

授業の概要 中世寺社建築の形態や形式は、建築固有の論理によって出来上がっているわけではない。経済・政治・文化・宗教・生活、そして社会集団など、社会の様々な側面と密接な関わりを持って、建築の形式や空間・意匠が決定され、また変化した。建築を媒介として中世社会をどのように見ることができるのか、具体的な事例から読み解いてゆきたい。

授業の計画（全体） 中世寺社建築の形態や形式は、建築固有の論理によって出来上がっているわけではない。経済・政治・文化・宗教・生活、そして社会集団など、社会の様々な側面と密接な関わりを持って、建築の形式や空間・意匠が決定され、また変化した。建築を媒介として中世社会をどのように見ることができるのか、具体的な事例から読み解いてゆきたい。

教科書・参考書 参考書：中世寺院社会と仏堂，山岸常人，塙書房，1990年；中世寺院の僧団・法会・文書，山岸常人，東京大学出版会，2004年；塔と仏堂の旅（朝日選書）寺院建築から歴史を読む，山岸常人，朝日新聞，2005年

備考 集中授業

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 萩藩法制史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・機構・変化を読み取っていく。 / 検索キーワード 史料講読、法制史料、萩藩

授業の一般目標 1 . 萩藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構・時代背景を理解する。 2 . 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2 . 近世の法制について理解を深める。 思考・判断の観点： 1 . 法制史料に現れる一定の法則性を把握し、それを論理的に説明できる力を培う。

授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 萩藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。 / 検索キーワード 萩藩、政治史史料、史料講読

授業の一般目標 1．萩藩政治史史料を講読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。 2．近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2．近世政治史の課題について理解を深める。 思考・判断の観点： 1．近世政治史史料に現れる一定の法則性・連関を把握し、それを論理的に説明する力を養う。

授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。/ 検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書に関する自由記述コメント：/ 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。/ 検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む(12) 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、撰関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、撰関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象としてこれまで輪読してきた。今期はひきつづき弘安6(1283)条の記事を検討する予定。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

授業の一般目標 (1) 史料の読解力を養う。(2) 日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。(3) 関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世の史料を読解できる。(2) 中世の史料を読解するために必要な知識を得る。 **思考・判断の観点**：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 **関心・意欲の観点**：関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。 **技能・表現の観点**：漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。

授業の計画(全体) 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。 / 参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトで史料中の語を検索することが可能である。

メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む(13) 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、撰関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、撰関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象としてこれまで輪読してきた。今期は前期にひきつづき弘安6(1283)条の記事を検討する予定。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

授業の一般目標 (1) 史料の読解力を養う。(2) 日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。(3) 関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世の史料を読解できる。(2) 中世の史料を読解するために必要な知識を得る。 **思考・判断の観点**：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 **関心・意欲の観点**：関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。 **技能・表現の観点**：漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。

授業の計画(全体) 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。 / 参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトで史料中の語を検索することが可能である。

メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深化させる授業である。/ 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 時代背景について理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点： 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を養う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。

成績評価方法（総合） 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味した評価を行う。

教科書・参考書 教科書： なし。適宜レジュメを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深めていく授業である。/ 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 時代背景についての理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点: 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を培う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点: 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味する。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜レジュメを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。 思考・判断の観点：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 関心・意欲の観点：卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 態度の観点：卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

成績評価方法(総合) 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2 . レポートの分量については別途指示する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 よりよい卒業論文の作成を目指す。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：卒業論文作成に必要な日本古代史に関するより高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点**：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点**：1, 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。2, 先学の研究を十分に咀嚼して自らの問題設定との関係を明確に把握できる力をつける。 **態度の観点**：卒業論文の作成を通じて、学問上の常識や通説を疑い、かつそれを明確に指摘しうる姿勢を養う。 **技能・表現の観点**：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

成績評価方法（総合） 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2 . レポートの分量については別途指示する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。

授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての専門家意識を育む。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい卒業論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席すべき所用がある場合には事前連絡を要する(但し緊急事態の場合は事後承諾)。連絡先の電話や E-mail は研究室名簿参照。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。

授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての専門家意識を育む。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい卒業論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席すべき所用がある場合には事前連絡を要する(但し緊急事態の場合は事後承諾)。連絡先の電話や E-mail は研究室名簿参照。

開設科目	東洋史概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 秦と漢の時代(BC.221 ~ AD.220)は、中国古代帝国の形成期にあたる。秦は最初の皇帝の始皇帝が作った帝国で、漢は秦に創造された皇帝制・郡県制・官僚制などを継承し、武帝の時にその盛時を迎えた。その時代の中国人は、帝国より統一された社会生活の面でさらにあゆみより、民族意識も強化してきて、漢民族は形成されていったのである。 / 検索キーワード 上古・秦・漢

授業の一般目標 本講義では長い中国歴史の一段階、即ち秦漢時代の歴史のみを紹介するに止めるが、最新の出土文物までを利用して漢民族や漢文化や皇帝制度や郡県制度などの形成史を説明することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国古代における秦漢帝国に関する知識を説明できる。 思考・判断の観点：秦漢時代は中国史上に於いて重要な位置を指摘できる。 関心・意欲の観点：受講生は中国古代文明への関心を一層喚起するのを寄与できる。 態度の観点：討論の参加でき、質問の応答を協調できる。

授業の計画(全体) 計画は、秦・前漢・新・後漢という4つの王朝に対して、出土文物を主な史料として利用して15時限程度で中国史上初めの帝国時代、約440年間の歴史を教えて上げよう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1、序言：内容 秦と漢時代の諸特徴
- 第 2 回 項目 第一章 始皇帝の作った秦の帝国 2、内容 始皇帝の都城と宮殿
- 第 3 回 項目 3、内容 帝国制度の草創
- 第 4 回 項目 4、内容 兵馬俑で守られる御陵
- 第 5 回 項目 第二章 盛時を迎えた前漢王朝 5、内容 西京の長安から各地方へ
- 第 6 回 項目 6、内容 貴族的な豪華な生活
- 第 7 回 項目 7、内容 漢の武帝と匈奴の戦い
- 第 8 回 項目 8、内容 西域へのシルクロード
- 第 9 回 項目 9、内容 庶民の世界：都市と農村
- 第 10 回 項目 10、内容 王莽の改革と失敗
- 第 11 回 項目 第三章 中世に上げた後漢時代 11、内容 東京の「帝城」と南陽の「帝郷」
- 第 12 回 項目 12、内容 外戚・宦官・士大夫の朝廷闘争
- 第 13 回 項目 13、内容 後漢王朝と周辺民族の関係
- 第 14 回 項目 14、内容 民間宗教と帝国の崩壊
- 第 15 回 項目 15、内容 中世への入り口

成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に、出席(30%)と試験(70%)で行う。

開設科目	東洋史概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 中国を中心にアヘン戦争以後の東アジアの近代史を講義する。 / 検索キーワード 伝統社会・崩壊・侵略・再編・抵抗・再生・模索

授業の一般目標 近代東アジアにおける伝統的世界秩序の崩壊と再編、伝統社会の崩壊と再生への模索を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国を中心にアヘン戦争以後、「日中十五年戦争」までの東アジアの近代史について知識を得る。 思考・判断の観点：近現代とは異なる性質を持つ社会が近代化する問題を根本から考える。近現代社会を相対化して考える。 関心・意欲の観点：近代とは異なる原理を有する社会に関心を持つ。近現代社会を相対化することに関心を持つ。

授業の計画（全体）中国を中心にアヘン戦争以後の東アジアの近代史を講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 問題の所在と授業の方向性
- 第 2 回 項目 東アジア世界と皇帝制度 内容 東アジアにおける伝統的世界秩序
- 第 3 回 項目 明清時代の社会 内容 明清時代の地域社会と経済
- 第 4 回 項目 盛世の崩壊 内容 人口増加・移住・民衆反乱
- 第 5 回 項目 西洋の衝撃 内容 マカートニーの訪中からアヘン戦争へ
- 第 6 回 項目 「内憂」と外患 内容 太平天国と第二次アヘン戦争
- 第 7 回 項目 近代化の試み 内容 洋務運動
- 第 8 回 項目 日清戦争 内容 朝鮮半島をめぐる日清の争い
- 第 9 回 項目 変法自強運動 内容 近代化の促進
- 第 10 回 項目 日露戦争 内容 朝鮮半島・中国東北部をめぐる日露の争い
- 第 11 回 項目 東アジアにおける帝国主義の展開
- 第 12 回 項目 「韓国併合」 内容 日本による朝鮮半島の植民地化
- 第 13 回 項目 辛亥革命 内容 帝国の終焉と共和中国の誕生
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合）論説形式の期末試験で評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。授業中に適宜プリントを配付する。 / 参考書：中国の歴史 8 近代中国, 佐伯有一, 講談社, 1974 年；世界の歴史 19 中華帝国の危機, 並木頼寿・井上裕正, 中央公論社, 1997 年；中国の歴史 10 ラストエンペラーと近代中国, 菊池秀明, 講談社, 2005 年；東アジア近現代史, 上原一慶 他, 有斐閣, 1990 年；朝鮮史, 武田幸男, 山川出版社, 2000 年；担当者が参照した文献はこれ以外にも多数あり、また参考書として適しているものもこれ以外に多数ある。それらについては授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文学部 517 号室, 電話: 内線 5229, E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代(BC.220 ~ AD.220)の出土文字資料 簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る「禁苑」について紹介したいものである。 / 検索キーワード 秦漢・簡牘・禁苑

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

成績評価方法 (総合) レポート + 出席。

教科書・参考書 教科書：睡虎地秦墓竹簡, 睡虎地秦墓整理小組, 文物出版社, 1978 年；龍崗秦簡, 中国文物研究所, 中華書局, 2001 年

メッセージ 本講義の内容によって、受講生にはある程度の中国語能力を要求されているので、受講生の中国語の読解レベルは一層高くなることを目指しております。

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 明代の鈔関から清代の常関への変遷をたどり、それぞれの特質をさぐる。 / 検索キーワード 鈔関、常関、戸部官僚、内務府系官僚、一年任期、原額主義、請負

授業の一般目標 (1) 明清時代の内地税関について一応の知識を得る。(2) 内地税関からわかる当時の交通・商業の特質を明らかにする。(3) 内地税関にみられる当時の政府出先徴税機関の組織原理を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：明清時代の内地税関について一応の知識を得る。 思考・判断の観点：内地税関にみられる当時の政府出先徴税機関の組織原理を探る。 関心・意欲の観点：現在とは異なる組織に興味をもつ。

授業の計画(全体) 明代の鈔関の組織、徴税方式およびその時代的変遷に関してまず明らかにし、それが明末から清初にかけて他の徴税機関と統合されていくことに言及する。そして清代の常関における組織、徴税実態を明らかにし、最後に明代鈔関と清代常関を比較してその相違点を挙げる。

成績評価方法(総合) 学期末に提出するレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。 / 参考書：明代の鈔関について：佐久間重男「明代の商税制度」、『社会経済史学』13-3, 1943 同「明代商税の本色及び折色について」、『オリエンタリカ』2, 1948 同「明代における商税と財政との関係」、『史学雑誌』65-1・2, 1956 清代の常関について：香坂昌紀「清代における関税贏餘銀両の制定について」、『集刊東洋学』14号, 1965年 同「清代游墅関の研究1・2・3・4」、『東北学院論集 歴史学・地理学』3・5・13・14号, 1972・1975・1983・1984年 同「清代における大運河の物貨流通」、『東北学院論集 歴史学・地理学』15号, 1985年 滝野正二郎「清代淮安関の構成と機能」、『九州大学東洋史論集』14号, 1985年 同「清代乾隆年間における官僚と塩商1」、『九州大学東洋史論集』15号, 1986年 同「清代の鳳陽関をめぐる物資流通」、『明清時代の法と国家』汲古書院, 1993年 など

メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を 望む。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という機関が設置されたことによる流通上の影響について明らかにする。 / 検索キーワード 常関、徴税報告、商品流通、大豆、南北流通、遼道忌避、制度をめぐるせめぎ合い

授業の一般目標 (1) 清代の商品流通について一応の知識を得る。(2) 清代常関による商品流通の阻害作用と「促進」作用を理解する。(3) 清代常関をめぐる商人・民衆の動きを知ることによって制度と民衆のせめぎ合いを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：清代の商品流通について一応の知識を得る。 思考・判断の観点：制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして思考する。 関心・意欲の観点：制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして関心をもつ。

授業の計画(全体) 1. 一般的な明清時代における商品流通の概論を行う 2. 常関の徴税報告を利用して、清代乾隆年間における商品流通の様態を分析する。 3. 個別の常関をめぐる商品の動き方について検討する。

成績評価方法(総合) 学期末に提出するレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。 / 参考書：香坂昌紀「清代における関税贏余銀兩の制定について」『集刊東洋学』14号, 1965年 同「清代滸墅関の研究1・2・3・4」『東北学院論集 歴史学・地理学』3・5・13・14号, 1972・1975・1983・1984年 同「清代における大運河の物貨流通」『東北学院論集 歴史学・地理学』15号, 1985年 滝野正二郎「清代淮安関の構成と機能について」『九州大学東洋史論集』14号, 1985年 同「清代乾隆年間における官僚と塩商1」『九州大学東洋史論集』15号, 1986年 同「清代の鳳陽関をめぐる物資流通」『明清時代の法と国家』汲古書院, 1993年 など

メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を 望む。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富谷 至				

授業の概要 中国古代の書写材料、特に木簡竹簡にかんして、解説する。具体的には、居延・敦煌一帯の漢代烽燧から出土した木簡を取り扱い、漢帝国の行政制度、文書行政、官吏の識字教育、法制などを考える。

授業の一般目標 中国古代の行政、司法を考えるだけでなく、ひろく中国文化、中国思想を考察し、さらには、現代日本にも繋がる東アジア文化を理解することに目標をおく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢代の諸制度にかんして、十分な知識を得る。 思考・判断の観点：なぜ、こういう事象が出来るのか考える。 関心・意欲の観点：現代との比較する関心をもつ。

授業の計画（全体） 一回ごとに完結したテーマを設定し、いわゆるオムニバス形式で15回の集中講義をおこなう。

成績評価方法（総合） 未定。出席人数、学年、専攻により、決定する。

教科書・参考書 参考書：木簡・竹簡の語る中国古代, 富谷 至, 岩波書店, 2003 年；教科書では読めない中国史, 富谷 至, 小学館, 2006 年

備考 集中授業

開設科目	アジア文化交流史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本間 寛之				

授業の概要 東アジアと南アジア・西アジア・ヨーロッパを連絡する位置にあるのが、いわゆる内陸アジアであり、その連絡する道こそがシルクロードでした。現在はイスラーム地域とチベット仏教地域とに大分されますが、このような姿が成立する以前は、宗教・文化ともに非常に多様性に富んだ世界でした。この事実は、19世紀後半以降、列強諸国による内陸アジア調査によって改めて注目されることとなりましたが、調査自体の功罪は今なお問われつづけています。本講義ではこうした近現代史的な観点も交えながら、シルクロードにおける文化交流、オアシス国家のあり方や社会、宗教などをみてみましょう。 / 検索キーワード シルクロード 東西文化交流 西域 絹の道 中央アジア 内陸アジア ユーラシア

授業の一般目標 シルクロードという諸文化をつなぐ道の姿を通して、ユーラシア諸地域間の文化交流の実態を時間的・空間的に探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 様々な文化の様態が存在することを理解する。 思考・判断の観点： シルクロード、特に中央アジア史について国家の枠を超えて相対化する。 関心・意欲の観点： 多元的な文化のあり方に関心を持つ。

授業の計画（全体） 本講義では、伝統的なシルクロード論だけでなく、地域史や近現代史の観点からも広く文化交流を見ていきます。ソグド人・高昌国・近代中央アジアと日本の関係などを取り上げる予定です。

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（30％）とレポート（70％）で行う予定です。

教科書・参考書 教科書：シルクロード，長澤和俊，講談社学術文庫，1993年；適宜プリントも配布します。 / 参考書：新版世界各国史4 中央ユーラシア史，小松久男，山川出版社，2000年

備考 集中授業

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。

授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。

成績評価方法 (総合) 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。

授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。

成績評価方法 (総合) 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 漢口とは、明清時代、長江中流域において一大経済中心地となった大市場町である。『漢口叢談』は、塩商人であった范カイがその漢口について 1823 年ごろ著した筆記（随筆）である。この書は清朝中期における漢口という大商業都市について貴重な史料を提供している。この書を読むことによって当時の一都市における経済活動・文化活動について考察する。具体的には本書の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていくという形式で授業を進めていく。／検索キーワード 『漢口叢談』、漢口鎮、市鎮、長江中流域、士大夫と商人

授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代地域社会の基本的な視点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の地域社会および史料読解に必要な知識をもつ。 思考・判断の観点： 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。 関心・意欲の観点： 原史料に関心を持つ。 態度の観点： 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。 技能・表現の観点： 漢文史料を読解する技能をもつ。

授業の計画（全体） 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教官はそれに解説を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 『漢口叢談』とその著者范カイについて説明する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が史料を読み、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

成績評価方法（総合） 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

教科書・参考書 教科書：漢口叢談校釈，范カイ著・江浦ら校釈，湖北人民出版社，1990 年；テキストのコピーを配布する。／参考書：乾隆漢陽府志，陶士 等，，1747 年；乾隆漢陽県志，劉嗣孔等，，1748 年；光緒漢陽県志，濮文昶等，，1884 年；民国夏口県志，侯祖ヨ等，，1920 年

メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また 予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落 は厳に慎むこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス
アワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 漢口とは、明清時代、長江中流域において一大経済中心地となった大市場町である。『漢口叢談』は、塩商人であった范カイがその漢口について 1823 年ごろ著した筆記（随筆）である。この書は清朝中期における漢口という大商業都市について貴重な史料を提供している。この書を読むことによって当時の一都市における経済活動・文化活動について考察する。具体的には本書の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていくという形式で授業を進めていく。／検索キーワード 『漢口叢談』、漢口鎮、市鎮、長江中流域、士大夫と商人

授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代地域社会の基本的な視点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の地域社会および史料読解に必要な知識をもつ。 思考・判断の観点： 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。 関心・意欲の観点： 原史料に関心を持つ。 態度の観点： 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。 技能・表現の観点： 漢文史料を読解する技能をもつ。

授業の計画（全体） 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教員はそれに解説を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期試験の答え合わせと史料解題 内容 前期試験の答え合わせおよび解説 『漢口叢談』とその著者范カイについて説明する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が担当部分について発表し、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

成績評価方法（総合） 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

教科書・参考書 教科書： 漢口叢談校釈，范カイ著・江浦ら校釈，湖北人民出版社，1990 年；テキストのコピーを配布する。／参考書： 乾隆漢陽府志，陶士 等，，1747 年； 乾隆漢陽県志，劉嗣孔等，，1748 年； 光緒漢陽県識，濮文昶等，，1884 年； 民国夏口県志，侯祖ヨ等，，1920 年

メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業は その能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻し ようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。 上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途 脱落は厳に慎むこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス
アワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木(竹)簡より、代表的な書類(法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など)を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。

成績評価方法(総合) レポート。

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木(竹)簡より、代表的な書類(法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など)を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。

成績評価方法(総合) レポート。

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。史料のテーマは受講予定学生との相談によって決める。/ 検索キーワード 清代、奏摺、社会、行政、議論

授業の一般目標 清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。 思考・判断の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。 関心・意欲の観点：清代の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。 態度の観点：行政文書から社会を見通す態度をもつ。 技能・表現の観点：清朝の行政文書を扱う基礎的スキルを獲得する。

授業の計画（全体） 史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の社会に関する歴史像を構築する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 清代の档案、奏摺について説明する。
- 第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：宮中档雍正朝奏摺，国立故宮博物院，国立故宮博物院，1977 年；宮中档乾隆朝奏摺，国立故宮博物院，国立故宮博物院，1982 年；テキストのコピーを配布する。/ 参考書：『清国行政法』，織田萬編，大安，1965 年；『清実録』，奉勅修，中華書局，1985 年；光緒欽定大清会典・会典事例，崑岡等，中華書局，1963 年

メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。史料のテーマは受講予定学生との相談によって決める。/ 検索キーワード 清代、奏摺、社会、行政、議論

授業の一般目標 清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。 思考・判断の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。 関心・意欲の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える 態度の観点：行政文書から社会を見通す態度をもつ。 技能・表現の観点：清朝の行政文書を扱う基礎的技能を獲得する。

授業の計画(全体) 史料を受講生が分担して読み、担当者とともに議論してそこから当該時代の農業社会に関する歴史像を構築する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 清代の档案、奏摺について説明する。
- 第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法(総合) 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：宮中档雍正朝奏摺, 国立故宮博物院, 国立故宮博物院, 1977 年; 宮中档乾隆朝奏摺, 国立故宮博物院, 国立故宮博物院, 1982 年; テキストのコピーを配布する。/ 参考書：『清国行政法』, 織田萬編, 大安, 1965 年; 『清実録』, 奉勅修, 中華書局, 1985 年; 光緒欽定大清会典・会典事例, 崑岡等, 中華書局, 1963 年

メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 木曜日 5/6 時限

開設科目	西洋史概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 14 世紀から 15 世紀のヨーロッパに訪れたのは、飢饉・黒死病・戦争を契機とする大不況である。このなかで西ヨーロッパの農奴制は解体過程に入る。西ヨーロッパの封建領主のかなりの部分が没落してゆく。しかし、領主制は消滅したわけではなく、15 世紀の末には、再編成されるのである。他方、東ヨーロッパでは、農民は「再販農奴制」のなかに組み込まれてゆく。国制史的には、14 世紀から 16 世紀初頭の時期は封建国家 (人的結合国家) から絶対主義国家 (近代国家の初期段階) への過渡期にあたる。イタリアでは、コンパクトながら、高度の行政技術を持つ巨大都市国家が出現する。しかし、のちのヨーロッパ国家制度に最も大きな影響を与えたのは、フランスとイングランドという二つの大国における国家形態の変化であった。両国では、財政官僚制度と司法官僚制度の整備を通じて王権の伸長と凝集力の大きい国家組織の確立のための並々ならぬ努力がなされ、かなりの成果が得られた。人々の基本的忠誠の対象は、家族・共同体・教会から国家へと徐々に変わっていったのである。

授業の一般目標 この講義では、ヨーロッパのとりわけ 14 世紀から 16 世紀初頭までの時期を見てゆく。この時期にヨーロッパは崩壊の度を強めてゆき、明暗ともに強烈なヨーロッパ近代社会がその姿を徐々に現わそうとしていた。農奴制とその解体、領主制の再編成、「再販農奴制」の出現、封建国家から絶対主義国家への移行など、言葉は難しいが、できるだけやさしく、面白く語ってみたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業の一般目標の点について、知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点： 授業の一般目標の点について、自分で深く考える。 関心・意欲の観点： ヨーロッパ封建社会の政治社会的崩壊について強い関心を持つ。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 1 章 ヨーロッパ中世封建制社会 内容・中世とは・中世封建社会
- 第 2 回 内容・中世農業革命
- 第 3 回 内容・商品経済と都市の発展
- 第 4 回 項目 第 2 章 14・15 世紀の大不況 内容・概観・飢饉
- 第 5 回 内容・黒死病・戦争
- 第 6 回 内容・農民一揆と都市内部の闘争・不況からの脱出
- 第 7 回 内容・主要地域の貴族と農民の状態
- 第 8 回 内容 (補) ポルトガルが海外進出の先頭に立った理由
- 第 9 回 内容 (補) ルネサンスという概念
- 第 10 回 項目 第 3 章 14 世紀～16 世紀初頭の政治 内容・概観・イタリアの都市国家
- 第 11 回 内容・イベリアの王国
- 第 12 回 内容・百年戦争前後のイングランドとフランス
- 第 13 回 内容・ブルゴーニュの興亡・神聖ローマ帝国
- 第 14 回 内容・モスクワ公国
- 第 15 回 項目 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回

第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 100 点満点の試験を行なう。ノートなどの持込は不可。無断欠勤 1 回につき 5 点マイナス。

教科書・参考書 参考書：授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階 407 号室。amak@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋史概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 後期の授業で扱うのは、教会と文化の問題である。この時代は、神中心のヨーロッパ中世文化がやや相貌を変え、近代的人間観の確立を促すルネサンスの出現を見る。不況の泥沼のなかで、なぜルネサンスの花が開くのか。その理由を明らかにしなければならない。また、イタリア、フランス、イングランド等に見られる世俗性に重きを置いた自国語文学の出現を、力をこめて論じたい。美術の発展についても詳述する。さらに、いま一つの重要な精神運動である宗教改革についても時間の許す限り考察してみたい。

授業の一般目標 外見上神に束縛された人間が、やがて神以外の価値あるもの - 人間性とか自然 - にうすうす気がつき始めたのがこの頃の時代精神だった、といえはそれで簡単なのだが、厄介なことにルネサンスとは反対の宗教改革（信仰の内面化と大衆への浸透）という事実がある。これをどう理解すべきか。歴史は実に難しい。そして面白い。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業の概要と一般目標で触れた点に知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点： 授業の概要と一般目標で触れた点を、自分で深く考える。 関心・意欲の観点： ヨーロッパの信仰と理性の転変について、強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 4 章 14 世紀～16 世紀初頭の教会 内容・キリスト教について・教会の発展
- 第 2 回 内容・農民・貴族と教会・危機の時代の到来
- 第 3 回 内容・叙任権闘争・アヴィニョンへの教皇庁の移転
- 第 4 回 内容・教会の大分裂・きょうかいいかいかくを n 「」・教会の大分裂・教会改革を求める声の高まり
- 第 5 回 内容・異端の群れ
- 第 6 回 内容・教皇の動き
- 第 7 回 項目 第 5 章 14 世紀～16 世紀初頭の文化 内容・概観・俗語による自然主義文学
- 第 8 回 内容・スコラ学の衰退
- 第 9 回 内容・イタリアの人文主義
- 第 10 回 内容・北方の人文主義
- 第 11 回 内容・エラスムス
- 第 12 回 内容・法律家・官吏・政治思想家
- 第 13 回 項目 第 6 章 ルネサンス美術 内容・ゴシック・リアリズム・イタリアの科学的自然主義と古典主義
- 第 14 回 内容・盛期ルネサンス
- 第 15 回 項目（宗教改革について）

成績評価方法（総合） 期末試験を実施する。ノートなどの持込は不可。無断欠席は 1 回につき 5 点マイナス。

教科書・参考書 参考書： 授業中に指示する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階 407 号室。amak@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識した西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行うようにしたい。

授業の一般目標 専制正治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まり、まもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業の一般目標の点について知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点： 授業の一般目標の点について、自分で深く考える。 関心・意欲の観点： ロシアとヨーロッパの歴史について強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 1
- 第 3 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 2
- 第 4 回 項目 キエフ国家の成立
- 第 5 回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第 6 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 1 軍事的中央集権国家の出現
- 第 7 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 2 農奴制の形成
- 第 8 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 3 農奴制の確立
- 第 9 回 項目 皇帝と貴族
- 第 10 回 項目 ラジーシチェフとデカブリストたち
- 第 11 回 項目 スラブ主義者対西欧主義者の大論争
- 第 12 回 項目 ゲルツェン「ロシア社会主義」論
- 第 13 回 項目 農奴開放と人民主義運動
- 第 14 回 項目 人民主義の思想家たち
- 第 15 回 項目 人民主義運動の展開と挫折

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

教科書・参考書 教科書： 用いない。適宜プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【ロシア革命の考察】19 世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902 年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社 会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。 同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革 命体 制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権 的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。 こうした 問題を考えてみたい。

授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロシア革命について知識を得、理解を深める。 思考・判断の観 点：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッ パの歴史に強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大
- 第 3 回 項目 レーニンの党組 織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィキ
- 第 5 回 項目 西欧における革 命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1905 年革命
- 第 7 回 項目 1917 年の 2 月革命
- 第 8 回 項目 2 月革命から 10 月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主義」の続行、農 民反乱
- 第 13 回 項目 ネット（新経済 政策）への転 換、共産党一党 独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永田 諒一				

授業の概要 ドイツ語圏宗教改革史。近年の研究動向とその諸成果を踏まえて、講義する。

授業の一般目標 ・宗教改革に関する基本的な諸事実、近年の研究動向、その諸成果、その現代的意味を理解する。 ・西洋史学研究および歴史学研究の方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 宗教改革とその時代に関する歴史的事実の修得 思考・判断の観点： 近年の研究動向の把握。歴史学方法の把握。 関心・意欲の観点： 宗教改革の現代的意義、そして、ヨーロッパ中世・近世の現代的意義を考える

授業の計画(全体) 1. 宗教改革史に関する基本的な歴史知識の確認 2. 宗教改革研究史の整理と展望 3. 本論 (1) ルター：個人、支持者の戦略 (2) 民衆：信仰心、識字率 (3) 技術：活版印刷術、木版画 (4) カトリック教会：神学、組織 (5) 政府：領邦、帝国都市 4. まとめと展望

成績評価方法 (総合) 授業中に課す小レポートと、学期末レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： なし。ノートを取る。また、資料等を配布する。 / 参考書： 高校の世界史の教科書の該当部分。 , , ; ドイツの宗教改革, P. ブリックレ, 教文館, 1991 年; 宗教改革の真実: カトリックとプロテスタントの社会史, 永田諒一, 講談社現代新書, 2004 年

メッセージ 学問には、他人の言うことを簡単に信用しない態度、物事を論理的に考える姿勢が大切です。(しかし、日常生活では、そのような態度・姿勢は、歪んだ性格、理屈っぽい性格として嫌われることになりかねないので、注意!)

連絡先・オフィスアワー 〒 700-8530 岡山市津島中 3-1 岡山大学文学部歴史文化学(西洋史) 電話：0 8 6 - 2 5 1 - 8 4 5 3 (研究室直通、留守電あり) E-MAIL： ngt@cc.okayama-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 1960年代の社会政治運動の諸相に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。 / 検索キーワード アメリカ、黒人、社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業の計画(全体) できれば前・後期通年の受講が望ましい

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係 内容 アメリカ黒人社会の現状の概説
- 第 3 回 項目 南部公民権運動 (1) 内容 1965 年までの公民権運動の概説
- 第 4 回 項目 南部公民権運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 5 回 項目 南部公民権運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 6 回 項目 ニュー・レフトの運動 (1) 内容 学生運動と公民権運動の関係の概説
- 第 7 回 項目 ニュー・レフトの運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 8 回 項目 ニュー・レフトの運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 9 回 項目 ブラック・ナショナリズム (1) 内容 ブラックパワー運動の概説
- 第 10 回 項目 ブラック・ナショナリズム (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 11 回 項目 ブラック・ナショナリズム (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 12 回 項目 デトロイトにおける運動 (1) 内容 デトロイト都市研究史概説
- 第 13 回 項目 デトロイトにおける運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 14 回 項目 デトロイトにおける運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：'Takin' to the Streets, Alexander Boom and Wini Breines, Oxford University Press, 2003 年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 1960年代の社会政治運動の諸相に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。 / 検索キーワード アメリカ、黒人、社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係と前半期講義内容の解説 内容 戦後の黒人の歴史の概説
- 第 3 回 項目 1960年代基礎文献解説 内容 1965年までの基礎的史料の解説
- 第 4 回 項目 長く暑い夏 (1) 内容 1960年代都市暴動の諸相の解説
- 第 5 回 項目 長く暑い夏 (2) 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 6 回 項目 長く暑い夏 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 7 回 項目 ベトナム反戦運動 (1) 内容 ベトナム戦争史概説
- 第 8 回 項目 ベトナム反戦運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 9 回 項目 1968年の激動 (1) 内容 1968年の社会政治運動の概説
- 第 10 回 項目 1968年の激動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 11 回 項目 1968年の激動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 12 回 項目 激動の時代の保守主義 (1) 内容 「白人の巻き返し」と今日のアメリカ社会の概観
- 第 13 回 項目 激動の時代の保守主義 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 14 回 項目 激動の時代の保守主義 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：Takin' to the Streets, Alexander Bloom and Wini Breines, Oxford University Press, 2003年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読（英語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 アメリカ史関係の論文や学術書の書評誌 *Reviews in American History* に掲載されたものの中から、授業参加者の研究関心に適した英語論文を選択し、精読を行う。 / 検索キーワード 英語、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文の主な論点を早くつかめるようになる。 思考・判断の観点：論文の構造、論理を理解できるようになる

授業の計画（全体） できれば前期・後期通年での受講が望ましい

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakクシヨN 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 翻訳の技法 (1)
- 第 3 回 項目 翻訳の技法 (2)
- 第 4 回 項目 論文読解 (1)
- 第 5 回 項目 論文読解 (2)
- 第 6 回 項目 論文読解 (3)
- 第 7 回 項目 論文読解 (4)
- 第 8 回 項目 論文読解 (5)
- 第 9 回 項目 論文読解 (6)
- 第 10 回 項目 論文読解 (7)
- 第 11 回 項目 論文読解 (8)
- 第 12 回 項目 論文読解 (9)
- 第 13 回 項目 史料読解 (1)
- 第 14 回 項目 史料読解 (2)
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 授業での発言を何よりも重視する。したがって、予習なしに出席し、質問・問いかけに答えられない場合、出席とはみなさないし、単なる「出席点」は与えない。

教科書・参考書 教科書：翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997 年; 教科書販売場所: 大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読(英語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 アメリカ史関係の論文や学術書の書評誌 *Reviews in American History* に掲載されたものの中から、授業参加者の研究関心に適した英語論文を選択し、精読を行う。/ 検索キーワード 英語、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 論文の主な論点を早くつかめるようになる。 思考・判断の観点: 論文の構造、論理を理解できるようになる

授業の計画(全体) できれば前期・後期通年での受講が望ましい

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN
- 第 2 回 項目 翻訳の技法 (1)
- 第 3 回 項目 翻訳の技法 (2)
- 第 4 回 項目 論文読解 (1)
- 第 5 回 項目 論文読解 (2)
- 第 6 回 項目 論文読解 (3)
- 第 7 回 項目 論文読解 (4)
- 第 8 回 項目 論文読解 (5)
- 第 9 回 項目 論文読解 (6)
- 第 10 回 項目 論文読解 (7)
- 第 11 回 項目 論文読解 (8)
- 第 12 回 項目 論文読解 (9)
- 第 13 回 項目 史料読解 (1)
- 第 14 回 項目 史料読解 (2)
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 授業中の発言を最重視する。したがって、予習もせずに授業に参加しても、質問や問いかけに答えられないならば、出席とはみなさない。

教科書・参考書 教科書: 翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997年; 教科書販売場所: 大学会館内ブックセンター(紀伊國屋書店)

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読(ドイツ語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松永 和生				

授業の概要 ドイツの通史を講読する。テキストとして、ヴァイマル期からナチス期にかけての通史で写真や図表が多数挿入してある Pleticha, Heinrich (hrsg.), Deutsche Geschichte の第 11 巻を使用する。授業では、単に独文和訳で終わるのではなく、歴史を研究していく上で重要と思われる事項について教員から補足説明をしたり、受講生に用語等をさらに踏み込んで調べてもらうことしたい。

授業の一般目標 講読に際しては、辞書を何度も何度も引くようになるが、まずはこの忍耐を要する作業を乗り切ることである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の読解能力を高め、ドイツや国際関係の歴史について理解を深める。

授業の計画(全体) テキストを読んで訳していく。各自の担当箇所は必ず予習しておくこと。年間を通じての受講が望ましい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テキスト講読
- 第 3 回 項目 テキスト講読
- 第 4 回 項目 テキスト講読
- 第 5 回 項目 テキスト講読
- 第 6 回 項目 テキスト講読
- 第 7 回 項目 テキスト講読
- 第 8 回 項目 テキスト講読
- 第 9 回 項目 テキスト講読
- 第 10 回 項目 テキスト講読
- 第 11 回 項目 テキスト講読
- 第 12 回 項目 テキスト講読
- 第 13 回 項目 テキスト講読
- 第 14 回 項目 テキスト講読
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 出席点 50% + 期末試験 50%

教科書・参考書 教科書：テキストは上記のコピーを配布する。 / 参考書：参考書類は必要に応じて紹介する。

連絡先・オフィスアワー 質問等があれば、できるだけ授業の終了時をお願いしたい。それ以外では、地域発展計画研究者機構(Tel/Fax 083-923-6204)まで。

開設科目	西洋史学講読(ドイツ語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松永 和生				

授業の概要 前期に引き続き、ヴァイマル期からナチス期にかけての通史を講読する。テキストは、Pleticha, Heinrich (hrsg.), Deutsche Geschichte の第 11 巻を使用する。

授業の一般目標 辞書を繰り返し引いて、ドイツ語に慣れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ドイツ語の読解能力を高め、ドイツや国際関係の歴史について理解を深める。

授業の計画(全体) 前期と同じく、テキストを読んで訳していく。各自の担当箇所は必ず予習しておくこと。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テキスト講読
- 第 3 回 項目 テキスト講読
- 第 4 回 項目 テキスト講読
- 第 5 回 項目 テキスト講読
- 第 6 回 項目 テキスト講読
- 第 7 回 項目 テキスト講読
- 第 8 回 項目 テキスト講読
- 第 9 回 項目 テキスト講読
- 第 10 回 項目 テキスト講読
- 第 11 回 項目 テキスト講読
- 第 12 回 項目 テキスト講読
- 第 13 回 項目 テキスト講読
- 第 14 回 項目 テキスト講読
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 出席点 50% + 期末試験 50%

教科書・参考書 教科書: テキストは上記のコピーを配布する。 / 参考書: 参考書類は必要に応じて紹介する。

連絡先・オフィスアワー 質問等があれば、できるだけ授業の終了時にお願いしたい。それ以外では、地域発展計画研究者機構(Tel/Fax 083-923-6204)まで。

開設科目	西洋史学講読(フランス語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは Jean- Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。

授業の一般目標 辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。これが第1の目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) フランス語の読解能力を高める。(2) ヨーロッパ史、特にフランス史の基礎知識を習得する。

授業の計画(全体) テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進む。最後に期末試験(仏和辞典持込可)を行なう。

教科書・参考書 教科書: 上記のとおり。 / 参考書: 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階409、尼川研究室(TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-ac.jp)

開設科目	西洋史学講読(フランス語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 前期と同じ。

授業の計画(全体) 前期と同じ(続き)。

成績評価方法(総合) 期末試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点)。

教科書・参考書 教科書： 前期と同じ(続き) / 参考書： 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階、尼川研究室(TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 3・4年生を対象としている。毎回各自が関心をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の摘出、素材の用い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。

授業の一般目標 学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。

授業の計画（全体） 毎回1人または2人の学生に発表してもらう。期末試験は実施しないが、最後に各自のそれまでの研究のまとめと今後の展望を記したレポートを提出してもらう。

成績評価方法（総合） 平常点が90点。レポートが10点。無断欠席1回につきマイナス5点。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階、尼川研究室（TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp）

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。
 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。

授業の計画（全体） 前期と同じ。ただし、4年生については学期末のレポートを免除する。

成績評価方法（総合） 3年生：平常点 90 点。レポート 10 点。 4年生：平常点 100 点。 無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階、尼川研究室（TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp）

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 3, 4年生を対象(それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する)とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学术论文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告をお粉ル。なお講読論文は、参加者の関心にしたがって決定する / 検索キーワード ゼミ、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点: 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 日本語論文を読む
- 第 3 回 項目 日本語論文を読む
- 第 4 回 項目 日本語論文を読む
- 第 5 回 項目 日本語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 英語論文を読む
- 第 10 回 項目 英語論文を読む
- 第 11 回 項目 英語論文を読む
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

成績評価方法(総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 3 . 4 年生を対象 (それ以外の学年でも、単位は与えないが、「傍聴」は歓迎する) とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3 年生は、現在最先端の歴史学理論を把握することを目的に、学術論文を読む。4 年生は、卒業論文の研究の報告を行う。なお論文は、参加者の関心にしたがって決定する。 / 検索キーワード ゼミ、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ (4) 4 年生は卒業論文を完成する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点：歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 3 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 4 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 5 回 項目 英語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 10 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 11 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

成績評価方法 (総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス : yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水 : 11 時 50 分から 12 時 50 分

人文社会学科 社会情報論コース

開設科目	社会学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、主に現代産業社会のマクロな構造と過程について概観する。/ 検索キーワード 社会的行為、社会構造、社会変動、近代化、社会階層、官僚制、情報化・消費化社会、グローバル化

授業の一般目標 (1) 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。(2) 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。

授業の計画(全体) 社会学の歴史、基本概念、現代社会の構造と変動について学んでいく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の研究对象としての「社会」
- 第 2 回 項目 社会学の誕生
- 第 3 回 項目 社会学の成立と発展
- 第 4 回 項目 社会学の成立と発展(2)
- 第 5 回 項目 社会学の成立と発展(3)
- 第 6 回 項目 近代化と産業化
- 第 7 回 項目 産業社会と階級・階層
- 第 8 回 項目 産業社会と階級・階層(2)
- 第 9 回 項目 産業社会と官僚制組織
- 第 10 回 項目 高度産業化と「ゆたかな社会」
- 第 11 回 項目 産業社会における中心的価値観の変容
- 第 12 回 項目 「情報化・消費化社会」の成立
- 第 13 回 項目 グローバル化のなかの現代社会
- 第 14 回 項目 高度産業社会のゆくえ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%

教科書・参考書 教科書：社会学講義, 富永健一, 中央公論新社, 1995 年 / 参考書：社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997 年；クロニクル社会学, 那須壽, 有斐閣, 1997 年；現代社会学講義, 佐藤慶幸, 有斐閣, 1999 年；社会学(第 4 版), A. ギデンズ, 而立書房, 2004 年；できるだけ『社会学小辞典』を用意し、授業に出てくる用語、人名などを各自で調べてほしい。その他の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

メッセージ 社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているので、できれば年間を通して受講することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	社会学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学とは何か、社会学の方法としての社会調査とは何かを、現代社会の社会問題を考えながら学んでいく。

授業の一般目標 社会学とはどのような学問であるか、社会学の基礎知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会学、社会調査の知識を身につける 思考・判断の観点：社会的ものの味方ができる 関心・意欲の観点：社会問題に関心を持つ 態度の観点：社会に対して関心を持つ

授業の計画（全体）社会学と社会学の方法としての社会調査の概要を、身近な社会である、家族や地域社会から全体社会を考えながら学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の方法としての社会調査
- 第 2 回 項目 社会調査の歴史
- 第 3 回 項目 中範囲理論と社会的想像力 内容 科学的目的の社会調査
- 第 4 回 項目 量的調査と質的調査 内容 社会調査方法の選択
- 第 5 回 項目 統計調査に見る 家族の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 6 回 項目 現代家族の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 7 回 項目 統計調査にみる地域社会の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 8 回 項目 都市社会のモノグラフ（シカゴ学派の事例研究） 内容 事例調査の実際
- 第 9 回 項目 スラム社会の社会構造（ストリートコーナースァエティ） 内容 参与観察の実際
- 第 10 回 項目 現代都市の諸問題 内容 質的調査の実
- 第 11 回 項目 社会階層と社会移動（SSM調査から） 内容 統計的調査の実際
- 第 12 回 項目 社会移動と生活構造 内容 統計的調査の実際
- 第 13 回 項目 生活意識と生活問題 内容 統計的調査の実際
- 第 14 回 項目 フィールド調査の楽しみと調査倫理 内容 社会調査の責任と貢献
- 第 15 回 項目 社会学と社会調査

成績評価方法（総合）授業の進捗段階ごとに行う小レポートと、出席、試験を総合的にみて評価する。

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 企業と地域社会の関わりを、企業の社会的責任や社会貢献活動に焦点を当てて、事例を紹介しながら考察する。 / 検索キーワード 産業社会、企業組織、企業の社会的責任（CSR）、企業の社会貢献活動、地域社会

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を理解しながら、現代社会の仕組みと問題点を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業組織の社会貢献活動についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：地域社会に立地する企業活動に目を向ける 態度の観点：身近な社会を企業活動から知る

授業の計画（全体） 企業の社会的責任や企業の社会貢献活動を、具体的な事例をみながら理解し、地域社会と企業の望ましい共存のあり方を探る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 産業社会と社会学の成立
- 第 2 回 項目 企業活動の現況
- 第 3 回 項目 企業組織の経営理念
- 第 4 回 項目 企業家のフィランソロピー (1)
- 第 5 回 項目 企業家のフィランソロピー (2)
- 第 6 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 7 回 項目 ステークホルダーとしての地域社会 (1)
- 第 8 回 項目 ステークホルダーとしての地域社会 (2)
- 第 9 回 項目 産業化と産業公害
- 第 10 回 項目 産業化と環境問題
- 第 11 回 項目 企業の社会的責任
- 第 12 回 項目 宇部市における産業化
- 第 13 回 項目 宇部興産の地域貢献活動
- 第 14 回 項目 宇部方式による環境浄化
- 第 15 回 項目 企業組織と地域社会

成績評価方法（総合） 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ, 三浦典子, ミネルヴァ書房, 2004 年; プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神, M. ヴェーバー, 岩波書店, 1991 年; 企業の社会貢献とコミュニティ, 三浦典子, ミネルバ書房, 2004 年; その他適宜紹介する

メッセージ できれば前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 日本における企業家の経営理念と企業の社会的貢献活動を中心に、企業組織とコミュニティの関わりを、具体的な事例を紹介しながら考察する / 検索キーワード 日本的経営、企業の社会貢献、企業フィランソロピー、企業市民性

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、地域社会における一市民としての企業組織の可能性について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：企業の社会貢献活動について関心を持つ 態度の観点：身近な企業の社会貢献活動に目を向けるようになる

授業の計画（全体）日本における企業家の経営理念と企業の社会貢献活動の実態を明らかにし、企業組織と地域社会との共存の可能性を探る

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本的企業フィランソロピー
- 第 2 回 項目 近江商人の家訓
- 第 3 回 項目 日本的経営理念の源流
- 第 4 回 項目 日本的経営理念の源流
- 第 5 回 項目 企業家の社会貢献 事例 1
- 第 6 回 項目 企業家の社会貢献 事例 2
- 第 7 回 項目 企業家の社会貢献 事例 3
- 第 8 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 9 回 項目 企業のステークホルダーとしての地域社会
- 第 10 回 項目 メセナとは
- 第 11 回 項目 企業メセナ協議会の活動と展開
- 第 12 回 項目 地域メセナの活動と展開
- 第 13 回 項目 文化によるまちづくり
- 第 14 回 項目 企業組織とコミュニティ
- 第 15 回 項目 まとめ「公と私」

成績評価方法（総合）出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ、三浦典子、ミネルヴァ書房、2004年；その他適宜紹介する

メッセージ 前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	堤マサエ				

授業の概要 本講義では、人間・家族と現代社会の諸特質を中心にテキスト、具体的な資料から学ぶ。ここでは、前半に私たちの身近な集団である家族について、その捉え方、分類、変動、特徴、家族形成、関係、問題把握などについて学び、後半は少子高齢化、技術革新、情報化、国際化など現代社会の諸特質、社会変動の基本的な理論を講義する。 / 検索キーワード 家族、変動、社会、日本

授業の一般目標 現代社会を生きる私たちは、今どのような社会状況にあるかを知り、これからの社会がどうあることがよいかを主体的に考える力を身につけることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：事実を客観的に見られる力 思考・判断の観点：社会科学的な考え方 関心・意欲の観点：社会的な出来事にたいする関心が高い 態度の観点：熱心、まじめな態度
その他の観点：総合的な力

授業の計画（全体） 前半 私たちの身近な社会集団である家族について、どのように捉えればよいかを客観的に考える。人間を捉える際の重要な背景となる家族の動態的把握、歴史的変化を理解し、母性、父性、子ども、高齢者の特性について学習する。後半 現代に生きる私たちは今、どのような社会状況にあるかを知り、これからの社会がどうあることがよいかを考える。現代社会はさまざまな視点からその特質をクローズアップすることができる。その実態を捉える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人の一生と家族 < BR > 家族の捉え方 内容 家族の基本的な捉え方
- 第 2 回 項目 家族の変動と日本の特徴 内容 現代家族変動論
- 第 3 回 項目 家族形成・家族問題 内容 家族の成立と発達、生活設計論
- 第 4 回 項目 ライフサイクルとライフコース 内容 家族の動態的見方を考える
- 第 5 回 項目 母性・父性 内容 親役割を考える
- 第 6 回 項目 子どもの問題 内容 子どもの成長・発達
- 第 7 回 項目 家族問題とストレス 内容 家族危機について考える
- 第 8 回 項目 社会学とは < BR > 今の社会は 内容 社会学の成立と特徴、社会学方法論、理論
- 第 9 回 項目 人口の変化 < BR > 科学技術の発展 内容 未来予測、労働の変化
- 第 10 回 項目 環境問題 内容 身近なごみ問題から地球環境問題
- 第 11 回 項目 情報化社会と技術革新 内容 産業構造の変化と情報化
- 第 12 回 項目 国際化 内容 国際化の中の暮らしの変化
- 第 13 回 項目 地位と役割 内容 役割論
- 第 14 回 項目 地域社会 内容 変わりつつあるある地域社会
- 第 15 回 項目 現代社会と女性 < BR > 総括 内容 生き方の変化 < BR > まとめ

成績評価方法（総合） 出席・レポート・表現力

教科書・参考書 教科書：新版・社会福祉学習双書 2007「社会学」、全国社会福祉協議会、全国社会福祉協議会、2007 年 / 参考書：母性の社会学、船橋・堤マサエ、サイエンス社、2005 年；母子の心理・社会学、青木・平澤他編堤他著、日本看護協会、2003 年

メッセージ 身近な家族、自分の人生を考えてください。日頃、新聞やマスメディアの情報に関心を持ち、日本、世界の動向を知るように心がけてください。

備考 集中授業

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 戦後日本社会の急激は変容ぶりは、戦後日本人の意識構造にも決定的な影響を及ぼした。本講義では、そのなかで特に戦争観や平和観の変容に焦点を当てて、考察を加えていく。それは同時に戦後日本人の政治観や国家観をも問う試みとしてもある。そのことを通して、最終的には国家と人間、市民社会と市民の相互関係の理想的かつ合理的な関係を模索していきたい。 / 検索キーワード 戦争認識 平和認識 歴史認識 意識変容

授業の一般目標 (1) 戦争観や平和観が何を媒介として形成されていくか認識を深める。(2) 国家や社会を対象化する手法を獲得していく。(3) 自らの言葉で戦争・平和・国家・社会を語れる素養を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 戦争や平和の歴史事実を再確認し、論証することができる。2. 本テーマで主体的な議論を展開できる。3. 本テーマについて、独自性ある小論文を作成できる。

思考・判断の観点: 1. 戦争や平和が国家による恣意的な判断によってのみ結果されるものではなく、そこに民衆の意識が介在していることが指摘できる。2. 戦争や平和の内実を決定するものは、民衆自身であることが自覚できる。 関心・意欲の観点: 1. 自らの社会的立場を客観的に把握する手段として、現代史への関心と社会事象への興味を持つ。2. 21世紀が再び戦争の時代であるとする認識を持つ。 態度の観点: 1. 既存の歴史認識や社会認識の有り様に疑問を持つ。2. 他者との言語や文章を媒体とするコミュニケーションに関心を持つ。

授業の計画(全体) 戦後日本に表出した戦争観や平和観の変容を具体的に例示する。それを踏まえて、より多くの文献・資料を活用しながら、そこに見出される日本人の意識構造を浮き彫りにしていく。テキストは、纈纈厚著『侵略戦争 歴史事実と歴史認識』(筑摩書房、1999年刊)など。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本人の戦争観の変容(1) 内容 1) 戦争観の転換を迫る者 2) 日本人の戦争観の実際 3) 時代と戦争観の変容 授業外指示 テキスト『侵略戦争』の精読と配布レジュメによる事前学習(以下、毎回同様の指示をする)
- 第 2 回 項目 日本人の戦争観の変容(2) 内容 4) 戦争観の形成と政治的文化的状況 5) 戦争認識を阻害するもの
- 第 3 回 項目 時代の変容と戦争認識の変容 内容 1) 1950年代の特色 2) 風化の政治的時代的背景と原因
- 第 4 回 項目 アジア太平洋戦争の総括をめぐって 内容 1) 「太平洋戦争の呼称をめぐって」 2) 解放戦争論の登場
- 第 5 回 項目 戦後の戦争と日本人 内容 1) 朝鮮戦争論 2) ベトナム戦争論
- 第 6 回 項目 日本再軍備をめぐる国論の動き 内容 1) 戦争アレルギーと軍隊アレルギー 2) 日米安保の受容過程
- 第 7 回 項目 戦争責任論の登場とアジア民衆からの批判 内容 1) 戦争責任論 2) 過去の克服
- 第 8 回 項目 軍隊慰安婦問題への反応 内容 1) いま、なぜ軍隊慰安婦問題か 2) アジア民衆の対日批判
- 第 9 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(1) 内容 1) 教科書問題 2) 歴史修正主義グループの意味
- 第 10 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(2) 内容 3) 歴史修正主義批判の展開 4) 教科書問題への世論の動き
- 第 11 回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における日本人の戦争観(1) 内容 1) 戦後日本人の戦争観の変容から現代の戦争への視点を探る

- 第 12 回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における戦争観(2) 内容 2) 現代の戦争観を通して保守化・右傾化する日本人の政治歴史意識の実際を検証する
- 第 13 回 項目 総括と補論(1) 内容 1) 歴史は乗り越えられないのか～歴史の克服と清算の問題に触れて～
- 第 14 回 項目 総括と補論(2) 内容 2) 歴史創造の主体と客体という問題
- 第 15 回 項目 総括と補論(3) 内容 3) 社会科学は何処まで政治から自由であるのか
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法(総合) 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

教科書・参考書 教科書：『侵略戦争』, 纈纈 厚, 筑摩書房, 1999 年；有事体制論, 纈纈 厚, インパクト出版会, 2004 年；現代の戦争, 纈纈厚他, 岩波書店, 2003 年；戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005 年；文民統制 自衛隊はどこに行くのか, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年 / 参考書：検証・新ガイドライン安保体制, 纈纈厚, インパクト出版会, 1998 年；周辺事態法, 纈纈厚, 社会評論社, 2000 年；現代政治の課題, 纈纈厚, 北樹出版, 2001 年；有事法制とは何か, 纈纈厚, インパクト出版会, 2002 年；有事法制の罫にだまされるな, 纈纈厚, 凱風社, 2002 年；いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制, 纈纈厚, 凱風社, 2006 年

メッセージ 現代社会に内在する矛盾をどこまで指摘可能か思考せよ

連絡先・オフィスアワー 纈纈厚 koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM 1:00-2:30

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 現代の政治社会における人間の所在と位置について考察していく。そこでは国家と人間、社会と人間、組織と人間などを大きなテーマとして設定しつつ、現代社会における人間の営みの理想型を模索していく。 / 検索キーワード 政治的人間 政治の人間化 国家・社会と人間

授業の一般目標 「人間は政治的かつ社会的な存在」である限り、私たちは政治とは無縁で有り得ない。まらば、政治社会にあって、これと豊かにコミットしていくための処方箋が不可欠である。本講義は、言うならばその処方箋探しの場となるであろう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：この社会に生きる全ての人間は「政治的人間」あることを理解する。すなわち、複雑化する一方の現代社会にあって、政治との正面からの向き合いなしには、自らの生存も精神も、そして、思想や行動の自由を獲得できないことを自覚することである。 思考・判断の観点：他者同調型ではなく、自立・自由・自治の観点からする思考・判断が、いまほど求まられている時代はないがゆえに、そのための学習の深化を期待したい。 関心・意欲の観点：あらゆる社会事象に鋭い嗅覚を持って対峙し、的確な選択を実行するためには、あらゆる事象への関心を抱き、解析する意欲を内在化させる方法を発見することである。 態度の観点：自らが得た知識・情報の的確性を確認するためには他者との相互的交流が不可欠である。その意味で積極的に他者との関わりを持続すべきことの大切さを身につけたい。 技能・表現の観点：自ら取得した知識・情報を他者に向けて発信するための表現能力の向上が強く求められている。書く力、読む力、伝える力をあらゆる機会を通して獲得すべきである。

授業の計画（全体） 多義にわたるテーマ及び課題を提示していくので、毎回レジュメを配布していく。受講生諸君は講義に臨むにあたって事前にレジュメの精読が求められる。レジュメと講義と自らの思考という循環によって、政治社会に果敢にコミットし、豊かなコミュニケーション能力を獲得して欲しい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国家・社会・組織と人間の関わり方とは 内容 国家とは何かをめぐって
- 第 2 回 項目 「政治社会」とはどのような社会を言うのか 内容 国家・社会とのスタンスの取り方
- 第 3 回 項目 企業社会と人間を結ぶもの 内容 企業社会の中で
- 第 4 回 項目 企業国家と日本人 内容 日本株式会社を超えて
- 第 5 回 項目 近代化・資本主義化と人間 内容 上からの近代化と共同体秩序の形成
- 第 6 回 項目 国家主義・愛国主義・愛郷主義と人間 内容 ファシズム・イデオロギーへの取り込み
- 第 7 回 項目 戦後民主主義の変容と展望 内容 戦後民主主義は人間を解放したか
- 第 8 回 項目 自由・安全・平等の思想と観念のゆくへ 内容 動員・統制・管理の思想と観念との対抗
- 第 9 回 項目 高度経済成長と成長神話のなかで 内容 大国ナショナリズムの形成から私生活主義まで
- 第 10 回 項目 競争社会と差別社会の諸相 内容 競争と差別が生み出される戦後日本の意識
- 第 11 回 項目 学歴社会と階層社会の実態 内容 高度学歴社会化と階層社会化の帰結
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（1） 内容 政治と人間の対抗と融合をめぐって
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（2） 内容 政治と人間の対抗融合をめぐって
- 第 14 回 項目 全体の纏めと討論（1）
- 第 15 回 項目 全体の纏めと討論（2）
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回

- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

教科書・参考書 教科書：戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 2005 年 / 参考書：『侵略戦争』, 纈纈厚, 筑摩書房, 1999 年；有事体制論, 纈纈厚, インパクト出版会, 2004 年；現代の戦争, 纈纈厚他, 岩波書店, 2003 年；文民統制 自衛隊はどこに行くのか, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年；近代日本政軍関係の研究, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年；現代日本のリズムとストレス, 加藤哲郎, 花伝社, 1996 年

メッセージ 君は、政治の解体と創造への道程をどうつけるのか

連絡先・オフィスアワー E-mail koketu@yamaguti-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日 P M 1:00 - 2:30

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	亀井 伸孝				

授業の概要 本講義は「ろう者の文化人類学」をテーマとする。世界各地の手話が自然言語であること、ろう者が文化的集団を形成していることなどが知られるようになり、近年ではろう者を対象とした文化人類学的研究が本格的に取り組みられるようになった。この講義では、講師が1997年から行っている西・中部アフリカのろう者に関するフィールドワークを事例として、ろう者の文化人類学的研究の歴史、成果、調査方法、倫理、応用/実践、これからの課題などを広く学ぶ。/検索キーワード ろう者、文化人類学、言語人類学、アフリカ、フィールドワーク、歴史

授業の一般目標 「ろう者の文化人類学」という新しい研究領域について、具体的な事例に基づきながら、概論的な知識を身につけることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ろう者と手話言語について正しい知識を身につける 態度の観点： ろう者と手話言語に対する異文化理解の姿勢を養う 技能・表現の観点： 自分の意見を明快かつ簡潔に表現することができる

授業の計画(全体) 「はじめに」ろう者と手話言語の概説を行う。「方法と倫理」ろう者の文化人類学の方法と倫理について紹介する。「研究史」ろう者の文化人類学の研究史をまとめる。「実践編」アフリカにおけるろう者の文化人類学的フィールドワークの実例と成果を紹介する。「応用/実践」研究成果を教育や開発援助に対する提言へと活用する応用/実践人類学の側面を紹介する。以上の構成により、この領域の全体像を概観する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに (1) 内容 ろう者と手話言語
- 第 2 回 項目 はじめに (2) 内容 ろう教育の歴史
- 第 3 回 項目 ろう者の文化人類学：方法と倫理 (1) 内容 フィールドワークの方法
- 第 4 回 項目 ろう者の文化人類学：方法と倫理 (2) 内容 倫理と信頼関係
- 第 5 回 項目 ろう者の文化人類学：研究史 内容 30 年の研究史
- 第 6 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (1) 内容 アフリカ概論
- 第 7 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (2) 内容 アフリカの手話言語
- 第 8 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (3) 内容 アフリカの外来手話言語
- 第 9 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (4) 内容 アフリカのろう教育成立史
- 第 10 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (5) 内容 手話と手話言語集団の誕生
- 第 11 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (6) 内容 ろう者の歴史を学ぶ意義
- 第 12 回 項目 ろう者の文化人類学：応用/実践 (1) 内容 言語権と言語政策
- 第 13 回 項目 ろう者の文化人類学：応用/実践 (2) 内容 教育とエンパワーメント
- 第 14 回 項目 ろう者の文化人類学：応用/実践 (3) 内容 ろう者と人間開発
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 今後の展開と課題/討論

成績評価方法(総合) 講義終了時のレポートに、出席と授業内発表を加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：アフリカのろう者と手話の歴史：A・J・フォスターの「王国」を訪ねて、亀井伸孝、明石書店、2006年 / 参考書：手話でいこう：ろう者の言い分 聴者のホンネ、秋山なみ・亀井伸孝、ミネルヴァ書房、2004年

メッセージ 予備知識は問わない。

連絡先・オフィスアワー kamei@kwansei.ac.jp (亀井伸孝)

備考 集中授業

開設科目	コミュニティ論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 この授業では、コミュニティの概念を整理した上で、戦後日本社会（地域社会）の変動を概観しながら、コミュニティ論の展開とコミュニティ研究の変遷に焦点を合わせる。「コミュニティの理念と現実」が講義全体を貫くテーマである。／検索キーワード コミュニティ、アソシエーション、町内会・自治会、住民運動、コミュニティ行政、ボランティア・アソシエーション、パーソナル・ネットワーク、エスニシティ、市民活動

授業の一般目標 （１）コミュニティの概念を通して、戦後日本社会（地域社会）の変動と日本社会が抱える課題を理解する。（２）コミュニティ論およびコミュニティ研究の現代的意義について考える。

授業の計画（全体） 戦後日本社会（地域社会）の変動の中で、コミュニティ論およびコミュニティ研究がどのように展開され、いかなる現実的課題と向き合おうとしたのかという点を明らかにする。併せて、コミュニティ論の現代的意義に触れる。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 コミュニティの概念
- 第 3 回 項目 社会変動とコミュニティ
- 第 4 回 項目 社会変動とコミュニティ(続き)
- 第 5 回 項目 町内会・自治会とコミュニティ
- 第 6 回 項目 町内会・自治会とコミュニティ(続き)
- 第 7 回 項目 町内会・自治会とコミュニティ(続き)
- 第 8 回 項目 コミュニティ形成の理論
- 第 9 回 項目 コミュニティ行政の展開
- 第 10 回 項目 ボランティア・アソシエーションとコミュニティ
- 第 11 回 項目 ボランティア・アソシエーションとコミュニティ(続き)
- 第 12 回 項目 パーソナル・ネットワークとコミュニティ
- 第 13 回 項目 エスニシティとコミュニティ
- 第 14 回 項目 コミュニティ論の現在と将来
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 定期試験（論述式） 50％ 出席 40％ 小レポート・授業参加度 10％

教科書・参考書 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：コミュニティ論，倉沢進，放送大学教育振興会，1998 年；都市コミュニティの理論，奥田道大，東京大学出版会，1983 年；町内会と地域集団，倉沢進・秋元律郎ほか，ミネルヴァ書房，1990 年；インナーシティのコミュニティ形成，今野裕明，東信堂，2001 年；女性と協同組合の社会学，佐藤慶幸，文眞堂，1996 年；その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 現代社会の理論を学び、近代化、官僚制化、都市化がもたらす諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。

／検索キーワード 近代化、都市化、官僚制化、グローバル化、都市コミュニティ、企業組織

授業の一般目標 現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会の研究に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代社会の現状を判断する 関心・意欲の観点：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

授業の計画（全体） テキストや参考文献を分担して、レポートし、その研究課題について議論していく

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の概要

第 2 回 項目 課題報告 1

第 3 回 項目 課題報告 2

第 4 回 項目 課題報告 3

第 5 回 項目 課題報告 4

第 6 回 項目 課題報告 5

第 7 回 項目 課題報告 6

第 8 回 項目 研究テーマ中間 報告

第 9 回 項目 課題報告 7

第 10 回 項目 課題報告 8

第 11 回 項目 課題報告 9

第 12 回 項目 課題報告 1 0

第 13 回 項目 課題報告 1 1

第 14 回 項目 課題報告 1 2

第 15 回 項目 社会学研究の方法と現代社会の問題を考える する

成績評価方法（総合） 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書：適宜紹介する

メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読み、レポートし、研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。 / 検索キーワード 近代化、都市化、社会変動、現代社会 社会問題

授業の一般目標 現代社会と社会問題に関する文献を各自読み込み、理解し、各自の研究テーマを明確化する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代社会と社会問題に関する現状を判断する 関心・意欲の観点：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

授業の計画（全体） 参考文献についてレポートし、研究課題について議論していく

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 課題報告 1
- 第 3 回 項目 課題報告 2
- 第 4 回 項目 課題報告 3
- 第 5 回 項目 課題報告 4
- 第 6 回 項目 課題報告 5
- 第 7 回 項目 課題報告 6
- 第 8 回 項目 研究課題中間報告会
- 第 9 回 項目 課題報告 7
- 第 10 回 項目 課題報告 8
- 第 11 回 項目 課題報告 9
- 第 12 回 項目 課題報告 1 0
- 第 13 回 項目 課題報告 1 1
- 第 14 回 項目 課題報告 1 2
- 第 15 回 項目 現代社会と社会 変動を総括 する
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法（総合） 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書：適宜紹介する

メッセージ 小谷を指導教官とする4年生は必ず受講すること

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 現代日本の都市や農山村が抱える諸問題（その発生と拡大の構造）に光を当て、その現状を分析するとともに、地域再生への課題と展望を探っていく。地域社会学の研究成果をとりまとめた文献を読みながら、受講生による報告、討論によって授業を進めていく。並行して、4年生には各自の卒論テーマに基づく報告をしてもらい、他の受講生との間で質疑・応答を行う。／検索キーワード 都市、農村、地域社会、地域政策、地域ガバナンス、地域住民組織、市民活動、卒業論文

授業の一般目標（1）現代日本の地域社会が抱える諸問題（その発生と拡大の構造）を、地域社会学の視点から理解する。（2）現状分析を踏まえながら、地域再生への課題と展望について、思考を深める。（3）卒業論文のテーマを設定し、論文作成に必要な文献・データを収集する（4年生）

授業の計画（全体）以下のテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。併せて、時間があれば、地域社会における具体的な問題解決やまちづくりに取り組んでいるグループ・人々にお話を伺い、実践の現場から学ぶ機会をつくりたいと考えている。4年生には、各自の卒論のテーマに基づく研究成果を披露してもらう。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方について
- 第 2 回 項目 戦後日本の地域政策
- 第 3 回 項目 地域開発政策と農村の変容
- 第 4 回 項目 都市化と都市政策の展開
- 第 5 回 項目 子育て、教育をめぐる運動の展開
- 第 6 回 項目 福祉の地域化とボランティア・セクター
- 第 7 回 項目 地域経済とまちおこし
- 第 8 回 項目 災害とまちづくり
- 第 9 回 項目 外国人と多文化共生
- 第 10 回 項目 地域政策と地域ガバナンス
- 第 11 回 項目 地域住民組織と地域ガバナンス
- 第 12 回 項目 地域政策の策定の技法
- 第 13 回 項目 住民参画の技法
- 第 14 回 項目 ボランティアと市民活動団体
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法（総合）出席 40% 報告・授業参加度 40% 課題レポート（必須） 20%

教科書・参考書 教科書：地域社会の政策とガバナンス（地域社会学講座3），岩崎信彦、矢澤澄子ほか，東信堂，2006年／参考書：地域社会学の視座と方法（地域社会学講座1），似田貝香門ほか，東信堂，2006年；地域社会へのまなざし，大久保武・中西典子ほか，文化書房博文社，2006年；その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する

メッセージ 初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 グローバル化と新自由主義改革の進展とともに、1990 年代後半から、日本社会は「格差社会」へと変貌したという言説や分析が、学界・メディアを問わず、大きくクローズアップされてきている。この演習では、そうした「格差社会」のありように社会学的分析を加えた書物(テキスト)を読みながら、日本社会の今後のありようについて考えてみたい。受講生自身による報告と質疑、討論によって授業は進められていく。また、3 年生には、卒業論文作成に備えて、各自の研究テーマに沿った研究報告もしてもらおう。/ 検索キーワード 階級、階層、格差社会、ポスト工業社会、家族、フリーター、リスク、福祉国家、福祉社会

授業の一般目標 (1)「格差社会」と呼ばれる現代日本社会の構造、およびその背景をなすグローバル化や新自由主義改革といった社会変動の趨勢について、社会学の視点から分析し理解する。(2)現状分析を踏まえた上で、日本社会の将来のあり方について思考を深める。(3)各自の研究テーマを深め、卒業論文作成の準備を進める。

授業の計画(全体) 以下のいずれかのテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。併せて、3 年生には、来年度における卒業論文の作成を視野に入れて、各自の研究テーマに基づく報告をしてもらう予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 格差問題を考えるための問い
- 第 3 回 項目 格差に関わる社会問題
- 第 4 回 項目 格差の現代の特徴
- 第 5 回 項目 新たなタイプの格差の出現とその理由
- 第 6 回 項目 新たなタイプの格差の出現とその理由(続き)
- 第 7 回 項目 新たな平等社会を目指して
- 第 8 回 項目 仕事格差
- 第 9 回 項目 結婚格差
- 第 10 回 項目 家族格差
- 第 11 回 項目 教育格差
- 第 12 回 項目 リスク構造の転換
- 第 13 回 項目 各自の研究テーマにかかわる報告
- 第 14 回 項目 各自の研究テーマにかかわる報告
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法(総合) 出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート(必須) 20%

教科書・参考書 教科書: 新平等社会 「希望格差」を超えて, 山田昌弘, 文藝春秋, 2006 年; 階級社会 現代日本の格差を問う, 橋本健二, 講談社, 2006 年 / 参考書: 希望格差社会, 山田昌弘, 筑摩書房, 2004 年; 縦並び社会, 毎日新聞社会部, 毎日新聞社, 2006 年; 格差社会, 橋本俊詔, 岩波書店, 2006 年; 脱「格差社会」への戦略, 神野直彦・宮本太郎ほか, 岩波書店, 2006 年; 参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	社会学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。 / 検索キーワード 卒業論文、社会学

授業の一般目標 受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。

授業の計画(全体) 受講生には、卒業論文作成に必要な資料・データや文献を渉猟した上で、研究報告をしてもらう。報告に対して、受講生全員で質疑と討論を行い、卒業論文の構想と内容を肉付けしていく。また、報告と並行して、実際に卒業論文の執筆に入ってもらう。

成績評価方法(総合) 出席・報告 100%

教科書・参考書 教科書：教科書は特に使用しない。 / 参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 受講生の卒業論文提出のスケジュールに鑑みて、正規の演習は12月初旬で終了し、以降は各自の進度に応じた個別指導を実施する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	現代政治社会学演習(3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	瀧澤厚				

授業の概要 いま、日本社会はポスト冷戦の時代と言う名の「第二の戦後」を迎えている。1950年代以降の日本社会は、冷戦構造に規定されてきた特殊日本的な社会構造を特質としている。その社会構造のなかで現行憲法の平和主義に形骸化が公然と進められ、安保が憲法に優越する存在としてすら存在してきた。同時に、冷戦構造に後押しされた戦後日本の保守体制と保守思想は、日本社会をして「経済的繁栄」を結果させる一方で、種々の非人権的な諸相を様々な領域で露呈させる要因ともなった。唯一の「冷戦構造の受益者」としての日本人は、冷戦構造を背景として成立した軍事政権の権威主義的支配に苦しめられているアジア民衆との間に埋めがたい距離を創り上げてきた。その日本人も、戦後社会に冷戦構造を支えにもたらされた高度成長経済体制のなか、企業によって支配された日本国家に対置する自己を確立し得ないまま、依然として「市民」としての意識も行動力も持ち得ていない。本演習では、こうした問題意識を念頭に据えつつ、以下のようなテーマで出席者全員で報告と討論を重ねていきたいと思う。/ 検索キーワード 国家 社会 市民

授業の一般目標 出席者が現状分析において明確に自己の見解を表明できるようになること、相互のコミュニケーションに果敢に取り組むスタンスを身につけることを第一の目標としていきたい。そして、論旨が明快な文章執筆能力の向上に資するために新聞記事の解読など並行して進めていく。

授業の計画(全体) 3年次演習の成果として年度末には瀧澤ゼミ誌『現代政治社会学論集』への寄稿を義務づける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 戦後保守体制論
- 第2回 項目 保守イデオロギーと国家イデオロギー
- 第3回 項目 権威的支配構造と企業社会論
- 第4回 項目 日本株式会社論を超えて
- 第5回 項目 国家暴力装置の実態
- 第6回 項目 現代官僚制の問題点
- 第7回 項目 安保体制・安保構造・安保文化
- 第8回 項目 安保と憲法の強制的共存
- 第9回 項目 戦後国家論の展開
- 第10回 項目 閉塞する戦後日本社会
- 第11回 項目 日本人の国際認識
- 第12回 項目 現代マスコミの課題と展望
- 第13回 項目 マス・メディアとジャーナリズム
- 第14回 項目 情報社会と人権
- 第15回 項目 世論とマスコミ
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回

- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 報告内容と討論への参加態度

教科書・参考書 教科書：現代の戦争, 纈纈厚, 岩波書店, 2002 年；戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005 年；いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制, 纈纈厚, 凱風社, 2006 年 / 参考書：検証・新ガイドライン安保体制, 纈纈厚, インパクト出版会, 1998 年；周辺事態法, 纈纈厚, 社会評論社, 2000 年；現代政治の課題, 纈纈厚, 北樹出版, 2001 年；有事法制とは何か, 纈纈厚, インパクト出版会, 2002 年；有事法制の罨にだまされるな, 纈纈厚, 凱風社, 2002 年

メッセージ 徹底した議論と思考の向こうに見えるものは何か

連絡先・オフィスアワー E-mail koketu@yamaguchi-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日 PM 1:00 - 2:30

開設科目	現代政治社会学演習(3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	瀬藤厚				

授業の概要 前期での報告を踏まえて、年度末までに以下の日程で瀬藤ゼミ誌『現代政治社会科学論集』に寄稿する小論種の執筆に全力をあげる。従って、後期の報告内容は、小論文の区尾性内容を前提としたものとする。/ 検索キーワード 説得的かつ論理的な論述

授業の一般目標 10月より各自の報告を行う。12月8日(日米開戦日)までに草稿を完成させる。1月28日までに完全原稿を提出する。2月から編集作業を開始し、3月初旬に発行する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 自ら主体的に選択した課題対象にアクセスし、調査・精読などの作業を通して表現する技法を身につける。最終的には小論文(400字で30枚以上)を執筆し、瀬藤ゼミ機関誌『現代政治社会論』に掲載することを課す。 思考・判断の観点: 問題対象にアクセスする場合、借り物ではない自分の思考を徹底する習慣を身につける。 関心・意欲の観点: 常に社会問題全般に目配りし、そこに孕まれた課題や矛盾を切開しようとする動機付けを行う。

授業の計画(全体) 報告内容と小論集で評価する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 報告者のテーマ設定と報告の順番を決定する。

第2回 項目 出席者による報告と相互批判(以下同様)

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

メッセージ 書くことの喜びを共に分かち合おう

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 研究室 TEL.933-5278

開設科目	現代政治社会学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 演習参加者各自の問題意識がクリアに反映された課題を設定し、文献・資料を収集・精読する作業を通して卒業論文の作成を目標とする。 / 検索キーワード 主体的選択 独自の分析

授業の一般目標 社会学領域の論文の執筆活動を通して、将来逞しい「市民」として自立していくための機会とする。そこでは大いなる批判精神や説明能力の習得を求めたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 課題選択への前提条件として情報へのアクセスを果敢に行い、知識取得に取り組む姿勢の確保を第一とする。 思考・判断の観点： 主体的に選択した課題の分析を自らの言葉と方法で明らかにし、相互討論を通して自己評価できる能力を身につける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 報告者の順番を決定。
- 第 2 回 項目 以下、順次報告と討論を重ねていく。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

メッセージ 逞しい「市民」への第一歩を！

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	瀬藤厚				

授業の概要 説得的かつ「論理的な論文の執筆/検索キーワード 時代への批判精神をどう養うか

授業の一般目標 論文の作成と瀬藤ゼミ誌『現代政治社会論』の発行

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

第1回 項目 各自のテーマ設定と広告順の決定

第2回 項目 以下、報告

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

メッセージ 君は君自身を越えられるか

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会学演習(3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 今日の国内外の情報を、日本のメディアだけでなく、外国のメディアでどのように報道されているかについて考え、情報のあり方、文化や視点の違いによる物事の捉えかたの違いを考える。

授業の一般目標 現代社会の諸問題を様々な視点から考察した文章を読み解くなかで、各自が卒業論文のテーマとする課題を見つけてゆくこと

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：新聞・雑誌記事を読んで、内容を理解すること。思考・判断の観点：比較考察し、自分を相対化できるようになること。関心・意欲の観点：不明点を積極的に自分で調べること。態度の観点：授業に出席し、議論に積極的に参加すること。発表、提出物など、役割をきちんと果たすこと。技能・表現の観点：口頭発表と文章表現ができること。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 講義1
- 第3回 項目 発表1
- 第4回 項目 討論1
- 第5回 項目 講義2
- 第6回 項目 発表2
- 第7回 項目 討論2
- 第8回 項目 講義3
- 第9回 項目 発表3
- 第10回 項目 討論3
- 第11回 項目 講義4
- 第12回 項目 発表4
- 第13回 項目 討論4
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 予備

成績評価方法(総合) 出席、および授業への参加、ならびに最後のレポートを含めて総合的に判断する。

メッセージ 時事問題(国際問題)に関心をもってください。

開設科目	現代政治社会学演習(3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 3年生対象。卒論執筆のために論文の書き方を学ぶ。実際のテーマ選びと方法論の決定、目次作成などを通して、各自が自らの論の構成を披露し、参加者が質問するなどして詰めて行く。

授業の一般目標 卒業論文のたたき台になるようなレポート作成を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの論の背景となる一般的知識を獲得し、理解していること。

思考・判断の観点：論理的思考ができること。 関心・意欲の観点：問題意識が明確であること。

態度の観点：自らの研究だけでなく、他人の研究発表にも積極的に関与し、意見を述べること。 技能・

表現の観点：社会科学用語が使いこなせていて、かつ論理的文章表現ができること。

授業の計画(全体) 各自が自分のテーマに関する研究史、研究論文を発表し、自らの研究課題について報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告1
- 第2回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告2
- 第3回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告3
- 第4回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告4
- 第5回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告5
- 第6回 項目 各自の研究発表と討論1
- 第7回 項目 各自の研究発表と討論2
- 第8回 項目 各自の研究発表と討論3
- 第9回 項目 各自の研究発表と討論4
- 第10回 項目 各自の研究発表と討論5
- 第11回 項目 各自の研究発表と討論6
- 第12回 項目 各自の研究発表と討論7
- 第13回 項目 各自の研究発表と討論8
- 第14回 項目 各自の研究発表と討論9
- 第15回 項目 全体討論と今後の予定

成績評価方法(総合) 出席、授業への参加度、期末のレポートによる総合的評価。

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 4年生の卒論演習。

授業の一般目標 問題設定を明確にし、方法論とテーマの整合性を図る。

成績評価方法 (総合) 出席と卒論予備レポートの提出

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 4年生の卒論演習

授業の一般目標 論理がきちんと展開されていて、論文としての文章がきちんと書けていること

成績評価方法(総合) 出席

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学的社会調査の計画と実査をふまえ、各自で調査調査結果の分析ができるようにする。そのために調査方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。 / 検索キーワード 社会調査、統計的調査、事例調査、調査票作成、フィールド調査

授業の一般目標 問題意識を明確にし、社会調査の計画をし、事例に対する聞き取り調査、調査結果の分析をし、レポートを作成する。 アンケート調査のデータ処理の方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会調査の概要について理解する 思考・判断の観点：仮説の検証の方法の有効性を考える 関心・意欲の観点：社会現象を切り取る方法に関心を持つ 技能・表現の観点：社会調査の実践の技術を身につける

授業の計画(全体) 仮説を設定し、それにふさわしい社会調査の方法を決定し、調査の対象を設定し、社会調査を実践する。 調査結果の利用を考えながら、調査結果の集計、整理を行う

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会調査の設計 1 内容 問題の決定と調査方法の検討
- 第 2 回 項目 社会調査の対象 内容 具体的な調査対象の決定
- 第 3 回 項目 社会調査の方法 の 1 内容 先行研究を検討
- 第 4 回 項目 社会調査の方法 2 内容 先行研究の検討 から仮説を設定し調査方法を確定する
- 第 5 回 項目 社会調査の計画 1 内容 調査方法の検討
- 第 6 回 項目 社会調査の計画 2 内容 調査項目の検討
- 第 7 回 項目 社会調査の計画 3 内容 調査項目の作成
- 第 8 回 項目 社会調査の計画 4 内容 調査対象の決定
- 第 9 回 項目 社会調査の実施 1 内容 フィールド調査 の計画
- 第 10 回 項目 社会調査の実施 2 内容 フィールド調査 の実施
- 第 11 回 項目 社会調査の実施 3 内容 フィールド調査 の実施
- 第 12 回 項目 社会調査の実施 4 内容 フィールド調査 の総括
- 第 13 回 項目 調査結果の集約 1 内容 データ処理の方法を学ぶ
- 第 14 回 項目 調査結果の集約 2 内容 データ処理
- 第 15 回 項目 調査結果の集約 3 内容 調査結果のまとめ

成績評価方法(総合) 出席と、社会調査実習への参加、調査結果を取りまとめたレポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書：社会調査へのアプローチ：論理と方法 (Minerva text library ; 10), 大谷信介 [ほか] 編著, ミネルヴァ書房, 1999 年; 大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 1999 年

メッセージ 出席と実習への参加を義務とする

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 具体的な調査テーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。取り上げるテーマは、「環境問題と住民活動」、「災害と地域社会」、「市民活動と地域社会」、「まちづくりとコミュニティ再生」のいずれかを予定している。調査手法としては、主に聞き取り調査を採用する予定である（テーマについてはあくまで予定であり、変更する場合もありうる）。 / 検索キーワード 社会調査、質的調査、聞き取り調査、調査項目、調査票

授業の一般目標 社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。

授業の計画（全体） 社会調査の一連の過程を実践する。受講生各自で分担して調査データを分析し、調査報告書の形にまとめる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 調査テーマの設定と確認 / 調査スケジュールの検討
- 第 3 回 項目 調査テーマに関する資料収集、事前学習
- 第 4 回 項目 調査テーマに関する資料収集、調査方法の検討、調査倫理について
- 第 5 回 項目 調査項目の検討と抽出
- 第 6 回 項目 調査票の作成
- 第 7 回 項目 調査票の設計と再検討
- 第 8 回 項目 調査スケジュールの検討及びラポール、調査マナーの確認
- 第 9 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 10 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 11 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 12 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 13 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 14 回 項目 調査データの分析 / 報告書目次（案）と執筆分担の決定
- 第 15 回 項目 調査データの分析 / 報告書の執筆

成績評価方法（総合） 授業への参加度（調査のプロセス・作業への参加） 50 % 授業内での発表 20 % 調査レポート 30 %

教科書・参考書 教科書：テキストは特に使用しない。 / 参考書：社会学小辞典，浜嶋朗ほか，有斐閣，1997年；社会調査へのアプローチ（第2版），大谷信介ほか，ミネルヴァ書房，2005年；「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス，好井裕明，光文社，2006年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 調査実施期間中は、正規の授業時間以外にもある程度の時間を費やさなければならない。受講生には、あらかじめこの点を了解してほしい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会心理学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。 / 検索キーワード 社会心理学 コミュニケーション ケータイ

授業の一般目標 1) 社会心理学の基礎概念について学ぶ 2) 社会心理学の学説史を学ぶ 3) 社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4) 現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学入門
- 第 2 回 項目 社会心理学の誕生
- 第 3 回 項目 社会心理学の課題
- 第 4 回 項目 ケータイから学ぶということ
- 第 5 回 項目 メディア変容へのアプローチ
- 第 6 回 項目 都市空間とケータイ
- 第 7 回 項目 ケータイ・コミュニケーションの特性
- 第 8 回 項目 中間考察
- 第 9 回 項目 ケータイに映る「わたし」
- 第 10 回 項目 ケータイ利用から見えるジェンダー
- 第 11 回 項目 ケータイの流行学
- 第 12 回 項目 ケータイとうわさ
- 第 13 回 項目 モバイル社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 青少年とケータイ
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：ケータイ学入門, 岡田朋之・松田美佐編, 有斐閣, 2002 年

開設科目	社会心理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。 / 検索キーワード 調査設計、仮説構成、質問文、標本調査、調査技法

授業の一般目標 (1) 社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。(2) 社会調査を実施するまでの基本的知識、調査票の作成方法、サンプリング方法などの知識・技法を修得する

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学と調査 (1) 内容 社会心理学と社会調査、社会調査はなぜ必要か
- 第 2 回 項目 現代社会と社会調査 内容 現代社会における調査の位置、政策形成と調査
- 第 3 回 項目 社会調査が抱える諸問題 内容 社会調査の現状、情報開示、プライバシー保護
- 第 4 回 項目 調査のための資料の探索 内容 情報の探し方、研究するための情報の入手、情報ソース (図書館、大学、マスコミ、政府など) 統計の所在源、主要な官庁統計
- 第 5 回 項目 社会調査の基本 (1) 内容 何のための社会調査か、記述と説明、概念構成と概念操作、概念の働き、操作概念
- 第 6 回 項目 社会調査の基本 (2) 内容 変数とは、概念の変数化、従属変数、独立変数、媒介変数、問題意識と仮説
- 第 7 回 項目 尺度化とその種類 内容 測定の方法、尺度の種類、内的尺度と外的尺度、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度
- 第 8 回 項目 調査票の作り方 (1) 内容 調査の種類、質問紙調査票、質問文の作成、質問文の種類、ワーディングの問題、作成の注意事項
- 第 9 回 項目 調査票の作り方 (2) 内容 選択肢の作り方、自由回答、質問文の流れ、制限回答法の長所と短所
- 第 10 回 項目 調査票を作成する 内容 簡単な調査票の作成、ワークショップ形式で作成する。
- 第 11 回 項目 プレゼンテーション 内容 作成した調査票の発表と講評
- 第 12 回 項目 サンプリングの仕方 (1) 内容 サンプリングの歴史、全数調査と標本調査、調査対象の定義、サンプリングの種類、単純無作為抽出法
- 第 13 回 項目 サンプリングの仕方 (2) 内容 新しいサンプリング法、標本数の決め方、サンプリングの台帳の利用方法
- 第 14 回 項目 調査票調査とデータ化 内容 調査の流れ、調査法の種類とその長短、データ化の前に必要な作業
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 補足と全体のまとめ

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ：論理と方法, 大谷信介 [ほか] 編著, ミネルヴァ書房, 1999年; 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編『社会調査へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)1999年

メッセージ 社会心理学的な調査法の知識を学ぶことばかりでなく、主体的に自分で考える姿勢を身につけてください。

連絡先・オフィスアワー 人文学部辻研究室 (309 室)

開設科目	コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提とされていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケーション論の出発点について、検討を進めていく。/
検索キーワード コミュニケーション、メディア、公共圏

授業の一般目標 1. 古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する 3. 公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎をつくる 4. パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法を学ぶ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 授業外指示 メーリングリストの登録
- 第 2 回 項目 メディアの役割 内容 機械論的コミュニケーション論の限界 授業外指示 メーリングリストによる課題提出
- 第 3 回 項目 メディアとしての貨幣 内容 第1章 1, 2, 3
- 第 4 回 項目 現代社会におけるリスク 内容 第1章 4, 5
- 第 5 回 項目 パーソナル・メディア 内容 第2章 1, 2, 3
- 第 6 回 項目 マス・メディアと電子メディア
- 第 7 回 項目 第1中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第 8 回 項目 相互行為と間主観性 内容 第3章 1, 2
- 第 9 回 項目 コミュニケーションと合意 内容 第3章 3, 4, 5
- 第 10 回 項目 真理・規範・権力・影響力 内容 第3章 6, 7, 8
- 第 11 回 項目 第2中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第 12 回 項目 強制的権力と生成的権力 内容 第4章 1, 2
- 第 13 回 項目 「公共圏」の変容 内容 第4章 3, 4
- 第 14 回 項目 社会的コミュニケーションの構造 内容 第5章 1, 2
- 第 15 回 項目 原初的コミュニケーションによる自己組織化 内容 第5章 3, 4, 5

成績評価方法(総合) 授業外レポート40点と学期末試験60点の総合点によって評価する。

教科書・参考書 教科書: コミュニケーション・メディア, 正村俊之, 世界思想社, 2001年

開設科目	コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土場 学				

授業の概要 水が水素と酸素の結びつきでできているように、「社会」は人と人のあいだの「コミュニケーション」でできている。したがって、「社会」学とは、「コミュニケーション」学でもある。コミュニケーションを見ることによって、社会が見えてくる。本講義では、現代社会学のコミュニケーション理論を通じて、こうした社会 = コミュニケーションの見方を理解することを目的とする。

授業の一般目標 1. コミュニケーションという概念を手がかりにして社会を捉える視点を学ぶ。 2. 現代社会学のコミュニケーション理論を理解する。 3. コミュニケーション理論を土台にして現代社会を分析する方法を学ぶ。

授業の計画(全体) 全体として、三部構成をとる。第一部：社会とコミュニケーション(1～3)では、社会学が捉えるコミュニケーションとはなにかについて考察する。第二部：現代社会学におけるコミュニケーション(4～8)では、ユルゲン・ハーバーマスとニクラス・ルーマンのコミュニケーション理論を中心に、現代社会学のコミュニケーション理論について考察する。第三部：現代社会におけるコミュニケーション(9～15)では、ハーバーマスとハンナ・アーレントの公共圏論などを手がかりに、マクロ社会レベルにおけるコミュニケーション・ネットワークの現代的意味について考察する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに：社会 = コミュニケーション
- 第 2 回 項目 相互行為としてのコミュニケーション(1)
- 第 3 回 項目 相互行為としてのコミュニケーション(2)
- 第 4 回 項目 コミュニケーション的行為の理論(1)
- 第 5 回 項目 コミュニケーション的行為の理論(2)
- 第 6 回 項目 コミュニケーション・システムの理論(1)
- 第 7 回 項目 コミュニケーション・システムの理論(1)
- 第 8 回 項目 ミクロからマクロへ：システムと公共圏
- 第 9 回 項目 公共圏としてのコミュニケーション・ネットワーク
- 第 10 回 項目 民主主義における公共圏の役割
- 第 11 回 項目 市民的公共圏の形成と変容
- 第 12 回 項目 民主主義と討議倫理(1)
- 第 13 回 項目 民主主義と討議倫理(2)
- 第 14 回 項目 高度情報社会と新たな公共圏
- 第 15 回 項目 おわりに

成績評価方法(総合) 最終試験 60%、平常点(授業内レポート等) 40%

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。/ 参考書：現代思想の冒険者たち 27 ハーバーマス, 中岡成文, 講談社, 1996 年

備考 集中授業

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 私たち人間は、時間のなかで毎日の正確をおくっている。この指針には時計の時間が大きな働きをしている。しかし、時計の時間は、天文的な時間に基づいているわけであるが、それとは別に一年の中で決められた祝祭日、休日、日々の労働時間などさまざまな社会的な時間が存在し、この社会的時間のなかでわれわれ人間は生活している。この講義では、社会学において社会的時間の構成や作用などを研究してきた文献を通して時間の社会学の歴史を学び、さらに現在の社会において社会的時間をどのように利用していけばよいかを考えてみたい。/ 検索キーワード 社会的時間、リズム、スピード、生活時間、時間的規則性

授業の一般目標 1) 社会的時間の種類とその成り立ち、働きを理解する。2) デュルケームやマートンなど時間を社会学的研究してきた学者たちの時間社会学の理論と研究成果を学ぶ。3) 現在において社会的時間をどのように利用していけばよいかの考え方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な社会的時間の知識や時間の社会学の知識を学び、理解することができる。思考・判断の観点：社会的に存在する社会的時間現象などを自分自身で考え、それがもつ構造面と機能面を考え、どのような意義があるか判断できる。関心・意欲の観点：社会現象の中での社会的な出来事への関心をもつことができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義のねらい 内容 今回の授業の狙いと全体の流れを説明する
- 第 2 回 項目 現代社会と社会的時間 内容 現代社会の変化を時間という視点で捉え、時間学的課題を考える。
- 第 3 回 項目 デュルケームの時間の社会学(1) 内容 『宗教生活の原初形態』における社会的時間
- 第 4 回 項目 デュルケームの時間の社会学(2) 内容 デュルケームの社会学の中で時間の視点の位置を考える
- 第 5 回 項目 ソローキンの時間の社会学(1) 内容 ソローキンにとって時間とは何であったか。彼の社会学の中で考える。
- 第 6 回 項目 ソローキンの時間の社会学(2) 内容 移動論と社会的時間論
- 第 7 回 項目 アルヴァックスの時間の社会学 内容 集合的記憶とは何か
- 第 8 回 項目 ギュルヴィッチの時間の社会学 内容 多面的な社会的時間の存在
- 第 9 回 項目 マートンの時間の社会学 内容 社会的に期待される持続性とは何か、マートンにとって時間とは何か。
- 第 10 回 項目 ムーアの時間の社会学 内容 社会生活の時間と時間整序
- 第 11 回 項目 ゼルバベルの時間の社会学 内容 時間的規則性、かくれたリズム
- 第 12 回 項目 エリアスの時間の社会学 内容 時間決定と時間体験
- 第 13 回 項目 蔵内数太の時間の社会学 内容 前集団、現集団、後集団
- 第 14 回 項目 時間の社会学の課題
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の全体的なまとめ

教科書・参考書 参考書：自殺論(中公文庫)、デュルケーム著；宮島喬訳、中央公論社、1985年；社会学論と社会構造、ロバート.K. マートン [著]；森東吾 [ほか] 訳、みすず書房、1961年；宗教生活の原初形態、デュルケーム、岩波書店、1975年

メッセージ 参考書は最低1冊は、該当箇所を読んでおくこと。

連絡先・オフィスアワー 辻研究室(309室)

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 現代の社会は、グローバル化や情報化等の進行により、産業社会構造そのものが大きく変化して、人間の時間意識の変化を余儀なくされている。現代社会は、社会的時間レベルで見ると、車やパソコンのモデルチェンジにみられるように、生産と消費のスピードがますます加速化しており、人間はそれに適応しなければならないが、実際にはそのなかでますますストレスを背負い、その結果いろいろな病理現象を生みつつある。その一方現代社会は、成熟社会や高齢社会になるにつれ、青年期や高齢期の時間帯が長期化して、青年の中には大人になることを「延長化」し、高齢者は平均寿命の伸びによって高齢期の「延長化」を迎えて、いままで経験しなかったを抱えている。この講義では、現代社会が抱える問題を「時間社会学」のレベルから迫り、今後、時間の視点から現代社会が直面する問題、人間の時間意識の問題について今後どのような方向づけが必要かを考えてみたい。/ 検索キーワード 時間意識、社会的時間、社会的速度、タイミング、持続性、時間政策

授業の一般目標 (1) 現代社会の変化を時間学のレベルから研究する視点を学ぶ。(2) 青年期と高齢期の対照的な時間帯に共通する時間の長期化を通して現代人が直面する問題が何なのかを学ぶ。(3) 時間して視点からの時間政策の方策について考える姿勢を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会の時間学的見方に関する知識を学び、時間学のアプローチについて理解することができる。思考・判断の観点：自ら進んで社会的時間や現代社会における時間的思考や判断が出来ること。関心・意欲の観点：生活の中で社会的時間に関心を持ち、その現象的理解とともに問題点を意欲的に取り組むことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の狙い 内容 今期の授業の狙いを概説する
- 第 2 回 項目 現代社会の時間論的課題 内容 情報化、高齢化、グローバル化、社会的時間の変化と課題
- 第 3 回 項目 時間意識の近代化 内容 機械時計の登場と「時は金なり」
- 第 4 回 項目 現代社会と時間意識 内容 バーチャルの時間感覚
- 第 5 回 項目 若者の時間感覚 内容 モラトリアムの長期化：フリーター、ニート問題と時間
- 第 6 回 項目 高齢者の時間感覚 内容 生涯現役と長寿化の課題
- 第 7 回 項目 東アジアの時間と時間感覚 内容 直線的時間と円環的時間、文化的時間の問題
- 第 8 回 項目 生活時間の変化 内容 生活時間調査の分析
- 第 9 回 項目 労働時間の変化 内容 ワークライフバランスを求めて
- 第 10 回 項目 社会的時間とタイミング 内容 時機とは何か
- 第 11 回 項目 社会的速度と時間意識 内容 スピードとストレス
- 第 12 回 項目 社会的持続性と時間 内容 人間にとって持続性とは何か
- 第 13 回 項目 時間とコミュニティ 内容 時間によるコミュニティの安定
- 第 14 回 項目 時間政策の課題 内容 新たな政策課題としての時間政策
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

教科書・参考書 参考書：辻 正二『高齢者ラベリングの社会学』恒星社厚生閣 2000年 総務庁編『高齢社会白書』平成18年版

メッセージ 授業は、資料を使って進行しますが、参考書は最低2冊以上は読むようにしてください。

連絡先・オフィスアワー 辻研究室（309室）

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。 / 検索キーワード マートン、アノミー、ラベリング、構築主義

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

教科書・参考書 教科書：アウトサイダーズ, ベッカー, 新泉社, 1993年; 社会理論と社会構造, マートン,

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。3年生は自分の問題意識の研究領域を発見し、それを深めていくことが課題になります。4年生は卒論の最後の仕上げの研究発表となります。3年生は4年生の卒論研究の問題関心や完成に向けてのプロセスを知ることができますし、4年生は3年生の研究への関与をすることによって自分の研究への広がりをもつことができます。

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 日本人の性行動や性意識に関する経験的研究を収集し、分析する。日本において、性意識や性行動に関する経験的研究は、これまで十分に展開されてきたとはいいがたい。調査の実施やその結果発表が新たな性情報をもたらす危険性が懸念されるため調査が行われなかったり、行われた場合にも、＜性行動の低年齢化＞や＜性行動の活発化＞、＜性の商品化の進展＞などを問題視するステレオタイプの議論が展開されてきた。性行動を抑制すべきだとする立場の者も、性をロマンティック・ラブや自己決定の問題と結びつけて考える立場の者も、これらの認識を共有してきたように思われる。しかし、国際比較や時代比較を行うと、そうした認識が必ずしも適切ではないことがわかる。この授業では、そうしたイデオロギー対立をくぐり抜けて、新たな経験的知見を見だし、分析していくことの重要性を学ぶ。 / 検索キーワード 性、セクシュアリティ、近代社会、計量的分析

授業の一般目標 1. 経験的研究をめぐる方法論的問題について把握する。 2. マクロデータの分析技法について学ぶ。 3. 性をめぐる政治的・道徳的争点を経験的知見から捉え返す。 4. 近代社会における性やセクシュアリティの機能とその変化を考察する。

授業の計画(全体) 毎週4年生の卒論発表1名、3年生による教科書の報告2名(1章分)をもとに、全員で議論を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 授業方法 年間予定 発表・報告方法 討論方法 等々
- 第2回 項目 ガイダンス 内容 辞書 文献検索 テキストの概要
- 第3回 項目 性行動全国調査 内容 第1章
- 第4回 項目 性行動の低年齢化? 内容 第2章
- 第5回 項目 性と学校集団 内容 第3章
- 第6回 項目 性情報とメディア 内容 第4章
- 第7回 項目 性教育の現状 内容 第5章
- 第8回 項目 性被害とセクシュアリティ 内容 第6章
- 第9回 項目 各人発表
- 第10回 項目 卒論構想発表会 1 内容 卒論構想発表
- 第11回 項目 各人発表
- 第12回 項目 各人発表
- 第13回 項目 各人発表
- 第14回 項目 各人発表
- 第15回 項目 各人発表

教科書・参考書 教科書: 「若者の性」白書, 日本性教育協会, 小学館, 2001年

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 3年生は卒論の執筆準備のための先行研究レビューを行う。4年生は資料、データの処理、分析、執筆報告を行う。 / 検索キーワード 卒論

授業の一般目標 卒業論文を作成するための基本的ノウハウを学ぶ

授業の計画(全体) 毎週4年生1名、3年生2名の報告を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業計画、卒論 執筆計画について
- 第 2 回 項目 先行研究および 卒論経過報告 内容 発表と討議
- 第 3 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 4 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 5 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 6 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 7 回 項目 中間報告会
- 第 8 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 9 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 10 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 11 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 12 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 13 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 14 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 15 回 項目 最終報告会

開設科目	社会心理学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 社会心理学調査実習は、既に学んできた社会調査法の知識と技法を生かして、具体的にフィールドワークなどの実習経験の中で社会調査を学ぶことを主たる狙いとする。 / 検索キーワード フィールドワーク、質的調査と量的調査、質問紙法、サンプリング、抽出法

授業の一般目標 (1) 社会調査のための基礎的な知識を身につけ、問題意識、仮説、調査地の選定、調査票の作成等をおこなう。(2) 調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験し、調査研究の体得を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の狙いと今後の予定のガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ体験(何を調べるかを探す)
- 第 3 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 4 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 5 回 項目 問題意識から仮説構成へ
- 第 6 回 項目 調査票の作成(1)
- 第 7 回 項目 調査票の作成(2)
- 第 8 回 項目 調査票の作成(3)
- 第 9 回 項目 調査地の選定
- 第 10 回 項目 サンプリング及び対象者の選定
- 第 11 回 項目 調査の準備
- 第 12 回 項目 調査の実施1
- 第 13 回 項目 調査の実施2
- 第 14 回 項目 調査の実施3
- 第 15 回 項目 調査の実施4

開設科目	社会心理学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 量的な社会調査を念頭に、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程を一通り体験的に学習することで、学生が自ら調査を企画し、実施していく能力とその際に必要な倫理観とを養う。とくにこの後期の授業においては、具体的なデータの入力から加工、集計・分析、報告のプロセスに学習の重点を置くことで、有意義な調査企画・調査票作成が可能になるようにフィードバックしていく学習を目指す。 / 検索キーワード 青少年、道徳意識、類縁化作用

授業の一般目標 1 . 実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2 . 調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3 . 社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。

授業の計画(全体) 授業はいくつかのグループごとに分かれて、毎週、発表・議論する形で進めていく。また統計ソフト SPSS やエクセルの基本的操作についても学ぶ。具体的な授業内容としては、(1) 量的調査全体の流れ、(2) 先行研究の検討、(3) 調査倫理・マナーの学習、(4) 調査データの加工と処理、(5) クロス集計、(6) エラボレーション、(7) 多変量解析、(8) プレゼンテーションの技法、(9) 報告書の作成方法などを含む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調査の全体像と実習スケジュールの確認
- 第 2 回 項目 調査倫理と先行研究の検討
- 第 3 回 項目 先行研究の検討とエクセル活用
- 第 4 回 項目 先行研究の検討とエクセル活用
- 第 5 回 項目 SPSS によるデータ加工と基礎集計
- 第 6 回 項目 SPSS によるデータ加工と基礎集計
- 第 7 回 項目 クロス集計とエラボレーション
- 第 8 回 項目 クロス集計とエラボレーション
- 第 9 回 項目 SPSS による重回帰分析
- 第 10 回 項目 SPSS による重回帰分析
- 第 11 回 項目 SPSS による因子分析
- 第 12 回 項目 SPSS によるパス解析
- 第 13 回 項目 各人の担当箇所 についての報告 書作成
- 第 14 回 項目 報告書の各班ご との担当部分の 編集、完成
- 第 15 回 項目 報告書編集全体 調整

成績評価方法(総合) 授業参加・プレゼン 40 点と期末レポート 60 点の総合点によって評価する。

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 1999 年

開設科目	社会調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。/ 検索キーワード 測定水準 クロス集計 相関係数

授業の一般目標 1. 官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2. 度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3. 調査データに対する、社会学者としての倫理観、責任感を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：相関係数と回帰分析の論理と手順を理解する。 思考・判断の観点：エラボレーションによって関連性を検討することができる。 関心・意欲の観点：常識的な因果関係を疑うとともに、新しい因果関係を構想し、積極的にテストする。 態度の観点：社会調査によるデータ収集や処理・分析に対する倫理観を養う。

授業の計画(全体) 社会調査におけるデータの特性や問題について学んだ上で、記述から説明へと分析技法を学んでいく。その際、計算や出力の意味を理解できるように、できるだけ電卓計算で行う課題を課す。偏回帰係数や部分相関係数を用いたエラボレーションの能力を身につけ、多変量解析へと進む学習の基礎を作るのが本講義の到達点である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調査はどのように行われるか 授業外指示 テキスト学習課題 1
- 第 2 回 項目 調査データをどう分析するか 授業外指示 テキスト学習課題 2
- 第 3 回 項目 度数分布表を作成する 授業外指示 テキスト学習課題 3
- 第 4 回 項目 度数分布を記述する 授業外指示 テキスト学習課題 4
- 第 5 回 項目 クロス表を作成する 授業外指示 テキスト学習課題 5
- 第 6 回 項目 クロス表を分析する：カイ二乗検定 授業外指示 テキスト学習課題 6
- 第 7 回 項目 2 の平均の差を検定する (1)：正規分布 授業外指示 テキスト学習課題 7
- 第 8 回 項目 2 の平均の差を検定する (2)：t 検定 授業外指示 テキスト学習課題 8
- 第 9 回 項目 複数の平均の差を検定する：分散分析 授業外指示 テキスト学習課題 9
- 第 10 回 項目 2 つの連続変数間関係を推定する (1)：回帰分析の基礎 授業外指示 テキスト学習課題 10
- 第 11 回 項目 2 つの連続変数間関係を推定する (2)：回帰分析の応用 授業外指示 テキスト学習課題 11
- 第 12 回 項目 離散変数間の連関を測定する：相関係数 授業外指示 テキスト学習課題 12
- 第 13 回 項目 多重クロス表を分析する (1)：エラボレーション 授業外指示 テキスト学習課題 13
- 第 14 回 項目 多重クロス表を分析する (2)：エラボレーション 授業外指示 テキスト学習課題 14
- 第 15 回 項目 講義のまとめ：調査報告書・論文の読み方～社会調査の哲学と調査データの読み書きをめぐる倫理 授業外指示 テスト勉強

成績評価方法(総合) 毎週の課題 40 点と期末試験 60 点の総合点による評価。

教科書・参考書 教科書：社会統計学, 片瀬一男他, 放送大学教育振興会, 2007 年 / 参考書：社会統計学, ボーンシュテット & ノーキ, ハーベスト社, 1990 年; 「社会調査」のウソ, 谷岡一郎, 文藝春秋, 2000 年
メッセージ ルートとメモリー機能のついた電卓を用意すること(関数電卓である必要はない)。数学が苦手でも、四則演算さえできれば、この授業はマスターできます。

開設科目	質的調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会調査のうち、質的調査 (qualitative survey) によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法 (分析方法) などについて、社会学における先行研究の事例を参照しながら、学習していく。特に、調査実習や卒業論文の作成などにおいて最も利用価値が大きいと考えられる聞き取り調査の方法について、技術的な諸点も含め、詳しく講義する。 / 検索キーワード 社会調査、質的調査、事例調査、生活史記録、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析

授業の一般目標 社会調査における質的調査の特徴やデータ収集・解析の方法について、基本的な知識を身につける。

授業の計画 (全体) 質的調査の特徴、技法を概観していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン - 授業の目的・内容と進め方について -
- 第 2 回 項目 1 質的調査とは何か 内容 社会調査における質的調査の位置づけ、質的調査の利用法、質的データの素材
- 第 3 回 項目 1 質的調査とは何か (続き) 内容 質的調査の技法、質的調査のメリットと留意点、調査倫理について
- 第 4 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 内容 聞き取り調査の技法と手順
- 第 5 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 1 : 災害調査の事例から
- 第 6 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 7 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 8 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 9 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 2 : 生活史データの収集と分析
- 第 10 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 11 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 12 回 項目 3 参与観察の方法
- 第 13 回 項目 3 参与観察の方法 (続き) 4 ドキュメント分析の方法
- 第 14 回 項目 4 ドキュメント分析の方法 (続き)
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 授業への出席および参加度 40 % 定期試験 30 % 授業内小レポート及び課題レポート 30 %

教科書・参考書 教科書 : 社会調査へのアプローチ (第 2 版), 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 2005 年 / 参考書 : ライフヒストリーを学ぶ人のために, 谷富夫編, 世界思想社, 1996 年 ; 「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス, 好井裕明, 光文社, 2006 年 ; その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	比較社会文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティーや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的 政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。 / 検索キーワード ひとつの言語、言語の呼称、言語共同体、国家語、母語、母国語

授業の一般目標 日本社会に生きていると、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。 思考・判断の観点：ヨーロッパ近代言語学の成立の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える 関心・意欲の観点：自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする 態度の観点：出席と質問（授業の最後に質問票を配布する）

授業の計画（全体） 基本的に教科書に添って進む。まずことばについて<われわれ>が語ってきたこと、をそれぞれの言語的経験に即して議論し、次に言語的近代の成り立ちを考え、それから、言語的近代を超える営みとしての、手話、文学言語、<国際語>について考える予定である。なお、内容が多岐にわたっているため、第三章を扱えるかどうかは、授業の進行状況に依拠する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「母語」「ネイティブ」という概念について
- 第 2 回 項目 <やさしい言語> <むずかしい> 言語とはどういうことか
- 第 3 回 項目 ことばが<通じる> <通じない> とはどういうことか？
- 第 4 回 項目 ことばが<できる> <できない> とはどういうことか？
- 第 5 回 項目 ことばの乱れとことばの変化はどうちがうのか？
- 第 6 回 項目 言語の呼称
- 第 7 回 項目 言語的近代の成り立ちと日本
- 第 8 回 項目 南アジアの多言語状況と言語的近代の受容過程
- 第 9 回 項目 ロシア語を話すユダヤ人は、ロシア人か？ユダヤ人か？
- 第 10 回 項目 言語は土地に根ざすのか？それともヒトに根ざすのか？
- 第 11 回 項目 近代言語学が言語とみなしてこなかった言語：手話とろう者について
- 第 12 回 項目 母語以外の言語で執筆する作家たち
- 第 13 回 項目 <国際語> 概念の解体と<国際語>の内実
- 第 14 回 項目 ヨーロッパの多言語状況の動向
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：言語的近代を超えて～<多言語状況>を生きるために～、山本真弓編著、明石書店、2004年

開設科目	比較社会文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 「一枚の分布地図と一枚の写真から」と題して、日本各地の民俗事象を毎回1つずつ取り上げ、これを示した分布地図と写真(映像)を手がかりに、その意味を読み取る。この内容を毎回繰り返すことで、日本の民俗文化の多様性を発見し、これまでとは違う日本像を描けるようになる。/ 検索キーワード 民俗学 分布地図 民俗地図

授業の一般目標 1.日本の社会・文化のありようを全国的見地から具体的な事象を例にしてとらえる。2.日本社会の基盤的な形成のされ方について考え、理解をする。

授業の計画(全体) 1.民俗学的見地から、日本の社会・文化の基盤的性格を理解する。2.分布地図と写真(映像)を用いて、日本の社会・文化のありようを全国的視野で把握する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨と進め方の説明
- 第2回 項目 民俗地図 内容 「民俗地図」の歴史と効果について
- 第3回 項目 分布地図を読む(1) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第4回 項目 分布地図を読む(2) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第5回 項目 分布地図を読む(3) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第6回 項目 分布地図を読む(4) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第7回 項目 分布地図を読む(5) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第8回 項目 分布地図を読む(6) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第9回 項目 分布地図を読む(7) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第10回 項目 分布地図を読む(8) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第11回 項目 分布地図を読む(9) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第12回 項目 分布地図を読む(10) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第13回 項目 日本社会の見方(1) 内容 民俗学的手法から日本を考察する
- 第14回 項目 日本社会の見方(2) 内容 日本の社会や文化を知るための比較法を考える
- 第15回 項目 試験

成績評価方法(総合) 1.毎回の授業に対する簡単なコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います。2.欠席は欠格条項(全体の75%以上の出席がないと期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届出により認めます。)

教科書・参考書 教科書:今年度は教科書は用いない。必要に応じてプリントを配付する。/参考書:授業中に随時紹介します。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部棟2階210号室。いつでも随時訪ねてください

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 政教分離、市民、民族、民主主義、人権、自由、平等などの概念の由来とその現代的意味を
考えることによって、「アジア」という地域と概念を検討する。 / 検索キーワード 政教分離、近代国家、
市民、民主主義、宗教法、自由、平等、友愛、マイノリティー

授業の一般目標 (1) 自らの社会を相対化すること、(2) 現代という時代(今日の状況)を歴史のなかに置
いて考えること、(3) 国際的視野にたつて、現代社会の課題を見つけること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業内容をきちんと理解できているか。歴史(近現代史)の基本
的知識を身に付けているか。 思考・判断の観点： 自分の問題として、自分の身近なところから世界的
視野にまで広げて問題を捉えることができているか。 関心・意欲の観点： 近現代の諸問題を自ら発見
し、取り組もうとすること。 態度の観点： 出席の有無と質問。

授業の計画(全体) 最初に、高校までの教科書的歴史(近現代史)がどのようなものかを問い、そこで
は(十分に)扱われなかった地域・人々の問題を、宗教とキーワードに見ていく。

成績評価方法(総合) 出席を兼ねて、毎回、授業の終わりの約20～30分を使って、小レポートを提出
してもらう。これらの小レポートと試験を総合して評価する。

メッセージ 「異なる他者」や「他(異)文化」に関心がある学生はぜひ受講してください。

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 「アジア」という概念について考察し、「アジア」とは何か、を考えるために、アジアのなかの多様性、非アジアとの比較などを通じて、わたしたちのなかの「アジア」を解体し、再構築していく。

授業の一般目標 (1) 従来の「アジア」観を疑い、「アジア」について根本的に考え直すこと。(2) そのために、非アジア(たとえば、ヨーロッパ。たとえば、アフリカ)などにも同時に興味をもつこと。(3) 「アジア」内部の多様性(たとえば、イスラーム世界、たとえばヒンドゥー世界)を認識すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 自らの(あるいは、日本社会全般に蔓延する)諸「外国」諸「地域」への偏見にとらわれずに、授業内容を理解できているか。 思考・判断の観点: 自らが生きる世界(日本社会と日本がその一部をなす西欧近代の価値を絶対とする世界観)と関連づけて講義内容を捉えることができるか。 関心・意欲の観点: わからないところを積極的に自分で調べるなどして、意欲的に取り組んでいるか。

成績評価方法 (総合) 毎回、授業時間中に小レポートを課し、それらと期末試験を総合して評価する。

メッセージ アジア比較社会論の前期の講義を履修していることが望ましい

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、「現代民俗学は可能か」と題して、宮田登著『怖さはどこからくるのか』を用い、現代社会（とくに都市社会）のありようを民俗を手がかりにして読み取ることにします。／検索キーワード 民俗学 現代民俗 怪異 民俗的心性

授業の一般目標 1．現代民俗とは、どのように定義されるものか、理解する。 2．民俗から現代社会を理解する方法について、考える。 3．民俗または民俗学から見れば、現代社会はどのような社会と捉えられるか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．民俗の性格や民俗学の一般的な内容について知る。 思考・判断の観点： 1．民俗を通じて現代社会のありようを考える。 態度の観点： 1．授業によく出席して、必要な課題に応える。

授業の計画（全体） 「現代民俗学は可能か」と題して、（1）民俗学の形成過程と民俗学の方法 （2）都市社会の捉え方とその性格、（3）「シロ（白）」の民俗と民俗的再生観、（4）終末観と現代社会、に区分して、進める。各週の具体的な内容は、初回の授業時に示す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨（問題設定）と授業方法についての説明 明
- 第 2 回 項目 民俗学の形成過程と民俗学の方法 （1） 内容 具体的内容は第1回授業時に提示する。（以下同様）
- 第 3 回 項目 民俗学の形成過程と民俗学の方法 （2）
- 第 4 回 項目 民俗学の形成過程と民俗学の方法 （3）
- 第 5 回 項目 都市社会の捉え方とその性格（1）
- 第 6 回 項目 都市社会の捉え方とその性格（2）
- 第 7 回 項目 都市社会の捉え方とその性格（3）
- 第 8 回 項目 「シロ」の民俗と民俗的再生観（1）
- 第 9 回 項目 「シロ」の民俗と民俗的再生観（2）
- 第 10 回 項目 「シロ」の民俗と民俗的再生観（3）
- 第 11 回 項目 終末観と現代社会（1）
- 第 12 回 項目 終末観と現代社会（2）
- 第 13 回 項目 終末観と現代社会（3）
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

成績評価方法（総合） 1．授業内容へのコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います。 2．欠席は欠格条項（全体の75%以上の出席がないと期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。）

教科書・参考書 教科書： 怖さはどこからくるのか、宮田登、筑摩書房（ちくまプリマーブックス）、1991年； 必要に応じてプリント資料を配布する。 / 参考書： 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210号室 いつでも随時訪ねてください

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、「民俗から見た女性」と題して、野本寛一著『民俗誌・女の一生』を用い、かつての日本の村落社会における女性の位置づけや働きぶり、役割などを学び、そこから現代社会における女性をめぐる諸問題、女と男の関係などを考察するための手がかりを得ます。/ 検索キーワード 民俗 民俗学 女性

授業の一般目標 1. 女性に関する民俗の具体的事実を広く知る。 2. 民俗から見た女性像はどのように捉えられるのか、理解する。 3. 民俗または民俗学から見れば、現代社会における女性の位置づけや役割をめぐる課題はどのように抽出できるのか、考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗の性格や民俗学の一般的な内容について知る。 思考・判断の観点: 1. 民俗を通じて現代社会のありようを考える。 態度の観点: 1. 授業によく出席して、必要な課題に応える。

授業の計画(全体) 「民俗から見た女性」と題して、(1)具体的に女性をめぐる民俗の数々を知る、(2)民俗を手がかりにして女性の社会的文化的な位置づけを考える、の2つに内容を大きく区分して進める。(1)と(2)の内容は、同一時間の中でできるだけ同時に扱うことにするが、(1)が優先する。(1)の具体的内容は、テキストに準じて、(1)成女まで、(2)婚姻と嫁入り、(3)「嫁」の位置づけと役割、(4)女性の働き、(5)老女の役割、(6)女性の力、の6つに区分する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法についての説明 明
- 第 2 回 項目 成女まで(1) 内容 具体的内容は第1回授業時に提示する。(以下同様)
- 第 3 回 項目 成女まで(2)
- 第 4 回 項目 婚姻と嫁入り(1)
- 第 5 回 項目 婚姻と嫁入り(2)
- 第 6 回 項目 「嫁」の位置づけと役割(1)
- 第 7 回 項目 「嫁」の位置づけと役割(2)
- 第 8 回 項目 女性の働き(1)
- 第 9 回 項目 女性の働き(2)
- 第 10 回 項目 老女の役割(1)
- 第 11 回 項目 老女の役割(2)
- 第 12 回 項目 女性の力(1)
- 第 13 回 項目 女性の力(2)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 1. 授業内容へのコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います。 2. 欠席は欠格条項(全体の75%以上の出席がないと期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。)

教科書・参考書 教科書: 民俗誌・女の一生, 野本寛一, 文芸春秋(文春新書), 2006年; その他、必要に応じてプリント資料を配布する。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟2階210号室 いつでも随時訪ねてください

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては「住まい」を取りあげる。／検索キーワード 文化人類学、住居、集落、間取り、家族形態、自然環境

授業の一般目標 人類が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 技術文化の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 人類の住文化について講義をします。住まいは人間にとって巢であり、また社会との接点でもあります。世界の諸民族の住まいを紹介しながら、自然環境の選択と適応、家族形態と間取り、表象としての外観の視点から考察を行います。後半は日本の近世以後の庶民住宅を同様の視点から考察します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人類の住まい研究のアウトライン
- 第 2 回 項目 シェルターとしての住まい
- 第 3 回 項目 自然環境への選択と適応
- 第 4 回 項目 生業形態と住まい
- 第 5 回 項目 家族形態と住まい
- 第 6 回 項目 表象としての住まい
- 第 7 回 項目 まとめ
- 第 8 回 項目 日本の近世以降の住まい
- 第 9 回 項目 分棟型、集中型二つの住まい方
- 第 10 回 項目 アイヌ民族の住まい
- 第 11 回 項目 東日本の住まい
- 第 12 回 項目 西日本の住まい
- 第 13 回 項目 南西諸島の住まい
- 第 14 回 項目 環境と住まい
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。出席が 70 % に満たない場合は評価の対象になりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。 / 参考書：その都度紹介します。

メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。

連絡先・オフィスアワー Email： hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 、研究室 213 オフィスアワー木曜日 12：00～14：00

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては生活学・考現学の理論と方法を取りあげる。/ 検索キーワード 文化人類学、今和次郎、民俗学、民家、生活学、考現学

授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。ものを通して現代社会を分析するための目標と方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 考現学、生活学を創始した、今和次郎について取りあげながら、その理論と研究方法を学びます。今和次郎は早稲田大学建築学の教授でしたが、民俗学の草創期に柳田国男に学び、また民族学の考えにも深く傾倒し、住まいを文化的に研究した人です。研究方法としてフィールドワークを大切にし、民家調査とともに、都市の風俗調査も行い、その方法は変化の激しい都市文化の分析に使われています。今和次郎は何を目指していたのでしょうか。それを遠い目標にして話を進めます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生活学・考現学のアウトライン
- 第 2 回 項目 今和次郎の年譜 1
- 第 3 回 項目 今和次郎の年譜 2
- 第 4 回 項目 民俗学、地理学との交流 1
- 第 5 回 項目 民俗学、地理学との交流 2
- 第 6 回 項目 震災復興バラック建築考
- 第 7 回 項目 考現学調査 1 授業外指示 宿題として考現学調査を行う
- 第 8 回 項目 考現学調査 2 授業外指示 宿題として考現学調査を行う
- 第 9 回 項目 まとめ 内容 宿題のまとめ
- 第 10 回 項目 生活改善調査 1
- 第 11 回 項目 生活改善調査 2
- 第 12 回 項目 生活学の提唱 1
- 第 13 回 項目 生活学の提唱 2
- 第 14 回 項目 今の基層文化研究の成果
- 第 15 回 項目 今の都市表層文化研究の成果

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。出席率が 70 % 以下の場合は評価対象となりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。 / 参考書：新訂生活文化論, 中村たかを・植田啓司・坪郷英彦, 源流社, 1997 年

メッセージ 映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。考現学を体験してみましょう。日常に対する眼が開かれます。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213、オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	文化人類学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。文化人類学の基本的文献を講読していきます。今回はネイティブアメリカンの住まいについてとりあげます。 / 検索キーワード ひとともの 住居 モーガン ネイティブアメリカン 古代社会 イロクォイ族 家族制度

授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ひとともの基本的関係について説明できる。 思考・判断の観点： 文化相対主義の立場に立った、異文化理解と判断ができる。 関心・意欲の観点： 人々の日常を客観的な目で観察し、記録し、分からない原理は文献によって考える。この連関を繰り返す姿勢が身に付く。 態度の観点： 自らの考えを簡潔にまとめ、発表することができる。他の人との議論の中で 自分の意見をまとめることができる。 技能・表現の観点： 講読した内容を的確に要約し、人に伝えるための効果的なプレゼンテーションができる。自分の考えをまとめ人に伝えることができる。

授業の計画(全体) 「アメリカ先住民の住まい」L.H. モーガン著 古代社会研究会訳 岩波文庫 をテキストとして輪読を進めていきます。モーガンはアメリカ合衆国の文化人類学者で「古代社会」の著書が知られています。この本は人類の社会制度について書かれたもので、その理論は現在では修正が必要ですが、その続編として書かれた「アメリカ先住民の住まい」は社会と住まいの関わりを考える上で重要な本です。学生中心に授業を進めていきます。

成績評価方法(総合) 出席を重視します。輪読の発表ではコンピュータによる分かりやすい表示方法を義務づけます。

教科書・参考書 教科書： アメリカ先住民の住まい, L.H. モーガン, 岩波文庫, 1990 年; 対象図書は各自購入のこと / 参考書： 適宜紹介します。また、関連資料を配付します。

メッセージ 各自の発表はプレゼンテーションソフトを用い、コンピュータを使用して行います。

連絡先・オフィスアワー E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	文化人類学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではもの とひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。 / 検索キーワード 文化人類学 文化的ひと ひとともの 物質文化

授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについて基本的内容、用語の説明ができる。

思考・判断の観点：各自が設定したテーマについて、自分の問題として理解し、次の行動を起こすことができる。 関心・意欲の観点：自ら積極的に関連文献を探して読むことができる。 態度の観点：自分の考えをまとめて発表できる。議論の中で自分の考えを組み立てていくことができる。 技能・表現の観点：効果的な発表手法の基本を理解する。

授業の計画（全体） 前半は物質文化に関する代表的論文を取り上げ輪読していきます。後半は各自の卒論に関連する文献を読み発表し、テーマを絞っていく時間に充てます。

成績評価方法（総合） 出席と授業への積極的態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：講読資料はコピーを作成し配布します。 / 参考書：講読論文に関連する文献、卒論に関連する文献は適宜アドバイスします。

メッセージ 卒論へ向けて自分の関心がまとまっていくことを期待します。プレゼンテーションはコンピュータを用いて行います。

連絡先・オフィスアワー E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10:00~12:00

開設科目	文化人類学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 ゼミ所属の4年生に対して卒業論文作成に向けて研究の基本的な方法、文献の読み方などを一人一人の進め方に沿いながらアドバイスしていきます。

授業の一般目標 はっきりした卒業論文のテーマ設定、研究の手順設定を学生一人一人が行うこと。

授業の計画(全体) 学生各自がテーマ設定のために文献を選び、内容を報告し、ディスカッションをするというプロセスを繰り返します。

成績評価方法(総合) 出席点と授業への積極的な参加態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：特に設けません。 / 参考書：各自の問題意識に沿って教員が紹介します。

メッセージ 卒論のための授業ですから、学生各自が主体的に行動してください。

開設科目	文化人類学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 ゼミ所属の4年生に対して卒業論文作成に向けて研究の基本的な方法、文献の読み方などを一人一人の進め方に沿いながらアドバイスしていきます。

授業の一般目標 はっきりした卒業論文のテーマ設定、研究の手順設定を学生一人一人が行うこと。

授業の計画(全体) 学生各自がテーマ設定のために文献を選び、内容を報告し、ディスカッションをするというプロセスを繰り返します。

成績評価方法(総合) 出席点と授業への積極的な参加態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：特に設けません。/ 参考書：各自の問題意識に沿って教員が紹介します。

メッセージ 卒論のための授業ですから、学生各自が主体的に行動してください。

連絡先・オフィスアワー hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。テキストの各章について担当者の発表を軸にして読み合い、その内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来ること。授業内容は前期と引き続く内容であり、できれば前期後期ともに受講するのが望ましい。

授業の一般目標 1. 民俗学の扱う領域・課題を知る。 2. 民俗学の新古典とも称すべき文献を読むことで、民俗学の思考法を理解する。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗学の基本的概念や対象について理解する。 思考・判断の観点: 1. 民俗学的思考法に即したレポートを作成する。 関心・意欲の観点: 1. 発表の準備を入念に行い、積極的に発表を行う。 態度の観点: 1. 他者の発表をよく聞く。 2. 他者の発表に対して積極的に発言をする。 技能・表現の観点: 1. 分かりやすいレジユメを用意する。 2. 構成や文章表現の整ったレポートを作成する。

授業の計画(全体) 1. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。 2. レジユメを用意して発表を行う。 3. 発表内容に対して教員が解説やコメントをするとともに受講生全体で意見等を述べ合う。 4. 学習や討論を経て、各自が適宜なテーマを設定し、レポートを作成する。

成績評価方法(総合) 次の観点到留意して、授業への取組姿勢、発表内容、レポートの内容を総合的に評価する。 1. 出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。

教科書・参考書 教科書: 異人論, 小松和彦, 筑摩書房(学芸文庫), 1995年 / 参考書: 授業中に適宜紹介する

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguti-u.ac.jp

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。テキストの各章について担当者の発表を軸にして読み合い、その内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来ること。授業内容は前期と引き続く内容であり、できれば前期後期ともに受講するのが望ましい。

授業の一般目標 1. 民俗学の扱う領域・課題を知る。 2. 民俗学の新古典とも称すべき文献を読むことで、民俗学の思考法を理解する。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗学の基本的概念や対象について理解する。 思考・判断の観点: 1. 民俗学的思考法に即したレポートを作成する。 関心・意欲の観点: 1. 発表の準備を入念に行い、積極的に発表を行う。 態度の観点: 1. 他者の発表をよく聞く。 2. 他者の発表に対して積極的に発言をする。 技能・表現の観点: 1. 分かりやすいレジユメを用意する。 2. 構成や文章表現の整ったレポートを作成する。

授業の計画(全体) 1. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。 2. レジユメを用意して発表を行う。 3. 発表内容に対して教員が解説やコメントをするとともに受講生全体で意見等を述べ合う。 4. 学習や討論を経て、各自が適宜なテーマを設定しレポートを作成する。

成績評価方法(総合) 次の観点到留意して、授業への取組姿勢、発表内容、レポートの内容を総合的に評価する。 1. 出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。

教科書・参考書 教科書: 異人論, 小松和彦, 筑摩書房(ちくま学芸文庫), 1995年 / 参考書: 授業中に適宜紹介する

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民俗学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 卒業論文を作成するための指導を行う。

授業の一般目標 卒業論文の課題を設定し、課題解明のための調査研究を積極的に進め、その成果を発表する。

授業の計画(全体) 受講生各自が卒業論文の課題を設定し、課題に関する調査研究を進め、その成果を発表し、討議して研究の内容を深める。

成績評価方法(総合) 課題を明確に設定し、課題解明のための調査研究に積極的に取り組んだか、授業での取組姿勢と発表内容により評価する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民俗学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 卒業論文作成のための指導を行う。

授業の一般目標 前期の授業で設定した卒業論文の課題について、調査研究を深めて、卒業論文にまとめる。

授業の計画(全体) 課題に関する自分の調査研究成果を発表し、発表内容について、全員で討議し、卒業論文を構成していく。

成績評価方法(総合) 課題に即した調査研究を進め、独自の論点を提示できるか、授業への取組姿勢と発表内容により評価する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗調査を実施するためのテーマと調査項目を用意するとともに、聞き書きや写真撮影法、地図の見方読み方、民具の作図法など、民俗資料を収集する技法を習得することを目的にします。先行文献を参考にして、調査対象地域を決めるとともに、調査対象に関する予備知識を蓄積します。そのうえで、自らの関心に基づき、調査テーマを決定し、調査項目等の作成を進めて、夏季休暇中に3泊4日程度の現地調査を実施します。/ 検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

授業の一般目標 1. 民俗調査の実施に関する一連の手順を理解する。 2. フィールドワークを実施するために必要な調査項目票等を作成する。 3. フィールドワークを実施するために必要な技能を学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗調査の手順を理解する。 思考・判断の観点: 1. 民俗調査で得られるデータの質について考察する。 関心・意欲の観点: 1. 知りたいと思うテーマを明確に設定する。 2. テーマに接近するための方法をよく考え、準備する。 態度の観点: 1. 調査実施計画の立案に積極的に参加する。 2. 自らの興味を調査の場へ発展させる。 技能・表現の観点: 1. 聞きたいこと知りたいことを明確に整理し、分かりやすく発表できる。

授業の計画(全体) 1. 山口県内の民俗誌・民俗調査報告書を読んで、山口県内の民俗の存在状況を把握する。 2. 関心の持てるおおよそのテーマを各自で検討する。 3. 各自の関心を持つテーマに関する調査上のポイントを整理して発表し、受講生全体の共通知識とする。 4. 各自のテーマに即した調査項目や聞き書きに用いる質問項目、必要に応じてアンケート用紙などの作成を行う。 5. フィールド・ノート の作成法、写真の撮影法、地図の読み方・利用のしかたを解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業担当者による説明 内容 民俗調査実習のねらいとスケジュールの説明
- 第 2 回 項目 調査対象地域の設定(1) 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を紹介する。
- 第 3 回 項目 調査対象地域の設定(2) 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を整理して発表する。授業外指示 民俗調査報告書を読んでまとめる。探しておく。
- 第 4 回 項目 調査対象地域の設定(3) 内容 各自の発表を踏まえつつ意見交換をして対象地域を決定する。授業外指示 対象地域を検討しておく。
- 第 5 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(1) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 6 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(2) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 7 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(3) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考え、決定する。授業外指示 決まらない場合は、第8回までに決める。
- 第 8 回 項目 調査項目の作成 内容 各自のテーマに応じた調査項目を作成する。授業外指示 完成しない場合は、第9回までに完成させる。
- 第 9 回 項目 質問文案・調査票の作成(1) 内容 各自のテーマ・調査項目に即して必要になる質問文案・調査票を作成する。授業外指示 進捗状況に応じて、第10回に完成するように作業を行なう。
- 第 10 回 項目 質問文案・調査票の作成(2) 内容 質問文案・調査票を全体で検討し、修正等を行い完成させる。授業外指示 完成しない場合は、第11回までに完成させる。
- 第 11 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(1) 内容 フィールドノートの役割・活用法・作成要領、調査データの整理法を説明する。
- 第 12 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(2) 内容 写真撮影法と整理法を解説し、実習する。
- 第 13 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(3) 内容 地図の利用法・略測図の作成法、民具の作図法などを説明し、実習する。

第 14 回 項目 調査項目票の完成 内容 調査項目票を完成させるとともに、調査で実際に試みる方法と調査結果報告の構成（目次）案をまとめる。授業外指示 調査項目票を完成させる。

第 15 回 項目 調査方法と調査結果報告構成案の発表 内容 作成した調査項目票に基づき、実際に試みる調査方法と調査結果報告の構成案（目次案）を各自が順次発表し、全員で検討のうえ実地調査の準備を整える。授業外指示 調査方法と調査結果報告構成案の準備をしておく。

成績評価方法（総合） 1．調査のための準備に積極的に取り組んだか。 2．各作業が確実に実行できたか。

教科書・参考書 教科書：とくに用いない。適宜，必要な資料をプリントして配布する。 / 参考書：新版 民俗調査ハンドブック, 上野和男 他編, 吉川弘文館, 1987 年；適宜紹介する。

メッセージ 好奇心を形にする授業です。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 210 号室 いつでも随時訪ねてください

開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞き書き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的に行います。 / 検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

授業の一般目標 1, 文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2, 集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3, 自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4, 報告書としてまとめるための編集技術を習得します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: デジタル化、データの集約、表現方法、編集技術に関する基本的方法を説明できる。報告書作りのための作業全体の手順、関連性を把握する。 思考・判断の観点: 多量のデータの内容を判断し体系的分類ができる。 関心・意欲の観点: 自らテーマを設定し、明らかになったことを報告文としてまとめる。全体をまとめることで一地域総体の民俗理解に寄与できる。 態度の観点: 表現し、まとめるために積極的な授業参加となる。 技能・表現の観点: コンピュータによるデジタル処理ができる。個別的なデータをまとめテーマに沿った文章表現ができる。文章、図、表の表現手段を的確に選択し、表現ができる。

授業の計画(全体) 夏休み期間中に行う調査で得たデータをまとめ、報告書にまとめるまでを行います。授業は大きく(1)データの共有化、(2)報告文の作成とデータの図表化、(3)報告書作りのための編集作業の3つに分かれます。(1)では聞き取りデータのカード化からエクセルへの入力までを学びます。(2)では文章表現方法とデータを図又は表の形でまとめ表現する方法を学びます。(3)ではコンピュータの編集ソフトを使い、データの入力とレイアウトの方法について学びます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 民俗調査実習の目標とスケジュールの説明 内容 スケジュール表に沿った説明 授業外指示 コンピュータ等 授業外学習のための機器の確認
- 第 2 回 項目 フィールドデータの処理 内容 調査データのカード化とグルーピングの方法、エクセルへの入力及び検索方法を理解し作業を行う。 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 3 回 項目 データ処理のためのコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 テキスト・画像データを扱うソフトの操作を行う。 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 4 回 項目 プレゼンテーション技法の理解 内容 経過発表に使うプレゼンテーションソフトの操作 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 5 回 項目 報告内容の企画 内容 個別データの集約化と、これを活用して各自の報告内容の企画を立てる
- 第 6 回 項目 報告テーマとその要旨の発表(1) 内容 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備
- 第 7 回 項目 報告文テーマとその要旨の発表(2) 内容 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。
- 第 8 回 項目 報告文作成のための補足調査の実施 内容 報告文テーマとその要旨の発表で指摘された疑問点を解決するための現地調査を行う。 授業外指示 事前に各自の調査計画を立て、インフォマントへの事前確認を行う。
- 第 9 回 項目 補足調査データのまとめ 内容 補足調査の結果報告と情報交換を行う。 授業外指示 調査データのエクセルへの追加入力を行う。

- 第 10 回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(1) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第 11 回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(2) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第 12 回 項目 報告書編集のためのフォーマット作成 内容 個別に編集ソフトへの入力を行うためのレイアウト等のフォーマットを作成する。授業外指示 報告文の作成
- 第 13 回 項目 画像処理・編集・作図作表用のコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 画像・図表のデジタルデータを作成する。編集用ソフトへの画像・図表の入力を行う。授業外指示 報告文の作成
- 第 14 回 項目 報告書個別編集 内容 各自の報告文を編集する。授業外指示 各自の報告文を完成させる。
- 第 15 回 項目 報告書編集全体調整 内容 基本フォーマットを確認し、調整を行う。目次に沿って表題、ページ入力を行う。

成績評価方法(総合) 様々なレベルの手法を学ぶ授業なので出席を重視します。また、各自の報告文を作成するために2回の中間報告を義務づけて、表現力を評価します。また、グループ作業なので積極的な参加態度を重視します。

教科書・参考書 参考書：各自がまとめる報告分野にそって適宜指示する。

メッセージ 授業ではコンピュータを多用します。各自のパソコンを持ってきてください。所持していない人はコースから借りることができます。ワード、エクセルなどに慣れておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

人文社会学科 博物文化論コース

開設科目	芸術論概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 「西欧美術史学」の歴史について概説します。日本の美術史学も西欧美術史学の発展とともに多様に展開してきました。地球時代に日本の大学で美術史を学ぶことの意義を、受講生の皆さんとともに考えてみたいと思います。 / 検索キーワード 様式史、イコノロジー、芸術心理学、芸術社会学、フェミニズム、ポストコロニアリズム

授業の一般目標 1 . 西欧美術史学の知的遺産の基本部分を学ぶ。 2 . 西欧美術史学を相対化して捉える視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西欧美術史学で使用される専門用語のいくつかについて説明ができる。 思考・判断の観点：西欧美術史学の古典的な著作を読むにあたり、今日的で批評的な視点で読解し、有用性と問題点をそれぞれ指摘することができる。 関心・意欲の観点：自ら美術作品の鑑賞体験と幅広い読書体験とを養うことに努める。

授業の計画（全体）美術史について全般的な見取り図を得るため、最初、西洋美術の流れ、日本近現代美術の流れ、をそれぞれ概括したのち、講義の後半で西欧美術史学の歴史をたどる、という手順で講義を進めます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 西洋美術史（一）内容 古代・中世
- 第 3 回 項目 西洋美術史（二）内容 ルネサンス
- 第 4 回 項目 西洋美術史（三）内容 近現代
- 第 5 回 項目 日本近現代美術史（一）内容 戦前
- 第 6 回 項目 日本近現代美術史（二）内容 戦後
- 第 7 回 項目 西欧美術史学の歴史（一）内容 列伝史
- 第 8 回 項目 西欧美術史学の歴史（二）内容 様式史
- 第 9 回 項目 西欧美術史学の歴史（三）内容 イコノロジー
- 第 10 回 項目 西欧美術史学の歴史（四）内容 芸術心理学
- 第 11 回 項目 西欧美術史学の歴史（五）内容 芸術社会学
- 第 12 回 項目 西欧美術史学の歴史（六）内容 新しい美術史
- 第 13 回 項目 西欧美術史学とポストコロニアリズム
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法（総合）期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。ウェブサイト（<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>）から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書：西洋美術史ハンドブック、高階秀爾ほか編、新書館、1997年；カラー版西洋美術史、高階秀爾監修、美術出版社、1990年；美術史学の歴史、ウッド・クルターマン、中央公論美術出版、1996年；美の思索家たち、高階秀爾、青土社、1993年；美術史を語る言葉 22 の理論と実践、ロバート・S・ネルソンほか編、ブリュッケ、2002年

メッセージ 美術展を見るのが楽しくなります。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津 聖				

授業の概要 芸術について考察するための資料の収集と蓄積の具体的な方法を探求。主として英文と日文の資料を講読。本年度は、実習や講読に近い形で講義を進める予定。受講生は何らかの形で講義に参画することが要請される。 / 検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学、美術史

授業の一般目標 論文制作の準備段階としての資料の収集と蓄積を実践するためのノウハウを身につけること。

授業の到達目標 / 態度の観点： 授業への主体的参加 技能・表現の観点： プレゼンテーションとレポート

授業の計画（全体） 美学・美術史の基礎文献の収集と講読

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。 Web 上の美学関連資料の紹介。活用。
- 第 2 回 項目 美術史とは何か 1 内容 簡単な美術史の歴史の解説 1
- 第 3 回 項目 美術史とは何か 2 内容 簡単な美術史の歴史の解説 2
- 第 4 回 項目 美術史とは何か 3 内容 簡単な美術史の歴史の解説 3
- 第 5 回 項目 資料の収集方法 1 内容 Web の利用法 1
- 第 6 回 項目 資料の収集方法 2 内容 Web の利用法 2
- 第 7 回 項目 資料の収集方法 3 内容 図書館の活用法 1
- 第 8 回 項目 資料の収集方法 4 内容 図書館の活用法 2
- 第 9 回 項目 資料の収集方法 5 内容 その他
- 第 10 回 項目 蓄積の方法 内容 コンピューターの利用
- 第 11 回 項目 実践的に講読 1 内容 内容は未定
- 第 12 回 項目 実践的に講読 2 内容 内容は未定
- 第 13 回 項目 実践的に講読 3 内容 内容は未定
- 第 14 回 項目 実践的に講読 4 内容 内容は未定
- 第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

成績評価方法（総合） プレゼンテーションとレポート提出

教科書・参考書 教科書：教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。 / 参考書：参考文献は、講義中に提示する。

メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。ホームページに掲載。

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津 聖				

授業の概要 芸術について考察するための資料の収集と蓄積の具体的な方法を探求。主として英文と日文の資料を講読。本年度は、実習や講読に近い形で講義を進める予定。受講生は何らかの形で講義に参画することが要請される。 / 検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学、美術史

授業の一般目標 論文制作の準備段階としての資料の収集と蓄積を実践するためのノウハウを身につけること。

授業の到達目標 / 態度の観点： 授業への主体的参加 技能・表現の観点： プレゼンテーションとレポート

授業の計画（全体） 美学・美術史の基礎文献の収集と講読

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修 方法等の説明。 Web 上の美学関連資料の紹介。 活用。
- 第 2 回 項目 美学とは何か 1 内容 簡単な美学の歴史の解説 1
- 第 3 回 項目 美学とは何か 2 内容 簡単な美学の歴史の解説 2
- 第 4 回 項目 美術史とは何か 1 内容 簡単な美術史の歴史の解説 1
- 第 5 回 項目 美術史とは何か 2 内容 簡単な美術史の歴史の解説 2
- 第 6 回 項目 資料の収集と蓄積 1 内容 その方法論 1
- 第 7 回 項目 資料の収集と蓄積 2 内容 その方法論 2
- 第 8 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 1 内容 内容未定
- 第 9 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 2 内容 内容未定
- 第 10 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 3 内容 内容未定
- 第 11 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 4 内容 内容未定
- 第 12 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 5 内容 内容未定
- 第 13 回 項目 解釈とは何か 1 内容 解釈学の解説 1
- 第 14 回 項目 解釈とは何か 2 内容 解釈学の解説 2
- 第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

成績評価方法（総合） プレゼンテーションとレポート提出

教科書・参考書 教科書： 教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。 / 参考書： 参考文献は、講義中に提示する。

メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に 1990 年代以降の地球規模化をめぐる今後の課題について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で考察します。 / 検索キーワード 国際美術展、現代美術、グローバル化、ビエンナーレ

授業の一般目標 (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 地球時代の現代美術に対する問題意識をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。 **思考・判断の観点:** 国際美術展の地球規模化について肯定的な側面と課題とを指摘できる。 **関心・意欲の観点:** 自ら国際美術展を見に出かける。あるいは、インターネット上の関連サイト、新聞、雑誌で国際美術展に関する情報を収集する。

授業の計画 (全体) 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観し、中盤は毎回 1 つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行います。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展における地球規模化の問題について紹介します。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国際美術展の歴史 (一) 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 3 回 項目 国際美術展の歴史 (二) 内容 日本参加の経緯
- 第 4 回 項目 国際美術展の歴史 (三) 内容 日本の開催事例
- 第 5 回 項目 事例研究 (一) 内容 シンガポール・ビエンナーレ
- 第 6 回 項目 事例研究 (二) 内容 サンパウロ・ビエンナーレ
- 第 7 回 項目 事例研究 (三) 内容 ドクメンタ
- 第 8 回 項目 事例研究 (四) 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 9 回 項目 中間まとめ 内容 二〇〇七年開催の国際美術展
- 第 10 回 項目 地球規模化する国際美術展 (一) 内容 開催数の増加
- 第 11 回 項目 地球規模化する国際美術展 (二) 内容 地球規模化を主題とする現代美術
- 第 12 回 項目 地球規模化する国際美術展 (三) 内容 展覧会企画者の役割
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書: 教科書の指定はありません。ウェブサイト (<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>) から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書: ヴェネツィアと日本: 美術をめぐる交流, 石井元章著, "ブリュッケ, 星雲社 (発売)", 1999 年; 『12 人の挑戦 大観から日比野まで』, 茨城新聞社, 2002 年; ヴェネツィア・ビエンナーレ 日本参加の 40 年, 国際交流基金ほか, 1995 年; アートマネージメント, 伊東正伸ほか, 武蔵野美術大学出版局, 2003 年; アートが知りたい, 岡部あおみ編, 武蔵野美術大学出版局, 2005 年; 記録集 横浜会議 2004 「なぜ、国際展か?」, BankART1929, 2005 年

メッセージ 特殊講義ですので、普通講義よりも専門的な内容になります。国際美術展は講師が専攻している研究課題です。最新の知見をご紹介しますが、その反面講義中に出てくる言葉は耳慣れないものが多くなるでしょう。今年度は、2006 年に調査したシンガポールやサンパウロ、2007 年夏開催のカッセル (ドイツ) やヴェネツィアの国際美術展を紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 に
て水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 この講義では、2007 年度に開催される展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。 / 検索キーワード 展覧会企画、学芸員、現代美術、近代美術、近代以前の美術、日本美術、欧米美術、アジア美術、非欧米圏の美術

授業の一般目標 (1) 幅広い分野の作品に親しむ。(2) 各展覧会の企画趣旨について理解する。(3) 美術展や美術館の制度と背景について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。(2) 企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。 思考・判断の観点：展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。 関心・意欲の観点：(1) 県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会は見に行く。(2) 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪ねる。

授業の計画(全体) 企画趣旨についての解説や作品画像の上映によって、毎週1つずつ展覧会を紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 展覧会紹介 1
- 第 3 回 項目 展覧会紹介 2
- 第 4 回 項目 展覧会紹介 3
- 第 5 回 項目 展覧会紹介 4
- 第 6 回 項目 展覧会紹介 5
- 第 7 回 項目 展覧会紹介 6
- 第 8 回 項目 展覧会紹介 7
- 第 9 回 項目 展覧会紹介 8
- 第 10 回 項目 展覧会紹介 9
- 第 11 回 項目 展覧会紹介 10
- 第 12 回 項目 展覧会紹介 11
- 第 13 回 項目 展覧会紹介 12
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。ウェブサイト(<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>)から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書：五感で恋する名画鑑賞術, 西岡文彦, 講談社, 2003 年; なぜ、これがアートなの?, アメリア・アレナス, 淡交社, 1998 年; なにも見ていない, ダニエル・アラス, 白水社, 2002 年; 現代美術館学, 並木誠士ほか編, 昭和堂, 1998 年; 増補版 美の裏方, 朝日新聞マリオン編集部編, ペリかん社, 1993 年

メッセージ 美術展を見るのが楽しくなります。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	今道 友信				

授業の概要 美学のうち芸術哲学に属する重要問題を主として現代芸術を中心に行う。 / 検索キーワード
美学、芸術哲学、解釈、再現、表現、昇現、超越、想像力、理念、創造

授業の一般目標 目に見えないもの、感覚することのできないものが目に見えるもの、感覚することのできるものを支配するという学問上の神秘を論理的に理解する知性を養成する。人間として最も大切なことは、自己の生命を何らかの形の創造に生かすことであり、そのための責任ある倫理的決意により、世界美化を実現する実践美学を学ぶこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 内容 芸術哲学の方法
- 第 2 回 項目 芸術とは何か 内容 芸術の文化的意義を中心にその定義を考える
- 第 3 回 項目 美的経験 内容 美的経験の構造、作品との対話
- 第 4 回 項目 美の位相 内容 志向性の差による美の種別
- 第 5 回 項目 現代社会と芸術 内容 テクノロジーの支配する現代社会における芸術の意義
- 第 6 回 項目 解釈 内容 解説や分析と異なる interpretation としての解釈
- 第 7 回 項目 プラトン < BR > アリストテレス 内容 西洋古典美学
- 第 8 回 項目 孔子 内容 東洋古典美学
- 第 9 回 項目 理念 内容 現代芸術論 1
- 第 10 回 項目 リクール < BR > パレイゾン 内容 現代芸術論 2
- 第 11 回 項目 昇現 内容 現代芸術論 3
- 第 12 回 項目 超越 内容 美への恍游
- 第 13 回 項目 想像力 内容 自己超越の秘儀
- 第 14 回 項目 創造 内容 ただ一人なる汝
- 第 15 回 項目 実践美学 内容 現代美学の使命

教科書・参考書 教科書：美について、今道友信、講談社、1973 年 / 参考書：美の存立と生成、今道友信、ピナケス学術叢書、2006 年

連絡先・オフィスアワー 03-3237-0136 (Fax)

備考 集中授業

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津 聖				

授業の概要 学生の発表と討論 卒論作成のための準備訓練と資料集積 / 検索キーワード 卒論、プレゼンテーション

授業の一般目標 卒論を書けるようにする プレゼンテーションの技術を身につける

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：自ら問題を立てて解決する能力の養成 技能・表現の観点：レポート作成、論文作成能力の錬磨 プレゼンテーションの方法

授業の計画（全体） コロキウム形式であり、問題は個別にわたるので前もってのシラバス作成はできない。参加学生の個別指導となる。

成績評価方法（総合） 演習中のプレゼンテーション レポート

教科書・参考書 参考書：その都度指示する

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津 聖				

授業の概要 学生の発表と討論 卒論作成のための準備訓練と資料集積 / 検索キーワード 卒論、プレゼンテーション

授業の一般目標 卒論を書けるようにする プレゼンテーションの技術を身につける

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：自ら問題を立てて解決する能力の養成 技能・表現の観点：レポート作成、論文作成能力の錬磨 プレゼンテーションの方法

授業の計画（全体） コロキウム形式であり、問題は個別にわたるので前もってのシラバス作成はできない。参加学生の個別指導となる。

成績評価方法（総合） 演習中のプレゼンテーション レポート

教科書・参考書 参考書：その都度指示する

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。 / 検索キーワード 研究発表、討議

授業の一般目標 (1) 自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。(2) 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。 思考・判断の観点：他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。 関心・意欲の観点：自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。

授業の計画(全体) 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週2人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 研究発表 6
- 第 8 回 項目 研究発表 7
- 第 9 回 項目 研究発表 8
- 第 10 回 項目 研究発表 9
- 第 11 回 項目 研究発表 10
- 第 12 回 項目 研究発表 11
- 第 13 回 項目 研究発表 12
- 第 14 回 項目 研究発表 13
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 研究発表、他の発表者への質問・意見、討議への参加、期末レポートなどにより総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。 / 参考書：各自の研究テーマに応じて紹介・指示します。

メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。 / 検索キーワード 研究発表、討議

授業の一般目標 (1) 自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。(2) 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。 思考・判断の観点：他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。 関心・意欲の観点：自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。

授業の計画(全体) 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 研究発表 6
- 第 8 回 項目 研究発表 7
- 第 9 回 項目 研究発表 8
- 第 10 回 項目 研究発表 9
- 第 11 回 項目 研究発表 10
- 第 12 回 項目 研究発表 11
- 第 13 回 項目 研究発表 12
- 第 14 回 項目 研究発表 13
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 研究発表、他の発表者への質問・意見、討議への参加、期末レポートなどにより総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。 / 参考書：各自の研究テーマに応じて紹介・指示します。

メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津聖				

授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得 / 検索キーワード プレゼンテーション

授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津聖				

授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得 / 検索キーワード プレゼンテーション

授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 美学・美術史研究室の学生を対象としています。ブログサイトの立ち上げと、インターネットを活用した研究資料の収集を経て、ウィキペディアへの書き込みを目標とした実習です。/ 検索キーワード ブログ、ウィキ、インターネット、OCR

授業の一般目標 インターネットを活用して、自分の研究テーマに関する考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ブログ、ウィキ、タブブラウザ、メーリングリスト、ポータルサイト、PDF、HTML、OCR などインターネット関連の用語が理解でき、研究に活用できる。 思考・判断の観点： 自らの研究課題に対する考察を深める。 関心・意欲の観点： ブログによる研究日誌を定期的に更新する。 技能・表現の観点： (1) インターネットを活用した研究資料の収集ができる。(2) ウィキペディア上の関連項目への貢献。

授業の計画(全体) 各自ブログサイトを立ち上げてもらいます。その後、Firefox の導入方法、検索サイトや作品画像の入手方法等を解説しながら、各自の研究テーマについて資料の収集作業を行ってもらいます。最終的には、ウィキペディア上の自分が貢献できる項目に対する書き込み結果を印刷したものを提出してもらいます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 実習指導 1 内容 ブログサイトの立ち上げ
- 第 3 回 項目 実習指導 2 内容 Firefox の導入
- 第 4 回 項目 実習指導 3 内容 検索サイトの活用
- 第 5 回 項目 実習指導 4 内容 電子図書館の活用(一)
- 第 6 回 項目 実習指導 5 内容 電子図書館の活用(二)
- 第 7 回 項目 実習指導 6 内容 PDF の収集
- 第 8 回 項目 中間発表 内容 友人のブログへのコメント記入
- 第 9 回 項目 実習指導 7 内容 スキャナーの利用法
- 第 10 回 項目 実習指導 8 内容 OCR の利用法
- 第 11 回 項目 実習指導 9 内容 ウィキペディアの活用
- 第 12 回 項目 実習指導 10 内容 資料収集・調査研究
- 第 13 回 項目 実習指導 11 内容 ウィキペディアへの書き込み
- 第 14 回 項目 最終発表
- 第 15 回

成績評価方法(総合) ブログの更新頻度、内容、活用の工夫、ウィキペディアへの書き込み内容などをともに総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： 特に指定はありません。 / 参考書： ウェブ進化論, 梅田望夫, 筑摩書房, 2006 年; 「手帳ブログ」のススメ, 大橋悦夫, 翔泳社, 2006 年; ウィキペディア 完全活用ガイド, 吉沢英明, マックス, 2006 年

メッセージ できるだけ毎日、自分の研究課題について考えをめぐらせ、少しずつでも先へと理解を進めること。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 美学・美術史研究室の学生を対象としています。ブログサイトの立ち上げと、インターネットを活用した研究資料の収集を経て、ウィキペディアへの書き込みを目標とした実習です。/ 検索キーワード ブログ、ウィキ、インターネット、OCR

授業の一般目標 インターネットを活用して、自分の研究テーマに関する考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ブログ、ウィキ、タブブラウザ、メーリングリスト、ポータルサイト、PDF、HTML、OCR などインターネット関連の用語が理解でき、研究に活用できる。 思考・判断の観点： 自らの研究課題に対する考察を深める。 関心・意欲の観点： ブログによる研究日誌を定期的に更新する。 技能・表現の観点： (1) インターネットを活用した研究資料の収集ができる。(2) インターネット用タブブラウザ Firefox が活用できる。(3) ウィキペディア上の関連項目への書き込みを通して知的貢献ができる。

授業の計画(全体) 各自ブログサイトを立ち上げてもらいます。その後、Firefox の導入方法、検索サイトや作品画像の入手方法等を解説しながら、各自の研究テーマについて資料の収集作業を行ってもらいます。最終的には、ウィキペディア上の自分が貢献できる項目に対する書き込み結果を印刷したものを提出してもらいます。以上の作業を前期で履修済みの学生については、発展学習を指示します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 実習指導 1 内容 画像の整理=Photoshop Album Mini の活用法
- 第 3 回 項目 実習指導 2 内容 画像のリサイズ=J Trim の活用法
- 第 4 回 項目 実習指導 3 内容 スライドの作成=Power Point の活用法
- 第 5 回 項目 実習指導 4 内容 以下、発展学習
- 第 6 回 項目 実習指導 5
- 第 7 回 項目 実習指導 6
- 第 8 回 項目 中間発表
- 第 9 回 項目 実習指導 7
- 第 10 回 項目 実習指導 8
- 第 11 回 項目 実習指導 9
- 第 12 回 項目 実習指導 10
- 第 13 回 項目 実習指導 11
- 第 14 回 項目 最終発表
- 第 15 回

成績評価方法(総合) ブログの更新頻度、内容、活用の工夫、ウィキペディアへの書き込み内容などをともに総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書: 教科書の指定はありません。山口大学美学・美術史研究室のブログ(<http://blog.sonet.ne.jp/art-groove/>) から先輩方のブログへのリンクをたどって参考にしてください。 / 参考書: ウェブ進化論, 梅田望夫, 筑摩書房, 2006 年; 「手帳ブログ」のススメ, 大橋悦夫, 翔泳社, 2006 年; ウィキペディア 完全活用ガイド, 吉沢英明, マックス, 2006 年

メッセージ できるだけ毎日、自分の研究課題について考えをめぐらせ、少しずつでも先へと理解を進めること。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	考古学概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 日本考古学のなかで、石器時代の一般的な知識を講義する。 / 検索キーワード 旧石器時代、縄文文化

授業の一般目標 日本列島における先史・原始文化を考古学がどのように解明してきたか、その成果と到達点を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 考古学独自の専門用語について理解するとともに、日本先史文化が周辺の文化とどのように共通し、また相違するか、理解を深める。 思考・判断の観点： 考古学独自の方法について、その長所と短所を考える。 関心・意欲の観点： 日本列島の原始文化に関心をもつ。

授業の計画（全体） 考古学的な時代区分を述べ、年代の古い順に特定の主題について解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 旧石器文化 内容 旧石器時代の環境
- 第 2 回 内容 旧石器時代の住居
- 第 3 回 内容 旧石器時代の生業
- 第 4 回 内容 旧石器時代の交易・運搬
- 第 5 回 内容 旧石器時代の風俗
- 第 6 回 内容 大陸文化との関連
- 第 7 回 項目 縄文文化 内容 縄文時代の環境
- 第 8 回 内容 縄文時代の住居
- 第 9 回 内容 縄文時代の生業
- 第 10 回 内容 縄文時代の葬送
- 第 11 回 内容 縄文時代の土器
- 第 12 回 内容 縄文時代の交易・運搬
- 第 13 回 内容 縄文時代の習俗
- 第 14 回 内容 縄文時代の服飾・身体装飾
- 第 15 回 内容 縄文時代の人種

成績評価方法（総合） 日本考古学の基礎的な知識が習得できているかどうかを、試験によって判定する。

教科書・参考書 教科書： 指定しない。 / 参考書： 指定しない。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	考古学概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 日本列島の原始文化である弥生文化について、一般的知識を講義する。 / 検索キーワード 弥生文化

授業の一般目標 日本列島の原始文化について、興味を持つとともに、基礎的な知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学独特の専門用語について基礎的な知識を得るとともに、弥生文化と周辺の文化との共通性や相違点を学ぶ。 思考・判断の観点：考古学的方法の長所と短所について、考えを巡らす。 関心・意欲の観点：日本の原始文化について、興味をいただき関心をもつ。

授業の計画（全体） 弥生文化全般にわたり、主題別に講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 弥生文化 内容 弥生時代の環境
- 第 2 回 内容 弥生時代の住居
- 第 3 回 内容 弥生時代の農業
- 第 4 回 内容 弥生時代の生業
- 第 5 回 内容 弥生時代の葬送
- 第 6 回 内容 弥生時代の土器
- 第 7 回 内容 弥生時代の軍事・武器
- 第 8 回 内容 弥生時代の交易・運搬
- 第 9 回 内容 弥生時代の金工
- 第 10 回 内容 弥生時代の木工
- 第 11 回 内容 弥生時代の習俗
- 第 12 回 内容 弥生時代の宗教
- 第 13 回 内容 弥生時代の服飾・身体装飾
- 第 14 回 内容 弥生文化と大陸文化
- 第 15 回 内容 弥生時代の人種

成績評価方法（総合）日本の原始文化に関心を持っているか、基礎的な知識があるかどうかを試験によって判定する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。 / 参考書：特に指定しない。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別的テーマ（考古資料および地域）は、毎年・開講学期毎に異なる。 / 検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。 2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。 3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。 4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。 B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。 思考・判断の観点： A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。 B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。 関心・意欲の観点： A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、特定地域の具体的な状況にも言及する。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、山口県や福岡県西部地域、あるいは九州全域から瀬戸内・山陰地域などの各地の具体的な状況へと視野を拡大する。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得しておくこと。

成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10%，授業外レポート 90%。

教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書：石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 - ，加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助，柏書房，1991年；倭人と鉄の考古学，村上恭通，青木書店，1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器，北条芳隆・禰宜田佳男 監修，小学館，2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別的テーマ（考古資料および地域）は、毎年・開講学期毎に異なる。 / 検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。 2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。 3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。 4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。 B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。 思考・判断の観点： A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。 B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。 関心・意欲の観点： A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、特定地域の具体的状況にも言及する。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、山口県や福岡県西部地域、あるいは九州全域から瀬戸内・山陰地域などの各地の具体的状況へと視野を拡大する。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得しておくこと。

成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10 %、授業外レポート 90 %。

教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書：石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 - , 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助, 柏書房, 1991 年; 倭人と鉄の考古学, 村上恭通, 青木書店, 1998 年; 考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器, 北条芳隆・禰宜田佳男 監修, 小学館, 2002 年; ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 縄紋時代の祭祀：縄紋時代の人は世界をどのように見ていたのであろうか。この講義は、縄紋時代の祭祀具や宗教遺跡を紹介しながら、縄紋時代の人間の観念を理解しようとするものである。まずそのためには、どのような遺跡や遺物に縄紋人の超自然観が込められているのか、決定しなくてはならない。しかしこれが実に難しい課題であって、例えば著名な土偶一つとっても、様々な理解の仕方がある。そこで、講義ではむしろそうした多様な意見を紹介しながら、どうしたら考古資料から当時の人間の超自然観に接近できるのかを考えてみよう。/ 検索キーワード 土偶 石棒 環状列石 配石遺構 敷石住居

授業の一般目標 1. 考古学では特殊な遺物である縄紋時代の呪術具にどのようなものがあるのか理解する。 2. 縄紋時代に特徴的な祭祀遺跡は、どのようなものであるのか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学の専門用語を修得する。考古学の用語は難解であるから、まず独特の言葉を覚える。 思考・判断の観点：具体を抽象化することを学ぶ。同じものであるというのは、どういうことなのか、根本をまず理解する。 関心・意欲の観点：多様な遺跡・遺物の形態に興味をもつ。 技能・表現の観点：遺跡・遺物の資料提示の仕方を学ぶ。 その他の観点：遺跡の発掘報告書が読みこなせるようになる。

授業の計画（全体）具体的な遺跡や遺物を紹介しながら、その解釈について講義する。特にこの授業では、一般的ではない見解も導入するから、推論の妥当性が主題となる。戦後、著しく研究が進展した敷石住居の理解に関しては詳細に検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 宗教と呪術 内容 はじめに
- 第 2 回 項目 民俗学・民族学 内容 宗教学への寄与
- 第 3 回 項目 祭祀遺跡の発見 内容 原始時代の信仰
- 第 4 回 項目 通過儀礼 内容 抜歯など
- 第 5 回 項目 葬送儀礼 内容 埋葬法
- 第 6 回 項目 土偶 内容 形態と出土状況
- 第 7 回 項目 土偶 内容 女神・地母神
- 第 8 回 項目 石棒 内容 形態の変化
- 第 9 回 項目 石棒・異形石器 内容 石皿との共通性
- 第 10 回 項目 ストーン・サークル 内容 大陸の事例
- 第 11 回 項目 環状列石 内容 秋田県大湯遺跡
- 第 12 回 項目 敷石住居 内容 新しい研究成果
- 第 13 回 項目 敷石住居 内容 分析
- 第 14 回 項目 敷石住居 内容 見通し
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合）授業は専門的な分野であるから、成績は主に受講生の独自の分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただき、判定することにする。個々の観点のうち、独創性を含めて得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力の見られないものは評価しない。

教科書・参考書 参考書：敷石住居の研究, 山本暉久, 六一書房, 2002 年；縄文土偶と女神信仰, 渡辺 仁, 同成社, 2001 年；授業中に言及する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 弥生時代の祭祀：弥生時代の人々は世界をどのように捉えたのであろうか。銅鐸・銅矛は何に使われたのか。この講義は弥生時代の祭祀具を紹介しながら、弥生時代の人々の超自然観と祭祀を復元的に研究しようとするものである。しかしながら考古学でこの課題に接近するためには、あらかじめ周到な概念を用意すること以上に、遺跡や遺物の形態や出土状況の変化が意味することを的確に認識できていなくてはならない。このような考古学特有の課題に重点を置いた講義である。 / 検索キーワード 銅鐸 銅剣 銅矛 シャーマン

授業の一般目標 1 . 弥生時代の青銅製祭祀具を理解する 2 . 遺物から観念をとらえる限界を承知する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学の専門用語を習得する。考古学の用語は難解であるから、まず独特の言葉を覚える。 思考・判断の観点：具体を抽象化することを学ぶ。同じものであるということは、どういうことなのか、根本をまず理解する。 関心・意欲の観点：多様な遺跡・遺物の形態に興味を持つ。 技能・表現の観点：遺物の提示法を修得する。 その他の観点：発掘報告書が読みこなせる。

授業の計画（全体） 弥生時代の顕著な遺物である銅鐸、銅剣・銅矛などの青銅製祭祀具とその研究を紹介しながら、関連する祭祀具を広く検討し、祭祀具一般から何が引き出せるか、話題にする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 授業は専門的な分野であるから、成績は主に受講生の独自の分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただく。下のような個々の観点のうち、得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力のないものは評価しない。

教科書・参考書 参考書：授業中に言及する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	網谷克彦				

授業の概要 縄文文化とその考古学研究：縄文文化は中緯度森林地帯に発達した、豊かな Complex Hunter-Fisher-Gatherer-(Domesticator) の文化であるが、その豊かさの実相とは如何なるものであろうか。本講は低湿地・泥炭地遺跡情報、動植物遺存体、狩猟採集民の民族誌、木製品や漆器などから縄文文化・縄文社会を物語るようとするものである。あわせてそれらに関わる基本的な研究方法についても紹介する。 / 検索キーワード 縄文文化 狩猟採集民 民族誌 低湿地遺跡 遺物研究

授業の一般目標 ・縄文文化に関する知識を深める。 ・多様な研究方法に関する基礎知識を身につける。 ・土器等の人工遺物や動物遺存体など実物資料を用意する予定でいるので、それによって分析手法や過程を体験する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：遺跡の発掘調査について説明できる。 思考・判断の観点：過去と現在を類別して、関係づける。 関心・意欲の観点：遺跡の科学的調査の方法を説明できる。 態度の観点：発掘調査に興味をもつ。

授業の計画（全体） 授業計画（全体） ・毎時間、レジュメ・資料を用意し、それを基本に話をすすめる。 ・2、3のテーマに関しては前日に関連論文を配布し、ディスカッションの機会をもつ。 ・5日間の場合は、各日を低湿地・泥炭層遺跡研究、土器事例研究、動植物遺存体研究（生業論）、民族誌の援用、木製品・漆器研究にあてる予定。

成績評価方法（総合） 授業外のレポートで、評価する。

教科書・参考書 参考書：縄文の生態史観、西田正規、東京大学出版会、1989年；『日本史誕生』日本の歴史（1）、佐々木高明、集英社、1991年

備考 集中授業

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 卒業論文作成のための演習である。発表者の研究発表の向上をはかるために、問題の明確さ、資料の実体化、収集・検索能力、説得力、口頭発表の仕方などを修得する。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 調査、分析成果を発表し、卒業論文を完成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の研究を掌握し、学説を承知する。 思考・判断の観点：問題の設定を適切に行ない、資料を実体化する。 関心・意欲の観点：興味をもって、集中して取り組む。 態度の観点：問題点を公共化できる。 技能・表現の観点：資料を図表で正確に表現できる。

授業の計画(全体) 毎回、発表分担者を決めて、当事者は資料を添えて口頭発表する。事情で欠席するばあいは、事前に申し出て、順番を変更することができる。

成績評価方法(総合) 授業中の平常をもって評価・採点する。その時には、自己の能力をフルに活用して問題を解決するかどうか、決め手になり、計画的に課題を消化し、まとめる能力を重視する。また、口頭発表であるから文章能力よりも態度が要素に入るので注意すること。

教科書・参考書 教科書：指定せず / 参考書：発表者個々に指導する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 卒業論文作成のための演習である。問題点の明確化、資料の実体性などに加えて、論文執筆の要領を後期には教示する。/ 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 調査・分析成果を発表し、卒業論文の完成を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の学説・研究を理解する。 思考・判断の観点：問題点を設定できる。 関心・意欲の観点：従来の研究を追跡、検討する。 態度の観点：問題点を公共化できる。 技能・表現の観点：資料の適正化をはかる。

授業の計画(全体) 発表者をあらかじめ決め、各自の研究を口頭発表し、相互に論評する。

成績評価方法(総合) 授業の発表、質問など平常の評価・採点をおこなう。自己の能力をフルに活用して問題探求、設定、解決に向かうかどうかを、重要なポリシーとする。

教科書・参考書 教科書：特にない。/ 参考書：発表者個々に指導する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

授業の一般目標 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点：A. 発表内容について討議できる。 技能・表現の観点：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。 B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。 C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。 D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

授業の計画(全体) 【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。

メッセージ 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたいが、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

授業の一般目標 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点：A. 発表内容について討議できる。 技能・表現の観点：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。 B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。 C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。 D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

授業の計画(全体) 【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。

メッセージ 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたいが、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 この授業では、野外の発掘調査に不可欠な測量法を実習する。測量器械の操作方法と身のこなし方、計算法、作図法の実技を修得する。ただし雨天のばあいは室内作業を実習する。 / 検索キーワード 発掘調査法

授業の一般目標 1. 発掘調査に必要な測量ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 測量の原理を理解する。 思考・判断の観点： 状況に応じた測量法を修得する。 関心・意欲の観点： 実技・作業の身のこなし方に興味をもつ。 態度の観点： *危険回避行動を身につける。 *チームワークを修得する。 技能・表現の観点： 線画の表現法を学ぶ。

授業の計画(全体) 考古学のうち、測量分野は座学、独学ができない実践分野で、特に発掘担当者を志望する者はこの実習で教える骨格測量の原理を理解していなければならない。要するに、だれも教えてくれないが、専門職に就けば、知って得する内容を初心者に教えます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 測距 内容 スチール・テープの扱い方
- 第 2 回 項目 測距 内容 レベルによる標高計測
- 第 3 回 項目 測角 内容 トランシユットの扱い方
- 第 4 回 項目 測角 内容 三脚の据え方
- 第 5 回 項目 測角 内容 副尺の読み方
- 第 6 回 項目 測角 内容 上下のネジの操作法
- 第 7 回 項目 測角 内容 内外角による多角測量
- 第 8 回 項目 測角 内容 方位角による多角測量
- 第 9 回 項目 計算法 内容 図根点の作図
- 第 10 回 項目 地形測量 内容 平板の据え方
- 第 11 回 項目 地形測量 内容 等高線の求め方
- 第 12 回 項目 作図 内容 図面の整合法
- 第 13 回 項目 測角 内容 三角法
- 第 14 回 項目 細部測量 内容 やり方の設置
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 実習中の平常で評価・採点する。判定基準は実技が出来るか出来ないかであって、器用・不器用、上手・下手は、個性と経験によるからこの授業では重視しない。要するに、全員出来るようになってほしいし、全員できるまでやらせるので、資格のように判定する。

教科書・参考書 教科書： 測量学の図書はあるが、測量実技は図書からは学べないので、基本動作を体で覚えること。 / 参考書： 特になし。

メッセージ 考古学専攻の3年生に限る。また、授業前に全員そろって機材を用意しておくこと。さらに授業中には、交通事故などに注意すること。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 考古学の基礎的技術である考古資料の取り扱いについて指導する。考古学の研究対象は過去の時代のモノ（遺構・遺物）である。その際、実物を取り扱うことが基本ではあるが、研究の大部分の段階では、二次的に加工された資料を取り扱うことが多い。この二次資料の代表的なものは図面や写真である。この授業では、考古学的な資料の取り扱いのための基礎的技術に習熟することを目的とする。この技術とは、下の一般目標に示す3項目であるが、2および3は表裏一体のものである。これらの技術はそれぞれ非常に高度な専門的技術であるため、その習得には受講生の多大な研鑽が必要とされるのは言うまでもない。考古学実習ではこれらの技術を習得するための初歩的な手ほどきを行うことで、考古遺物に対する理解を深める。 / 検索キーワード 考古学, 石器, 土器, 発掘調査, 資料調査, 実習, 実測

授業の一般目標 1. 壊れやすく貴重な実物そのものを実際に取り扱うための技術を習得する。 2. 実物の資料化（実物から二次資料への変換）のための技術の初歩を習得する。 3. 二次資料（実測図・写真・拓本）に込められた情報を判読する技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 遺物取り扱いの留意点を状況に応じて具体的に指摘できる。 B. 遺物整理から報告書作成までの作業のアウトラインを説明できる。 思考・判断の観点： A. 遺物の解説を書くことができる。 B. 報告書を作成することができる。 技能・表現の観点： A. 遺物の実測図を作成することができる。 B. 遺物の写真を撮影することができる。 C. 遺物の拓本を採取することができる。

授業の計画（全体） 【考古遺物の資料化】 1. ガイダンス ____ A. 道具の解説 2. 遺物洗浄 3. 接合・復元 4. 遺物実測 ____ A. 石器 ____ B. 土器 ____ C. 瓦 5. 拓本 6. 写真 7. 報告書作成 ____ A. DTP全般 8. 考古情報処理 ____ A. 考古学におけるパソコン利用 /// *上記は、カリキュラムの概要であるが、資料・天候などの都合のため、上記の順で授業が進行するわけではない。

成績評価方法（総合） 宿題・授業外レポート 30%，受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 70%。基本的には、授業中に所定の技術水準を習得することを目標とするので、出席が所定の回数に満たない受講生には単位を与えない。出席が重要な成績評価基準になる。欠席4回で良。5回で可。7回で不可。また決められた課題を提出しないと評価が下がる。

教科書・参考書 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 考古学に必要とされる基本的な技術の習得を目的として開講する授業科目である。目的達成のためには非常な修練が必要であり、率直に言って設定時間内だけで完全に習得することは不可能である。そのため、時間外での受講生の積極的な取り組みが必要となる。宿題もしばしば課される。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

言語文化学科 日本語文化論コース

開設科目	日本語学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 「音声・音韻」日本語の音声・音韻とは何か、その働きと特徴などについての理解を深める。

授業の一般目標 日本語は「日本人・日本文化を映し出す鏡」だと言われている。その表現手段としての日本語の「音声・音韻」について学習して基礎的な知識を得るとともに、それに関わる諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「音声・音韻」に関する基本的な知識・理解が身についているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「音声・音韻」に関する基本的な知識に基づいて、日本語について考える姿勢を養う。 関心・意欲の観点：授業に対する取組を判断する。

授業の計画（全体）日本語学の諸分野のうち、「音声・音韻」に関する問題について取り扱う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語が伝えるもの
- 第 2 回 項目 ことばの形成
- 第 3 回 項目 音声・音韻とは何か
- 第 4 回 項目 音韻の働き
- 第 5 回 項目 音韻の働き
- 第 6 回 項目 母音と子音の調音の方法
- 第 7 回 項目 母音と子音の調音の方法
- 第 8 回 項目 語頭と語中尾の調音
- 第 9 回 項目 日本語の音声組織
- 第 10 回 項目 日本語の音声組織
- 第 11 回 項目 日本語の音声・音韻の単位
- 第 12 回 項目 日本語の音声・音韻の単位
- 第 13 回 項目 母音の無声化
- 第 14 回 項目 八行音の変化
- 第 15 回 項目 第十五週 筆記試験

成績評価方法（総合）試験 50%、関心・意欲 30%、出席 20%（質問カード）

教科書・参考書 教科書：新しい国語学, 佐田智明、添田建治郎ほか, 朝倉書店, 1988 年；新しい国語学, 添田建治郎, 朝倉書店, 1988 年；生協で購入。 / 参考書：愉快的日本語講座, 添田建治郎, 小学館, 2005 年

メッセージ 昨今押され気味の日本語の大切さを再認識してほしい。日本語はかけがえのないことば。

連絡先・オフィスアワー 電話（933-5249）オフィスアワー：添田建治郎研究室（火曜日の 1 時～2 時 30 分）

開設科目	日本語学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語および日本文化に関する諸問題をペアワークまたはグループ討議を通して検討する。/
 検索キーワード 日本語、日本文化、異文化

授業の一般目標 自分一人の考えに閉じこもらずに、他者との意見交換を通して、柔軟な考え方を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語および日本文化に関する知識・理解を深める 思考・判断の観点：ステレオ・タイプの考え方を脱して、適切な判断ができるようにする。 関心・意欲の観点：日本語・日本文化に関する関心だけでなく、異文化に関する関心を持つようにする。異文化を理解しようとする意欲を育てる。 態度の観点：積極的に授業に参加し、自分の意見を恥ずかしがらずに伝えるようにする。 技能・表現の観点：簡潔に授業内容にかんする感想・意見・質問をまとめることができる。 その他の観点：対人関係を自らすすんでつくることができるようにする。

授業の計画(全体) 構成的グループ・エンカウンターの手法を用いて、日本語と日本文化に関する諸問題をテーマにディスカッションする。

成績評価方法(総合) 出席と小レポート、課題を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 木曜、午前 10 時～12 時

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~文法史~ 主として、平安時代の文法と、現代語の文法を比較しながら、その歴史的变化について考える。

授業の一般目標 日本語の文法を通史的に概観することにより、日本語文法の本質的な特徴や問題点を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の文法史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の文法史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画(全体) 動詞の活用の種類の変遷 活用形の用法の変遷 形容詞・形容動詞の変遷 主格に関わる助詞の用法の変遷 係り結びの変遷 文法史のまとめ

成績評価方法(総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：日本語史, 沖森卓也, おうふう, 1989年; 教科書は生協で扱う。昨年度「日本語学」の授業で使用したものを継続使用。

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 待遇表現史 ~ 日本語の特色のひとつである「敬語」について、待遇表現の一部として扱い、その歴史について考察する。

授業の一般目標 日本語の敬語を通史的に概観することにより、その本質的な特徴や問題点を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の待遇表現史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の待遇表現史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画(全体) 待遇表現とは 敬語の分類 尊敬語の歴史 謙譲語の歴史 丁寧語の歴史 待遇表現史のまとめ

成績評価方法(総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：日本語史, 沖森卓也, おうふう, 1989年; 教科書は生協で扱う。昨年度「日本語学」の授業で使用したものを継続使用。

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 「アクセントの研究」日本語アクセントの（音声と較べた）機能、日本語アクセントの成立と変遷、方言アクセントの実態・分布、アクセントの調査法などに関して述べる。 / 検索キーワード アクセントの意義、アクセントの変化、アクセントの分布

授業の一般目標 日本語アクセントの特徴・意義について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語アクセントの意義、特徴、変化の姿と分布の意味について理解を深める。 思考・判断の観点：日本語アクセントについての分析視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語アクセントの特徴・意義を再認識する。

授業の計画（全体）アクセントの概念規定、アクセントの意義、アクセント研究の意義などについて述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アクセント核
- 第 2 回 項目 アクセント核
- 第 3 回 項目 アクセントを研究する意義
- 第 4 回 項目 アクセントを研究する意義
- 第 5 回 項目 アクセントを研究する意義
- 第 6 回 項目 日本語アクセントの形成
- 第 7 回 項目 日本語アクセントの形成
- 第 8 回 項目 日本語アクセントの変遷（体系の変化）
- 第 9 回 項目 日本語アクセントの変遷（体系の変化）
- 第 10 回 項目 日本語アクセントの変遷（体系の変化）
- 第 11 回 項目 各地の方言アクセント
- 第 12 回 項目 各地の方言アクセント
- 第 13 回 項目 各地の方言アクセント
- 第 14 回 項目 方言アクセントの調査法
- 第 15 回 項目 後期筆記試験

成績評価方法（総合）定期試験、質問カードの内容、出席

教科書・参考書 参考書：国語アクセントの史的研究, 金田一春彦, 塙書房, 1974 年

メッセージ 日本語アクセント、日本語はかけがえのないことば

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249）オフィスアワー火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り

授業の一般目標 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にする。2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。思考・判断の観点：1、「言語と文化」の関係について考える。2、「言語と教育」の関係について考える。3、「言語と心理」の関係について考える。関心・意欲の観点：1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。態度の観点：1、恥ずかしがらずに自己開示する。2、他者理解につとめ、他者を尊重する。技能・表現の観点：1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。3、適切な質問力を身につける。その他の観点：外国人留学生と日本人学生の交流を促進する

授業の計画 (全体) 上記の目標達成のため実習を中心に授業を進め、関連するエクササイズを参加体験型で実施する。シェアリングを通して、認知の修正、拡大をはかる。各回ごとに「ふりかえりシート」に記入し、質問があれば答えるようにする。

成績評価方法 (総合) 主に授業内レポートと学期末課題レポートおよび出席により評価する。

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集, 國分康孝ほか, 図書文化, 1999年; エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part 2, 國分康孝ほか, 図書文化, 2001年

メッセージ 教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性などについても追求する。日本語教師・国語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り、分かち合い

授業の一般目標 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。5、その他

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、内なる異文化：地域差、男女差、年齢差などについて理解する。2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。思考・判断の観点：1、類義語や類似表現について違いを考える。2、る言葉について、その意味・用法を考える。関心・意欲の観点：1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。態度の観点：1、わからないことをそのままにしておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。2、授業内容に集中する態度を形成する。技能・表現の観点：1、他者理解のための質問力を身につける。2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。その他の観点：外国人留学生と日本人学生の交流を促進する

授業の計画（全体）上記の目標達成のために対話的な授業を行なう。参加体験型のコミュニケーション重視の授業を実施する。

成績評価方法（総合）出席、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 教科書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part2, 林伸一, 図書文化, 2001 年 / 参考書：未定

メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 文法論と文法学史 ~ 近世以前の文法学史を概観するとともに、近代以降の代表的な文法論を紹介しながら、日本語の文法研究史と、その特徴について考察する。

授業の一般目標 日本語の文法論と文法学史に関する基礎知識を身につけるとともに、日本語の文法研究に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画(全体) 中世の「てにをは」研究 近世の文法研究 - 富士谷成章、本居宣長、鈴木胤、本居春庭、東条義門 近代の文法研究 - 大槻文彦、山田孝雄、松下大三郎、橋本進吉、時枝誠記

成績評価方法(総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：国語文法論, 渡辺実, 笠間書院, 1974年; 教科書は生協で扱う。

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 万葉集の巻八～十二所収の歌を対象に、万葉仮名で表記された本文の訓読に関して、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとを比較しながらその当否を考える。 / 検索キーワード 万葉仮名、訓読、古辞書、注釈書

授業の一般目標 古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟しつつ、上代～中古の仮名文献から類例を検索して、万葉仮名で表記された歌謡本文の訓読についての従来説の再検討を試みる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟する。 思考・判断の観点：古辞書の記述と類例とを対照させそれらを分析しながら、万葉仮名で表記された歌謡本文のあるべき訓読を考察する。 関心・意欲の観点：各歌の歌謡本文における万葉仮名表記の意図を考える。

授業の計画（全体） 万葉集の巻八～十二所収の歌の訓読に関して、受講者各自が、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとに相違のある箇所を探し、その当否を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入（資料の扱いの指導）
- 第 2 回 項目 これ以降、万葉集巻八～十二から各人 1 課題を取り上げレポートする（1）
- 第 3 回 項目 学生のレポート（2）
- 第 4 回 項目 学生のレポート（3）
- 第 5 回 項目 学生のレポート（4）
- 第 6 回 項目 学生のレポート（5）
- 第 7 回 項目 学生のレポート（6）
- 第 8 回 項目 学生のレポート（7）
- 第 9 回 項目 学生のレポート（8）
- 第 10 回 項目 学生のレポート（9）
- 第 11 回 項目 学生のレポート（10）
- 第 12 回 項目 学生のレポート（11）
- 第 13 回 項目 学生のレポート（12）
- 第 14 回 項目 学生のレポート（13）
- 第 15 回 項目 学生のレポート（14）

成績評価方法（総合） 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：万葉集 本文篇、佐竹昭広 [ほか] 共著、塙書房、1982 年；万葉集 本文篇、佐竹昭広 [ほか] 共著、塙書房、1982 年

メッセージ 万葉歌人が詠んだ万葉集歌の仮名の訓にたどり着きましょう。その手だてを学んでください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 (933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 前半は前期の継続。後半は『日本言語地図』に見られる方言地図（作成日時の付されていない）の分布を資料として、その分布形成の過程（語彙史）、つまり、語彙の相対的な新旧の解明を試みる。／検索キーワード 方言地図、方言語史、分布解釈

授業の一般目標 方言地図の分布には、日本語のたどってきた縦の歴史が、横の平面上に分布している。その方言分布の解釈することで、日本語・方言の語史を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の歴史に関心を寄せ、日本語の再発見につなげる。 思考・判断の観点：方言地図の分布をみてそれを分析・解釈する能力を身につける。 関心・意欲の観点：自国の言語への関心を高める。

授業の計画（全体）各自が担当する地図を持ち寄り一人が一枚の地図を読む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 万葉集の学生レポート（ 1 ）
- 第 2 回 項目 万葉集の学生レポート（ 2 ）
- 第 3 回 項目 万葉集の学生レポート（ 3 ）
- 第 4 回 項目 万葉集の学生レポート（ 4 ）
- 第 5 回 項目 万葉集の学生レポート（ 5 ）
- 第 6 回 項目 万葉集の学生レポート（ 6 ）
- 第 7 回 項目 万葉集の学生レポート（ 7 ）
- 第 8 回 項目 万葉集の学生レポート（ 8 ）
- 第 9 回 項目 方言地図の解釈（ 1 ）
- 第 10 回 項目 方言地図の解釈（ 2 ）
- 第 11 回 項目 方言地図の解釈（ 3 ）
- 第 12 回 項目 方言地図の解釈（ 4 ）
- 第 13 回 項目 方言地図の解釈（ 5 ）
- 第 14 回 項目 方言地図の解釈（ 6 ）
- 第 15 回 項目 方言地図の解釈（ 7 ）

成績評価方法（総合）質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：日本言語地図（日文研究室所蔵）、国立国語研究所、大蔵省印刷局；国立国語研究所編『日本言語地図』（人文学部日本語文化論コース研究室所蔵）

メッセージ 文献と異なり、作成日時の付されていない言語地図という資料から、語彙の相対的な年代を解明しましょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。発表は、模擬授業形式で、教案・教材をあらかじめ準備し、参加者を学習者に見立てて行なう。/ 検索キーワード 日本語教育、異文化理解、発表力、表現力

授業の一般目標 1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。 2、すでに発表された論文でも批判的に読む。 3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。 4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、引用のしかたを学ぶ 2、参考文献の提示のしかたを学ぶ 思考・判断の観点： 1、先行研究を基に自論を展開できるようにする 2、先行研究を鵜呑みにするのではなく批判的に読む 関心・意欲の観点： 1、自分の関心のある分野でレポートを書いてみる 2、振り返りを意欲的に実行する 態度の観点： 1、まじめに課題に取り組む態度を養う。 2、不明な点をじっくり調べる態度を養う。 技能・表現の観点： 1、板書の仕方を工夫する 2、ハンドアウトの作り方を工夫し、わかりやすくする 3、パネルの提示の仕方を工夫する

授業の計画（全体） 上記の目標達成のために対話的に授業を進めていく。分担者が発表し、参加が検討を加えていく。

成績評価方法（総合） 出席と発表、レポートを重視し、テストはしない。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：しあわせます山口1、（山口県日本語教育ネットワーク発行）

メッセージ 日本語教師、国語教師を目指す人を歓迎する。外国人留学生、日本人の海外派遣留学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 木曜、3-4 時限目、人文棟 2 階 210-2 号室、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。 / 検索キーワード 自己理解、他者理解、異文化理解

授業の一般目標 1、異文化とは何かを考える。 2、自分とは何かを考える。 3、イメージとステレオタイプについて考える。 4、人と出会うということについて考える。 5、人とコミュニケーションすることについて考える。 6、非言語コミュニケーションについて考える。 7、価値観の相違を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、文化とは何か、異文化とは何かについて理解する 2、ジョハリの窓について知識と理解を深める 思考・判断の観点： 1、ステレオタイプを崩していく 2、出会いと人生のドラマ 関心・意欲の観点： 1、言語的コミュニケーションへの関心と意欲 2、非言語コミュニケーションへの関心と意欲 態度の観点： 1、価値観が違う者への態度 2、多文化共生社会への態度 技能・表現の観点： 1、自己開示、自己表現、自己主張能力 2、質問力

授業の計画（全体） 上記目標を達成するために対話的な授業を行なう。テーマごとの発表をし、内容について検討する。

成績評価方法（総合） 出席、発表、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 参考書：多文化共生時代の日本語教育，縫部義憲，瀝々社，2002年；多文化共生のコミュニケーション，徳井厚子，アルク，2002年

メッセージ 日本語教師志望者・国語教師志望者・海外派遣留学生・外国人留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210 - 2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6415 - 8203

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 古文の文法 ~ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で講読する。

授業の一般目標 古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体） テキストにより提起されている問題点や、テキストとは異なる立場の学説などについて、調査を行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの例文の現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：古文の文法，馬淵和夫，武蔵野書院，1963年；テキストは現在絶版のため、プリント配布。

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 漢文訓読資料としての、添田建治郎の所持している岩崎本日本書紀(推古紀)の複製本を読む。 / 検索キーワード ヲコト点、漢文訓読、平安中期を中心とした日本語

授業の一般目標 平安時代の漢文訓読資料を訓読することによって、当時の口語の一端に触れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢文訓読におけるヲコト点の意義を理解する。 思考・判断の観点：漢文訓読資料によってヲコト点を用いた訓読を解説する。 関心・意欲の観点：自国の言語の歴史を考える。

授業の計画(全体) 岩崎本日本書紀(推古紀)の本文を一人数行宛て読み1課題を報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テキスト、資料の説明
- 第 2 回 項目 学生のレポート(1)
- 第 3 回 項目 学生のレポート(2)
- 第 4 回 項目 学生のレポート(3)
- 第 5 回 項目 学生のレポート(4)
- 第 6 回 項目 学生のレポート(5)
- 第 7 回 項目 学生のレポート(6)
- 第 8 回 項目 学生のレポート(7)
- 第 9 回 項目 学生のレポート(8)
- 第 10 回 項目 学生のレポート(9)
- 第 11 回 項目 学生のレポート(10)
- 第 12 回 項目 学生のレポート(11)
- 第 13 回 項目 学生のレポート(12)
- 第 14 回 項目 学生のレポート(13)
- 第 15 回 項目 学生のレポート(14)

成績評価方法(総合) 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：添田建治郎所持の岩崎本日本書紀(推古紀)の複製本(受講生にお願い：丁寧に扱ってください)

メッセージ 漢字一字一字の読みを明らかにする手だてを一緒に学びましょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 漢文訓読資料としての、添田建治郎の所持している岩崎本日本書紀(推古紀)の複製本を読む。 / 検索キーワード ヲコト点、漢文訓読、中世前期の日本語

授業の一般目標 平安時代の漢文訓読資料を訓読することによって、当時の口語の一端に触れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢文訓読におけるヲコト点の意義を理解する。 思考・判断の観点：漢文訓読資料によってヲコト点を用いた訓読を解説する。 関心・意欲の観点：自国の言語の歴史について考える。

授業の計画(全体) 岩崎本日本書紀(推古紀)の本文を一人数行宛て読み1課題を報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 学生のレポート(1)
- 第 2 回 項目 学生のレポート(2)
- 第 3 回 項目 学生のレポート(3)
- 第 4 回 項目 学生のレポート(4)
- 第 5 回 項目 学生のレポート(5)
- 第 6 回 項目 学生のレポート(6)
- 第 7 回 項目 学生のレポート(7)
- 第 8 回 項目 学生のレポート(8)
- 第 9 回 項目 学生のレポート(9)
- 第 10 回 項目 学生のレポート(10)
- 第 11 回 項目 学生のレポート(11)
- 第 12 回 項目 学生のレポート(12)
- 第 13 回 項目 学生のレポート(13)
- 第 14 回 項目 学生のレポート(14)
- 第 15 回 項目 学生のレポート(15)

成績評価方法(総合) 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：添田建治郎所持の岩崎本日本書紀(推古紀)の複製本(受講生にお願い：丁寧に扱ってください)

メッセージ 漢字一字一字の読みを明らかにする手だてを一緒に学びましょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした演習を実施する。
/ 検索キーワード 卒業論文、方言の実地調査

授業の一般目標 卒業論文の中間発表などの指導・助言を通じて卒業論文の完成を目指す。方言調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業論文と方言調査の意義を理解させる。 思考・判断の観点：論文構成力、方言資料の分析力を高める。 関心・意欲の観点：自国の言語に対する関心を高める。

授業の計画(全体) 卒業論文指導に関しては題目の発表会を、方言調査は四国、九州域のアクセント調査を予定している。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 3 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 4 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 5 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 6 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 7 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 8 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 9 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 10 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 11 回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第 12 回 項目 方言調査のための資料作成
- 第 13 回 項目 方言調査のための資料作成
- 第 14 回 項目 実地調査
- 第 15 回 項目 実地調査

成績評価方法(総合) 論文発表や調査への取組みを判断する。

メッセージ 山口大学4年間の学習の総決算です。一緒に学びたいと思います。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした演習を実施する。
/ 検索キーワード 卒業論文、方言の実地調査

授業の一般目標 卒業論文の中間発表などの指導・助言を通じて卒業論文の完成を目指す。方言調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業論文と方言調査の意義を理解させる。 思考・判断の観点：論文構成力、方言資料の分析力を高める。 関心・意欲の観点：自国の言語に対する理解を深める。

授業の計画(全体) 卒業論文指導に関しては題目の発表会を、方言調査は四国、九州域のアクセント調査を予定している。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 導入
- 第2回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第3回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第4回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第5回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第6回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第7回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第8回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第9回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第10回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第11回 項目 4年生の卒論準備のための題目発表
- 第12回 項目 方言調査のための資料作成
- 第13回 項目 方言調査のための資料作成
- 第14回 項目 実地調査
- 第15回 項目 実地調査

成績評価方法(総合) 論文発表や調査への取組みを判断する。

教科書・参考書 教科書：日本言語地図, 国立国語研究所編, 大蔵省印刷局, 1981年

メッセージ 山口大学4年間の学習の総決算です。一緒に学びたいと思います。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の卒論生の事例を検討しながら進めていく。 / 検索キーワード 文章力、質問力、表現力

授業の一般目標 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。 2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、引用の仕方 2、図や表のタイトルのつけかた 3、参考文献の示し方 思考・判断の観点： 1、一般論と具体例を区別する 2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える 3、説得力のある文章を考える 関心・意欲の観点： 1、自分の関心・意欲を明確にする 2、前向きに困難に対処する 3、目標を立てて動機付けする 態度の観点： 1、積極的に授業に参加する 2、わからないことをそのままにしないで調べる 3、不明な点は質問する 技能・表現の観点： 1、口頭での発表力をつける 2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける 3、コンピューターを使いこなす

授業の計画（全体） 上記の目標達成のため、授業を対話的に進める

成績評価方法（総合） 授業内の質問感想カードを毎回提出、期末の授業外レポート及び授業内での発表や出席・授業態度を重視する

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：質問力：話し上手はここがちがう、齋藤孝著、筑摩書房、2003年；齋藤孝（2003）『質問力』筑摩書房

メッセージ 日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるう。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日：11時～12時 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。 / 検索キーワード 文章力、説得力、質問力、表現力、発表力

授業の一般目標 1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。 2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。 3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。 4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。 5、参加者の前で資料に基づいて発表する力：プレゼンテーション能力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ 態度の観点：前期に同じ 技能・表現の観点：前期に同じ

授業の計画（全体）上記の目標達成のために、授業を対話的に進める。

成績評価方法（総合）前期に同じ

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 興味、関心を形にする。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜 11-12 時 携帯 090 - 6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 中世日記文学の語法・語彙 ~ 中世成立の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

授業の一般目標 中世日記文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体）当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、平安時代成立の日記文学作品や、中世の他ジャンルの作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。

成績評価方法（総合）授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：とはずがたり<四>，伊地知鉄男編，笠間書院，1972年；教科書は生協で取り扱う。 / 参考書：とはずがたり（新日本古典文学大系），三角洋一編，岩波書店，1994年；とはずがたり（新潮日本古典集成），福田秀一編，新潮社，1988年；とはずがたり（新編日本古典文学全集），久保田淳編，小学館，1999年；とはずがたり総索引，辻村敏樹編，笠間書院，1992年

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 平安後期物語の語法・語彙 ~ 平安後期物語『堤中納言物語』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

授業の一般目標 平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体）当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、『源氏物語』『枕草子』などの平安中期の作品や、中世の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。

成績評価方法（総合）授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：堤中納言物語，塚原鉄雄，武蔵野書院；教科書は生協で取り扱う。 / 参考書：堤中納言物語（日本古典文学大系 13），寺本直彦，岩波書店，1957 年；堤中納言物語（新潮日本古典集成 56），塚原鉄雄，新潮社，1983 年；堤中納言物語（日本古典文学全集 10），稲賀敬二，小学館，1972 年；堤中納言物語（新日本古典文学大系），大槻修，岩波書店，1992 年

開設科目	日本語学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 卒論演習 (1) ~ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。

授業の一般目標 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語学に関する基本的な知識の確認。 思考・判断の観点：問題への取り組み方法。 関心・意欲の観点：自発的な研究意欲。 技能・表現の観点：資料の取り扱ひ方、参考文献の検索方法。

授業の計画（全体）日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱ひ方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による題目発表を実施する。

成績評価方法（総合）卒業論文に対する取り組みを評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

開設科目	日本語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 卒論演習(2)~ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。

授業の一般目標 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語学に関する基本的な知識の確認。 思考・判断の観点：問題への取り組み方法。 関心・意欲の観点：自発的な研究意欲。 技能・表現の観点：資料の取り扱い方、参考文献の検索方法。

授業の計画(全体) 日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱い方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による中間発表を実施するとともに、12,000字程度の中間レポートの提出を求める。

成績評価方法(総合) 卒業論文に対する取り組みを評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 日本文学の孕む問題とその研究方法について、古典文学を対象に講述する。 / 検索キーワード 日本文学、古典文学、平安文学

授業の一般目標 日本文学研究の基本的な概念や技法について習得し、研究・考察する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本文学を研究するための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：日本文学作品を研究するうえで多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体） 授業は基本的には講義形式により、以下に掲げた通りに進行する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ことばが拓く空間としての文学
- 第 2 回 項目 日本文学の発生（1）
- 第 3 回 項目 日本文学の発生（2）
- 第 4 回 項目 ジャンルの問題（1）
- 第 5 回 項目 ジャンルの問題（2）
- 第 6 回 項目 伝承と信仰（1）
- 第 7 回 項目 伝承と信仰（2）
- 第 8 回 項目 話型（1）
- 第 9 回 項目 話型（2）
- 第 10 回 項目 話型（3）
- 第 11 回 項目 引用と準拠（1）
- 第 12 回 項目 引用と準拠（2）
- 第 13 回 項目 本文と成立（1）
- 第 14 回 項目 本文と成立（2）
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：授業時に紹介する。

メッセージ 80%以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 日本文学の孕む問題とその研究方法について、古典文学を対象に講述する。 / 検索キーワード 日本文学、古典文学、平安文学

授業の一般目標 日本文学研究の基本的な概念や技法について習得し、研究・考察する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本文学を研究するための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：日本文学作品を研究するうえで多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体） 授業は基本的には講義形式により、以下に掲げた通りに進行する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本文学研究の諸問題
- 第 2 回 項目 書誌学
- 第 3 回 項目 本文批評
- 第 4 回 項目 注釈と受容
- 第 5 回 項目 研究史（ 1 ）
- 第 6 回 項目 研究史（ 2 ）
- 第 7 回 項目 作者の誕生
- 第 8 回 項目 作家論と作品論
- 第 9 回 項目 作者の死
- 第 10 回 項目 語りと言説（ 1 ）
- 第 11 回 項目 語りと言説（ 2 ）
- 第 12 回 項目 テクスト論（ 1 ）
- 第 13 回 項目 テクスト論（ 2 ）
- 第 14 回 項目 文化のエクリチュール
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：授業時に紹介する。

メッセージ 80%以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学史 V	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は日本近代文学史を講述する。時間的な制約もあって、主として散文(小説)について多くの時間を割くことになるかと思うが、できるだけ、韻文(詩、短歌、漢詩、俳句)についても言及したいと思っている。以下、触れる予定の項目を挙げておく。ただし、その時々事情(たとえば、新資料の発見等々)によって、順序が変わったり取扱いの比重が増したりする可能性があることを、事前にお断りしておく。

授業の一般目標 未曾有の変革期であった明治以降の近代という時代において、小説を中心とする文学というものが、我々日本人にとって、いかに重要な自己表現の手段であったかを、出来るだけ多くの作品を通して検証したい。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 黎明期の近代文学(1)
- 第 3 回 項目 黎明期の近代文学(2)
- 第 4 回 項目 「小説神髓」と『当世書生気質』のはざま 坪内逍遙
- 第 5 回 項目 硯友社の文学
- 第 6 回 項目 紅露の時代(1)
- 第 7 回 項目 紅露の時代(2)
- 第 8 回 項目 『浮雲』の登場 言文一致(1)
- 第 9 回 項目 『浮雲』の登場 言文一致(2)
- 第 10 回 項目 鷗外の青春
- 第 11 回 項目 奇蹟の1年、樋口一葉
- 第 12 回 項目 泉鏡花の世界
- 第 13 回 項目 徳富ブラザーズ 蘇峰と蘆花
- 第 14 回 項目 自然主義の時代(1) 『破戒』と『蒲団』
- 第 15 回 項目 自然主義の時代(2) 『破戒』と『蒲団』

成績評価方法(総合) 定期試験(中間・期末試験) = 70% 授業態度や授業への参加度 = 10% 出席 = 20%

教科書・参考書 教科書: 別冊国文学 近代文学史必携(学燈社) テキストは文栄堂で販売します。/ 参考書: 追って指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 木曜日午後

開設科目	日本文学史 VI	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 前期に引き続き日本近代文学史を講述する。あくまでも予定であるが、以下、言及する項目を 列挙しておく。

授業の一般目標 未曾有の変革期であった明治以降の近代という時代において、小説を中心とする文学というものが、我々日本人にとって、いかに重要な自己表現の手段であったかを、出来るだけ多くの作品を通して検証したい。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 英文学者から作家へ 夏目漱石の登場
- 第 2 回 項目 鷗外の復活
- 第 3 回 項目 漱石の時代 (1)
- 第 4 回 項目 漱石の時代 (2)
- 第 5 回 項目 明治の終焉をめぐる
- 第 6 回 項目 大逆事件と大正文学
- 第 7 回 項目 芥川龍之介の世界
- 第 8 回 項目 白樺派の作家 (1)
- 第 9 回 項目 白樺派の作家 (2)
- 第 10 回 項目 谷崎潤一郎の世界
- 第 11 回 項目 プロレタリア文学と芥川龍之介の死
- 第 12 回 項目 近代文学を継ぐ者
- 第 13 回 項目 新感覚派と昭和文学
- 第 14 回 項目 文学者と戦争
- 第 15 回 項目 戦後文学から現代文学へ

成績評価方法 (総合) 定期試験 (中間・期末試験) = 70 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 出席 = 20 %

教科書・参考書 教科書：別冊国文学 近代文学史必携 (学燈社) テキストは文栄堂で販売します。 / 参考書：追って指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：木曜日午後

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きつつ、そこに孕まれている問題について取りあげ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』の「少女」巻から「藤裏葉」巻にかけて、主要な場面を取り上げ、それらについてのどのような研究がなされてきたかを紹介していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「少女」巻の問題(1)
- 第 3 回 項目 「少女」巻の問題(2)
- 第 4 回 項目 「玉鬘」巻の問題(1)
- 第 5 回 項目 「玉鬘」巻の問題(2)
- 第 6 回 項目 「初音」巻の問題
- 第 7 回 項目 「胡蝶」巻の問題
- 第 8 回 項目 「蛩」巻の問題
- 第 9 回 項目 「常夏」巻の問題
- 第 10 回 項目 「野分」巻の問題
- 第 11 回 項目 「行幸」巻の問題
- 第 12 回 項目 「藤袴」巻の問題
- 第 13 回 項目 「真木柱」巻の問題
- 第 14 回 項目 「梅枝」巻の問題
- 第 15 回 項目 「藤裏葉」巻の問題

成績評価方法(総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997 年; 新編日本古典文学全集 源氏物語 全六冊, 阿部秋生ほか, 小学館, 1998 年; 源氏物語 全 10 冊, 玉上琢弥・訳注, 角川文庫ソフィア, 1997 年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005 年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編集, 勉誠出版, 2005 年; 源氏物語事典, 林田孝和ほか, 大和書房, 2002 年

メッセージ 出席状況 80%未満の者は欠格とする。授業開始後 15 分を過ぎてからの入室は出席として認めない。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要【連歌師の紀行文 宗因『肥後道記』を読む】—昨年度昨年度に引き続き、近世前期を代表する連歌師・俳諧師、西山宗因をとりあげ、その活動の諸相について考察する。今年度は宗因紀行文の嚆矢『肥後道記』に焦点をあて、異文校訂から本文精読に及ぶ、多角的な考察を展開したい。従来閑却に付されてきた近世連歌師の文章が、宗祇ら中世連歌師の文章の何を模倣し、芭蕉『奥の細道』に代表される近世俳文にいかなる影響を及ぼしたか、文学史の溝を埋める試みである。／検索キーワード 連歌師、俳諧師、紀行文、肥後道記、西山宗因

授業の一般目標 1. 連歌師 / 俳諧師の文章の型と主題を理解する。2. 連歌師 / 俳諧師の文章の共通性と異質性を理解する。3. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの卒業論文への備えとする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 連歌師 / 俳諧師の文章を精読することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。

授業の計画(全体) (1)問題提起 宗因紀行文の位置づけをめぐって (2)『肥後道記』の伝本 (3)『肥後道記』の文学性 (4)『肥後道記』の政治性 (5)総括と展望 連歌師の文章から俳諧師の文章へ

成績評価方法(総合) 主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文 508 電話:933-5257 E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中原 豊				

授業の概要 2007年で生誕百年を迎える中原中也の詩を、日本の近代詩の特質の中で捉える。 / 検索
キーワード 近代詩 現代詩 詩

授業の一般目標 まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、日本の近代詩の歴史の概略をふまえた上で、中
原中也の詩のもつ特質をいくつかの観点から明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 詩の表現、日本の近代詩、および中原中也の詩の特質を理解する。

思考・判断の観点： 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充して
いく。 関心・意欲の観点： 進んで講義で扱う詩人および他の詩人の詩を読もうとする。 技能・表現
の観点： 自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。

授業の計画(全体) 詩の本質について語った詩人の言葉を通じて詩の本質を理解し、その後明治から
戦後までの代表的な詩人の詩の特質の説明と読解を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 詩とは何か I 内容 ポエジーについて
- 第 2 回 項目 詩とは何か II 内容 詩の表現
- 第 3 回 項目 日本の近代詩 I 内容 近世から近代へ
- 第 4 回 項目 日本の近代詩 II 内容 浪漫詩の成熟
- 第 5 回 項目 日本の近代詩 III 内容 口語自由詩の発達
- 第 6 回 項目 中原中也 I 内容 生涯と作品の概観
- 第 7 回 項目 中原中也 II 内容 風土
- 第 8 回 項目 中原中也 III 内容 初期短歌からダダ詩へ
- 第 9 回 項目 中原中也 内容 フランス象徴詩
- 第 10 回 項目 中原中也 V 内容 詩と音楽
- 第 11 回 項目 中原中也 内容 詩論
- 第 12 回 項目 中原中也 内容 宗教性
- 第 13 回 項目 中原中也 内容 喪失と倦怠
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：『山羊の歌 中原中也詩集』, 佐々木幹郎編, 角川書店, 1998年; 『在りし日の
歌 中原中也詩集』, 佐々木幹郎編, 角川書店, 1998年 / 参考書：『詩とは何か』, 嶋岡晨, 新潮社, 1998
年; 適時プリントを配布する。

メッセージ 講義で取り上げる詩を読んでおいてください。

連絡先・オフィスアワー 中原中也記念館(山口市湯田温泉 1-11-21 083-932-6430)

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小野美典				

授業の概要 中世の山口の文芸に関する諸問題について考察する。半期という短い期間なので、現在の研究で問題とされている事項3つにポイントを絞って、概説していく。具体的には、芸能から「仁平寺の延年」、紀行文から「宗祇『筑紫道記』と山口」、寺社縁起から「吉祥院と『番匠観音縁起』」という3項目を取り上げて、考察する。様々なジャンルの問題を、多岐にわたって解説していくことになると思うが、それらの中から、中世という時代の山口の文芸の一端を垣間見てもらいたい。/ 検索キーワード 延年 宗祇 筑紫道記 吉祥院 番匠観音縁起

授業の一般目標 鎌倉時代から室町時代にかけての山口の文芸の状況を理解すること、そして現在の研究で問題点とされていることが何なのかを知ること、全体の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中世山口の文芸の状況について理解を深める。 宗祇研究の現状について理解を深める。 寺社縁起に関して理解を深める。 思考・判断の観点： 歴史資料の扱いに関して知識を持つ。 寺社縁起を読み解く。 関心・意欲の観点： 山口の文芸に関して興味を持つ。 態度の観点： 未読資料を意欲的・積極的に読もうとする。 技能・表現の観点： 自分の調査・考察したことを的確に文章で表現する。

授業の計画(全体) 資料プリントを使いながら、口頭での解説を中心とした講義形式で授業を進める。講義は、大きく3章に分かれるが、1章「仁平寺の延年」は知識として理解する程度とし、講義の中心は、2章「宗祇『筑紫道記』と山口」と3章「吉祥院と『番匠観音縁起』」に置くことにする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 講義で使う資料の説明
- 第 3 回 項目 仁平寺の延年(1)
- 第 4 回 項目 仁平寺の延年(2)
- 第 5 回 項目 宗祇に関して
- 第 6 回 項目 『筑紫道記』の概要
- 第 7 回 項目 『筑紫道記』の舟木記事の問題点
- 第 8 回 項目 『筑紫道記』の吉祥院
- 第 9 回 項目 吉祥院と『番匠観音縁起』
- 第 10 回 項目 『番匠観音縁起』ほかの瑞松庵文書
- 第 11 回 項目 『番匠観音縁起』の注釈1
- 第 12 回 項目 『番匠観音縁起』の注釈2
- 第 13 回 項目 『番匠観音縁起』の注釈3
- 第 14 回 項目 『番匠観音縁起』の注釈4
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポートによって評価する。なお、出席は3分の2以上出席していることが評価の前提となる。その出席条件を満たした者に関して、レポート内容で成績評価を行う。出席状況を点数化して評価に加点することはしない。なお、講義中の授業への参加態度も、若干の考慮に入れる。

教科書・参考書 教科書：プリントを用いる。/ 参考書：プリントを用いる。

メッセージ 半期という短い期間ですが、山口という一地方の古典文学の世界に興味を持ってもらえたら幸いです。

連絡先・オフィスアワー 質問等は講義の前後に受け付ける。また、開講時にメールアドレスを伝えるので、メールによる質問も受け付ける。

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は村上春樹の短編集『パン屋再襲撃』に収められた七つの作品を精読します。

授業の一般目標 本年度の講読は、村上春樹の第一短編集『中国行きのスロウ・ボート』を読みます。彼の手による最初の短編集ということで、その初々しい世界をともに味わいましょう。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 作家としての村上春樹
- 第 3 回 項目 短編集『中国行きのスロウ・ボート』の成立と背景
- 第 4 回 項目 『中国行きのスロウ・ボート』精読
- 第 5 回 項目 『貧乏な叔母さんの話』精読
- 第 6 回 項目 『ニューヨーク炭坑の悲劇』精読
- 第 7 回 項目 『カンガルー通信』精読
- 第 8 回 項目 『午後の最後の芝生』精読
- 第 9 回 項目 『土の中の彼女の小さな犬』精読
- 第 10 回 項目 『シドニーのグリーン・ストリート』精読
- 第 11 回 項目 先行研究論文精読
- 第 12 回 項目 先行研究論文精読
- 第 13 回 項目 先行研究論文精読
- 第 14 回 項目 先行研究論文精読
- 第 15 回 項目 先行研究論文精読

成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 40% 授業態度や授業への参加度 = 10% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 40% 出席 = 10%

教科書・参考書 教科書: 村上春樹『中国行きのスロウ・ボート』(中公文庫) テキストは文栄堂で販売する予定。/ 参考書: 追って指示します。

メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 木曜日午後

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度、後期は南木佳士の『阿弥陀堂だより』を精読する。ご存じの向きもあるかもしれないが、南木佳士は現役の医者である。それ故にその作品世界は、いわゆる作家のそれとは様相を異にしている部分も認められる。その独特の世界観を味わいたいと思う。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 作家南木佳士研究 『阿弥陀堂だより』の成立と背景
- 第 3 回 項目 第 1 章精読
- 第 4 回 項目 第 2 章（前）精読
- 第 5 回 項目 第 2 章（後）精読
- 第 6 回 項目 第 3 章精読
- 第 7 回 項目 第 4 章（前）精読
- 第 8 回 項目 第 4 章（後）精読
- 第 9 回 項目 第 5 章（前）精読
- 第 10 回 項目 第 5 章（後）精読
- 第 11 回 項目 第 6 章精読
- 第 12 回 項目 映画『阿弥陀堂だより』鑑賞
- 第 13 回 項目 映画と小説の間に
- 第 14 回 項目 作品論『阿弥陀堂だより』
- 第 15 回 項目 作品論『阿弥陀堂だより』

成績評価方法（総合）宿題／授業外レポート＝40％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）＝40％ 出席＝10％

教科書・参考書 教科書：文庫『阿弥陀堂だより』（文藝春秋）／参考書：追って指示する予定。

メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：木曜日午後

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『伊勢物語』の講読 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体）『伊勢物語』の中から主要な章段を抜き出し、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・問題点・鑑賞などを載せた資料を作成し、発表することになる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 文献案内
- 第 3 回 項目 十段・十二段・十三段 内容 たのむの雁 / 盗人 / 武蔵鑑
- 第 4 回 項目 十七段・十八段・十九段・二十段 内容 年にまれなる人 / 白菊 / 天雲のよそ / 楓のもみぢ
- 第 5 回 項目 二十一段・二十二段 内容 おのが世々 / 千夜を一夜
- 第 6 回 項目 二十四段・二十七段 内容 梓弓 / たらひの影
- 第 7 回 項目 三十一段・三十二段・三十三段・三十四段・三十五段・三十六段 内容 よしや草葉よ / 倭文の苧環 / こもり江 / つれなかりける人 / あわ緒 / 玉葛
- 第 8 回 項目 三十七段・三十八段・三十九段 内容 下紐 / 恋といふ / 源の至
- 第 9 回 項目 四十段・四十一段 内容 すける物思ひ / 紫
- 第 10 回 項目 四十二段・四十三段 内容 誰が通ひ路 / 名のみ立つ
- 第 11 回 項目 四十五段・四十六段 内容 行く螢 / うるはしき友
- 第 12 回 項目 五十八段・六十一段 内容 荒れたる宿 / 染河
- 第 13 回 項目 六十段・六十二段 内容 花橘 / こけるから
- 第 14 回 項目 八十四段・八十五段 内容 さらぬ別れ / 目離れせぬ雪
- 第 15 回 項目 九十四段・九十六段 内容 紅葉も花も / 天の逆手

成績評価方法（総合）発表資料・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新版 伊勢物語, 石田穰二, 角川ソファイア文庫, 2003 年; 山大生協ブックセンター(大学会館内)で取扱。 / 参考書：新編日本古典文学全集『伊勢物語』, 福井貞助, 小学館, 1994 年; 新日本古典文学大系『伊勢物語』, 秋山虔, 岩波書店, 1997 年

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『枕草子』の講読 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体）『枕草子』の中から日記的章段を取り上げ、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・鑑賞・問題点などを載せた資料を作成して発表することになる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 文献案内
- 第 3 回 項目 「五、大進生昌が家に」
- 第 4 回 項目 「六、上にさぶらふ御猫は」
- 第 5 回 項目 「二〇、清涼殿の丑寅の隅の」
- 第 6 回 項目 「四六、職の御曹司の西面の」
- 第 7 回 項目 「七八、頭の中将の、すずろなるそら言を聞きて」
- 第 8 回 項目 「七九、返る年の二月廿よ日」
- 第 9 回 項目 「八〇、里にまかでたるに」
- 第 10 回 項目 「八三、職の御曹司におはしますころ」
- 第 11 回 項目 「九五、五月の御精進のほど」
- 第 12 回 項目 「一〇〇、淑景舎、春宮にまゐりたまふほどのことなど」
- 第 13 回 項目 「一三八、殿などのおはしまさで後」
- 第 14 回 項目 「一五六、故殿の御服のころ」(1)
- 第 15 回 項目 「一五六、故殿の御服のころ」(2)

成績評価方法（総合）資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新版 枕草子 上巻, 石田穰二, 角川ソフィア文庫, 2005 年; 山大生協ブックセンター(大学会館内)で取扱。 / 参考書：新編日本古典文学全集『枕草子』, 松尾聰・永井和子, 小学館, 1997 年; 新日本古典文学大系『枕草子』, 渡辺実, 岩波書店, 1991 年; 枕草子解環(一)~(五), 萩谷朴, 同朋舎出版, 1981 年; 枕草子大事典, 雨海博洋ほか, 勉誠出版, 2001 年; 新潮日本古典集成『枕草子 上・下』, 萩谷朴, 新潮社, 1977 年

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【西鶴『好色五人女』お夏清十郎を読む】『好色五人女』は、貞享三（1686）年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。本演習では、『五人女』刊行より約二十年前、播州姫路で実際に起きた駆け落ち事件に取材した、巻一「姿姫路清十郎物語」をとりあげる。前期は、前半三章により、在原業平の再来たる超色男の清十郎と、十六歳にして島原の太夫にまさる美形と噂されるお夏が、互いの青春を燃焼するかのごとき激しい情愛の道にのめり込んでいく過程を精読したい。演劇的手法、挿絵に仕掛けられた謎、可笑性や物語展開のポイントなど、西鶴文体の魅力を多角的に検証して読み深める。

授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

授業の計画（全体） 初回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第2回時に「恋は闇夜を昼の国」を講述・通読したうえで、第3回以降は、「くけ帯よりあらはるゝ文」「太鼓による獅子舞」の章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- | | | | | |
|--------|----|-----------|----|-----------------------------|
| 第 1 回 | 項目 | イントロダクション | 内容 | 『好色五人女』概説・発表資料作成の手引き・発表分担決定 |
| 第 2 回 | 項目 | 首章概説 | 内容 | 巻一 「恋は闇夜を昼の国」講読 |
| 第 3 回 | 項目 | 発表（1） | 内容 | 巻一 二「くけ帯よりあらはるゝ文」輪読（1） |
| 第 4 回 | 項目 | 発表（2） | 内容 | 巻一 二「くけ帯よりあらはるゝ文」輪読（2） |
| 第 5 回 | 項目 | 発表（3） | 内容 | 巻一 二「くけ帯よりあらはるゝ文」輪読（3） |
| 第 6 回 | 項目 | 発表（4） | 内容 | 巻一 二「くけ帯よりあらはるゝ文」輪読（4） |
| 第 7 回 | 項目 | 発表（5） | 内容 | 巻一 二「くけ帯よりあらはるゝ文」輪読（5） |
| 第 8 回 | 項目 | 発表（6） | 内容 | 巻一 二「くけ帯よりあらはるゝ文」輪読（6） |
| 第 9 回 | 項目 | 発表（7） | 内容 | 巻一 二「くけ帯よりあらはるゝ文」輪読（7） |
| 第 10 回 | 項目 | 発表（8） | 内容 | 巻一 三「太鼓による獅子舞」輪読（1） |
| 第 11 回 | 項目 | 発表（9） | 内容 | 巻一 三「太鼓による獅子舞」輪読（2） |
| 第 12 回 | 項目 | 発表（10） | 内容 | 巻一 三「太鼓による獅子舞」輪読（3） |
| 第 13 回 | 項目 | 発表（11） | 内容 | 巻一 三「太鼓による獅子舞」輪読（4） |
| 第 14 回 | 項目 | 発表（12） | 内容 | 巻一 三「太鼓による獅子舞」輪読（5） |
| 第 15 回 | 項目 | 発表予備日 | | |

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 対訳西鶴全集 3 好色五人女・好色一代女，麻生磯次・富士昭雄訳注，明治書院，1974 年； 演習 好色五人女，堀章男編，和泉書院，1985 年； 『演習 好色五人女』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。対訳西鶴全集については当該箇所をプリント配付する。 / 参考書： 授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【西鶴『好色五人女』お夏清十郎を読む】『好色五人女』は、貞享三（1686）年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。本演習では、『五人女』刊行より約二十年前、播州姫路で実際に起きた駆け落ち事件に取材した、巻一「姿姫路清十郎物語」をとりあげる。後期は、後半三章により、恋の逃避行の緊迫が、一転、同じ船に乗り合わせた飛脚屋の間抜けさのせいで笑劇に帰したかと思いきや、さらに清十郎とお夏の悲劇的末路に転ずる、息をも継がせぬ展開の妙を精読したい。演劇的手法、挿絵に仕掛けられた謎、可笑性や物語展開のポイントなど、西鶴文体の魅力を多角的に検証して読み深める。

授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

授業の計画（全体） 初回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第2回時に前期講読分の前半三章を通読したうえで、第3回以降は、「状箱は宿へ置て来た男」「命のうちの七百両の金」の二章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- | | | | | |
|--------|----|-----------|----|----------------------------------|
| 第 1 回 | 項目 | イントロダクション | 内容 | 『好色五人女』概説・発表資料作成の手引き・発表分担決定 |
| 第 2 回 | 項目 | 前期講読内容の確認 | 内容 | 巻一 一「恋は闇夜を昼の国」から巻一 三「太鼓による獅子舞」通読 |
| 第 3 回 | 項目 | 発表（1） | 内容 | 巻一 四「状箱は宿に置て来た男」輪読（1） |
| 第 4 回 | 項目 | 発表（2） | 内容 | 巻一 四「状箱は宿に置て来た男」輪読（2） |
| 第 5 回 | 項目 | 発表（3） | 内容 | 巻一 四「状箱は宿へ置て来た男」輪読（3） |
| 第 6 回 | 項目 | 発表（4） | 内容 | 巻一 四「状箱は宿へ置て来た男」輪読（4） |
| 第 7 回 | 項目 | 発表（5） | 内容 | 巻一 四「状箱は宿へ置て来た男」輪読（5） |
| 第 8 回 | 項目 | 発表（6） | 内容 | 巻一 四「状箱は宿へ置て来た男」輪読（6） |
| 第 9 回 | 項目 | 発表（7） | 内容 | 巻一 四「状箱は宿へ置て来た男」輪読（7） |
| 第 10 回 | 項目 | 発表（8） | 内容 | 巻一 四「状箱は宿へ置て来た男」輪読（8） |
| 第 11 回 | 項目 | 発表（9） | 内容 | 巻一 五「命のうちの七百両の金」輪読（1） |
| 第 12 回 | 項目 | 発表（10） | 内容 | 巻一 五「命のうちの七百両の金」輪読（2） |
| 第 13 回 | 項目 | 発表（11） | 内容 | 巻一 五「命のうちの七百両の金」輪読（3） |
| 第 14 回 | 項目 | 発表（12） | 内容 | 巻一 五「命のうちの七百両の金」輪読（4） |
| 第 15 回 | 項目 | 発表予備日 | | |

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 対訳西鶴全集 3 好色五人女・好色一代女、麻生磯次・富士昭雄訳注、明治書院、1974年； 演習 好色五人女、堀章男編、和泉書院、1985年； 『演習 好色五人女』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。対訳西鶴全集については当該箇所をプリント配付する。 / 参考書： 授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国文研究室・図書館オリエンテーション
- 第 3 回 項目 1 作家論 幸田露伴 2 『五重塔』の成立と背景
- 第 4 回 項目 1 『五重塔』論 2 『五重塔』論
- 第 5 回 項目 1 作家論 泉鏡花 2 『高野聖』の成立と背景
- 第 6 回 項目 1 『高野聖』論 2 『高野聖』論
- 第 7 回 項目 1 作家論 有島武郎 2 『或る女』の成立と背景
- 第 8 回 項目 1 『或る女』論 2 『或る女』論
- 第 9 回 項目 1 作家論 三島由紀夫 2 『仮面の告白』の成立と背景
- 第 10 回 項目 1 『仮面の告白』論 2 『仮面の告白』論
- 第 11 回 項目 1 作家論 吉本(よしも)ばなな 2 『キッチン』の成立と背景
- 第 12 回 項目 1 『キッチン』論 2 『キッチン』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 50% 授業態度や授業への参加度 = 10% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30% 出席 = 10%

教科書・参考書 教科書: 幸田露伴、文庫『五重塔』、岩波書店 泉鏡花、文庫『歌行燈・高野聖』、新潮社 有島武郎、文庫『或る女』、新潮社 三島由紀夫、文庫『仮面の告白』、新潮社 吉本(よしもと)ばなな、文庫『キッチン』、新潮社 読書会で取り上げる作品については、授業開始後受講生と相談の上、作品を決定いたします。なおテキストは全て文栄堂で販売しますので、各自購入しておくこと。/ 参考書: 適宜、指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 木曜日午後

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 中也記念館見学(あくまでも予定です。)
- 第 3 回 項目 1 作家論 徳富蘆花 2 『不如帰』の成立と背景
- 第 4 回 項目 1 『不如帰』論 2 『不如帰』論
- 第 5 回 項目 1 作家論 小林多喜二 2 『蟹工船』の成立と背景
- 第 6 回 項目 1 『蟹工船』論 2 『蟹工船』論
- 第 7 回 項目 1 作家論 井伏鱒二 2 『山椒魚』の成立と背景
- 第 8 回 項目 1 『山椒魚』論 2 『山椒魚』論
- 第 9 回 項目 1 作家論 坂口安吾 2 『桜の森の満開の下』の成立と背景
- 第 10 回 項目 1 『桜の森の満開の下』論 2 『桜の森の満開の下』論
- 第 11 回 項目 1 作家論 福永武彦 2 『草の花』の成立と背景
- 第 12 回 項目 1 『草の花』論 2 『草の花』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表(プレゼン) や授業内での制作作業(作品) = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書: 徳富蘆花、文庫『不如帰』、岩波書店 小林多喜二、文庫『蟹工船・一九二八・三・一五』、岩波書店 井伏鱒二、文庫『山椒魚』、新潮社 福永武彦、文庫『草の花』、新潮社 テキストは全て文栄堂で販売します。 / 参考書: 適宜指示します。

メッセージ 読書会でとりあげるについては、受講生と相談の上、取り上げる作品を決定します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 木曜日午後

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。

授業の一般目標 この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 大田純子『未定』
- 第3回 項目 太田裕美 よしもとばなな『未定』
- 第4回 項目 日高麻美『未定』
- 第5回 項目 山本智美 室生犀星『未定』
- 第6回 項目 山本百合亜 中島敦『未定』
- 第7回 項目 中間まとめ
- 第8回 項目 個別指導
- 第9回 項目 個別指導
- 第10回 項目 個別指導
- 第11回 項目 個別指導
- 第12回 項目 個別指導
- 第13回 項目 個別指導
- 第14回 項目 個別指導
- 第15回 項目 前期末まとめ

成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度 = 30% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30% 演習 = 30% 出席 = 10%

教科書・参考書 教科書: 統一した教科書などは使用しません。/ 参考書: 個別指導します。

メッセージ 卒論のテーマは題目提出(6月末)までは変更可能です。ですからテーマは当然、仮のものです。発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 木曜日午後

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。

授業の一般目標 この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 大田純子『未定』
- 第3回 項目 太田裕美 よしもとばなな『未定』
- 第4回 項目 日高麻美『未定』
- 第5回 項目 山本智美 室生犀星『未定』
- 第6回 項目 山本百合亜 中島敦『未定』
- 第7回 項目 中間まとめ
- 第8回 項目 個別指導
- 第9回 項目 個別指導
- 第10回 項目 個別指導
- 第11回 項目 個別指導
- 第12回 項目 個別指導
- 第13回 項目 個別指導
- 第14回 項目 個別指導
- 第15回 項目 前期末まとめ

成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度 = 30% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30% 演習 = 30% 出席 = 10%

教科書・参考書 教科書: 統一した教科書などは使用しません。/ 参考書: 個別指導します。

メッセージ 発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 木曜日午後

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『源氏物語』の研究 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』を対象として、受講者各自が研究課題を見つけ、考察した内容を発表する。受講者は(1)問題の所在、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載した資料を作成し、発表に臨む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの発表 (1)
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表 (2)
- 第 4 回 項目 用例調査の結果報告 (1)
- 第 5 回 項目 用例調査の結果報告 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 8 回 項目 研究発表 (1)
- 第 9 回 項目 研究発表 (2)
- 第 10 回 項目 研究発表 (3)
- 第 11 回 項目 研究発表 (4)
- 第 12 回 項目 研究発表 (5)
- 第 13 回 項目 研究発表 (6)
- 第 14 回 項目 研究発表 (7)
- 第 15 回 項目 研究発表 (8)

成績評価方法 (総合) 資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年 / 参考書：新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』, 柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎, 岩波書店, 1999 年; 新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997 年; 源氏物語事典, 林田孝和・原岡文子ほか, 大和書房, 2002 年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005 年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全 5 冊, 柳井滋・室伏信助ほか, 岩波書店, 1993 年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編, 勉誠出版, 2005 年; 源氏物語評釈 全 14 冊, 玉上琢弥, 角川書店, 1969 年

メッセージ 『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第 1 回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『源氏物語』の研究。 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』を対象として、受講者各自が研究課題を見つけ、考察した内容を発表する。受講者は(1)問題の所在、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載した資料を作成し、発表に臨む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの発表(1)
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表(2)
- 第 4 回 項目 用例調査の結果報告(1)
- 第 5 回 項目 用例調査の結果報告(2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集(1)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の収集(2)
- 第 8 回 項目 研究発表(1)
- 第 9 回 項目 研究発表(2)
- 第 10 回 項目 研究発表(3)
- 第 11 回 項目 研究発表(4)
- 第 12 回 項目 研究発表(5)
- 第 13 回 項目 研究発表(6)
- 第 14 回 項目 研究発表(7)
- 第 15 回 項目 研究発表(8)

成績評価方法(総合) 資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全6冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998年 / 参考書：新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』, 柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎, 岩波書店, 1999年; 新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997年; 源氏物語事典, 林田孝和・原岡文子ほか, 大和書房, 2002年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全43冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全5冊, 柳井滋・室伏信助ほか, 岩波書店, 1993年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編, 勉誠出版, 2005年; 源氏物語評釈 全14冊, 玉上琢弥, 角川書店, 1969年

メッセージ 『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第1回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学を研究対象としている4年生のための演習。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中古文学を研究するための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：中古文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に中古文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：中古文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 研究課題に関する先行研究の状況を調査し、研究史として構築する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 文献案内(1)
- 第3回 項目 文献案内(2)
- 第4回 項目 研究課題の確定
- 第5回 項目 問題提起(1)
- 第6回 項目 問題提起(2)
- 第7回 項目 問題提起(3)
- 第8回 項目 先行論文の蒐集(1)
- 第9回 項目 先行論文の蒐集(2)
- 第10回 項目 先行論文の蒐集(3)
- 第11回 項目 先行研究の状況について(1)
- 第12回 項目 先行研究の状況について(2)
- 第13回 項目 先行研究の状況について(3)
- 第14回 項目 問題提起の再検討(1)
- 第15回 項目 問題提起の再検討(2)

成績評価方法(総合) 資料の完成度、発表内容、レポートによる。

教科書・参考書 教科書：各自に指示する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー morino@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 5・6時限

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学を研究対象としている4年生のための演習。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中古文学を研究するための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：中古文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に中古文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：中古文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 研究課題の進行状況を資料化し、発表していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 資料の検討(1)
- 第3回 項目 資料の検討(2)
- 第4回 項目 資料の検討(3)
- 第5回 項目 レジュメの作成(1)
- 第6回 項目 レジュメの作成(2)
- 第7回 項目 レジュメの作成(3)
- 第8回 項目 個別発表(1)
- 第9回 項目 個別発表(2)
- 第10回 項目 個別発表(3)
- 第11回 項目 論文要旨の発表(1)
- 第12回 項目 論文要旨の発表(2)
- 第13回 項目 論文要旨の発表(3)
- 第14回 項目 質疑応答
- 第15回 項目 総括

成績評価方法(総合) 資料の完成度と発表内容による。

教科書・参考書 教科書：各自に指示する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 水曜日5・6時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【『大坂独吟集』由平独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。前期は、下巻所収の由平独吟「鼻のあなや」百韻の前半二折表（にのりおもて）までをとりあげる。連句と評語がおりなす、師弟のコラボレーションにも注目しよう。／検索キーワード『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因

授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画（全体） 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が3句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回	項目	イントロダクション・概説（1）	内容	『大坂独吟集』概説・発表分担決定
第 2 回	項目	概説（2）	内容	連句のルール（1）
第 3 回	項目	概説（3）	内容	連句のルール（2） 発表資料作成の手引き
第 4 回	項目	発表（1）	内容	「鼻のあなや」の巻初折表 1 3 句註釈
第 5 回	項目	発表（2）	内容	「鼻のあなや」の巻初折表 4 6 句註釈
第 6 回	項目	発表（3）	内容	「鼻のあなや」の巻初折表 7 裏 1 句註釈
第 7 回	項目	発表（4）	内容	「鼻のあなや」の巻初折裏 2 4 句註釈
第 8 回	項目	発表（5）	内容	「鼻のあなや」の巻初折裏 5 7 句註釈
第 9 回	項目	発表（6）	内容	「鼻のあなや」の巻初折裏 8 10 句註釈
第 10 回	項目	発表（7）	内容	「鼻のあなや」の巻初折裏 11 13 句註釈
第 11 回	項目	発表（8）	内容	「鼻のあなや」の巻初折裏 14 二折表 2 句註釈
第 12 回	項目	発表（9）	内容	「鼻のあなや」の巻二折表 3 5 句註釈
第 13 回	項目	発表（10）	内容	「鼻のあなや」の巻二折表 6 8 句註釈
第 14 回	項目	発表（11）	内容	「鼻のあなや」の巻二折表 9 11 句註釈
第 15 回	項目	発表（12）	内容	「鼻のあなや」の巻二折表 12 14 句註釈

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年； 当該箇所をプリント配布する。 / 参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年； 新版連句への招待, 乾裕幸・白石悌三, 和泉書院, 1989 年； 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【『大坂独吟集』由平独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。後期は、下巻所収の由平独吟「鼻のあなや」百韻の二折裏（にのおりうら）以降をとりあげる。連句と評語がおりなす、師弟のコラボレーションにも注目しよう。／検索キーワード 『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因

授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画（全体） 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が3句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回	項目	イントロダクション・概説（1）	内容	『大坂独吟集』概説・発表分担決定
第 2 回	項目	概説（2）	内容	連句のルール（1）
第 3 回	項目	概説（3）	内容	連句のルール（2） 発表資料作成の手引き
第 4 回	項目	発表（1）	内容	「鼻のあなや」の巻二折裏 1 3 句註釈
第 5 回	項目	発表（2）	内容	「鼻のあなや」の巻二折裏 4 6 句註釈
第 6 回	項目	発表（3）	内容	「鼻のあなや」の巻二折裏 7 9 句註釈
第 7 回	項目	発表（4）	内容	「鼻のあなや」の巻二折裏 10 12 句註釈
第 8 回	項目	発表（5）	内容	「鼻のあなや」の巻二折裏 13 三折表 1 句註釈
第 9 回	項目	発表（6）	内容	「鼻のあなや」の巻三折表 2 4 句註釈
第 10 回	項目	発表（7）	内容	「鼻のあなや」の巻三折表 5 7 句註釈
第 11 回	項目	発表（8）	内容	「鼻のあなや」の巻三折表 8 10 句註釈
第 12 回	項目	発表（9）	内容	「鼻のあなや」の巻三折表 11 13 句註釈
第 13 回	項目	発表（10）	内容	「鼻のあなや」の巻三折表 14 裏 2 句註釈
第 14 回	項目	発表（11）	内容	「鼻のあなや」の巻三折裏 3 5 句註釈
第 15 回	項目	発表（12）	内容	「鼻のあなや」の巻三折裏 6 8 句註釈

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年；当該箇所をプリント配布する。／参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年；新版連句への招待, 乾裕幸・白石悌三, 和泉書院, 1989 年；当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 卒業論文執筆に向け、作品作家の選定・先行研究の検索と収集・研究史の把握・論文テーマの設定について、個別に指導する。

授業の一般目標 卒業論文執筆のための具体的方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 関心・意欲の観点： 1. 選定した作家や作品について適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。 3. 設定した論文テーマについて適切に説明することができる。 態度の観点： 1. 論文作成に向けたスケジュールを自ら設定し管理することができる。

授業の計画(全体) 全体を4ステップに分け、提出レポートに基づいた個別面談で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション 内容 1. 卒業論文に向けた心構え 2. 卒業論文提出までのスケジュール確認 3. 各ステップの概要 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目 ステップ(1)-1 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)
- 第3回 項目 ステップ(1)-2 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)
- 第4回 項目 ステップ(1)-3 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)
- 第5回 項目 ステップ(1)-4 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)
- 第6回 項目 ステップ(2)-1 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)
- 第7回 項目 ステップ(2)-2 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)
- 第8回 項目 ステップ(2)-3 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)
- 第9回 項目 ステップ(2)-4 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)
- 第10回 項目 ステップ(3)-1 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)
- 第11回 項目 ステップ(3)-2 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)
- 第12回 項目 ステップ(3)-3 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)
- 第13回 項目 ステップ(3)-4 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)
- 第14回 項目 ステップ(4)-1 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談
- 第15回 項目 ステップ(4)-2 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談

成績評価方法(総合) 主にレポート(1)(2)(3)の内容により評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書：使用しない。 / 参考書：授業(個別面談)時に個別に指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 卒業論文完成に向け、論文テーマの確立・論文の構成について、個別に指導する。

授業の一般目標 卒業論文の完成を目指す。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：1. 論文テーマについて多角的に考察を進めることができる。2. 論文の構成を自ら設定することができる。 関心・意欲の観点：1. 論文テーマについて適切に説明することができる。2. 論文の構成について適切に説明することができる。 態度の観点：1. 論文テーマについて異見を受容することができる。2. 論文の構成について異見を受容することができる。

授業の計画(全体) 全体を4ステップに分け、ステップ(5)では個別の経過報告、ステップ(6)では各自20分程度の中間発表、ステップ(7)では論文構成についての個別面談、ステップ(8)では論文草稿に基づいた個別面談を行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ステップ(5)-1 内容 中間発表に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過まとめ
- 第2回 項目 ステップ(5)-2 内容 中間発表に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過まとめ
- 第3回 項目 ステップ(5)-3 内容 中間発表に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過まとめ
- 第4回 項目 ステップ(5)-4 内容 中間発表に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過まとめ
- 第5回 項目 ステップ(6) 内容 中間発表会 授業外指示 口頭発表レジュメ
- 第6回 項目 ステップ(7)-1 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文構成試案
- 第7回 項目 ステップ(7)-2 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文構成試案
- 第8回 項目 ステップ(7)-3 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文構成試案
- 第9回 項目 ステップ(7)-4 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文構成試案
- 第10回 項目 ステップ(8)-1 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文草稿
- 第11回 項目 ステップ(8)-2 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文草稿
- 第12回 項目 ステップ(8)-3 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文草稿
- 第13回 項目 ステップ(8)-4 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文草稿
- 第14回 項目 ステップ(8)-5 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文草稿
- 第15回 項目 ステップ(8)-6 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文草稿

成績評価方法(総合) 主に中間発表と論文草稿により評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書：使用しない。/ 参考書：授業(個別面談)時に個別に指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化学科 中国語文化論コース

開設科目	中国語学概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 教科書の叙述に沿いつつ、中国語学に関する基礎知識を講義する。前期の本講義では、現代中国の共通語と方言・中国語の音声・漢字について概説する。 / 検索キーワード 中国語、普通話、方言、音声、漢字

授業の一般目標 (1) 現代中国語の共通語とその形成の歴史について理解する。(2) 現代中国語の方言分布について理解する。(3) 中国語の音声・音韻について基本知識を会得する。(4) 漢字の構造と書体の変遷について初歩的知識を会得する。(5) 中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 中国が多民族・多言語国家であることを理解する。2. 現代中国語の共通語とその形成の歴史について簡単な説明ができる。3. 現代中国語の方言分布について説明ができる。4. 中国語の音声的特徴について簡単な説明ができる。5. 漢字の構造とその変遷について簡単な説明ができる。 関心・意欲の観点: 中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。

授業の計画(全体) ほぼ次のような順序で講義をすすめる予定である。 第1回 - 第3回「中国と中国語」(共通語や方言の問題を扱う。) 第4回 - 第9回「中国語の音」(音声学の初歩・共通語の音声的特徴など) 第10回 - 第14回「中国の文字」(漢字をめぐる初歩知識)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 内容 中国の民族と言語・中国語の歴史
- 第 2 回 内容 中国語の方言
- 第 3 回 内容 共通語について
- 第 4 回 内容 中国語の音節の構造音声とその単位
- 第 5 回 内容 母音と子音
- 第 6 回 内容 同上
- 第 7 回 内容 同上
- 第 8 回 内容 まとめ
- 第 9 回 項目 復習・補足
- 第 10 回 内容 文字について
- 第 11 回 内容 漢字の起源と変遷
- 第 12 回 内容 漢字の起源と変遷
- 第 13 回 内容 六書 (1)
- 第 14 回 内容 六書 (2)
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらおう。また、授業中に設問に答えてもらうほか、随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 参考書: 現代漢語方言, せん伯慧, 光生館, 1983年; 中国の諸言語, S・R・ラムゼイ, 大修館書店, 1990年; 中国語学習ハンドブック 改訂版, 相原茂, 大修館書店, 1996年; 現代中国語総説, 北京大学中国語言文学系現代漢語教研室, 三省堂, 2004年

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー: 月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 前期に引き続き、中国語学に関する基礎知識を講義する。本講義では、中国の文字改革（言語の統一や、文字の簡略化・表音化）と辞書の歴史等について概説する。中国語は発音を直接には表示しない漢字という特殊な文字で書かれるため、漢字で書かれる書面語が、中国語が内包する多様な方言差を覆い隠す「目で見える共通語」としての役割を果たしてきたが、近代に入ると、教育の普及などの目的から、話される共通語の制定が急務とされ、表音システムの作成、漢字の字形の簡略化などの事業が取り組まれるようになった。それらの事業を総合して「文字改革」という。本講義ではその基礎知識をマスターしてもらえるように平易な解説を心がけたい。また、中国では古くから各種の字典が編まれてきた歴史がある。日本の漢和辞典の編集の根幹にもなっている「部首」の始まりや、発音別配列字典である「韻書」について、また一連の類義語辞典などについても概説できれば幸いである。 / 検索キーワード 中国語、文字改革、辞書

授業の一般目標 (1) 中国の文字改革の概略を理解する。(2) 中国の辞書の歴史について概略を理解する。(3) 中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 中国の文字改革について簡単な説明ができる。 2 . 中国の辞書の歴史について簡単な説明ができる。 関心・意欲の観点： 中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。

授業の計画(全体) ほぼ次のような順序で授業をすすめる。 第1回 - 第7回 「中国の文字改革」 第8回 - 第14回 「中国の辞書の歴史」

成績評価方法(総合) おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらおう。また、授業中に設問に答えてもらうほか、随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：中国語学習ハンドブック 改訂版, 相原茂, 大修館書店, 1996年; 現代中国語総説, 北京大学中国語文学系現代漢語教研室, 三省堂, 2004年

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 現代中国語(普通話)の発音について音声学的・音韻論的に考究し、方言との関係についても考察する。

授業の一般目標 (1) 現代中国語の発音について、区別の勘所がわかる。(2) 国際音声字母が理解できる。(3) 漢語諸方言と普通話の関係が理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 常用される国際音声字母を見ておおむね理解することができる。2. 漢語諸方言と普通話の関係について簡潔に説明できる。 思考・判断の観点: 現代中国語の発音について、音韻論と音声学の異なる観点から分析することができる。 技能・表現の観点: 現代中国語音が正確に発音できる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめの説明
- 第 2 回 項目 基本概念: 声、韻、調
- 第 3 回 項目 声母(1): 有気音と無気音
- 第 4 回 項目 声母(2): 破裂音、破擦音、摩擦音
- 第 5 回 項目 声母(3): 鼻音、l と r、ゼロ声母
- 第 6 回 項目 韻母(1): 韻母概説
- 第 7 回 項目 韻母(2): 介音と韻尾
- 第 8 回 項目 韻母(3): 母音の音色
- 第 9 回 項目 韻母(4): 音韻論的に韻母を捉える
- 第 10 回 項目 韻母(5): r 化について
- 第 11 回 項目 声調(1): 調類と調値
- 第 12 回 項目 声調(2): 軽声と変調
- 第 13 回 項目 方言と普通話(1)
- 第 14 回 項目 方言と普通話(2)
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。

教科書・参考書 教科書: 教科書は使いません。教官がプリントを用意します。 / 参考書: 中国古典を読むために、頼惟勤、大修館書店、1996年; 中国文化叢書 I 言語、牛島徳次ほか、大修館書店、1967年; 音韻のはなし 中国音韻学の基本知識、李思敬原著、慶谷寿信・佐藤進編訳、光生館、1987年; 中国語音韻論、藤堂明保、江南書院、1957年

連絡先・オフィスアワー 更科慎一 研究室: 人文 516、電話: 933-5250 e-mail: sarasina@yamaguchi-u.ac.jp
来室は在室時に随時可。

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 後期では、中国語の発音の歴史を学ぶ。現代中国語音からさかのぼって元代にたどり着く。

授業の一般目標 (1) 現代中国語の発音が、ある歴史的経緯によって成立したものであるという視点を持つ。
(2) 国際音声字母を理解する能力を養う。(3) 中国の伝統的音韻学の基礎的概念を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 常用される国際音声字母を見ておおむね理解することができる。
2. 中国の伝統的音韻学の基礎的な術語を理解することができる。 思考・判断の観点： 1. 現代標準中国語音、現代中国語諸方言音、日本漢字音などの間には規則的な対応関係があり、その背景には言語変化の一般的法則があるという視点を持つ。 2. 伝統的な音韻学と現代音韻学の探求するものの共通点と相違点を認識する。 3. 現代的音韻論の基本的考え方を理解し、具体的現象の説明に活用できる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめの説明 内容 中国語の発音に関する概説
- 第 2 回 項目 尖音と団音 内容 「経」と「精」が昔は同音ではなかったという話をします。
- 第 3 回 項目 「耶」「約」韻母の成立 内容 「街」「覚」「決」などの古い発音についてお話しします。
- 第 4 回 項目 明代音 内容 明代の中国語を反映する韻書や、その音韻体系について話をします。
- 第 5 回 項目 そり舌音の成立 内容 現代語のそり舌音には歴史的に二つの由来があるという話をします。
- 第 6 回 項目 入声 (1) 内容 入声とは何か、普通話では入声がどのように変化しているか、について話をします。
- 第 7 回 項目 入声 (2) 内容 隋唐時代の-k 入声の変遷についてお話しします。
- 第 8 回 項目 -n 韻尾の成立 内容 現代語の-n 韻尾には、古代から-n であったものと、-m が変わって-n になったものがあるという話をします。
- 第 9 回 項目 ゼロ声母の成立 内容 現代語のゼロ声母のいろいろな由来について話をします。
- 第 10 回 項目 元代音 内容 元代の『中原音韻』という韻書、及びその音韻体系についてお話しします。
- 第 11 回 項目 入声について (3) 内容 『中原音韻』で入声がどのように扱われているかについてお話しします。
- 第 12 回 項目 介音の変化 内容 「内」「俗」などの古い発音についてお話しします。
- 第 13 回 項目 平声 内容 声母の有気・無気と声調との関係などについて話をします。
- 第 14 回 項目 全濁音 内容 現代語では失われている全濁音についてお話しします。
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。 / 参考書：中国古典を読むために、頼惟勤、大修館書店、1996 年；中国文化叢書 I 言語、牛島徳次ほか、大修館書店、1967 年；音韻のはなし 中国音韻学の基本知識、李思敬原著、慶谷寿信・佐藤進編訳、光生館、1987 年；中国語音韻論、藤堂明保、江南書院、1957 年

連絡先・オフィスアワー 更科慎一 研究室：人文 516、電話：933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp
来室は在室時に随時可。

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	守屋 宏則				

授業の概要 現代中国語の文法体系を中国語学習に有用な学校文法の観点から総合的に講義する。

授業の一般目標 複合語の構造に始まって、複文内部の論理関係に到るまで、現代中国語の内部に存在する自律的規則を把握し、中国語の理解と運用の能力向上に役立てる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代中国語の文法規則について知識と理解を深める。 思考・判断の観点：中国語の誤用例を見て、どこがどのように誤っているかを考え、判断する。 関心・意欲の観点：母語である日本語、学習経験のある英語と比較対照しながら中国語文法の特徴に対する関心を高める。 態度の観点：言語に内在する文法上の特徴を考えることの楽しさを知る。 技能・表現の観点：現代中国語を雰囲気ではなく、あくまでも理詰めには読解し、さらに文法的に正しい文を書けるようにする。

授業の計画（全体） 現代中国語文法の概要を解説する。さらに練習問題を解きながら理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の進め方の説明 < BR > 現代中国語文法の概要を解説する
- 第 2 回 項目 動詞述語文 内容 動詞述語文について解説する
- 第 3 回 項目 形容詞述語文 内容 形容詞述語文について解説する
- 第 4 回 項目 数詞・量詞・副詞・介詞 内容 項目に掲げた品詞について解説する
- 第 5 回 項目 各種フレーズ 内容 中国語の各種フレーズについて解説する
- 第 6 回 項目 主語・目的語・定語・状語などの文成分 内容 項目に掲げた文成分について解説する
- 第 7 回 項目 補語（1） 内容 数量補語・結果補語・方向補語について解説する
- 第 8 回 項目 補語（2） 内容 可能補語・様態補語について解説する
- 第 9 回 項目 アスペクト 内容 完了・経験・持続などのアスペクトについて解説する
- 第 10 回 項目 疑問文 内容 各種の疑問文について解説する
- 第 11 回 項目 複文 内容 複文の分類・複文の型などについて解説する
- 第 12 回 項目 受動文・使役文・処置文 内容 項目に掲げた文型について解説する
- 第 13 回 項目 存現文・連動文・「是～的」文 内容 項目に掲げた文型について解説する
- 第 14 回 項目 未来の表現・比較の表現 内容 項目に掲げた表現形式について解説する
- 第 15 回 項目 総括説明・質疑応答・試験 内容 現代中国語文法の特徴について総括説明する < BR > 質疑応答を通じて理解を深める < BR > 試験を実施する

成績評価方法（総合）最後の授業時に筆記試験を行う。

教科書・参考書 教科書：やさしくくわしい中国語文法の基礎, 守屋宏則, 東方書店, 1995 年

備考 集中授業

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 ふつう、「中国語」と呼ばれる言語は、現代北京の音韻体系を規範とする中国の標準語「普通話」である。現代北京語は、このように普通話の骨組を為しているが、あたかも日本語の標準語に対する東京弁の如く、人民の中で生き、変化し続けている方言の一つなのであって、普通話そのものとは区別される。本授業では、現代北京語の音韻、語彙、文法などに関して、現代中国語で書かれた文献を読む。学生の皆さんが中国語学研究への道を敷設するのに、あるいは役立つかもしれない。 / 検索キーワード 北京語 普通話

授業の一般目標 (1) 現代北京語の特徴や、現代北京語と普通話との関係等について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現代北京語の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 現代北京語と普通話の関係を説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。

技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を正しく日本語に訳すことができる。

授業の計画 (全体) この授業は、受講者が共同して、テキストの日本語訳を完成させることを目指す。授業では、その回の発表担当者を事前に決める。発表担当者は、発表日までの間に、テキストの担当部分を日本語に訳しておく。授業において、担当者は自分の作ってきた訳をプリントして授業参加者に配り、担当部分を一文ずつ中国語で音読したあと、該当箇所の日本語訳について説明していく。発表担当者以外の受講者は発表について質問し、あるいは意見を述べ、あるいはより良い日本語訳を提案する。授業が終わった後、発表者は授業の場で出た意見や提案を反映して訳を訂正してこれをレポートとし、教員に提出する(これが成績評価の主な対象となる)。

成績評価方法 (総合) 今年度より、試験は廃止し、レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：講師が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 ふつう、「中国語」と呼ばれる言語は、現代北京の音韻体系を規範とする中国の標準語「普通話」である。現代北京語は、このように普通話の骨組を為しているが、あたかも日本語の標準語に対する東京弁の如く、人民の中で生き、変化し続けている方言の一つなのであって、普通話そのものとは区別される。本授業では、現代北京語の音韻、語彙、文法などに関して、現代中国語で書かれた文献を読む。学生の皆さんが中国語学研究への道を敷設するのに、あるいは役立つかもしれない。 / 検索キーワード 北京語 普通話

授業の一般目標 (1) 現代北京語の特徴や、現代北京語と普通話との関係等について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : 1. 現代北京語の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 現代北京語と普通話の関係を説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。

技能・表現の観点 : 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を正しく日本語に訳すことができる。

授業の計画 (全体) この授業は、受講者が共同して、テキストの日本語訳を完成させることを目指す。授業では、その回の発表担当者を事前に決める。発表担当者は、発表日までの間に、テキストの担当部分を日本語に訳しておく。授業において、担当者は自分の作ってきた訳をプリントして授業参加者に配り、担当部分を一文ずつ中国語で音読したあと、該当箇所の日本語訳について説明していく。発表担当者以外の受講者は発表について質問し、あるいは意見を述べ、あるいはより良い日本語訳を提案する。授業が終わった後、発表者は授業の場で出た意見や提案を反映して訳を訂正してこれをレポートとし、教員に提出する (これが成績評価の主な対象となる)。

成績評価方法 (総合) 今年度より、試験は廃止し、レポート (上記「授業計画」を参照) の提出を課する。いわゆる出席点はない。全体の 2/3 以上出席しない学生には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書 : 講師が授業中に配布するプリントを教科書 (テキスト) とする。

メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように!

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時 : 月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。現代の中国人或いは中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国語で書かれた著作を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。 / 検索キーワード 中国語 文法

授業の一般目標 中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。 思考・判断の観点：現代中国語の文章が読解できる。 関心・意欲の観点：中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。

授業の計画(全体) 中国語文法の特徴や特色ある表現について述べた現代中国の学者の著作を講読し、適宜補足説明を加えることにより、中国語文法について学ぶ。受講者には、初回にテキストのコピーを配布し、次回から、毎回の講読部分の音読・翻訳・練習問題への解答等を課す。

成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：授業中にテキストのコピーを配布します。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 前期の授業に引き続き、中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。現代の中国人或いは中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国語で書かれた著作を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。 / 検索キーワード 中国語 文法

授業の一般目標 中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。 思考・判断の観点：現代中国語の文章が読解できる。 関心・意欲の観点：中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。

授業の計画(全体) 中国語文法の特徴や特色ある表現について述べた現代中国の学者の著作を講読し、適宜補足説明を加えることにより、中国語文法について学ぶ。受講者には、初回にテキストのコピーを配布し、次回から、毎回の講読部分の音読・翻訳・練習問題への解答等を課す。講読文献は、前期の授業に引き続いた内容とする。

成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：授業中にテキストのコピーを配布します。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 受講者は、各自、中国語学に関する研究テーマを1つ選び、調査研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。 / 検索キーワード 中国語学 研究発表

授業の一般目標 中国語学に関して、独自に課題を発見し、調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。 思考・判断の観点：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。 関心・意欲の観点：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・考察を行う姿勢が身に付いている。 態度の観点：1.常に少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・考察を進める。2.他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。 技能・表現の観点：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。

授業の計画(全体) 第1回目の授業で、おのおのの研究テーマを持ち寄り、研究発表の順番を決める。第2回までにテーマを確定し、順次研究発表・討論を行う。学期末に総まとめのレポートを課す。

成績評価方法(総合) 授業中に行う研究発表と学期末のレポートにより評価する。また、授業への参加度として、他の受講者の研究発表に対して行った発言、毎回の研究進捗報告を評価に加える。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 受講者は、各自、前学期に選んだ研究テーマについて、引き続き調査・研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。/ 検索キーワード 中国語学 研究発表

授業の一般目標 中国語学に関して、独自に課題を発見し、学習・調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。 思考・判断の観点：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。 関心・意欲の観点：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・研究を行う姿勢が身に付いている。 態度の観点：1. 常時少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・研究を進める。2. 他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。 技能・表現の観点：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。

授業の計画(全体) 第1回目は、各自の研究についてこれまでの進捗を確認し、第2回より、順次、研究発表と討論を進める。

成績評価方法(総合) 授業中に行う研究発表と、他の受講者の発表に対する発言、及び毎回の研究進捗報告により評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。

授業の一般目標 卒論執筆に向けて、テーマを選び、先行研究文献の検索・収集・消化を行う。その過程で、問題を見つけ、他の受講者や担当教員を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。 思考・判断の観点：1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。 関心・意欲の観点：1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。 態度の観点：1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。 技能・表現の観点：1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。

授業の計画(全体) (1) 中国語学の領域において研究テーマを決定する。(2) テーマの研究資料を決定する。(3) 研究の進捗状況について発表資料(レジюме)を作成し、発表と討論を行う。(4) 期末に、テーマと関連したレポートを提出する。

成績評価方法(総合) (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジюмеと口頭発表 (2) 討論への参加態度 (3) 学期末レポート による。

メッセージ たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで す。そのためにも、いい卒論を書いてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。

授業の一般目標 前期に決定したテーマに沿って、引き続き先行研究文献の検索・収集・消化を行うとともに、研究資料を分析し、検討する。その過程で得られた成果につき、他の受講者や担当教員を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。 2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。 思考・判断の観点： 1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。 2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。 関心・意欲の観点： 1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。 態度の観点： 1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。 技能・表現の観点： 1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。

授業の計画(全体) 研究の進捗状況について発表資料(レジュメ)を作成し、発表と討論を行う。

成績評価方法(総合) (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表 (2) 討論への参加態度による。

メッセージ たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで す。そのためにも、いい卒論を書いてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 中国古代から清朝まで(民国以前)の文学について概観する。 中国文学は「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画(全体) 文献資料を読み進めながら、中国文学の特質『詩経』と『楚辞』、六朝文学、隋・唐代の文学等について言及する予定。

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論, 岩城秀夫, 朋友書店

開設科目	中国文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 「中国文学史 I」に引き続き，中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して，基本的知識を得，個々の作品の読解を通じて，中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画（全体） 文献資料を読み進めながら，宋詞，近世の演劇・小説，元・明・清の文学等について言及する予定。

成績評価方法（総合） 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論，岩城秀夫，朋友書店

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。/ 検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 包拯の伝記 内容 宋史を読む。
- 第 2 回 項目 南宋時代の包拯 伝説 内容 新編醉翁談録を読む。
- 第 3 回 項目 元時代の包拯伝説 内容 元曲選を読む。
- 第 4 回 項目 明時代の包拯伝説 (1) 内容 説唱詞話を読む。
- 第 5 回 項目 明時代の包拯伝説 (2) 内容 百家公案を読む。
- 第 6 回 項目 明時代の包拯伝説 (3) 内容 龍図公案を読む。
- 第 7 回 項目 清時代の包拯伝説 (1) 内容 石派書を読む。
- 第 8 回 項目 清時代の包拯伝説 (2) 内容 龍図耳録を読む。
- 第 9 回 項目 現代の包拯伝説 (1) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 10 回 項目 現代の包拯伝説 (2) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 11 回 項目 包拯の経典 内容 包公明聖經を読む。
- 第 12 回 項目 包拯の祠廟 内容 広東・陳州の包公廟を紹介する。
- 第 13 回 項目 包拯の祠廟 内容 浙江の包公廟を紹介する。
- 第 14 回 項目 包拯の祠廟 内容 湖南・江西の包公廟を紹介する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 包拯伝説の伝播についてまとめる。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開，阿部泰記著，汲古書院，2004 年；中国の公案小説，莊司格一著，研文出版，1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004 年；中国の公案小説, 莊司格一著, 研文出版, 1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大塚 博久				

授業の概要 「古典文学」から「現代文学」への過渡期の状況 中国文学は、時期上「古典文学」と「現代文学」とに大別される。「古典文学」とは、世界文学の中でもっとも古い歴史をもち、独自の文学形式である典故と対句を重んじる「詩文」の豊富な文学遺産をもち、主として士人によって担われた文学であり、ほぼ清朝末期までを指す。これに対して「現代文学」とは 1840 年アヘン戦争以後、西欧の帝国主義の侵略とともに西欧＝「近代」の価値観が中国に及んだいわゆる Western-Impact が文学上にも徐々に影響しはじめ、具体的には 1917 年胡適の「文学改良芻議」(『新青年』誌 2 巻 5 号)における「空虚で陳腐、難解な文語による旧文学の殻を破って口語の文学を創造しよう」との提唱を契機に、五・四「文学革命」運動が起きて以後の近・現代文学を指す。この 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての旧～新「過渡期」(近代文学「胎動期」)の文学思想の具体的様相を明らかにする。/ 検索キーワード 辛亥革命、『新青年』誌、五・四「文学革命」、「五・四」運動、梁啓超、胡適、陳独秀、魯迅。

授業の一般目標 (1) 19 世紀末～20 世紀初頭における「古典文学」世界から「現代文学」世界への過渡期の文学的状況とその歴史的背景について理解する。(2) この時期に出現した文学的主張や運動、とくに「五・四文学革命」について理解する。(3) 個々の作家と作品(翻訳を含む)について興味、関心を深め、その文学的営為の内実を考える。(4) 同時代の日本の作家、作品との関係、影響について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代中国の問題状況、文学史的背景および作家、作品について、理解を深め、説明できる。 思考・判断の観点：関連する研究書や論文を読んで、的確に要点を把握、分析し、自分の見解を持つ。 関心・意欲の観点：中国の「近・現代文学」の作家、作品に今後も興味、関心を持続できる。 態度の観点：これら作品を積極的に読み、鑑賞する習慣を培う。 技能・表現の観点：読解の能力を高め、自分の考えを文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 授業は、この時期の文学・思想上の節目となる出来事、流れ、運動と人物、作品などについて、毎回資料を提示して紹介、解説し、「伝統」的中国社会が接した西洋近代の「異質」な文物に如何に対処、受容し、文学はどのように変容していったか、を理解する。そして、この「近代」世界を果敢に生きた中国人の姿や、心情に関心を持つ。またこの時期を代表するいくつかの「作品」を読むことを通じて当時の「日本文学」との関連についても考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 清朝の危機と「洋務」「变法」自強運動 内容 「亡国の危機感」と「慷慨」の詩人たち 授業外指示 「シラバス」を読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 近代的「報刊」とその啓蒙活動 内容 (1)「循環日報」(2)「時務報」「国聞報」
- 第 3 回 項目 嚴復の近代西洋思潮 内容 嚴復の『天演論』の翻訳と桐城派古文
- 第 4 回 項目 西洋(日本)の「翻訳小説」 内容 林琴南の『巴黎茶花女遺事』と『不如帰』の漢訳など
- 第 5 回 項目 『清議報』『新民叢報』の新文体と「政治小説」 内容 梁啓超の「詩界革命」、「小説界革命」の提唱と『新中国未来記』
- 第 6 回 項目 「譴責小説」の盛行 内容 『官場現形記』『老残遊記』ほか
- 第 7 回 項目 留日学生の動向 「辛亥革命」前後 内容 魯迅の文学的「覚醒」、『域外小説集』と「文化偏至論」など 授業外指示 「呐喊」自序などを予習。
- 第 8 回 項目 『新青年』と文学革命(1) 内容 『新青年』誌の創刊と陳独秀「宣言」
- 第 9 回 項目 『新青年』と文学革命(2) 内容 胡適の「文学改良芻議」と陳独秀「文学革命論」
- 第 10 回 項目 「五・四」運動前後と文学・思想界 内容 李大 の「庶民の勝利」と胡適 「問題と主義」論争および「新旧文学」論争
- 第 11 回 項目 近代小説の誕生 「魯迅の文学」 内容 「狂人日記」、「呐喊」集の小説、「野草」などを読む

- 第12回 項目「文学研究会」の作家たちと『小説月報』内容 日本の文学状況と周作人、沈雁冰らの作品
第13回 項目「創造社」の文学 内容 郭沫若の『女神』、郁達夫『沈淪』など
第14回 項目 五・四退潮期から新旧、左右分裂期を経て「国民革命」へ 内容 「新青年」Gの分裂、左翼文芸運動と「革命文学論戦」、「中国自由運動大同盟」と「左聯」の結成
第15回 項目 新しい作家たちの登場と「三十年代文学」へ(まとめ) 内容 巴金、老舍、丁玲らと「新月派」詩人聞一多ら

成績評価方法(総合) (1)授業によっては、著名な「作品」を指名読解させることがある。(2)試験を行う(自筆のノートの持ち込み可) なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：毎回、講義概要、作品・作家解説、関連資料などを配布。また必要に応じて参考文献を紹介する。

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた韻文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。

教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。

教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。/ 検索キーワード 物語、語り物、演劇

授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。

授業の計画(全体) 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。

成績評価方法(総合) 予習による評価。ノート提出。

教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。/ 参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。/ 検索キーワード 物語、語り物、演劇

授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。

授業の計画(全体) 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。

成績評価方法(総合) 予習による評価。ノート提出。

教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。/ 参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。 / 検索キーワード 卒論作成

授業の一般目標 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究資料の存在を知る。 思考・判断の観点： 研究方法を考える。
 関心・意欲の観点： 関係の書籍を自分で探し出す。 態度の観点： 指導をよく聞き取る。 技能・表現の観点： 論理的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。

成績評価方法（総合） 授業での発表を評価する。

開設科目	中国文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。 / 検索キーワード 卒論作成

授業の一般目標 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究資料の存在を知る。 思考・判断の観点： 研究方法を考える。
 関心・意欲の観点： 関係の書籍を自分で探し出す。 態度の観点： 指導をよく聞き取る。 技能・表現の観点： 論理的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。

成績評価方法（総合） 授業での発表を評価する。

開設科目	中国文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 本授業は卒業論文指導。

授業の一般目標 一年間を通じて着実に研究を進め、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、進捗状況の報告を課す。

成績評価方法（総合） 報告内容により判断する。

開設科目	中国文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 本授業は卒業論文指導。

授業の一般目標 一年間を通じて着実に研究をすすめ、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。

授業の計画（全体） 前期に引き続き、各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、研究の進捗状況の報告を課す。

成績評価方法（総合） 報告内容により判断する。

開設科目	中国語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

授業の概要 本授業は初級中国語を終了、もしくはそれに準ずるレベルの学生を対象とするクラスで、応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかも知れないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。/ 検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。 2、よく使う慣用形、句型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。 3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用形、句型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。 関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

授業の計画(全体) 第一回 【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価など説明する レベル確認の練習をして、その後テキスト、授業計画、参考書を決める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバス、など説明、レベル確認の練習をする
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回 内容 朗読と口述試験

成績評価方法(総合) 1、授業中の発表と内容の難易度。 2、授業外の宿題を数回行う。 3、中間小テストを行う。 4、最後に試験を実施する。

教科書・参考書 教科書：学生全般のレベルなどによって、一回目の授業ガイダンス時に指示する。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した、その教科書を流暢に読める能力は最低限度必要である。若い時に一生懸命に勉強してください。

連絡先・オフィスアワー 研究1号館(311) tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00~18:00

開設科目	中国語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田梅				

授業の概要 前期に続けて通年のクラスである。発音、語彙、文法などの整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかもしれないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。 / 検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。 2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。 3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法できる。 関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分に理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

授業の計画(全体) 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 後期授業が開始 内容 前期の内容に続ける
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回 内容 朗読と口述試験

成績評価方法(総合) 1、授業中の発表と内容の難易度。 2、授業外の宿題を数回行う。 3、中間テストを行う。 4、最後に朗読と口述試験を実施する。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した、その教科書を流暢に読める能力は最低限度必要である。前期中国語演習(会話)も履修するのが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 研究一館(311) tian@yamaguchi-uac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00～18:00

開設科目	中国語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田 梅				

授業の概要 本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで文章の大体の内容が理解できるレベルの学者を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳・誤文訂正など数多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。(授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。) / 検索キーワード 中国語、短文、作文

授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、作文で正確の表現能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用語、文型を身につけて、訳文、作文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

授業の計画(全体) 第一回【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価などを説明する レベル確認の練習をして、それによってテキスト、参考書を決める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバスなどを説明とレベル確認の練習をする。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 内容 前期筆記試験

成績評価方法(総合) 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：一回目受講生の中国語レベルの練習チェックによって決める。

メッセージ 中国語初級 1・2 a/b を習得した者に限る。 受動的ではなく、積極的に学習意欲を持つことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 研究 1 号館(311) tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00 18:00

開設科目	中国語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田 梅				

授業の概要 前期に引き続き、自分の感情や考えを正しく表現できるように一層の実力アップを目指す。
(授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。) / 検索キーワード 中国語、短文、作文

授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用語、句型を身につけて、訳文、作文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

授業の計画(全体) 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 内容 前期の内容に続ける(シラバスを説明する)。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 内容 後期の筆記試験をする

成績評価方法(総合) 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。前期中国語演習(作文)も履修した者が望ましい。

連絡先・オフィスアワー 研究1号館(311) tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00 18:00

開設科目	中国語演習(時事中国語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳 鳳 展				

授業の概要 中国の新聞・雑誌から政治、経済、文化、科学、社会、スポーツの各分野の記事を集めたテキストを使って、いわゆる新聞体の文型、構文、前置詞の使い方や次々と出現する新語等について解説する。

授業の一般目標 中国語の新聞・雑誌・論文が正確に読解できるようになること。

授業の計画(全体) テキストの目次に従って、下記項目を抜粋して授業する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、勉強の仕方、シラバスの説明、成績評価等。
- 第 2 回 項目 LEVEL II 内容 基礎問題 A
- 第 3 回 項目 LEVEL II 内容 基礎問題 B
- 第 4 回 項目 LEVEL II 内容 発展問題
- 第 5 回 項目 LEVEL IV 内容 基礎問題 A
- 第 6 回 項目 LEVEL IV 内容 基礎問題 B
- 第 7 回 項目 LEVEL VI 内容 発展問題
- 第 8 回 項目 LEVEL VI 内容 基礎問題 A
- 第 9 回 項目 LEVEL VI 内容 基礎問題 B
- 第 10 回 項目 LEVEL VI 内容 発展問題
- 第 11 回 項目 LEVEL VIII 内容 基礎問題 A
- 第 12 回 項目 LEVEL VIII 内容 基礎問題 B
- 第 13 回 項目 LEVEL VIII 内容 発展問題
- 第 14 回 項目 期末試験 内容 テキスト外より実力問題を出題する
- 第 15 回

成績評価方法(総合) (1) 期末試験で 60 点以上取ること。(試験は 1 回のみ。評価割合 100%) (2) 全講義回数の四分の三以上出席すること。(欠格条件とします。)

教科書・参考書 教科書: 現代中国放大鏡: 绿色通道, 三瀆正道編著, 朝日出版社, 2002 年; 《現代中国語放大鏡》(绿色通道), 三瀆正道編著, 朝日出版社

メッセージ 上記テキストは文栄堂山大前店で購入して下さい。

開設科目	中国事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳 鳳 展				

授業の概要 1. 漢民族の伝統的な風俗・習慣や物の考え方について、日本のそれと比較しながら話していく。 2. 近年の改革・開放政策による人や社会の変化についてビデオで紹介する。

授業の一般目標 授業計画（授業単位）欄の授業項目に挙げた事項を日本のそれと比較して理解できる。

授業の計画（全体）書きの授業計画（授業単位）のとおり。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方。シラバスの説明。成績評価方法等。
- 第 2 回 項目 中国の国土と人 内容 広大な面積と人口、地勢、豊富な地下資源等について。
- 第 3 回 項目 中国の国土と人 内容 行政区域、多民族国家、中国人の発明等について。
- 第 4 回 項目 中国人の姓名 内容 姓名の来源、中国人の姓名の特長（名のつけ方）。
- 第 5 回 項目 中国人の食事 内容 土地によって主食・副食が異なる。味もちがう。
- 第 6 回 項目 中国人の食事 内容 食事の方式・習慣。料理法。日中の箸のちがひ。
- 第 7 回 項目 中国茶 内容 中国茶の種類と名茶。土地によって茶をのむ習慣が異なる。
- 第 8 回 項目 中国の酒 内容 醸造酒と蒸留酒のそれぞれの名酒。老酒について。
- 第 9 回 項目 伝統的な主要節句 I 内容 春節、元宵節の意義と行事について。
- 第 10 回 項目 伝統的な主要節句 II 内容 端午節、中秋節の意義と行事について。
- 第 11 回 項目 京劇 - 中国の芝居 内容 京劇の特長。京劇の役柄。
- 第 12 回 項目 改革・開放後の人や社会 内容 ビデオで鑑賞
- 第 13 回 項目 改革・開放後の人や社会 内容 ビデオで鑑賞
- 第 14 回 項目 期末試験
- 第 15 回

成績評価方法（総合）(1) 期末試験の成績による。（評価割合 100 %）(2) 全講義回数のおよそ四分之三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

教科書・参考書 教科書：教科書を使用しない。毎回講義する項目の関係資料をプリントして配付します。

言語文化学科 英米語文化論コース

開設科目	現代英米語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語学・言語学がまったくはじめての学生にもわかりやすく、英語言語学の全体像を紹介する。同時に、英文法の基本的かつ重要なトピックスを厳選したサブテキストを用いて、英文法の要点を今一度学ぶ時間にもしたい(授業のはじめの20分をこれに充てる)。

授業の一般目標 英語学研究(そして英語教員になるため)に必要な基礎知識をまんべんなく身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 統語論、意味論、形態論、音声学、音韻論、語用論、英語史、社会言語学、心理言語学といった英語言語学の全領域をカバーする基礎知識を学び、重要概念や分析方法などが理解できるようになる。また、英語のネイティブスピーカーの「感覚」を理解しながら、英語の運用に欠かせない英文法のエッセンスをしっかりと掴む。思考・判断の観点: ことばの音、形、意味を生み出すさまざまな法則に気づき、自らも思考・分析ができるようになる。関心・意欲の観点: 英語の構造の分析を通して、ことばの中に見られる原理・原則や制約の働きに関心を持つ。態度の観点: 「ことばは暗記するもの」という考え方を捨て去る。技能・表現の観点: 本文の英文読解や付属のCDの聞き取りを通して、英語で考え、英語で発表するための素地を作る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Why Study English Linguistics 内容 英語言語学とはどのような分野であり、どのような研究がなされてきたのかを紹介する。授業外指示 Comprehension Check と Exercises をやる。サブテキストを1課ずつ読む。
- 第 2 回 項目 How English Has Changed over the Centuries / サブテキスト第1課 内容 英語の歴史を解説する。 / 前置詞について 授業外指示 "
- 第 3 回 項目 How Words Are Made: Morphology / サブテキスト第2課 内容 語がどのようにして作られるのかを考える。 / 冠詞について 授業外指示 "
- 第 4 回 項目 How Words Mean: Semantics I / サブテキスト第3課 内容 語の意味について考える。 / 指示詞について 授業外指示 "
- 第 5 回 項目 How English Phrases Are Formed: Syntax I / サブテキスト第4課 内容 文を形作る規則について考える。 / 現在完了について 授業外指示 "
- 第 6 回 項目 How English Sentences Are Formed: Syntax II / サブテキスト第5課 内容 " / 進行形について 授業外指示 "
- 第 7 回 項目 How Sentences Mean: Semantics II / サブテキスト第6課 内容 文の意味について考える。 / -ing について 授業外指示 "
- 第 8 回 項目 How to Communicate with Other People: Pragmatics / サブテキスト第7課 内容 会話の原則について考える。 / 未来表現について 授業外指示 "
- 第 9 回 項目 The Sounds of English: Phonetics and Phonology / サブテキスト第8課 内容 英語の音声・音韻的特徴を捉える。 / 助動詞について 授業外指示 "
- 第 10 回 項目 Regional Varieties of English: Sociolinguistics I / サブテキスト第9課 内容 英語の方言について考える。 / 丁寧・婉曲表現について 授業外指示 "
- 第 11 回 項目 English in Society: Sociolinguistics II / サブテキスト第10課 内容 " / 仮定法について 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 How English Is Acquired: Psycholinguistics / サブテキスト第11課 内容 子供の言語習得について考える。 / 動詞・英単語について 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 How English as a Second/Foreign Language Is Acquired: Applied Linguistics / サブテキスト第12課 内容 外国語としての英語の習得について考える。 / 文型について 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 まとめ1 内容 教科書の分かりにくかった箇所を補足する。 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 まとめ2 内容 " 授業外指示 "

成績評価方法 (総合) 毎回教科書にある Comprehension Check と Exercises を宿題とし、その出来具合によって主に評価する。また、サブテキストに関連した簡単なテストを随時行う。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき 5 点ずつ期末評点から減点する。

教科書・参考書 教科書： First Steps in English Linguistics, 影山太郎他, くろしお出版, 2004 年； <サブテキスト> ハートで感じる英文法, 大西泰斗, ポール・マクベイ, 日本放送出版協会, 2005 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代英米語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語の発音に関する正しい知識を伝授した上で、英語の音声や語形成に関する原則や制約を、日本語のそれらとも対照させながら、説明する。また、音節などの韻律単位が言語文化にどのような影響を与えているのかを考える時間にもしたい。

授業の一般目標 日英語の発音や語形成に関する法則を比較し、言語の個別性と普遍性を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語と英語のアクセントの法則の共通性に気づく。新しい語を生み出す法則を知る。 思考・判断の観点：知らない語句のアクセントを予測したり、可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。 関心・意欲の観点：広く人間言語のアクセントの法則に興味を持つ。 態度の観点：「語とそのアクセント（発音）は暗記するもの」という考え方を捨て去る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 英語音声学の基礎（1） 内容 英語の母音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 配布したプリントの図と同じように調音できるようにする。
- 第 2 回 項目 英語音声学の基礎（2） 内容 英語の子音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 "
- 第 3 回 項目 英語音声学の基礎（3） 内容 英語のつづり字と発音の関係について解説する。授業外指示 配布資料の課題を解く。
- 第 4 回 項目 日英語の分節音韻論 内容 母音や子音の体系を解説する。授業外指示 教科書第 1 章を読んでおく。
- 第 5 回 項目 " 内容 母音や子音の変化の法則を説明する。授業外指示 "
- 第 6 回 項目 " 内容 母音や子音の変化に関わる制約について論じる。授業外指示 "
- 第 7 回 項目 日英語の語形成 内容 可能な語を生み出すメカニズムを説明する。授業外指示 "
- 第 8 回 項目 日英語の音節構造 内容 日英語の音節構造について解説する。授業外指示 教科書第 2 章を読んでおく。
- 第 9 回 項目 " 内容 日英語の音節構造の真の違いについて論じる。授業外指示 "
- 第 10 回 項目 日英語の韻律 内容 リズム等の問題を取り上げる。また、韻律が生み出す言語文化について論じる。授業外指示 教科書第 3 章を読んでおく。
- 第 11 回 項目 日英語のアクセント 内容 日英語のアクセントの相違について説明する。授業外指示 教科書第 4 章を読んでおく。
- 第 12 回 項目 日英語のアクセント 内容 日英語のアクセントの共通性について論じる。授業外指示 "
- 第 13 回 項目 文強勢について 内容 英語の文のアクセントについて解説する。授業外指示 配布プリントを読んでおく。
- 第 14 回 項目 方言による発音の違いについて 内容 イギリス英語、アメリカ英語、オーストラリア英語の発音の特徴を解説する。授業外指示 "
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき期末試験から 5 点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書：音韻構造とアクセント，窪園晴夫・太田聡，研究社，1998 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 英語を学び始めたときから誰もが感じる英語に関する素朴な疑問を歴史的に解き明かす。例えば、「規則変化のほかに不規則変化があるのはなぜか」「keep,deepのようにeが二つならイーと読むのに、kept, depthのように1つならエであるのはなぜか」など、最初に疑問点を列挙して、半年後にはそれが説明できるようにする。英語を話す民族の動向をビデオ教材を通じて理解する。 / 検索キーワード 英語史

授業の一般目標 現代英語に関する疑問を共有し、それらを歴史的に説明できるようになる。英語の成立から、現代英語までの概略を把握する。英語を話す民族の動向に関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語とその言語を話す民族の歴史の概略を把握する。現代英語に対して感じる疑問点を歴史的に説明できる。 関心・意欲の観点：英語に対する素朴な疑問点を再確認し、それを歴史的に解明する意欲を持つ。 態度の観点：英語の発達の背景を知り、国際的な視点と態度を身につける。

授業の計画（全体） 学生と教員から出された「英語に関する素朴な疑問」への歴史的な説明をする。テキストを用いた講義に適宜ビデオ教材を交えて進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 英語に関する素朴な疑問について
- 第 2 回 項目 英語の外史
- 第 3 回 項目 借入語
- 第 4 回 項目 発音の変化
- 第 5 回 項目 屈折の単純化
- 第 6 回 項目 屈折の単純化
- 第 7 回 項目 屈折の単純化
- 第 8 回 項目 屈折の単純化
- 第 9 回 項目 統語法の発達
- 第 10 回 項目 統語法の発達
- 第 11 回 項目 統語法の発達
- 第 12 回 項目 統語法の発達
- 第 13 回 項目 統語法の発達
- 第 14 回 項目 質疑応答
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末試験によって評価する。また、欠席は、原則として2回を超えると欠格とする。

教科書・参考書 教科書：『英語史入門』, 安藤貞雄, 開拓社, 2002年; 教科書は、文栄堂(大学前)で販売予定。

開設科目	英語生成文法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

授業の概要 生成文法と呼ばれる文法理論の基本的考え方を概説する。高校までに習った学習英文法は、受動文では目的語が主語位置に移動し、WH 疑問文では WH 疑問詞が文頭に移動することを教えてくれる。しかしながら、それは何故かという疑問に対して学習英文法は何も答えてくれない。このような問いに答えることにより、ことばの仕組みを明らかにしようと試みる文法理論が生成文法である。授業では、生成文法の枠組みにおいて、学習英文法では教えてくれない英語の特徴を考察する。 / 検索キーワード 英語、生成文法、ことばの仕組み、文法理論

授業の一般目標 生成文法における言語分析を通して、英語についての理解を深め、また、科学的思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の主要な構文の特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表面的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

授業の計画（全体） 先ず、生成文法の枠組みを概説し、その後、その枠組みを使って英語を分析していく。取り上げるトピックは、主語・助動詞倒置、否定文、時制、モダリティー、アスペクト、動詞の意味、受動文等々である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価法について説明する
- 第 2 回 項目 文法の枠組み (1) 内容 文には抽象的構造が存在することについて説明する。
- 第 3 回 項目 文法の枠組み (2) 内容 英語の主語・助動詞倒置現象について説明する。
- 第 4 回 項目 文法の枠組み (3) 内容 英語の否定文について説明する。
- 第 5 回 項目 文法の枠組み (4) 内容 文の基本的構造を決定する規則 X' 理論について説明する。
- 第 6 回 項目 文法の枠組み (5) 内容 CP, IP, DP 構造について説明する。
- 第 7 回 項目 中間テスト
- 第 8 回 項目 テスト返却・解説
- 第 9 回 項目 時と時制 内容 時制の統語特性と意味解釈について説明する、
- 第 10 回 項目 ムードとモダリティー 内容 法助動詞と命令文について説明する。
- 第 11 回 項目 アスペクト 内容 動詞の意味分類について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞のクラスと交替現象 内容 自動詞の分類、使役文、二重目的語文について説明する。
- 第 13 回 項目 名詞句移動 内容 受動文と繰り上げ文について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験）の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年；プリントも随時配布する。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 人間の言語は脳に蓄えられた知識であると考える立場から、言語の性質や獲得、また、理解の仕組みなどをめぐる様々な問題をわかりやすく解説していく。前半で生成文法理論の基礎となる考え方を紹介し、後半では進んだ研究の一端にも触れるようにする。

授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、英語や日本語の基本的な分析が行えるようになる。関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特徴などにも関心を寄せる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の主な狙いや課題などについて説明する。授業外指示 教科書の第 1 章を読む。
- 第 2 回 項目 こころを探る言語研究 内容 なぜ言語研究をするのかという問題について考える。授業外指示 教科書第 2 章を読む。課題を解く。
- 第 3 回 項目 言語知識とは何か 内容 言語の無意識の知識、言語能力と言語運用、普遍文法と個別文法について考える。授業外指示 教科書第 3 章を読む。課題を解く
- 第 4 回 項目 文法の組み立て 内容 文法の組み立てについての最近のアプローチを紹介する。授業外指示 教科書第 4, 5 章を読む。課題を解く。
- 第 5 回 項目 音韻論 内容 音声・音韻研究の基本概念と主要な問題を講じる。授業外指示 教科書第 6, 7 章を読む。課題を解く。
- 第 6 回 項目 形態論 内容 語を作る仕組みについて考える。授業外指示 教科書第 8 章を読む。課題を解く。
- 第 7 回 項目 統語論 1 内容 文を作る仕組みについて考える。授業外指示 教科書第 9 章を読む。課題を解く。
- 第 8 回 項目 統語論 2 内容 原理とパラメータのアプローチを紹介する。授業外指示 教科書第 10 章を読む。課題を解く。
- 第 9 回 項目 意味論 1 内容 種々の意味解釈規則を紹介する。授業外指示 教科書第 11 章を読む。課題を解く。
- 第 10 回 項目 意味論 2 内容 代名詞の解釈などについて論じる。授業外指示 教科書第 12 章を読む。課題を解く。
- 第 11 回 項目 語用論 内容 語用論的知識とプラトンの問題などについて考える。授業外指示 教科書第 13, 14 章を読む。課題を解く。
- 第 12 回 項目 言語の獲得 内容 原理とパラメータのアプローチと言語獲得について論じる。授業外指示 教科書第 15, 16, 17 章を読む。課題を解く。
- 第 13 回 項目 言語の変化・変異 内容 歴史的な観点を交えながら、言語変化について考える。授業外指示 教科書第 18 章を読む。課題を解く。
- 第 14 回 項目 言語研究の現状と展望 内容 最新の言語研究の動向について紹介する。授業外指示 課題を解く。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体の補足とまとめを行う。授業外指示 "

成績評価方法 (総合) 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は 1 回につき 5 点減点とする。

教科書・参考書 教科書：言語研究入門 生成文法を学ぶ人のために、大津由紀雄他、研究社、2002 年 / 参考書：生成文法用語辞典、安藤貞雄・小野隆啓、大修館書店、1993 年；チョムスキー理論辞典、原口庄輔・中村捷編、研究社出版、1992 年；チョムスキー小事典、今井邦彦編、大修館書店、1986 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

授業の概要 英語における次の代用表現について考える。(1) Max criticized himself. (2) Max criticized him. (3) Max and Tom criticized each other. 文(1)における代用表現 himself は再帰形と呼ばれ、必ず主語の Max を先行詞とする。一方、(2)の文における代用表現 him は代名詞と呼ばれ、主語の Max を先行詞にすることはできない。また、(3)の文における代用表現 each other は相互代名詞と呼ばれ、主語の Max と Tom を先行詞とする。授業では、このような代用表現の諸特性を、生成文法の枠組みで考察する。/ 検索キーワード 代用表現、統語構造、意味解釈、形態特性、生成文法

授業の一般目標 英語の代用表現の統語的、形態的、意味的特徴についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の代用表現の特徴について説明できる。 思考・判断の観点：表面的な代用表現の現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

授業の計画(全体) 代用表現が示す諸特徴を、(1)再帰形と代名詞の分布、(2)例外的再帰形、(3)重複指示、(4)相互代名詞の統語特性、(5)相互代名詞の意味特性に考えていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 再帰形と代名詞の分布(1) 内容 再帰形と代名詞が相補分布を成すことをみる。
- 第 3 回 項目 再帰形と代名詞の分布(2) 内容 先行詞を決定する際には、構成素統御と呼ばれる構造概念が必要であることを説明する。
- 第 4 回 項目 例外的再帰形(1) 内容 代名詞と相補分布を成さない再帰形が存在することをみる。
- 第 5 回 項目 例外的再帰形(2) 内容 例外的再帰形の分布を決める条件について説明する。
- 第 6 回 項目 例外的再帰形(3) 内容 例外的再帰形が示す諸特性について説明する。
- 第 7 回 項目 重複指示(1) 内容 同一指示、別指示、重複指示の関係について説明する。
- 第 8 回 項目 重複指示(2) 内容 代名詞が示す重複指示について説明する。
- 第 9 回 項目 重複指示(3) 内容 再帰形が示す重複指示について説明する。
- 第 10 回 項目 相互代名詞の統語特性(1) 内容 分配演算子について説明する。
- 第 11 回 項目 相互代名詞の統語特性(2) 内容 相互代名詞が示す二重照応性について説明する。
- 第 12 回 項目 相互代名詞の意味特性(1) 内容 相互代名詞が示す weak reciprocity の読みについて説明する。
- 第 13 回 項目 相互代名詞の意味特性(2) 内容 相互代名詞が示す weakest reciprocity の読みについて説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

授業の概要 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。取り上げる省略文は以下の二つである。

(1) John loves Mary, and Peter does, too. (2) Bill ate more peaches than Harry did grapes. 省略文 (1) では、動詞と目的語 (love Mary) が省略されており、このような文は動詞句省略文 (VP ellipsis) と呼ばれている。一方、(2) では、動詞 (eat) のみが省略されており、このような省略文は擬似空所化 (pseudo-gapping) と呼ばれている。この授業では、この二つの省略文の類似点と相違点について考えていく。 / 検索キーワード 省略文、動詞句省略文、擬似空所化、生成文法

授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の省略文についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表面的な省略文の現象の底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文章で表現できる。

授業の計画 (全体) 動詞句削除文と擬似空所化が示す三つの相違点と一つの類似点について順次考察していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (1) 内容 動詞句削除文における解釈の多義性について説明する。
- 第 3 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (2) 内容 擬似空所化における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 4 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (3) 内容 動詞句削除文における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 5 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (1) 内容 動詞句削除文における strict/sloppy の読みについて説明する。
- 第 6 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化のその 2：strict/sloppy の読み (2) 内容 sloppy の読みを認可する意味的条件について説明する。
- 第 7 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (3) 内容 擬似空所化における sloppy の読みの可能性について説明する。
- 第 8 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (1) 内容 擬似空所化における逆行削除について説明する。
- 第 9 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (2) 内容 文解析の原理と逆行削除について説明する。
- 第 10 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (3) 内容 動詞句削除文における逆行削除の可能性について説明する。
- 第 11 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (1) 内容 動詞句削除文と擬似空所化における削除問題について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (2) 内容 島の効果と削除について説明する。
- 第 13 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (3) 内容 擬似空所化における削除の義務性について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法 (総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡崎正男				

授業の概要 文法理論で仮定している各部門間のインターフェイスについて、英語という個別言語における具体的な言語現象をもとにして考察する。具体的には、統語構造、意味構造、音韻構造の接点で生じていると考えられる具体的な言語現象を出発点として、文法の各部門の関係のあり方についての考察を行う。 / 検索キーワード 生成文法、インターフェイス、統語構造、意味構造、音韻構造

授業の一般目標 英語の具体的な言語現象を出発点として、理論言語学における言語観、言語データの扱い方、議論の立て方などについての視点を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語理論についての知識、とりわけ、生成文法および関連理論の知識を理解し、理論の枠内でデータが扱えるようになるきっかけをつくる。 思考・判断の観点：分析対象となる具体的な言語データに接したときに、(1) そのデータの何が問題となっているのか、(2) どのように分析してゆけばよいのか、(3) データと分析の意味合いと波及効果、などについて、複眼的なものの見方を基盤にして、柔軟にして堅固な議論の展開ができるようになるためのきっかけをつくる。 関心・意欲の観点：言語学のデータの見方、集め方、分析方法について関心を持つようにする。また、言語学的な思考を、言語分析以外の場合に応用できるようにするきっかけをつくる

授業の計画(全体) 1. 序：文法の部門間のインターフェイスについての説明 2. 現代英語の文アクセント：音韻論と統語論、意味論、語用論との接点 3. 現代英語の縮約現象と文法化：音韻論と統語論、意味論との接点 4. 現代英語の結果構文：統語論と形態論、意味論との接点 5. 英詩の韻律：詩の鋳型と音韻論、統語論、意味論、語用論の接点

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序 内容 文法の部門間のインターフェイスについての導入
- 第 2 回 項目 現代英語の文アクセント (1) 内容 名詞句の文アクセント
- 第 3 回 項目 現代英語の文アクセント (2) 内容 述部の文アクセント
- 第 4 回 項目 現代英語の文アクセント (3) 内容 意味部門と音韻部門の対応規則を用いた理論化
- 第 5 回 項目 現代英語の文アクセント (4) 内容 提案した理論の応用：ドイツ語とデンマーク語の場合
- 第 6 回 項目 現代英語の縮約と文法化 (1) 内容 現象の記述と論点整理：wanna は法助動詞か本動詞か？
- 第 7 回 項目 現代英語の縮約と文法化 (2) 内容 wanna が法助動詞性をもつことを立証
- 第 8 回 項目 現代英語の縮約と文法化 (3) 内容 助動詞縮約との違いと先行研究の批判的検討
- 第 9 回 項目 現代英語の結果構文 (1) 内容 現象紹介と論点の整理
- 第 10 回 項目 現代英語の結果構文 (2) 内容 結果述語は、複合動詞の一部か？
- 第 11 回 項目 現代英語の結果構文 (3) 内容 構文文法的アプローチの批判的検討
- 第 12 回 項目 英詩の韻律 (1) 内容 近代英語期以降の英詩の形式とそのヴァリエーション
- 第 13 回 項目 英詩の韻律 (2) 内容 Emily Dickinson の詩形の特異性と理論上の重要性
- 第 14 回 項目 英詩の韻律 (3) 内容 Emily Dickinson の詩の韻律と最適性理論 (1)
- 第 15 回 項目 英詩の韻律 (4) 内容 Emily Dickinson の詩の韻律と最適性理論 (2)

成績評価方法(総合) レポート。各自が興味をもった具体的な言語現象について、複数の視点から考察し、その功罪を議論し、しかるべく結論を導き出す。

教科書・参考書 教科書：教科書を使用せず。プリント配布。 / 参考書：プリント配布。

メッセージ 知識の修得ではなく、知識を「使いこなして」「言語データを自在に料理する」ことを「実演する」ことになるので、そのつもりで受講すること。

備考 集中授業

開設科目	英語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。

授業の一般目標 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。さまざまな現象を理論的に整理する。疑問点を明確にし、質問できる。 関心・意欲の観点：論文の一部分だけではなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 技能・表現の観点：英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。

授業の計画（全体） 1 回に 5 ページ程度の進捗で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方。教材とする論文紹介。 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 2 回 項目 講読・演習 内容 論文の内容について、受講生を順に指名しながら解説・演習を行う

第 3 回 内容 以下同様

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験が 90 パーセント、授業時の演習 10 パーセントの割合で評価します。

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントして配布します。

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習(文法と意味)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

授業の概要 英語における次の削除構文について考察する。Some ate beans and others, rice. 上記の文では others と rice の間にあった動詞 ate が省略されており、このような省略文は Gapping (空所化) と呼ばれている。授業では、Gapping を生成文法の枠組みにおいて分析した専門論文を精読することにより、Gapping の諸特性について考える。 / 検索キーワード 省略文、空所化、生成文法

授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 英語の省略文についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点: 表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点: 考察したことを論理的に文書に表現できる。

授業の計画(全体) 授業では、1) 空所化について英語で書かれた専門論文 (Kyle Johnson 2006, Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 論文講読
- 第 3 回 項目 論文講読
- 第 4 回 項目 論文講読
- 第 5 回 項目 論文講読
- 第 6 回 項目 論文講読
- 第 7 回 項目 論文講読
- 第 8 回 項目 論文講読
- 第 9 回 項目 論文講読
- 第 10 回 項目 論文講読
- 第 11 回 項目 論文講読
- 第 12 回 項目 論文講読
- 第 13 回 項目 論文講読
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書: 英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習(文法と意味)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

授業の概要 生成文法の枠組みで、英語の時制現象について考察する。特に、過去時制の問題について考える。 / 検索キーワード 英語、時制現象、過去時制、生成文法

授業の一般目標 英語の時制現象についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の時制現象についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

授業の計画(全体) 授業では、1) 過去時制について英語で書かれた専門論文 (Muvet Enc 2004, Rethinking Past Tense) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 論文講読
- 第 3 回 項目 論文講読
- 第 4 回 項目 論文講読
- 第 5 回 項目 論文講読
- 第 6 回 項目 論文講読
- 第 7 回 項目 論文講読
- 第 8 回 項目 論文講読
- 第 9 回 項目 論文講読
- 第 10 回 項目 論文講読
- 第 11 回 項目 論文講読
- 第 12 回 項目 論文講読
- 第 13 回 項目 論文講読
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習(形態と音声)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 生成音韻論の発展の歴史や基本概念・分析方法を解説していく。

授業の一般目標 1960年代以降の音韻論の展開を理解し、高度な音韻理論を理解するための基礎固めをする。また、日英語のデータの比較を通して、音韻的普遍性と個別性について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成音韻論の特徴を知る。伝統的な音韻分析の手法のみならず、最新の音韻理論の考え方にも慣れ親しむ。思考・判断の観点：知らない語句でも、そのアクセントなどを分析・予測できるようになる。関心・意欲の観点：暗記するものと思われがちな語のアクセントや発音などにも法則が隠されていることに関心を持ち、自らもその法則を解明しようとする。技能・表現の観点：配布資料に基づいて紹介する理論の内容を理解するのみならず、問題点などにも気づき、それをわかりやすく指摘・発表できるようになる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 音韻論とはどのような学問かを紹介する。授業外指示 配布資料に目を通す。
- 第 2 回 項目 SPE 理論とそれ以前の音韻論 内容 生成文法以前の音韻論と生成文法の音韻論の違いを解説する。授業外指示 宿題の課題を解く。配布資料に目を通す。
- 第 3 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 4 回 項目 // 内容 生成音韻論の標準理論におけるアクセント分析について理解する。授業外指示 //
- 第 5 回 項目 // 内容 標準生成音韻論の功罪を考察する。授業外指示 //
- 第 6 回 項目 韻律理論 内容 アクセントの非線状音韻論での分析を理解する。授業外指示 //
- 第 7 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 8 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 9 回 項目 // 内容 リズム規則について考察する。授業外指示 //
- 第 10 回 項目 日英語比較音韻論 内容 日本語と英語のアクセントの比較を行う。授業外指示 //
- 第 11 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 12 回 項目 // 内容 借用語の促音化について考察する。授業外指示 //
- 第 13 回 項目 最適性理論 内容 派生ではなく制約に基づく音韻理論とはどのようなものかを理解する。授業外指示 //
- 第 14 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめと補足を行う。授業外指示 //

成績評価方法(総合) 授業内での発表や小テスト、および、各テーマごとの課題レポートの出来具合によって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき期末評点から5点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：音韻理論ハンドブック, 西原哲雄・那須川訓也共編, 英宝社, 2005年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習(形態と音声)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 語形成にかかわる法則や制約を紹介し、語形成の仕組みを理解させる。

授業の一般目標 語形成のメカニズムを理解して、可能な語と不可能な語の予測・説明ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：語形成に関する法則を掴む。 思考・判断の観点：辞書に依らずに可能な語と不可能な語が予測できるようになる。 関心・意欲の観点：「単語は暗記するもの」といった考え方が正しくないことに気づく。 技能・表現の観点：英語で書かれた論文の内容も正確に読み取って、わかりやすくまとめる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 形態論とはどのような研究なのかを概説する。 授業外指示 配布プリントに目を通す。
- 第 2 回 項目 語彙音韻論・形態論 内容 派生語、複合語、屈折形がどのようなメカニズムで形成されるのかを理解し、課題を解く。 授業外指示 宿題の課題を解く。配布プリントに目を通す。
- 第 3 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 4 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 5 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 6 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 7 回 項目 接辞付加の順序付けについて 内容 接辞付加の順序を決める原則を理解し、その反例に対する説明を試みる。 授業外指示 "
- 第 8 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 9 回 項目 混成語について 内容 混成語形成において、日英語に共通して働く条件や制約を考える。 授業外指示 "
- 第 10 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 11 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 屈折について 内容 屈折にはどのような特徴や制約があるのかを考察する。 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 " 内容 形容詞の屈折の規則性について考察する。 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめと補足を行う。 授業外指示 "

成績評価方法(総合) 授業中の発表や小テスト、宿題の課題の出来具合などで総合的に判断する。出席も重視する(欠席1回につき総合評点から5点ずつ減点)。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 英文学の歴史を時代の流れに沿って体系的に講義する。作家や作品の単なる羅列に止まらず、具体的な作品の読み方や文学用語などを広く解説する英文学概論の性格を持った授業である。配布プリント等によりできるだけ多くの作品の原典に触れる機会を提供しながら、各々の時代の文学思潮や文人たちの具体的な創作活動について説明する。 / 検索キーワード 英文学史、英国、文学

授業の一般目標 英文学の包括的内容を習得し、英文学研究の基礎固めを行う。同時に、様々な文学作品の内容やその時代的背景を学ぶことにより、広い意味での異文化理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英文学史の具体的な流れ、及び主要な作家や作品について説明できる。 思考・判断の観点：作家や作品がどのような歴史的背景の中に位置づけられるかを論理的に思考できる。 関心・意欲の観点：英文学に対する積極的な関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 前期は 18 世紀末までを扱う。この時期までの英文学史の流れを便宜的に区分すれば以下ようになる。一項目につき 2 ~ 4 回の講義で解説していく。(1) 古期・中期英語時代 (2) ルネサンス時代 (3) 王政復古時代 (4) 古典主義時代

成績評価方法（総合） (1) 授業の中で小テストを複数回実施する。(2) 学期末に試験を 1 回実施する。(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：イギリス文学史入門, 川崎寿彦, 研究社, 2002 年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 英米語文化論コース 2 年生、及び同コース 3 年生で英米文学専攻の学生は前後期を通じて受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 英文学の歴史を時代の流れに沿って体系的に講義する。作家や作品の単なる羅列に止まらず、具体的な作品の読み方や文学用語などを広く解説する英文学概論の性格を持った授業である。配布プリント等によりできるだけ多くの作品の原典に触れる機会を提供しながら、各々の時代の文学思潮や文人たちの具体的な創作活動について説明する。 / 検索キーワード 英文学史、英国、文学

授業の一般目標 英文学の包括的内容を習得し、英文学研究の基礎固めを行う。同時に、様々な文学作品の内容やその時代背景を学ぶことにより、広い意味での異文化理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英文学史の具体的な流れ、及び主要な作家や作品について説明できる。 思考・判断の観点：作家や作品がどのような歴史的背景の中に位置づけられるかを論理的に思考できる。 関心・意欲の観点：英文学に対する積極的な関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 後期は 19～20 世紀を扱う。この時期の英文学史の流れを便宜的に区分すれば以下のようになる。一項目につき 3～4 回の講義で解説していく。(1) ロマン主義時代 (2) ヴィクトリア朝時代 (3) 20 世紀（第二次大戦前） (4) 20 世紀（第二次大戦後）

成績評価方法（総合） (1) 授業の中で小テストを複数回実施する。(2) 学期末に試験を 1 回実施する。(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：イギリス文学史入門, 川崎寿彦, 研究社, 2002 年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 英米語文化論コース 2 年生、及び同コース 3 年生で英米文学専攻の学生は前後期を通じて受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 現代英国人作家ウィリアム・ゴールディングの処女作にして代表作である Lord of the Flies (1954) を題材に、小説の批評的な読み方を実践します。願わくば、単に『蠅の王』という一作品に詳しくなるだけでなく、ここで学んだ読みの方法論を、受講生各自が様々な作品に応用できるようになっていけるよう、配慮しながら授業を進めます。 / 検索キーワード Golding, literary criticism

授業の一般目標 小説鑑賞に必要な感性を磨き、批評実践に役立つ視点や知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文芸批評に必要な概念や用語を的確に知る。 思考・判断の観点： みずから選んだ文芸作品に対して、習得した批評方法を応用する。

授業の計画(全体) まずは作品を概観。ポイントに関しては、英文を随時参照しながら従来の訳の修正も行い、テキスト理解を深いレベルで徹底する。それから、歴史寓話的な読み、政治寓話的な読み、精神分析的な読み、歴史背景に着目する読み、伝記的な読みなどを順次展開していく。授業のテーマの区切りごとに、簡単な内容確認小テストを行う。

成績評価方法(総合) 小テスト 25% + 期末筆記試験 75%。出席は毎回とって、欠格条件(5回以上の欠席は不可評点)に使用します。

教科書・参考書 教科書：『Lord of the Flies』, William Golding, faber and faber, 2005年; 『蠅の王』, ウィリアム・ゴールディング, 新潮文庫, 1975年; 教科書(洋書 ASIN:0571227678、和書 ISBN:4102146016) 両方とも生協で販売。ハンドアウト・プリントも適宜使います。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 受講生には、第一回講義時に知らせます。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 20世紀アイルランド人作家 James Joyce の処女作短篇集 Dubliners を全作品解説します。フィクションという手段で時代を書く、社会を書くという営みを高いレベルで達成した作品を、じっくり鑑賞しましょう。 / 検索キーワード Joyce, Dubliners

授業の一般目標 小説鑑賞に必要な感性を磨き、その周辺知識をも習得する手段を知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文芸批評に必要な概念や用語を的確に知る。 思考・判断の観点： 従来の解釈や説（この講義で披露されるものも含めて）に対し、鵜呑みにせず批評的な判断を下せるようになる。

授業の計画（全体） 短篇集に収められている15の作品を、順に取り扱っていく。翻訳書を使つての予習をしておくこと。授業回数は15週しかないので、短い作品については2本を一回の授業でまとめて扱うこともある。

成績評価方法（総合） 小テスト25% + 期末筆記試験75%。出席は毎回とって、欠格条件（5回以上の欠席は不可評点）に使用します。

教科書・参考書 教科書： Dubliners, James Joyce, Penguin Popular Classics, 2007年；ダブリンの市民, 結城英雄訳, 岩波文庫, 2004年；教科書（洋書 ASIN:0140622179、和書 ASIN:4003225511）は両方とも生協で購入すること。ハンドアウト・プリントも適宜使います。 / 参考書： 授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 受講生には、第一回講義時に知らせます。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾麻弥				

授業の概要 Vladimir Nabokov の短編を読む。ベルリンで亡命生活を送っていた時期に、もともとロシア語で書いていたいくつかの短編を、その英語版で鑑賞する。

授業の一般目標 ナボコフが一つ一つの言葉にこめた意味、思いを大切にしながら読み込むことによって、短編という簡潔にまとまった小さな世界にひそむ多層な世界を発見する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作品の具体的内容を理解する。 思考・判断の観点： 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。 関心・意欲の観点： ナボコフの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） The Stories of Vladimir Nabokov に収められた短編について考察する。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： The Stories of Vladimir Nabokov, Vladimir Nabokov,

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾麻弥				

授業の概要 Vladimir Nabokov の短編を読む。ベルリンで亡命生活を送っていた時期に、もともとロシア語で書いていたいくつかの短編を、その英語版で鑑賞する。

授業の一般目標 ナボコフが一つ一つの言葉にこめた思いを大切にしながら読み込むことによって、短編というその小さな世界にひそむ多層な世界を発見する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作品の具体的内容を理解する。 思考・判断の観点： 言葉一つ一つに作家がこめた意味を正確に判断する。 関心・意欲の観点： ナボコフの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） The Stories of Vladimir Nabokov 中、前期に読み終わらなかった作品と、この短編集以外に収められているいくつかの短編作品について考察する。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： The Stories of Vladimir Nabokov, Vladimir Nabokov,

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 英語文学作品を訳読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。アメリカを代表する 20 世紀作家たち (Hemingway, Faulkner, Steinbeck) の短編小説を読みこなす。 / 検索キーワード 短編 アメリカ小説

授業の一般目標 大意把握的な速読では培えない、正確な英語読解力を養成する。英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。 思考・判断の観点： 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。 関心・意欲の観点： 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。

授業の計画 (全体) 15 週間で、6 つの短編小説を輪番形式で読み上げる。全部で約 80 ページ。 発表当番は、担当箇所の全訳と討論ポイントをできるだけ完璧に準備して、授業 2 日前までに教官へ提出する。教官が、集まった全訳レポートを受講者数分コピーしておくので、受講者はその日の夕方までにそれを引き取り、各自予習する。 授業当日は、当番の発表を受けて、質疑応答に移る。

成績評価方法 (総合) 当番時の発表の出来具合 + 筆記試験 + 授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。

教科書・参考書 教科書：アメリカ文学名作選, 高村勝治編, 英光社, 1980 年 / 参考書：英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること (電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので)

連絡先・オフィスアワー 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 英語文学作品(長編小説 Heat and Dust)を精読し、鑑賞する。重点は英文解釈に置くが、作品のテーマにも目を配る。 / 検索キーワード ルース・ジャブヴァーラ 現代英国小説

授業の一般目標 速読的に英文解釈をする力を養うとともに、正確な英文理解を怠らない姿勢を養う。英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。 思考・判断の観点: 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。 関心・意欲の観点: 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。

授業の計画(全体) 15週間で、全210ページの小説を読み上げる。かなり演習に近いスタイルをとる。発表当番は、担当箇所の大意要約と討論ポイントをできるだけ完璧に準備して、授業2日前までに教官へ提出する。教官が、集まったレポートを受講者人数分コピーしておくので、受講者はその日の夕方までにそれを引き取り、各自予習に役立てる。 授業当日は、当番の発表を受けて、質疑応答に移る。

成績評価方法(総合) 当番時の発表の出来具合 + 筆記試験 + 授業内発言の内容と回数。5回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。

教科書・参考書 教科書: 『Heat and Dust』, Ruth Praver Jhabvala, Longman, 1995年; 教科書は生協で販売 / 参考書: 『インドへの道』, E.M. フォースター, ちくま文庫, 1994年; 英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること(電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので)

メッセージ 一回15頁が進度の目安です。英文はくせがなくてかなり快適なスピードで読めます。女性の自立を一応のテーマとしている本ですが、異文化体験の問題も考察できます。

連絡先・オフィスアワー 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾麻弥				

授業の概要 Katherine Anne Porter の短編を読む。

授業の一般目標 「完璧な短編」の書き手とも言われるこの作家の短編を、丹念に読み込むことによって、「完璧」と言われるそのゆえんを探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： アン・ポーターの作品に現れる、「短編の名手」としての技法などを理解する。 思考・判断の観点： 独特のスタイル、倫理観、言葉の選び方など、さまざまな角度からポーターの作品を読み解く。 関心・意欲の観点： アン・ポーターの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） The Collected Stories of Katherine Anne Porter に収められた作品を、基本的には掲載順に読んでいく。受講者の音読、日本語訳という形式ですすめる。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： The Collected Stories of Katherine Anne Porter, Katherine Anne Porter, Harvest Books

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾麻弥				

授業の概要 Katherine Anne Porter の短編を読む

授業の一般目標 「完璧な短編」の書き手とも言われるこの作家の短編を、丹念に読み込むことによって、「完璧」と言われるそのゆえんを探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： アン・ポーターの作品に現れる、「短編の名手」としての技法などを理解する。 思考・判断の観点： 独特のスタイル、倫理観、言葉の選び方など、さまざまな角度からポーターの作品を読み解く。 関心・意欲の観点： アン・ポーターの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） The Collected Stories of Katherine Anne Porter に収められた作品を、基本的には掲載順に読んでいく。受講者の音読、日本語訳という形式ですすめる。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、授業態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： The Collected Stories of Katherine Anne Porter, Katherine Anne Porter, 研究社

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Elizabeth Gaskell の *Cousin Phillis* を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード Elizabeth Gaskell、英国小説、19 世紀

授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Elizabeth Gaskell の作家像及び 19 世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 前期はテキストの約 3 分の 2 まで読み進める予定である。最初はスローペースで読み始め、徐々にスピードを上げていく。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：Cranford and Cousin Phillis, Elizabeth Gaskell, Penguin, 2004 年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。 毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Elizabeth Gaskell の *Cousin Phillis* を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード Elizabeth Gaskell、英国小説、19 世紀

授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Elizabeth Gaskell の作家像及び 19 世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 後期の約 3 分の 2 ほどでテキストの残り 3 分の 1 を読了し、その後でこの作品に関する論文を読む。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：Cranford and Cousin Phillis, Elizabeth Gaskell, Penguin, 2004 年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学演習(劇)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田中晉				

授業の概要 シェイクスピア喜劇の代表作『ヴェニスの商人』を精読する。人肉質入れ話と箱選び物語といった古くから伝わる説話をもとに、シェイクスピアがいかに独自の世界を構成したかを考察する。/
 検索キーワード シェイクスピア、ヴェニス、現実とロマンス

授業の一般目標 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造につき基礎的知識を習得し、この作品は、お伽話的要素の濃いものではあるが、単なるお伽話では済まされぬところに真にシェイクスピア的な喜劇の本質があることを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。 思考・判断の観点：現実とロマンスの二つの世界が織り成す妙味を考察し、優れた喜劇は憂愁の調べを湛えていることを感得する。 関心・意欲の観点：シェイクスピアの作品を積極的に読む。

授業の計画(全体) 劇の発端から大団円まで、第1幕から第5幕までを読む。

成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点(出席、受講態度)を加味する。

教科書・参考書 教科書：The Merchant of Venice, 岩崎民平注釈, 研究社；研究社小英文叢書『ヴェニスの商人』を使用する。山口大学生協(大学会館内)で販売する。 / 参考書：辞書やその他の文献は授業中に言及する。ビデオ教材も併用する。

開設科目	英語演習(会話)(英米語2年生)	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				
<p>授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening</p> <p>授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p>授業の計画(全体) (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1– Here’s Your Boarding Pass (3) Unit 2–So, Where Are You From? (4) Unit 3–A Good Hotel at a Great Price! (5) Unit 4–Planning a Day Trip (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5–Next Stop, Chicago! (8) Unit 6–A Buffalo Burger? (9) Unit 7–Walking Around Oxford (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8–Shopping in London (12) Unit 9–Oh No! Where’s My Passport? (13) Unit 10–Ouch! That Hurts! (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 %. Attitude and Participation: 20 %. Presentations: 20 %.</p> <p>教科書・参考書 教科書: Adventures Abroad: English for Successful Travel, Dale Fuller & Kevin Cleary, MacMillan Language House, 2007 年</p> <p>メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p>連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語演習(会話)(英米語2年生)	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				
<p>授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening</p> <p>授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p>授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Keeping In Touch (3) Unit 2-Feeling Nostalgic (4) Unit 3-School And Beyond (5) Unit 4-Below The Surface (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Going On Vacation (8) Unit 6-Keeping Up To Date (9) Unit 7-Staying Healthy (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-An Honest Life (12) Unit 9-That Makes Me Mad (13) Unit 10-It's A Chore! (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p>教科書・参考書 教科書 : Gear Up: Plan For Success In English Conversation Student Book 2, Steven Gershon & Chris Mares, MacMillan, 2005 年</p> <p>メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p>連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語演習(会話)(英米語3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				
<p>授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening</p> <p>授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p>授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Meeting a Friend by Accident (3) Unit 2-You Wouldn't Be Tom, Would You? (4) Unit 3-Allow Me to Introduce Myself (5) Unit 4-It's a Pleasure to Meet You (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Let's Do Lunch (8) Unit 6-Making an Appointment (9) Unit 7-Let's Have a Party (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-I Need a Vacation (12) Unit 9-I Think I'm Lost (13) Unit 10-May I Take a Message? (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p>教科書・参考書 教科書: Talk, Talk: American-Style, Todd Jay Leonard, MacMillan Language House, 1996 年</p> <p>メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p>連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語演習(会話)(英米語3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				
<p>授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening</p> <p>授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p>授業の計画(全体) (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1– Meeting New People (3) Unit 2–All in the Family (4) Unit 3–Speaking of Friends (5) Unit 4–What a Great Concert! (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5–Where’s the Party? (8) Unit 6–Tired of Walking (9) Unit 7–Adventures in Eating (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8–Job Hunting in Tokyo (12) Unit 9–A Home Away from Home (13) Unit 10–Studying English Abroad (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p>教科書・参考書 教科書: Everybody’s Talking: Developing Better Speaking Skills, Dale Fuller & Clyde W. Grimm, MacMillan Language House, 1997 年</p> <p>メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p>連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語演習(会話)(他コース)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1- Here's Your Boarding Pass (3) Unit 2-So, Where Are You From? (4) Unit 3-A Good Hotel at a Great Price! (5) Unit 4-Planning a Day Trip (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Next Stop, Chicago! (8) Unit 6-A Buffalo Burger? (9) Unit 7-Walking Around Oxford (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-Shopping in London (12) Unit 9-Oh No! Where's My Passport? (13) Unit 10-Ouch! That Hurts! (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

教科書・参考書 教科書: Adventures Abroad: English for Successful Travel, Dale Fuller & Kevin Cleary, MacMillan Language House, 2007 年

メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語演習(会話)(他コース)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Keeping In Touch (3) Unit 2-Feeling Nostalgic (4) Unit 3-School And Beyond (5) Unit 4-Below The Surface (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Going On Vacation (8) Unit 6-Keeping Up To Date (9) Unit 7-Staying Healthy (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-An Honest Life (12) Unit 9-That Makes Me Mad (13) Unit 10-It's A Chore (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

教科書・参考書 教科書: Gear Up: Plan For Success In English Conversation Student Book 2, Steven Gershon & Chris Mares, MacMillan, 2005 年

メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

授業の概要 1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing. 2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced. 3) Key grammar points will be reviewed and practiced. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics. 5) Students will learn and use new study techniques. 6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups. / 検索キーワード Writing, Reading, Opinions, Communication

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Writing Activities. (2) Unit 1- Countries and Languages (3) Unit 2-Family (4) Unit 3-Jobs (5) Unit 4-Hobbies (6) Review Activities. (7) Unit 5-University (8) Unit 6-Describing Cities (9) Unit 7-City Life (10) Review Activities. (11) Unit 8-Past Experience (12) Unit 9-Animals (13) Unit 10-Home (14) Review of all units. (15) Final Written Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Writing Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written Exam: 20 % of Final Grade. Homework and Reports: 60 % Attitude and Participation: 20 %

教科書・参考書 教科書: Writing Through The Skills, George Ellington, MacMillan Language House, 1995 年

メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

授業の概要 1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing. 2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced. 3) Key grammar points will be reviewed and practiced. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics. 5) Students will learn and use new study techniques. 6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups. / 検索キーワード Writing, Reading, Opinions, Communication

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.

授業の計画（全体） (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Writing Activities. (2) Unit 1– Model Research Papers (3) Unit 2–Selecting and Narrowing a Topic (4) Unit 3–Resources: Searching and Recording (5) Unit 4–Taking Notes (6) Review Activities (7) Unit 5–Plagiarism (8) Unit 6–In-text Citations (9) Unit 7–Levels of Information (10) Review Activities (11) Unit 8–Planning and Writing an Outline (12) Unit 9–Introductions and Conclusions (13) Unit 10–Topic Sentences and Paragraphs (14) Review of all units. (15) Final Written Exam.

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Writing Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） Final Written Exam: 20 % of Final Grade. Homework and Reports: 60 % Attitude and Participation: 20 %

教科書・参考書 教科書： Developing Academic Writing Skills, Robyn Najar & Lesley Riley, MacMillan Language House, 2004 年

メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語演習(時事英語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

授業の概要 1) Students will improve their listening skills by listening to current news stories, and watching short, current news videos on the BBC website. 2) Students will learn and practice new study techniques. 3) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of current news topics. 5) Students will work together in groups to complete discussion activities. 6) Students will improve their English presentation skills. 7) Students will also improve their reading by reading current news articles. / 検索キーワード Speaking, Listening, Current Events, News Stories, Opinions

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their speaking and listening skills, and to increase their vocabulary on a variety of current news topics. There will also be reading assignments for homework.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-U.S. News (3) Unit 2-Politics (4) Unit 3-Business (5) Unit 4-Law (6) Unit 5-Health (7) Unit 6-Entertainment (8) Unit 7-Science and Technology (9) Unit 8-U.S. News 2 (10) Unit 9-Politics 2 (11) Unit 10-Business 2 (12) Unit 11-Law 2 (13) Unit 12-Health 2 (14) Unit 13-Science and Technology 2 (15) Final Written Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.
- 第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 50 % Attitude and Participation: 20 %

教科書・参考書 教科書 : CNN English Express 10: October 2007, CNN News Network, TimeWarner, 2007 年

メッセージ Bring your dictionary and CNN English Express to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

授業の概要 1) Students will work together in groups to complete discussion activities. 2) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 3) Students will increase their vocabulary and knowledge related to the society and culture of English-speaking countries. 4) Students will improve their reading by reading about the society and culture of English-speaking countries. 5) Students will learn and practice new study techniques. 6) Students will improve their writing by writing short reports. / 検索キーワード Speaking, Listening, Reading, Writing, English-Speaking Countries, Society, Culture

授業の一般目標 This course is for students who wish to learn more about daily life, society, and culture in English-speaking countries. This course includes speaking, listening, reading, and writing practice.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1– Introducing The USA (3) Unit 2–The British Isles (4) Unit 3–American Society (5) Unit 4–British Institutions (6) Unit 5–Past And Present (7) Unit 6–Everyday Life (8) Unit 7–Work (9) Unit 8– Education (10) Unit 9–Shopping (11) Unit 10–Food (12) Unit 11–Science And Art (13) Unit 12–The Media (14) Unit 13–Travel (15) Final Written Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activity. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 50 % Attitude and Participation: 20 %

教科書・参考書 教科書: In The USA, Martha Bordman, MacMillan Language House, 2005 年; In Britain: 21st Century Edition, Michael Vaughan-Rees, Geraldine Sweeney, Picot Cassidy, MacMillan Language House, 2005 年

メッセージ Bring your dictionary and textbooks to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三, 太田聡, 島越郎				

授業の概要 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導(授業時間外)が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。

授業の一般目標 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。 思考・判断の観点: 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。 関心・意欲の観点: 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。 態度の観点: 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。 技能・表現の観点: 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。

授業の計画(全体) 事前に調整したスケジュール通りに実施する。ただし、変更になることがある。教育実習期間は、オーラルレポート授は中断し、時間外の個別指導にのみ対応する。

成績評価方法(総合) 2回のオーラルレポートとその事前指導を通じて、論文読解、資料作成、プレゼンテーションを評価する。

メッセージ ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記のURLを参照のこと。
<http://iwabe.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/oral.htm>

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三, 太田聡, 島越郎				

授業の概要 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。後期は、英文レポートの提出が求められる。

授業の一般目標 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。 **思考・判断の観点：** 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。 **関心・意欲の観点：** 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。 **態度の観点：** 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。 **技能・表現の観点：** 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。正しい英語でレポートを書くことができる。

授業の計画（全体） 前期末までに後期のスケジュール決定し、それに基づいてオーラルレポートを行う。資料も同時に配付する。

成績評価方法（総合） 2回のオーラルレポートとその事前指導を通じて、論文読解力、資料作成、プレゼンテーションを評価する。期末の英文レポートは卒業論文に準ずるものとし、レポートした論文内容からの発展性と、英文表現力を評価する。

メッセージ ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記の URL を参照のこと。
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

言語文化学科 独仏語文化論コース

開設科目	現代ドイツ語概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 現代ドイツ語の諸相について概説します。前期は、「世界の中のドイツ語」、「ドイツ語の特徴」、「ドイツ語と英語との関係」、「ドイツ語の方言」などのテーマを扱う予定です。 / 検索キーワード
ドイツ語、言語、文化、社会

授業の一般目標 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。 思考・判断の観点：言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。 関心・意欲の観点：言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。

授業の計画（全体） 毎回のテーマごとにプリントを配布し、それに基づいて講義を行ないます。授業に関連する重要表現などは、文化的な観点から解説します。質問は随時受け付けますので、積極的に参加してください。

成績評価方法（総合） レポート 7 割 + 授業への参加度 3 割で評価します。出席率が 8 割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：プリント使用。 / 参考書：授業中に紹介します。

メッセージ 共通教育で習うドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代ドイツ語概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 現代ドイツ語の諸相について概説します。後期は、「ドイツ語における性差」、「外来語」、「慣用句」、「言葉から見たドイツの社会変化」などのテーマを扱う予定です。 / 検索キーワード ドイツ語、言語、文化、社会

授業の一般目標 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。 思考・判断の観点：言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。 関心・意欲の観点：言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。

授業の計画（全体） 毎回のテーマごとにプリントを配布し、それに基づいて講義を行ないます。授業に関連する重要表現などは、文化的な観点から解説します。質問は随時受け付けますので、積極的に参加してください。

成績評価方法（総合） レポート 7 割 + 授業への参加度 3 割で評価します。出席率が 8 割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：プリント使用。 / 参考書：授業中に紹介します。

メッセージ 共通教育で習うドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語の歴史を、古高ドイツ語から現代ドイツ語まで、時代を追って概観する。

授業の一般目標 古高ドイツ語から現代ドイツ語までの歴史を、歴史的・社会的背景を考え合わせながら、時代を追って概観する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古高ドイツ語から現代ドイツ語までの歴史を、歴史的・社会的背景を考え合わせながら、時代を追って概観する。

授業の計画（全体）ドイツ語の歴史を、古高ドイツ語から現代ドイツ語まで、時代を追って概観する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古高ドイツ語から中高ドイツ語へ 内容 古高ドイツ語から中高ドイツ語への変化について概説する
- 第 2 回 項目 古高ドイツ語から中高ドイツ語へ 内容 古高ドイツ語から中高ドイツ語への変化について概説する
- 第 3 回 項目 中高ドイツ語 内容 中高ドイツ語
- 第 4 回 項目 中高ドイツ語 内容 中高ドイツ語
- 第 5 回 項目 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語へ 内容 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 6 回 項目 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語へ 内容 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 7 回 項目 初期新高ドイツ語 内容 初期新高ドイツ語
- 第 8 回 項目 初期新高ドイツ語 内容 初期新高ドイツ語
- 第 9 回 項目 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語へ 内容 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 10 回 項目 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語へ 内容 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 11 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 12 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 13 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 14 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験

成績評価方法（総合）レポートと期末試験による。

開設科目	ドイツ語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語の諸相について論じていく。少なくともドイツ語を1年間学習した学生を対象とする。

授業の一般目標 ドイツ語に関する言語学的知識が深まっている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の関する言語学的知識が深まっている 思考・判断の観点：ドイツ語に限らず、言語一般について、分析力が増している 関心・意欲の観点：ドイツ語学に対する興味が増している

授業の計画（全体） ドイツ語学の様々なテーマについて論じていく

成績評価方法（総合） レポートとテストによる

開設科目	ドイツ語学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 ドイツ語学の専門文献を批判的に読んで行きます。 / 検索キーワード ドイツ語学 専門文献

授業の一般目標 将来ドイツ語学に関する卒業論文を書く可能性がある学生を対象に、ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなす力をつけることを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語学の専門的知識を習得する。 思考・判断の観点：論の展開の仕方を学ぶ。 関心・意欲の観点：広く言語現象への関心を深める。

授業の計画(全体) 毎回担当者を決めて、担当箇所の概要を説明させた後に、質疑応答の時間を設け、理解をより一層深める。

成績評価方法(総合) 授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用します。 / 参考書：授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語で書かれたドイツ語学の専門書を読む。具体的なテキストは、受講者の顔ぶれを見てから決める。

授業の一般目標 ドイツ語学に関する知識を深めるとともに、ドイツ語で書かれた専門文献を一人で読みこなせるだけのドイツ語読解力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語学に関する知識が深まっている。 関心・意欲の観点：ドイツ語研究への関心がより高まっている。 態度の観点：わからないことは徹底的に調べる習慣が身についている。

授業の計画(全体) テキストの難易度や、学生のドイツ語力により一時間にどのくらい進めるか分からないが、最初の内はゆっくりと進み、慣れてきたら次第に読む分量を増やしていく。

成績評価方法(総合) 演習とレポートによる。

教科書・参考書 教科書：コピーを用いる

開設科目	ドイツ文学史 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ドイツ近代文学について解説する。フランスで革命があったころの、ドイツの18世紀から19世紀にかけては、理性を信頼し、発展を夢見る啓蒙主義の時代であったが、同時に、その啓蒙主義が敵視する「迷信」が跳梁跋扈する時代でもあった。山師ペテン師たちが招霊術、観相学、動物磁気学、催眠術を騙って活躍する時代だった。時代の転換期に、人々の記憶に宿る古い夢は、新しい時代の到来がもたらす不安と混じり合って、奇妙な迷信の世界が展開された。本講義では、いわば、啓蒙主義の裏側を、文学作品を通して探検することになる。

授業の一般目標 文学に対する興味と理解を深める。

授業の計画(全体) 講義では、以下の作品を順不同で取り扱うだろう。ゲーテ『大コプタ』(カリオストロとフリーメーソン。招霊術がテーマ)、『コリントの花嫁』(吸血鬼) シラー『視霊者』(招霊術師、秘密結社) カント『視霊者の夢』(スエーデンボルク) ハイネ『ローレイ』(人魚)、『精霊物語』(古いゲルマンの神々) ホフマン『催眠術師』、『砂男』 アイヒェンドルフ『大理石像』(幽霊)等。

成績評価方法(総合) 指定図書を読んだうえでの小レポートを幾度か提出してもらい、それを通算で期末に評価する。

教科書・参考書 教科書：無し。 / 参考書：適宜指示する。

開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Hintereder-Emde Franz				

授業の概要 「都会」をモチーフにしている作品や手紙などの資料を対象として、都会の発展、生活感、生活状況の探求と同時に文学のジャンルや描写の変化について考えたいと思う。文学の世界において都会は磁石のようなところであると同時に、都会は文学の重要な主題である。ヨーロッパの啓蒙時代(17世紀後半以降)から大都会と自然の対照が思想・美学・倫理等にわたって論争されてきた。ドイツ文学に留まらず、様々な作品を通じて、都会を考察していく。/検索キーワード 都市文学、自然と文明、進歩主義、文明批判

授業の一般目標 文学作品の時代性やジャンルを把握しながら、特定の文化テーマを追求する読書力を養成する。文学と思想・美学・歴史とのつながりを理解し、必要な知識を得ることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの文化的な背景を把握することができること。 思考・判断の観点：原文や周辺資料の解読によって、ヨーロッパの歴史や文化的な実体を理解すること。 関心・意欲の観点：ドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶこと。

授業の計画(全体) 「都会」の歴史的や思想的な背景を考察してから、様々なジャンルにわたる文学作品を通じて、文学と都会の多面的かつ厳密な関係を解明していく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 講義の進め方や日程、評価について
- 第 2 回 項目 近代の都会文学について 内容 思想・技術等の背景
- 第 3 回 項目 表現主義のベルリン 内容 表現主義の絵画や文学
- 第 4 回 項目 表現主義のベルリン 内容 表現主義の絵画や文学
- 第 5 回 項目 黄金の 20 年代のベルリン 内容 『ベルリン・アレクサンダー広場』/アルフレート・デーブリン
- 第 6 回 項目 黄金の 20 年代のベルリン 内容 『ベルリン・アレクサンダー広場』/アルフレート・デーブリン
- 第 7 回 項目 黄金の 20 年代のベルリン 内容 映画『ベルリン・アレクサンダー広場』
- 第 8 回 項目 新世界のマンハッタン 内容 ドス・パッソス『マンハッタン乗換駅』
- 第 9 回 項目 新世界のマンハッタン 内容 ドス・パッソス『マンハッタン乗換駅』
- 第 10 回 項目 宇宙としての都会、ダブリン 内容 ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』
- 第 11 回 項目 宇宙としての都会、ダブリン 内容 ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』
- 第 12 回 項目 東京・大都会の無意識 内容 村上春樹『世界の終わり』とハードボイルド・ワンダーランド』
- 第 13 回 項目 ベルリン・分けられた空 内容 ヴェンダース/ハントケの『ベルリン・天使の詩』のベルリン
- 第 14 回 項目 ベルリン・分けられた空 内容 映画『ベルリン・天使の詩』
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 1. 文献リストの作品を熟読し、授業に出席すること(10%)、2. 関心を持って質問や意見発言をする(口頭とノート 30%)、3. レポート(60%)

教科書・参考書 教科書：作品選定:『ベルリン・アレクサンダー広場』/アルフレート・デーブリン、『マンハッタン乗換駅』/ドス・パッソス、『ユリシーズ』/ジェイムズ・ジョイス、『世界の終わり』とハードボイルド・ワンダーランド』/村上春樹。他の資料はコピーで配布する。

連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp, tel/fax: 933-5287, office hour: 月曜日 7・8 時限(14:30~16:00)

開設科目	ドイツ文学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	Hintereder-Emde Franz				

授業の概要 ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化と密接に絡み合っている。総体的な理解には文学の材料になる文化的要素の知識や全体的な視野が欠かせない。ドイツ文化を、様々な側面において勉強していく。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解である。/検索キーワード ヨーロッパ文化、ドイツ語圏文学、異文化理解

授業の一般目標 ドイツ語圏の歴史を始め、日常文化や文学の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強する。ドイツ語の資料も含めて、できるだけドイツ語で授業を進める。ドイツ文化に関連した研究文献などを読み、定期的に授業で発表や紹介をしてもらう。資料の分析や発表の技術にも重点を置く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解すること。

思考・判断の観点：資料を文化的背景に関連づけて理解できること。 関心・意欲の観点：積極的な参加、自発的な勉強、アイデアを持って、授業に取り組むこと。 技能・表現の観点：ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析すること。論点をまとめ、分かりやすく発表すること。

授業の計画(全体) 演習は次の分野にわたりますが、順番や内容には、演習の展開や進み方によって変更があり得ます。 1:19世紀から現代までのドイツの歴史(1)第二ドイツ帝国の設立前後(2)第1・第2次世界大戦の背景(3)戦後ドイツからドイツ再統一まで 2:ドイツの地理・社会・行政・政治(1)ドイツの地理(2)連邦制、教育制度、環境問題と環境保護、地域文化(3)国家、政党、選挙、社会団体

成績評価方法(総合) 1. 授業での発表(纏め方、メディアの適切な使い方、資料の提示)(40%) 2. 授業内外のドイツ語のレポート(ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力)(40%) 3. 授業への参加、貢献(関心をもって、積極的な態度)(20%)

教科書・参考書 教科書：資料は適宜に紹介、又は配分する。/参考書：授業で紹介する。

メッセージ 異文化理解には、自分の文化への関心も欠かせない。ノートパソコンを授業で使う。

連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp, tel/fax: 933-5287, office hour: 月曜日 7・8時限(14:30~16:00)

開設科目	ドイツ文学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	Hintereeder-Emde, Franz				

授業の概要 ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化と密接に絡み合っている。総体的な理解には文学の材料になる文化的要素の知識や全体的な視野が欠かせない。ドイツ文化を、様々な側面において勉強していく。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解である。/ 検索キーワード ヨーロッパ文化、ドイツ語圏文学、異文化理解

授業の一般目標 ドイツ語圏の歴史を始め、日常文化や文学の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強する。ドイツ語の資料も含めて、できるだけドイツ語で授業を進める。ドイツ文化に関連した研究文献などを読み、定期的に授業で発表や紹介をしてもらう。資料の分析や発表の技術にも重点を置く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解すること。

思考・判断の観点：資料を文化的背景に関連づけて理解できること。 関心・意欲の観点：積極的な参加、自発的な勉強、アイデアを持って、授業に取り組むこと。 技能・表現の観点：ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析すること。論点をまとめ、分かりやすく発表すること。

授業の計画(全体) 1：ドイツの日常生活(1)仕事と休み(2)娯楽(映画、音楽、遊び、スポーツ)(3)食生活 2：ドイツ文化表現としての芸術や音楽(1)絵画(2)芸術(3)音楽

教科書・参考書 教科書：資料は適宜に紹介、又は配分する。/ 参考書：授業で紹介する。

連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp, tel/fax: 933-5287, office hour: 月曜日 7・8時限(14:30~16:00)

開設科目	ドイツ文学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ドイツの迷信的世界について勉強する。

授業の一般目標 ドイツの迷信的世界についての知識を得て、ヨーロッパ文化に対する理解を深める。

授業の計画(全体) 上記テーマについて文献および資料を集めて分析し、対話的に理解する。

成績評価方法(総合) 各回のプレゼンテーション(和訳)と期末レポートによる。

教科書・参考書 教科書：テキストはコピーしたものを配布する。

開設科目	ドイツ文学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ドイツの迷信的世界について勉強する。

授業の一般目標 ドイツの迷信的世界についての知識を得て、ヨーロッパ文化に対する理解を深める。

授業の計画(全体) 上記テーマについて文献および資料を集めて分析し、対話的に理解する。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。 / 参考書：適宜指示する。

開設科目	ドイツ文学講読(小説)(2年生)	区分	講読	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 基本的には1年次でドイツ語を履修していない学生のためのドイツ語速習コースですが、1年次でドイツ語を学んだ学生も初級文法の復習のために受講して構いません。ただし、受講できるのは2年生のみです。ドイツ語の初歩を市販の入門書を使って一通り学習した後、もしできたら簡単なドイツ語のテキストを読みます。/ 検索キーワード ドイツ語 初歩 文法 読解

授業の一般目標 ドイツ語の基礎力を養成するとともに、ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に関心を持つこと。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の初歩を理解する。 関心・意欲の観点：ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に強い興味を持っている。 態度の観点：自分の力で学び、疑問を解決する態度を身に付ける。 技能・表現の観点：ドイツ語の基本的な表現ができるようになる。

授業の計画(全体) ドイツ語の入門書を用いてドイツ語の初歩を勉強し、もし時間があれば、少し長いドイツ語のテキストを読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション、第1課 内容 授業方針の説明、文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第2回 項目 第2課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第3回 項目 第3課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第4回 項目 第4課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第5回 項目 第5課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第6回 項目 第6課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第7回 項目 第7課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第8回 項目 第8課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第9回 項目 第9課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第10回 項目 第10課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第11回 項目 第11課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第12回 項目 第12課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第13回 項目 第13課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第14回 項目 第14課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第15回 項目 第15課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習

成績評価方法(総合) 平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：明るく楽しくドイツ語を! [三訂版]，在間進[ほか]，三修社，2004年 / 参考書：必要に応じて授業で紹介します。

メッセージ 自ら問題意識を持って授業に臨むと、進歩も速いです。授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ文学講読(小説)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ゲーテ『大コプタ』を読む。 / 検索キーワード カリオストロ、フリーメーソン、招霊術、フランス革命、近代。

授業の一般目標 ドイツ語の基礎を確認しつつ、文学作品を読む楽しみを学ぶ。

授業の計画(全体) 前年度の続きから読む。

成績評価方法(総合) 授業でのプレゼンテーション(朗読、和訳、芝居の世界に対する理解)と期末レポート。

教科書・参考書 教科書：レクラム版を使う。 / 参考書：博友社『大独和辞典』

開設科目	ドイツ文学講読(小説)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ゲーテ『大コプタ』を読む。

授業の一般目標 ドイツ語の基礎を確認しつつ、文学作品を読む楽しみを学ぶ。

授業の計画(全体) 前年度の続きから読む。

成績評価方法(総合) 授業でのプレゼンテーション(朗読、和訳、芝居の世界に対する理解)と期末レポート。

教科書・参考書 教科書：レクラム版を使う。 / 参考書：博友社『大独和辞典』

開設科目	ドイツ文学講読(エッセイ・批評)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Hintereder-Emde, Franz				

授業の概要 色々なドイツ文化圏やヨーロッパに関する今日の話題を取り上げているエッセイや新聞記事やインターネットのホームページなどの資料を解読する。ドイツ社会における問題(少子化、失業など)、大学や一般教育の危機や、いまはやりのファッションやライフスタイルなどを扱うテキストを通じて、今日のドイツ人の生活感や考え方を考察する。

授業の一般目標 文学理解に欠かせない「現代ドイツの歴史」、「社会や日常生活」を様々なメディアを通じて勉強する。ドイツ語の実力を身に付け、語彙を増やし深めること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ドイツやヨーロッパの社会や文化への関心や理解を深める。 関心・意欲の観点: 自発的にドイツ語の資料を読み進め、積極的にドイツ語の語彙を増やし、解読力を高め、内容について討論をする。 技能・表現の観点: 資料の収集や纏め、発表の方法を取得する。

授業の計画(全体) 参加者はドイツ語の資料を読んで、ドイツ語で理解できるまで応答し、自分の意見や考えを表現していく。これに基づいてレポートを作成し、授業で発表する。

成績評価方法(総合) 1. 授業での発表(纏め方、メディアの適切な使い方、資料の提示)(40%) 2. 授業内外のドイツ語のレポート(ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力)(30%) 3. 授業への参加、貢献(関心をもって、積極的な態度)(30%)

教科書・参考書 教科書: 授業でコピーを配ります。

連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp, tel/fax: 933-5287, office hour: 月曜日 7・8 時限(14:30~16:00)

開設科目	ドイツ語演習(会話)(2年生)	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	DobraFelicitas				

授業の概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

授業の一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。**思考・判断の観点：**学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。**関心・意欲の観点：**学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。**技能・表現の観点：**学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。**その他の観点：**本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Lektion 1 内容 聞き取り CD 1 / CD 2 / IX ペ - ジ > テーマ: 聞き取り / 人々の生活 / 仕事 / 趣味 / 勉強 / 家族 / テーマ: 自己紹介 文法: 人称変化 練習: 自己紹介 授業外指示 2 格 練習: 1~5 ペ - ジ とプリント
- 第 2 回 項目 Lektion 1 内容 テ - マ: 数詞 Ordnungszahlen それはだれの物ですか 練習: 自己紹介 文法: 2 格 授業外指示 2 格 練習: 1~5 ペ - ジ とプリント
- 第 3 回 項目 Lektion 1 Lektion 2 の始め 内容 テ - マ: 大学の勉強と休み / 友だち / クラブ 授業外指示 練習: ドイツの学生 とあなたたちの 夏休: 6 ペ - ジ
- 第 4 回 項目 Lektion 2 内容 テ - マ: Lebenslauf 大学の勉強と休み / 友だち / クラブ / ドイツの学校 / ドイツの大学 授業外指示 現在完了形 + 過去形 8-9 ペ - ジ 接続詞 "während" "als" "wenn" "weil" + "da" "obwohl" "dass" "ob" 練習: 9-11 ペ - ジ とプリント あなたたちの ライフ子どもの 頃 / 学生の 頃
- 第 5 回 項目 Lektion 2 Lektion 3 の始め 内容 テ - マ: ドイツの学校のシステム / 過去形 / 現在完了形 公共の建物に関する語彙 文法: 定冠詞、序数 授業外指示 お祖父さんのライフ 12 ペ - ジ
- 第 6 回 項目 Lektion 2 内容 テ - マ: ドイツの学校のシステム / 過去形 / 現在完了形 授業外指示 復讐 Lektion 1 + 2
- 第 7 回 項目 Lektion 1 と 2 内容 テ - マ: ペ - パ - テスト Lektion 1 と Lektion 2

- 第 8 回 項目 Lektion 3 Lektion 3 内容 テ - マ : 物と物の色 / 物の種類 / よふく / 代名詞の変化 文法 : 動詞の格 支配、前置詞、不定冠詞、否定 冠詞 (20-21 ページ) 人称代名 詞の 1 格と 4 格 授 業外指示 形容詞の変化
- 第 9 回 項目 Lektion 3 内容 テ - マ : 忘れ物 / モデルダやログ + CD 1 1 4 ペ - ジ 授業外指示 練習 : 17 ペ - ジ とプリント
- 第 10 回 項目 Lektion 3 内容 テ - マ : 人びとの洋服と物 (色 / 大きさ / 形 : < 1 7 - 1 8 ペ - ジ 授業外指示 Sketch を書いてそして演技をして下さい。
- 第 11 回 項目 Lektion 4 Lektion 5 の始め 内容 テ - マ : ペ - パ - テスト Lektion 3 スタア - ト Lektion 4 テ - マ : 手紙を書く 1 9 + 2 1 ペ - ジ / 比較級 / 最上級 授業外指示 比較級 と 最上 級 手紙を書く 物を比べる 人びとを比べる 練習 : 19 ~ 24 ペ - ジ とプリント
- 第 12 回 項目 Lektion 4 内容 形容詞の比較級 2 格をとる前置詞 練習 2 1 ペ - ジ ~ 2 4 ペ - ジ 授業外指 示 プリント Sketch を書い て、覚えてと 演技して。
- 第 13 回 項目 Lektion 4 と 5 内容 Lektion 4 : テ - マ : ペ - パ - テスト Lektion 4 とスタ - ト Lektion 5 テ - マ : 貴方は朝に何をしますか。風を曳いたかな再帰代名詞 会話テストのアド バイス 授業外指示 会話テストの準備
- 第 14 回 項目 Lektion 5 内容 テ - マ : 天気 / 体 / 病気と体の手入れ / 文法 : 再帰動詞と再帰代名詞 / "es" / 天気 練習 2 7 ペ - ジ 会話テストのアドバイス 授業外指示 会話テストの準備
- 第 15 回 項目 Lektion 5 内容 家族 : 身長、体 Sketch 28 ペ - ジビデオ / 授業外指示 練習 29 ~ 30 ペ - ジ

成績評価方法 (総合) 期末試験 : 筆記テスト (L.6) と会話テスト (Lektion 1-5) (どちらも定期試験期間 中に 実施)

教科書・参考書 教科書 : Modelle 2, Andreas Riessland / Ikumi Waragai/Goro Christoph Kimura/Fumiya Hirataka, Sanshusha, 2005 年 ; CD 付き モデル 2 問題発見のドイツ語 / アンド レアス リ - スラント / 藁谷 郁美 / 木村悟郎 クリストフ / 平高 史也 / 東京 : 三修社、2 0 0 5 . ISBN4-384-13076-7 C1084. 2.700 円

連絡先・オフィスアワー 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 山口吉田研究室 オフ ィシアワー - : 金曜日 : 1 2 : 3 0 時 ~ 1 4 : 0 0 時

開設科目	ドイツ語演習(会話)(2年生)	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	DobraFelicitas				

授業の概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

授業の一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。**思考・判断の観点：**学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。**関心・意欲の観点：**学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。**技能・表現の観点：**学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。**その他の観点：**本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：書体 / 約束 / 集まりの所を調べる / 来れない理由 / 文法：不定詞と”zu” 再帰代名詞と再帰動詞 4格と3格 ”sich treffen (mit)” ”sich freuen auf” ”jemandem passieren” 授業外指示 会話練習 31 33 ページ
- 第 2 回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：パーティに何を忘れない方がいいですか。 文法：不定詞と”zu” 授業外指示 会話練習 33 34 ページ
- 第 3 回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：パーティの準備 授業外指示 Sketch と Sketchuebung 34(33) ページの会話
- 第 4 回 項目 Lektion 7 内容 会話テスト Lektion 6 スタート Lektion 7 テーマ：日本 / 日本文化 / 日本語 / 何つもりで日本に行きますか。 文法：不定詞と ”um...zu” ”ohne zu” 授業外指示 何つもりでドイツに行きますか。 39 ページの会話
- 第 5 回 項目 Lektion 7 内容 テーマ：思いで / 趣味 興味 / 趣味 文法：再帰代名詞と再帰動詞 ”sich interessieren fuer” / ”sich beschaeftigen mit” / ”sich erinnern an” / ”sich kuemmern um” / ”sich freuen auf” / ”sich freuen ueber” 授業外指示 自分のダイヤログを作って下さい。 練習 4 2 ページ
- 第 6 回 項目 Lektion 8 内容 テーマ：会話テスト Lektion 7 / スタート Lektion 8 : テーマ：大学のキャンパス 色んな建物 / 講義室 / 図書館 / センター / 大学の歴史 文法：受動態 授業外指示 43 ページのボタン と練習

- 第 7 回 項目 Lektion 8 Lektion 8 の始め 内容 テーマ: 大学 受動態に付いての "werden" 未来形の "werden" 何何になるの "werden" 授業外指示 Sketch Sketchuebung 46(45) 47 ページ自分の大学紹介して下さい。
- 第 8 回 項目 Lektion 8 内容 テーマ: "werden" のバリエーション 文法: 分離動詞 (45-47 ページ) 練習: 分離動詞 の会話練習 (ワークシート) (45-47 ページ) 授業外指示 "werden" のバリエーションの会話: 私は何何になりたい。父は私何何をじゃめさせた。明日から必ずドイツ語を勉強します。48 ~ 49 ページの会話練習 / テーマ: 古里
- 第 9 回 項目 Lektion 9 内容 Lektion 8 の会話テストスタート Lektion 9 テーマ: / 愛 / 人びと のことを記述する 文法: 副文 / 関係代名詞 / 名詞になる形容し 授業外指示 練習 51 ページ
- 第 10 回 項目 Lektion 9 内容 テーマ: 舞姫 (小階森の小説) 授業外指示 Sketch と Sketchuebung 54(53) ページ 練習 53 ページ
- 第 11 回 項目 Lektion 9 Lektion 9 内容 テーマ: 愛 / 建物 / 所 / 有名な人 Lektion 9 の続き 文法: 復習、所有冠詞 (51-52 ページ) 授業外指示 会話: 貴方のパートナー - 55 ページと 何ですか。(関係代名詞を使って下さい。56 ページ)
- 第 12 回 項目 Lektion 10 内容 テーマ: お願い 文法: 接続法 "koennen" "haben" "sein" "werden" の接続法 授業外指示 クラスの会話パートナー - に何何をお願いして。61 62 ページ
- 第 13 回 項目 Lektion 10 内容 文法: 復習不定詞と "zu" 授業外指示 Sketch Sketchuebung 60 (59) ページ
- 第 14 回 項目 Lektion 11 Lektion 9 Lektion 10 の始め 内容 テスト Lektion 10 スタート Lektion 11 テーマ: もし... Was wuerden sie machen, wenn ...? 文法: 接続法 ペーパー - テストと会話テストのためにアドバイス 授業外指示 練習 63 65 ページ
- 第 15 回 項目 Lektion 11 内容 テーマ: Was wuerden Sie tun, wenn ... 授業外指示 Sketch Sketchuebung 66(65) ページ 練習 67 ページ

成績評価方法 (総合) 定期試験: 筆記試験 (45 分) 会話試験 (定期試験期間中に実施)

教科書・参考書 教科書: Modelle 2, Andreas Riessland, Sanshusha, 2004 年; アンドレアスリ - スランド / 藁谷郁美 / 木村ごろうクリストフ / 平高史也 モデル 2 CD 付き問題発見のドイツ語 三修社: 2005 .ISBN4-384-13076-7 C1084.2700 円

連絡先・オフィスアワー 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 山口吉田研究室 金曜日 12:30 時 ~ 14:00 時

開設科目	ドイツ語演習(会話)(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	DobraFelicitas				
<p>授業の概要 コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>授業の一般目標 ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。ドイツ後劇はフリ-コミュニケーションのためにします。コミュニケーションの間口だけ使いません。しかし体を使います。そして気持ちを入れます。</p> <p>授業の到達目標 / 技能・表現の観点: ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Goro will nach Deutschland fahren [Sie auch ?] Reisevorbereitungen 授業外指示 Print Ihre Gepaeckliste ティスカッション: Was brauchen Sie? Was brauchen Sie nicht? 復習: 話法の助動詞 "muessen" "duerfen" "koennen"</p> <p>第2回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Schluesselsatze [keysentences] Sketch + Video 2~4 ペ - ジ 授業外指示 Fragen zum Text Goros Gepaeckliste 3 ペ - ジ</p> <p>第3回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Sketch/ Video (問題の話し / そして問題を討論する) 5 ペ - ジ 接続法 "sollte" 授業外指示 聞き取り 6 ペ - ジ 自分でスケッチを書く 4~6 ペ - ジ / 二人の友だちは話します。テ - マ: 旅行の準備</p> <p>第4回 項目 テキスト Lektion 2 内容 テ - マ: Anmeldung zum Sprachkurs "doch" テ - マ: Was tun Sie, wenn Sie einen Deutschen nicht verstehen? 7~8 ペ - ジ Schluesselsaetze 8 ペ - ジ 授業外指示 練習: 3: 9 ペ - ジ</p> <p>第5回 項目 テキスト Lektion 2 内容 Sketch/ Video 10 ペ - ジ 授業外指示 Fragen zum Sketch: 9 ペ - ジ 練習: Anwendung 5 と 11 ペ - ジ 聞き取り + 質問 12 ペ - ジ</p> <p>第6回 項目 テキスト Lektion 3 内容 Im Studenten- wohnheim (寮で): 13 ペジ 家具 / 部屋 / 物 授業外指示 寮のこの話し 14~15 ペ - ジ</p> <p>第7回 項目 テキスト Lektion 3 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 15~16 ペ - ジ 授業外指示 自分でスケッチを書く 16~17 ペ - ジ 練習: 17~18 ペ - ジ 聞き取り: 18 ペ - ジ ペーパーテストの準備 Wortbildung</p> <p>第8回 項目 ペーパーテスト Lektion 1 bis 3</p> <p>第9回 項目 テキスト Lektion 4 内容 Wie waere es, wenn...19 ペ - ジ Schluesselsaetze 授業外指示 練習: 21 ペ - ジ 約束を相談する 21 ペ - ジ</p> <p>第10回 項目 テキスト Lektion 4 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 21~22 ペ - ジ 授業外指示 約束を相談する 22~23 ペ - ジ 24 ペ - ジ 友だちを招待する 友だちとおもしろいプランのことで話す 24 ペ - ジ 問題を討論する 25 ペ - ジ</p> <p>第11回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Japanische Feste Schluesselsaetze 28 ペ - ジ 授業外指示 練習: Sprache in der Praxis 28~29 ペ - ジ</p> <p>第12回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 29~30 ペ - ジ 授業外指示 三人でスケッチで出てください。練習: 31 ペ - ジ Obon 聞き取り: 32 ペ - ジ 聞き取り</p> <p>第13回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Bestellen und bezahlen im Restaurant (im Biergarten) 33 ペ - ジ Schluesselsaetze 34 ペ - ジ 授業外指示 Wortbildung: 形容詞 34 ペ - ジ 注文すると払う 35 ペ - ジ 聞き取り 35 ペ - ジ Sketchuebung 37 ペ - ジ 練習: 37 ペ - ジ</p>					

- 第 14 回 項目 テキスト Lektion 6 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 35~36 ペ - ジ 授業外指示
Wortschatzuebung 37 ペ - ジ ペ - パ - テストの準備 / 会話テストの準備
- 第 15 回 項目 テキスト Lektion 6 内容 Julias Tagebuch コリアの日記 38 ペ - ジ 授業外指示 聞き取り
38 ペ - ジ 会話テストの練習

成績評価方法 (総合) 成績は定期試験 (ペーパーテスト・会話テスト) [30 %] 宿題 [10 %] 授業中の
態度 [20 %] 演習 [30 %] 出席 [10 %] で評価します。

教科書・参考書 教科書 : Modelle 3 (CD) + Lehrervideotape, Fumiya HIRATAKA/ Andreas RIESS-
LAND/ Ikumi WARAGAI/ Goro Christoph KIMURA, Sanshusha, 2006 年 ; CD 付き / モデル 3 / 問
題発見のドイツ語 / 平高史也 / アンドレアスリ - スラント / 木村護郎クリストフ / 藁谷郁美 / 東京 : 三
修社、2 0 0 6 ISBN4-384-13077-5 C1084 2800 円

連絡先・オフィスアワー 山口吉田研究室 E-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー - : 金曜日 :
1 2 : 0 0 時 ~ 1 4 : 0 0 時

開設科目	ドイツ語演習(会話)(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	DobraFelicitas				
<p>授業の概要 コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>授業の一般目標 ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。</p> <p>授業の到達目標 / 技能・表現の観点：ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 テキスト Lektion 7 内容 Der oeffentliche Verkehr (交通) in Deutschland 39ペ - ジ 命令文 Schluesselsaetze 40ペ - ジ 授業外指示 Wortschatz 動詞 - 名詞 復習：比べる(形容詞) 40ペ - ジ 分利動詞 41ペ - ジ</p> <p>第2回 項目 テキスト Lektion 7 内容 Sketch? Video Sketchuebung 42~43ペ - ジ 授業外指示 練習：43ペ - ジ 難しいことは何ですか。どきどき趣味がトラブルになります。ドイツと日本を比べる。会話パ - トナ - が前に分かりましたこともう一度説明する。カメラ / 電話 / ... を説明するボタンを使う 43ペ - ジ 聞き取り 44ペ - ジ 宿題：Dialogを書く 42ペ - ジ</p> <p>第3回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Mein Rucksack ist gestohlen worden 復習：受動態 45~48ペ - ジ Schluesselsaetze 46ペ - ジ 授業外指示 練習：受動態 物を捜す 49ペ - ジ</p> <p>第4回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 46~48ペ - ジ 授業外指示 Sketchを書く、演技をする 50~51ペ - ジ</p> <p>第5回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Aus Goros Tagebuch Aus Inges Tagebuch 護郎の日記 インゲの日記 52ペ - ジ 授業外指示 聞き取り 52ペ - ジ 宿題：あなたたちにはもうトラブルがありましたか。</p> <p>第6回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Kennen Sie Bamberg? (Staedte in Japan?) 53~54ペ - ジ Schluesselsaetze 授業外指示 練習：54~55ペ - ジ</p> <p>第7回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 55~56ペ - ジ 授業外指示 読む：質問：答え 57ペ - ジ</p> <p>第8回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Mir gefaellt ... Gebaeude, Bilder, ... 私は好きな建物、え 57ペ - ジ Berlin ベルリンの歴史 授業外指示 練習：動詞をえらぶ 58ペ - ジ 宿題：作文をかく 57ペ - ジ</p> <p>第9回 項目 テキスト Lektion 10 内容 "sagen"/"sprechen"/ "erklaren"/"behaupten"/"meinen" 接続法1 「レポ - トで」 59~61ペ - ジ Schluesselsaetze 60ペ - ジ 授業外指示 練習："sagen"/"sprechen"/ "erklaren"/"behaupten"/ 59~61ペ - ジ 接続法1：63ペ - ジ</p> <p>第10回 項目 テキスト Lektion 10 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 61~62ペ - ジ 授業外指示 メッセージとインタビューを比べる 63~64ペ - ジ</p> <p>第11回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Seine Meinung sagen 65~70ペ - ジ 授業外指示 "doch"/"ja"/"denn"/ "einfach"/ 65~66ペ - ジ</p> <p>第12回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Schluesselsaetze 66ペ - ジ 授業外指示 討論する：67ペ - ジ</p> <p>第13回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 67~68ペ - ジ 授業外指示 Wie finden Sie das? 69ペ - ジ Eine Meinung 70ペ - ジ レポ - トと会話テストの準備</p> <p>第14回 項目 テキスト Lektion 12 内容 Umwelt (環境) Schluesselsaetze 72ペ - ジ 話法助動詞「受動態で」71~75ペ - ジ 授業外指示 会話テストの準備</p>					

第 15 回 項目 テキスト Lektion 12 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 73 ~ 74 ペ - ジ 授業外指示 練習 :
"seit"/"in" + 3 格 - Jahrtausend-en - Jahrhundert-en - kurz-em - lang-em - d-em 19. Jh. -
heute - gestern - vorgestern / d-en achtziger Jahr-en ... ----- m/ cm/mm/kg/m2
1/3 - 3/4 - 1/2 会話テストの準備

成績評価方法 (総合) 成績は定期試験 (30 %)、宿題 (10 %)、授業態度 (20 %)、演習 (30 %)、出席
(10 %) で評価します。

教科書・参考書 教科書 : Modelle 3/ CD + Lehrervideo, Fumiya HIRATAKA/ Andreas RIESSLAND/
Ikumi WARAGAI/ Goro Christoph KIMURA, Sanshusha, 2006 年 ; CD 付きモデル / 平高史也 /
アンドレアス リ - スランド / 藁谷郁美 / 木村護郎クリストフ / 東京 : 三修社、2006 ISBN4-
384-1377-5 C1084 2.800 円

連絡先・オフィスアワー E-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp 山口吉田研究室 金曜日 12 : 30 ~ 14 :
00

開設科目	ドイツ語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 ドイツ語の初級文法で学んだ事項を組み合わせ、ドイツ語の文章を作成する練習を積み重ねていきます。 / 検索キーワード ドイツ語 文法 独作文

授業の一般目標 ドイツ語の文章を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の文の構造および各文法事項に関する知識を深める。
 思考・判断の観点：日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的にみれるようになる。 関心・意欲の観点：自分が思っていることをドイツ語という形で発信する積極性を養う。 技能・表現の観点：ドイツ語の文を作成する能力を養う。

授業の計画(全体) 教科書に沿って練習問題を解きながら、質疑に答え、必要に応じて追加説明して行きます。

成績評価方法(総合) 平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：はじめての独作文[改訂新正書法版]，大岩信太郎，朝日出版社，2003年 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ ドイツ語の基本文を暗記していると、購読や会話にも非常に役立ちます。授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語作文の教科書を用いて、ドイツ語作文の訓練を行う。そのほか、数回、何らかのテーマを与え、それについて自由に作文を書いてもらう予定でいる。教科書は、受講者のドイツ語力を勘案して決める。

授業の一般目標 ドイツ語作文力の向上。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の初級文法をしっかり身に付けている。 技能・表現の観点：きちんとしたドイツ語を書くことができるのはもちろんのこと、より高度なドイツ語表現ができる。

授業の計画(全体) 独作文の教科書を1冊すべてやり終える予定。またレポートも2~3回課す予定。

成績評価方法(総合) 授業中に行う練習問題の解答、レポート、期末試験による。

教科書・参考書 教科書：日本の出版社から出ている独作文の教科書を用いるが、どの教科書にするかは受講者の顔ぶれを見てから決定する。

開設科目	ドイツ語演習(時事ドイツ語・ドイツ事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	Hintereder-Emde, Franz				

授業の概要 ドイツ語圏やヨーロッパのアクチュアルなテーマを取り上げて、ドイツ語の実力を身につける。分野毎の語彙を口頭練習やレポート作成により広げながら、より深く認識させていく。できるだけ積極的にクリエイティブに言葉と取り組んでいきたいと思う。

授業の一般目標 ドイツやヨーロッパ文化圏の現代事情を多様な情報を通じて理解できること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ドイツやヨーロッパの現代事情を把握できること。 **思考・判断の観点:** ドイツ語の資料を収集や分析し、読解できること。 **関心・意欲の観点:** 言葉や文化への感性を高めること。

授業の計画(全体) アクチュアルな資料を読みながら、できればドイツ語でディスカッションして、ドイツ語圏の事情についての知識を増やし、ドイツ語の実力を鍛える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業と評価について
- 第 2 回 項目 ドイツの都市 内容 町を探検する; 歴史、施設、特徴
- 第 3 回 項目 ドイツの都市 内容 町を探検する; 歴史、施設、特徴
- 第 4 回 項目 ドイツの都市 内容 受講生の都市紹介
- 第 5 回 項目 ドイツの都市 内容 受講生の都市紹介
- 第 6 回 項目 ドイツの地方 内容 ドイツの州、地理
- 第 7 回 項目 ドイツの地方 内容 歴史と現状
- 第 8 回 項目 ドイツの地方 内容 受講生の州紹介
- 第 9 回 項目 ドイツの地方 内容 受講生の州紹介
- 第 10 回 項目 ドイツの日常生活 内容 ライフスタイル、ファッション、趣味
- 第 11 回 項目 ドイツの日常生活 内容 ライフスタイル、ファッション、趣味
- 第 12 回 項目 ドイツの日常生活 内容 ライフスタイル、ファッション、趣味
- 第 13 回 項目 ドイツの日常生活 内容 発表
- 第 14 回 項目 ドイツの日常生活 内容 発表
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 定期的な参加の上に積極的に授業に取り組む姿勢と授業中の意見や質問をすること(20%)、選んだトピックについての発表(30%)やレポート(60%)による。

教科書・参考書 教科書: 資料はコピーで配布する

連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp, tel/fax: 933-5287, office hour: 月曜日 7・8 時限(14:30~16:00)

開設科目	現代フランス語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 現代フランス語の様々な特徴をテーマごとに取り上げて解説し、その全体像を体系的に提示する。

授業の一般目標 現代フランス語の様々な特徴を把握し、現象を説明することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 細部に至るまで、フランス語の文法を正確に把握し、フランス語を運用できる。 思考・判断の観点： フランス語の様々な現象を論理的に説明できる。

授業の計画（全体） 現代フランス語の様々な特徴をテーマごとに取り上げて分析し、その全体像を体系的に提示する。

成績評価方法（総合） 期末テスト：70% 平常点：30%

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：『フランス語とはどういう言語か』, 大橋保夫他, 駿河台出版社

メッセージ 休まず出席すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文 612, オフィスアワー：木曜日 3:00-4:30

開設科目	現代フランス語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 現代フランス語の様々な特徴をテーマごとに取り上げて解説し、その全体像を体系的に提示する。

授業の一般目標 現代フランス語の様々な特徴を把握し、現象を説明することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 細部に至るまで、フランス語の文法を正確に把握し、フランス語を運用できる。 思考・判断の観点： フランス語の様々な現象を論理的に説明できる。

授業の計画（全体） 現代フランス語の様々な特徴をテーマごとに取り上げて分析し、その全体像を体系的に提示する。

成績評価方法（総合） 期末テスト：70% 平常点：30%

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：『フランス語とはどういう言語か』, 大橋保夫他, 駿河台出版社

メッセージ 休まず出席すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文 612, オフィスアワー：木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福島祥行				

授業の概要 「コミュニケーション」ということばは、昨今頻繁に見聞きされるにも拘らず、その本質を定義しようとするや、たちまち、大変な困難に行き当たる。それは単に「コミュニケーション」ということばの指す領域・現象が広範にわたるのみならず、「コミュニケーション」についての思弁・考察が、通り一遍のまま、深められていないことにも起因している。われわれは、日常の会話において、何をわかり、またわかっていないのか。

授業の一般目標 本講義では、その反省に立ち、受講者と共に簡単な会話分析を試みることで、「コミュニケーション」の本質を探りたい。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コミュニケーションとはなにか？
- 第 2 回 項目 2つのコミュニケーション・モデル
- 第 3 回 項目 シャノン&ウィーヴァーの伝達モデル
- 第 4 回 項目 オースチンと言語行為論
- 第 5 回 項目 グライスと会話の協調原則
- 第 6 回 項目 関連性理論
- 第 7 回 項目 ウィトゲンシュタインと独我論
- 第 8 回 項目 2つの独我論モデル
- 第 9 回 項目 ガーフィンケルとエスノメソドロギー
- 第 10 回 項目 サックスと会話分析
- 第 11 回 項目 会話分析の実際
- 第 12 回 項目 構築主義と本質主義
- 第 13 回 項目 「意味」のありか
- 第 14 回 項目 コミュニケーションの可能性について
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：L'Analyse des conversations, V. Traverso, Nathan；コミュニケーションの自然誌, 谷 泰 編, 新曜社；会話分析への招待, 好井・山田・西阪 編, 世界思想社；相互行為分析という視点, 西坂 仰, 金子書房；活動としての文と発話, 串田・他, ひつじ書房

備考 集中授業

開設科目	フランス語学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 今年度は、Pour une theories des formes semantiques を読んでいきます。

授業の一般目標 フランス語で書かれた論考を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文を正確に読むことができる。 思考・判断の観点：多義性について説明できる。 態度の観点：講読に参加できる。

授業の計画(全体) 前期のテキストは次のとおりです。Cadio,P et Visetti, Y. (2001): Pour une theories des formes semantiques.

成績評価方法(総合) レポート：60% 授業態度や授業への参加度：40%

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。

メッセージ 毎回予習してくること。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 今年度は、Pour une theories des formes semantiques. を読んでいきます。

授業の一般目標 フランス語で書かれた論考を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文を正確に読める。 思考・判断の観点：多義性について説明できる。 態度の観点：講読に参加できる。

授業の計画(全体) 後期のテキストは次のとおりです。 Cadio, P et Visetti, Y. (2001): Pour une theories des formes semantiques.

成績評価方法(総合) レポート：60% 授業態度や授業への参加度：40%

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。

メッセージ 毎回予習してくること。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 講義題目を「19世紀後半のフランス小説」とする。19世紀後半のフランスの代表的小説を取り上げ、その小説を具体的に検討・分析することをとおして、文学の流れを把握したい。どの作品を取り上げるかといえば、フロベールの『ボヴァリー夫人』、バルベール・ドールヴィイの『妻帯司祭』『魔性の女たち』、エミール・ゾラの『居酒屋』『ナナ』『ジェルミナル』、モーパッサンの『脂肪の塊』『女の一生』『ピエールとジャン』、ユイスマンスの『さかしま』『彼方』を考えている。これらの作品を紹介することによって、フランスの小説がどのようなものであるのか、具体的に知ってもらいたいと願っている。

授業の一般目標 文学史の授業であるが、歴史を前面に出すのではなく、代表的作品を具体的に取り上げることによって、文学の流れの理解を目指す。歴史の話は、ともすれば退屈であり、作品を具体的に知ってもらうことによって、興味が湧けば、実際に読んでもらいたいと願うからである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：19世紀後半の主要な作家や作品を具体的に知り、あわせて、フランス文学の流れを把握することができる。思考・判断の観点：作家や作品の歴史的背景を学ぶことで、現代に生きることの意味を考察することができる。人間とは何か、いかに生きるべきかを考えることができる。関心・意欲の観点：フランス文学への積極的な関心を持つことができる。また、授業で取り上げる作品を実際に読むことができる。

授業の計画(全体) 概要のところでも述べたように、フロベールの『ボヴァリー夫人』、バルベール・ドールヴィイの『妻帯司祭』『魔性の女たち』、エミール・ゾラの『居酒屋』『ナナ』『ジェルミナル』、モーパッサンの『脂肪の塊』『女の一生』『ピエールとジャン』、ユイスマンスの『さかしま』『彼方』といった作品を解説・分析したい。今挙げた作家について、フロベールには4回、バルベール・ドールヴィイには1.5回、ゾラには2.5回、モーパッサンには3.5回、ユイスマンスには2.5回ほどの時間を充てる予定である。

成績評価方法(総合) 試験またはレポート(70%)と平常点(30%)との総合で、成績評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：フランス文学史, 饗庭孝男他, 白水社, 1979年; フランス文学史, 田村毅・塩川徹也, 東京大学出版会, 1995年; 授業中、適宜紹介する。

メッセージ 文学とは、知識ではなく、何よりもまず読むことだと思う。授業で取り上げる作品を実際に読んでもらいたいと願っている。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 613 研究室、月曜日 14:30 ~ 16:00 .

開設科目	フランス文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

授業の概要 アルベール・カミュの生涯と作品を語る。生い立ちと青少年期を過ごしたアルジェリアの状況と家庭環境と初期作品とのかかわり、それから第二次大戦前後のフランスの困難な状況と創造の営みとのかかわりを述べる。

授業の一般目標 文学を単に個々の作家の個性の発現としてのみ捉えるのではなく、時代の精神風土と密接に絡み合った流れやうねりとして理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：それぞれの作品に於ける内容や表現法の理解 思考・判断の観点：作家の哲学や思考を辿り、評定する。 関心・意欲の観点：異なった国や風土、文化に関心を寄せる。

授業の計画（全体） 1．初期エッセイと地中海世界の文化伝統 2．不条理の哲学と『異邦人』、『シーシュポスの神話』 3．連帯を目指しての作品とレジスタンス 4．孤立と、順次講じていく。

成績評価方法（総合） レポート 70% 授業参加度 30%

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：その都度適宜指示

開設科目	フランス文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 今年のこの授業は、大学院「比較文学論」と共通のものなので、比較文学の授業をおこなう。講義題目は「高橋たか子とフランス文学」とする。高橋たか子は、現在、日本の代表的なカトリック作家であるが、フランス文学、特に、フランソワ・モーリアックの文学から影響を受けて、作家として出発をした。そこで、まず、モーリアックの傑作である『テレーズ・デスケルー』を取り上げ、分析をこころみる。このあと、高橋たか子の最初の書き下ろし長編小説である『空の果てまで』と、受洗をはさんで制作された『誘惑者』を問題にし、この二つの小説を『テレーズ・デスケルー』と比較しながら読解する。この作業の中で、高橋がモーリアックだけではなく、サドからも影響を受けていることが明らかになるだろう。高橋はサド的なものをうちにかかえて文学的営為をおこなってきたのである。さいごに、カトリックに回心したあとに書かれた『装いせよ、わが魂よ』を取り上げ、高橋たか子がほんとうの意味で、サドと訣別したかを考察したい。なお、この授業では、「比較文学論」と共通の授業であるので、原則として、フランス語は用いない。 / 検索キーワード 情熱、悪、他者。

授業の一般目標 モーリアックと高橋たか子との比較をおこなうので、文学研究のひとつの方法としての比較研究のやり方を学ぶことができれば幸いである。また、フランスと日本のキリスト教文学がどういうものであるのか、具体的に知ることができればと願っている。さらにキリスト教あるいはサドの文学にアプローチすることで、生きる指針を得ることができれば幸いである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：キリスト教文学がいかなるものであるのかを、知ることができる。
思考・判断の観点：何が善で、何が悪であるのかを、思考・判断することができる。ひとりの人間として生きることが何であるのかを、考えることができる。

授業の計画（全体） 概要のところでも述べたように、まず、モーリアックの『テレーズ・デスケルー』の分析をこころみ、つぎに、高橋たか子の『空の果てまで』『誘惑者』の読解を、『テレーズ・デスケルー』との比較のもとにおこなう。そのあと、『装いせよ、わが魂よ』を取り上げ、高橋がほんとうの意味でサド的なものと訣別したかどうか、を考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと『テレーズ・デスケルー』の分析
- 第 2 回 項目 『テレーズ・デスケルー』の分析
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 『空の果てまで』と『テレーズ・デスケルー』との比較
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 『誘惑者』と『テレーズ・デスケルー』との比較
- 第 8 回 項目 同上
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 『装いせよ、わが魂よ』の読解
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 同上
- 第 15 回 項目 同上

成績評価方法（総合） 試験またはレポートの成績（70%）と平常点（30%）の総合で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 613 研究室、月曜日 14 ; 30 ~ 16 ; 00 .

開設科目	フランス文学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 20世紀の実存主義の思想家としても知られる、シモーヌ・ド・ボーヴォワールの長篇小説『他人の血』をテキストに用いる。この作品をテキストに用いることで、ボーヴォワールの世界をかいま見たい。単に訳読に終始することなく、作品の分析をこころみること、文学作品の研究のしかた、論じ方をまなぶことができればと願っている。

授業の一般目標 比較的平易な小説のフランス語を読むことによって、フランス語の読解力を養成することを目指すことは、もちろんであるが、作品の分析をこころみることによって、文学作品の分析能力を身に付けることができればと願っている。概要のところでも述べたように、文学研究の際になんらかの参考になれば幸いである。と同時に、思考力、論理を展開する能力がやしなえればと願っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：小説のフランス語の読解力の向上。 思考・判断の観点：文学作品の分析能力の養成。 関心・意欲の観点：ボーヴォワールの文学世界への関心。

授業の計画(全体) 作品は全体として313頁から成り立つ。したがって全部を読みとおすことは到底不可能である。60頁から成る第1章をできるだけ多く読み進めることを目標とする。1回で1ページ半あまり読み進みたいと考えている。しかし、あまりあせらず、じっくりとフランス語と作品の内容を検討していきたいと考えている。

成績評価方法(総合) 平常点を重視する。授業は受講者に順番にあてて、訳読してもらうので、発表の際の成績がかなり成績評価の比重をしめることになる。また、学期の終わりには、レポートを提出してもらうことを考えている。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：他人の血, ボーヴォワール, 新潮文庫

メッセージ 授業への積極的な参加を望む。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分まで。

開設科目	フランス文学講読(小説)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 20世紀の実存主義の思想家として名高いジャン＝ポール・サルトルの短篇小説『壁』をテキストとして用いる。この作品をじっくりと味読・精読することで、小説を読むことによるこびを味わいたい。なお、授業では、発音の練習と文法の復習を徹底的におこないたい。時間的余裕があれば、作品の分析もおこないたいと思っている。

授業の一般目標 小説のフランス語に慣れるとともに、フランス語の読解力の養成を目指す。

授業の計画(全体) 作品は全体として、プレイアード版で20頁からなるので、全部を読みとおすことは微妙なところであるが、1回の授業につき、1頁から1頁半進むことで、全部を読み終えたいと思っている。

成績評価方法(総合) 期末試験の成績と平常点との総合で評価する。受講者が少人数なので、試験50%、平常点50%の割合で評価したいと思っている。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。/ 参考書：短編集『壁』, サルトル, 人文書院, 1980年; 授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待する。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分まで。

開設科目	フランス文学講読(小説)(2年生)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 1年生のときに共通教育の初習外国語としてフランス語を履修しなかった2年生を対象に、フランス語の速習授業を行います。

授業の一般目標 発音の規則を含め、初級文法のあらましを習得し、簡単な発話が可能なこと。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文法規則の体系的な理解 関心・意欲の観点：自主的、規則的な学習 技能・表現の観点：きちんとした正しく発声で、応答できる。

授業の計画(全体) テキストは各課が Grammaire, Lecture, Exercices で構成されている。文法の説明の後、練習問題で諸規則を理解し、身に着ける努力をする。また、日常、身の回りで使われる表現を音読や応答練習で覚え、使えるようにする。

成績評価方法(総合) 授業内の課題および発表50% 宿題およびレポート50%

教科書・参考書 教科書：マルチ・フランセ、森本英夫、他3名、朝日出版社、2007年；補助教材としてプリント配布

開設科目	フランス文学講読(エッセイ・批評)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

授業の概要 フランスのロマン派を代表する詩人であり劇作家であり小説家でもあったヴィクトル・ユゴーの足跡を辿ると同時にその生きた時代十九世紀を概観する。 教材にはまず易しく読める『ヴィクトル・ユゴーの世紀(1, 2)』を用い、 時間的余裕があればヴァン・チーゲンの書からロマン派理論の章を抜粋で読む。

授業の一般目標 詩人、作家の作品と生涯を生きた時代のうねりの中で把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 歴史のうねりと文学のかかわり 思考・判断の観点： フランス語による論理的・分析的思考の養成 技能・表現の観点： フランス語の語彙や読解力の養成

授業の計画(全体) 『ヴィクトル・ユゴーの世紀1』に記載されたユゴーの生い立ち、恋、文学デビュー、エルナニ事件、レイ・ナポレオンとの確執までを前半7週で読み進む。 亡命中と帰還後の活躍を記した後半『ヴィクトル・ユゴーの世紀2』を次の7週で読む。

成績評価方法(総合) 授業内演習50% レポート50%

教科書・参考書 参考書: les grandes doctrines litteraires en France, Philippe van Tieghem, PUF, 1974年

開設科目	フランス語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	ジャン＝クロード・ボシール				

授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしています。

授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。 関心・意欲の観点： フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。

授業の計画(全体) 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供します。

成績評価方法(総合) 一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： 自作のプリント

開設科目	フランス語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	ジャン＝クロード・ボシール				

授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしている。

授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばす。

授業の計画(全体) 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供する。

成績評価方法(総合) 一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：自作プリント

開設科目	フランス語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 フランス語の基本的な文法知識を踏まえ、フランス語特有の成句や熟語を学びながら、動詞を軸としての日本語から自然なフランス語への翻訳を、授業参加者全員で行う。

授業の一般目標 日常生活で使われる平易で自然なフランス語が書けるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：単語や成句表現の習得・日本語の正確な理解 関心・意欲の観点：フランス語の様々な文章表現に触れること 技能・表現の観点：正しい綴り、的確な表現力の習得

授業の計画(全体) 自動詞、他動詞、代名動詞等の動詞の種類別に、また動詞の時制や法を軸に進めていくが、文型や話法についても触れる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文型、自動詞 内容 自動詞を使った様々な表現
- 第 2 回 項目 他動詞構文(1)
- 第 3 回 項目 他動詞構文(2)
- 第 4 回 項目 過去時制 内容 複合過去、半過去の表現
- 第 5 回 項目 代名動詞
- 第 6 回 項目 非人称表現
- 第 7 回 項目 比較の文
- 第 8 回 項目 関係代名詞を使った文
- 第 9 回 項目 単純未来と前未来
- 第 10 回 項目 命令法、不定法
- 第 11 回 項目 疑問副詞、疑問形容詞
- 第 12 回 項目 疑問代名詞
- 第 13 回 項目 受動表現
- 第 14 回 項目 準助動詞 + 不定詞 使役動詞
- 第 15 回

成績評価方法(総合) レポート 50%、日頃の演習での熱意や参加度 50%

教科書・参考書 教科書：初歩のテーマ, 石井精一, 三修社, 2004年; プリント配布 / 参考書：フランス語作文の基礎, 中原俊夫, 白水社, 2004年

開設科目	フランス語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 フランス語の初級文法で学んだ事項を踏まえて、フランス語の文章を作成する訓練をおこなう。教科書またはプリントを用いるが、そのほかに、ディクテをしたり、自由作文を書いてもらったりすることを予定している。

授業の一般目標 フランス語の作文能力の向上を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： フランス語の文の構造および文法事項にかんする知識を深める。

関心・意欲の観点： 自分が思っていることをフランス語で表現するという積極的な意欲を養う。 技能・表現の観点： よりきちんとした・確かなフランス語の文章を作成する能力を養う。

授業の計画(全体) 教科書またはプリントに沿って、練習問題を解いていく。質問に答え、必要に応じて追加説明をする。

成績評価方法(総合) 期末試験の点数(50%)と日常点(50%)との総合で評価する。

教科書・参考書 教科書： 教科書を用いるか、プリントでやるか未定である。受講者の顔ぶれを見てから決める。 / 参考書： 授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的参加を望む。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分まで。

開設科目	フランス語演習(時事フランス語・フランス事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 新聞、雑誌、テレビ放送、インターネット等のジャーナリズムで使われる生きた現在フランス語を学び、同時にフランス社会の最新の動向を知る。

授業の一般目標 時事フランス語の用語や表現に習熟するとともに、フランスの最新の政治的、社会的、文化的状況をキャッチし考える機縁となる授業を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：記事の内容を的確に把握する 思考・判断の観点：取り上げられているニュースや問題を掘り下げる。 関心・意欲の観点：フランス社会の様々な問題に関心を示し、翻って日本の問題をも考える。

授業の計画(全体) 環境問題、移民や雇用問題、映画、シャンソン、料理、スポーツ等様々なトピックスを、インターネット、Label France, le nouvel Observateur, 『ヴァリエテ・フランセーズ』などから拾って、読み、話し合う。

成績評価方法(総合) 授業内演習 50% レポート 50%

教科書・参考書 教科書：自作プリント及び及びフランスの新聞やインターネット記事、書籍、過去にフランスで大ヒットした映画「L'aile ou la cuisse」 / 参考書：ヴァリエテ・フランセーズ2007, クリスチャン・ボームルー、荒木善太, 朝日出版社, 2007年

開設科目	フランス語演習(時事フランス語・フランス事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 パリの現状を把握するために、刊行されたばかりのパリについて書かれた文献を読んでいく。また、フランスのニュースを見たり読んだりして、現在フランスが抱えている問題について考え、議論していく。

授業の一般目標 フランスの様々な側面を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：パリの現状を把握し、フランスの様々な側面を理解する。 思考・判断の観点：相対的・複眼的な視点を持てるようになる。 態度の観点：毎回予習して来ること。

授業の計画(全体) Sociologie de Paris を読んでいく。また、ビデオやパソコンを使って、現在フランスが抱えている様々な問題を取り上げ、パリおよびフランスについて見識を高めていく。

成績評価方法(総合) レポート：60% 授業態度や授業への参加度：40%

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。

メッセージ 毎回予習してくること。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文612，オフィスアワー：木曜日 15:00-16:30

言語文化学科 言語情報論コース

開設科目	言語学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 「ことば」が科学的研究の対象になることを理解してもらおう。具体的には、日本の幾つかの地域を選び、そのアクセントを記述する。それらには、このような違いがあるにも拘らず、言語学適法法に基づいて説明すれば、あくまでもズレであって、相違ではないことに気付かせる。それらは本来同一の言語的特徴に還元できることを発見させる。つまり、言語の体系である共時態は、過去のつながり、通時態の反映であることもんだいにする。取扱う地域は、鹿児島市、都城市、京都市、東京である。 / 検索キーワード 方言、アクセント、韻律単位、拍、音節

授業の一般目標 この科目は主に一年生を対象にしたものである。従って一番の目標は、学生にことばに対する興味を喚起することである。そのために、方言とアクセントということを講義の対象として選んだ。身近な方言が科学的研究の対象になることを理解してもらいたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学の基本的考え方。 思考・判断の観点：論理的な思考能力。言語学が理系科目に近いことへの理解。 関心・意欲の観点：ことばに関心を持ち続ける。 態度の観点：講義に積極的に参加する態度。 技能・表現の観点：考えた事を、自分のことばでまとめ発表する。

授業の計画（全体） 自家版のテキスト「方言とアクセント」に沿って、講義を進める。またテキストとともに、その地域の方言をアクセントに重点を置いて録音した資料を聴いてもらう。そして、アクセントには規則性があることを学んでもらう。

成績評価方法（総合） 定期試験、60%。授業外レポート、20%、出席 20%。

メッセージ 当然のことであるが、必ず予習、復習をすること。そうしないと言語学の考え方は分からない。

連絡先・オフィスアワー 人文6階、617研究室、 e-mail:takanori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 日本語、その他の言語の連体修飾構文を比較対照する。その他の言語としては、英語がおもで、タガログ語、インドネシア語、韓国語、中国語を参考程度に考慮する。前期は、英語、日本語で書かれた連体修飾関係の論文を読む。連体修飾構造というと分かりにくい、英語では関係節構文と考えればよい。 / 検索キーワード 関係節、連体修飾、統語論、語用論

授業の一般目標 関係節や関係代名詞といえば、馴染みが薄い、これを連体修飾と置き換えればすぐ身近なものになる。ここでは、この構文についてその類似点、相違点などについて考察する。そしてその構造について言語学的に接近する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書を読んで理解できること。 思考・判断の観点：科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。 関心・意欲の観点：日本語だけでなく、英語をはじめとするその他の言語の連体修飾構文にまで興味が広がるように。 技能・表現の観点：考えた事を第三者に分かるように文章化する。

授業の計画（全体） 先ず日本語の連体修飾構文について、教科書を中心に理解する。次に言語類型論的観点から入門書を読む。前期では、この構文にも言語によって変異があることを理解する。

成績評価方法（総合） 学期末試験を中心にする（70％）。授業外レポートと授業への参加状況（30％）。

教科書・参考書 教科書：An introduction to Japanese linguistics, Tsujimura, Natsuko, Blackwell, 1996年；Introduction to typology, Whaley, J. L., SAGE, 1997年；日本文法, 久野 , 大修館書店, 1973年

メッセージ 予習して出席すること。講義に出て話しを聞き、その時間の中で内容が理解できれば講義の目的は達成できたことになる。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 後期は、関係節構文における言語による変異に焦点をあて、この変異の由来を理論的に検証する。具体的には、修飾構造と非修飾語の間の統語的、語用論的關係について考察する。 / 検索キーワード 関係節、連体修飾、統語論、語用論

授業の一般目標 データの提示能力と分析能力の向上を図る。その結果をどう整理して論文化するかを訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストを読んで、理解できること。 思考・判断の観点：科学的に考察できること。 関心・意欲の観点：日本語についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構造にまで関心を広げられるか。 態度の観点：積極的に授業に参加し、自分自身の見解を述べること。

授業の計画（全体） 授業概要で述べた項目について理解が得られたかどうかを確認しながら、次の項目に進んでいく。講義で使う論文を講義前に読んでくることが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。

成績評価方法（総合） 内容についてのレポートを2回程提出してもらう（30%）。更に学期末試験を行う（70%）。

教科書・参考書 教科書：日本語の分析と言語類型, 影山太郎、岸本秀樹（編）, くろしお出版, 2004年
メッセージ 予習をしていくことが前提。内容をその講義の中で理解すること。理解しにくいところは質問すること。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp, Office: Jinbun 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々な言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要文献を読みながら、広くいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。前期は「音韻体系」について取り上げます。

授業の一般目標 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 言語の類型化について理解を深める。 3. 音韻論の基本的な考え方について理解を深める。

成績評価方法 (総合) 出席点。テスト。

教科書・参考書 教科書： 配付資料は適宜用意します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要論文を読みながら、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。後期は「格組織」を取り上げます。

授業の一般目標 1 . 言語の多様性について理解を深める。 2 . 言語の類型化について理解を深める。

成績評価方法 (総合) 出席点。テスト。

教科書・参考書 教科書： 配付資料は適宜用意します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中川裕				

授業の概要 アイヌ語の文法構造について、その文化的な背景とともに学ぶ。アイヌ語は日本固有の言語のひとつであるが、日本人の大多数はその存在すら意識していないか、日本語の一方言だと考えている。しかし、アイヌ語は日本語となんら系統関係がないばかりか、文法構造において日本語とは大きく異なった言語である。この授業では、音声教材や映像教材を使いながら、アイヌ語文法の概要を学び、言語類型論的な観点からその特徴について検討する。また言語構造だけではなく、それが表現してきた伝統文化や世界観についても基礎的な知識を得られるようにする。

授業の一般目標 アイヌ語は日本の固有語のひとつであり、日本語とは全く異なる言語でありながら、そのことを知る日本人は少ない。日本に住み言語学に関心のある者ならば、必ず基礎的な知識を持っておかなければならない言語である。この授業では、どのような点で日本語と異なり、また言語としての共通性を見せるのかということに重点を置き、その言語学的な特質を理解することを目標とする。また、言語を文化と切り離して論じるのは、その話し手の存在を無視した形で言語を論じることになるが、それは真に言語を理解することにはならない。言語は文化と一体のものであることを、語の意味や口承文芸のテキスト分析などを通じて理解することを、もうひとつの目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： アイヌ語は日本の言語であり、アイヌ民族は日本列島に古くから住み、「日本人」とさざまざな形で交渉を持ちながら、独自の文化を築きあげてきた人々である。それが独自のものであるということは、言語を知ることによって端的に理解しえる。そのために、アイヌ語の文法的特徴である人称、所有表現、場所表現、語形成法について理解する。その一方で、言語としての普遍的な現象の表れを、日本語と対比しながら理解する。 関心・意欲の観点： 日本文化とは何か、日本人とは何か、日本語とは何か、という基本的な問題を所与のものとして考えず、日本が多様な文化・言語・エスニシティによって構築されているのだということを知り、それに関心を抱くことを目標とする。

授業の計画(全体) 1. 分布・系統。2. 音韻構造。3. 語順・基本的な文型。4. 人称表示。5. 所有表現。6. 場所表現。7. 語形成法。8. 伝統的生活と世界観。9. 口承文芸。

成績評価方法(総合) レポート。知識・理解で60%、関心・意欲で40%。授業で話したことをそのまま書くのではなく、それをどう発展して自分の問題として考えていくかという観点から評価を行う。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：エクスプレスアイヌ語, 中川裕・中本ムツ子, 白水社, 1997年; 世界の言語ガイドブック 2, 東京外国語大学語学研究所, 三省堂, 1998年; 言語学大辞典セレクション 日本列島の言語, 亀井孝他編, 三省堂, 1997年; アイヌ語をフィールドワークする, 中川裕, 大修館, 1995年; アイヌの物語世界, 中川裕, 平凡社, 1997年

備考 集中授業

開設科目	言語学演習（音声と音韻）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 言語学を勉強する上で必要となる調音音声学について勉強します。日本語や英語といった個別言語にはそれぞれ特徴的な言語音が使われています。この授業では人間の言語として音をどのように作り出し、どのように聞き分けているかについて、実際に様々な世界の言語音を聞きながら、それらを聞き取り記述できるようになることを目指します。

授業の一般目標 1．一般音声学の基礎知識を身につける。 2．世界で使われている言語音を出せるようになる。 3．国際音声字母（IPA）で言語音を表記できるようになる。

授業の計画（全体） 様々な言語音の発声方法を学習し、その聞き取り練習を行います。

成績評価方法（総合） 出席点。発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：『日本語音声学入門改訂版』，齊藤純男，三省堂，2006年 / 参考書：音声学概説，”ピーター・ラディフォギッド著；竹林滋，牧野武彦共訳”，大修館書店，1999年

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 オハイオ州立大学言語学科から出版されているテキスト、Language files を読みながら、言語の構造にアプローチする。これは、言語と言語学をより深く理解することにつながる。前期は、単語の構造、新しく語を作りだす仕組みについて学習する。 / 検索キーワード 語形成、接辞、屈折と派生

授業の一般目標 1. 英文で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。 2. 説明を理解すること。 3. 練習問題を自分で解く。 4. 言語学の他の分野にも関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学における形態論、語形成の分野の理解。 思考・判断の観点：文に構造があるように、語にも構造があることを、テキストの説明と練習問題に取り組むことで、理解する。そのためには自分で考えることが何よりも大切である。 関心・意欲の観点：形態論の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。 態度の観点：授業に参加するということは、同時に予習をしていくということを意味する。テキストが英語で書かれているので、前期が終わるころには、英語で書いた言語学のテキスト、論文も辞書があれば読めるようになる。

授業の計画(全体) 前期は、形態論についての知識、考え方について学習する。具体的な内容を次に示す。

1. Words and word formation, 2. Exercises in identifying morphemes, 3. The hierarchical structure of derived words, 4. Morphological processes, 5. How to solve morphological exercises, 6. Morphology exercises

成績評価方法(総合) 試験70%、演習内容30%。

教科書・参考書 教科書：Language files: Materials for an introduction to language and linguistics, Dept. of Linguistics. Ohio State University, Ohio State Univ. Press., 2004年

連絡先・オフィスアワー Mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 6(617)

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 オハイオ州立大学言語学科から出版されているテキスト、Language files を読みながら、言語の構造にアプローチする。これは、言語と言語学をより深く理解することにつながる。後期は、文の構造、新しく文を作りだす仕組みについて学習する。 / 検索キーワード 文、階層関係、協調の原理

授業の一般目標 1 . 英文で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。 2 . 説明を理解すること。 3 . 練習問題を自分で解く。 4 . 言語学の他の分野にも関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学における統語論、文の形成と理解。 思考・判断の観点：文には意味を正しく伝えるための構造があることを、テキストの説明と練習問題によって理解する。内容を理解した上で、文の構造の分析へと進むことが大切。まず自分で考えること。 関心・意欲の観点：統語論の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。 態度の観点：授業に参加するということは、同時に予習をしてくるということを意味する。テキストが英語で書かれているので、前期が終わるころには、英語で書いた言語学のテキスト、論文も辞書があれば読めるようになる。

授業の計画(全体) 後期は、統語論、語用論について学習する。具体的な内容を次に示す。 Chapter 6:Syntax, Chapter 7:Semantics, Chapter 8: Pragmatics. これらの中から幾つかを次に紹介する。 6.3. How sentences expresses ideas? 7.3. Lexical semantics, 8.4. Rules of conversation

成績評価方法(総合) 試験70%、演習内容30%。

教科書・参考書 教科書：Language files: Materials for an introduction to language and linguistics, Dept. of Linguistics. Ohio State University, Ohio State Univ. Press., 2004年

メッセージ 必ず予習をすること。

連絡先・オフィスアワー Mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 6(617)

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 ここでは、音素について取扱う。なぜ音素を取上げるのに、意味と統語なのかというと、例えば、言語を分析する場合必ず言語形式上の単位が問題になる。その最小の単位が音素であり、その分析方法は形態論その他の領域でも有効である。例えば、相補分布の概念は音韻論のみならず、形態論、統語論においても重要である。音素分析方法は、言語学の基礎中の基礎である。教科書の第 16 章 The phoneme、第 17 章 The phonemic analysis を取扱う。受講者は、教科書の日本語訳、持ち込み可。 / 検索キーワード 音素、相補分布、異音

授業の一般目標 音素という概念が理解できたかどうか。音素分析の方法がマスターできたか。分析方法を他の言語学の領域に生かせるか。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書の内容の理解 **思考・判断の観点：**なぜそうなるのかを考える。

授業の計画(全体) 教科書は英語版を使うが、学生は日本語訳の持ち込みも許す。読みながら説明し、練習問題で確認していく。

成績評価方法(総合) 試験 50%、演習の内容 50%。

教科書・参考書 教科書：An introduction to descriptive linguistics., Gleason, J. A., Holt Reinhart and winston, 1955 年

メッセージ 必ず予習をしてくること。内容は、授業の中で理解できればOK。

連絡先・オフィスアワー e-mail:takanori@yamaguchi-u.ac.jp Jinbun # 617

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 言語において、意味を伝えるために文法(統語論)が機能する。複雑な意味を伝える場合、統語論自体も複雑になる。しかし、統語論には、複雑な意味を聞き手に分かりやすく伝えるために、それなりの方法(strategy, 方略)を持っている。ここではその具体例を英語、日本語、タガログなどから挙げ、その仕組みについて考察する。日本語の中に、見過ごしているこのような方略(perceptible or perceptive strategies)を見付けることが出来るようになれば、この演習は成功である。/ 検索キーワード 知覚、文法的方法、コミュニケーション。

授業の一般目標 知覚と統語論、語用論との関係の理解。理解しやすくするために、統語論、語用論はどのような手立てを持っているかが理解できるか。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内容の理解。 思考・判断の観点：内容を理解するために言語学的に考察する。 態度の観点：日頃の予習と復習を重視する。

授業の計画(全体) 前半は、英文で書いたプリント(拙著)を渡し、それに基づいて演習する。内容を理解することに力点をおく。但し、教員の説明が中心になる。後半はそのプリントを受講者が説明する形で進める。最終的には、学生が内容を理解したことを踏まえて、類似の例が発見できるように指導する。プリントは Perception and syntactic strategies.

成績評価方法(総合) 試験70%、演習態度30%。

メッセージ 予習、復習を必ず。こちらも分かりやすいように、演習を工夫する。

連絡先・オフィスアワー e-mail:takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office:617

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 平易な文章で書かれた言語学の入門書を使って、主に母語である日本語で考えていきます。学生主導の討論形式で授業を進めます。初めて言語学を勉強する人に向いています。

授業の一般目標 母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深め、言語学的な考察方法を体得する。

授業の計画(全体) 最初にテキストに沿って、要点を説明します。その後、学生主導でチャットを使ってそのテーマについて全員で討論します。

成績評価方法(総合) 出席点。発言回数。レポート。

教科書・参考書 教科書：一回目の授業の時にどのテキストを使うかみんなで相談して決めます。

メッセージ ノートパソコンを使います。2年生はできるだけ取った方がいいでしょう。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 平易な文章で書かれた言語学の入門書を使って、主に母語である日本語で考えていきます。学生主導の討論形式で授業を進めます。初めて言語学を勉強する人に向いています。

授業の一般目標 母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深め、言語学的な考察方法を体得する。

授業の計画(全体) 最初にテキストに沿って、要点を説明します。その後、学生主導でチャットを使ってそのテーマについて全員で討論します。

成績評価方法(総合) 出席点。発言回数。レポート。

教科書・参考書 教科書：一回目の授業の時にどのテキストを使うかみんなで相談して決めます。

メッセージ ノートパソコンを使います。2年生はできるだけ取った方がいいでしょう。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	和田学				

授業の概要 この授業では、共通教育のハングル初級1, 2で履修した内容を基礎として韓国語の能力を伸ばすことを目的にしています。共通教育では学習していない文法項目、語彙などを学習すると同時に、ハングル検定4級の問題を解いて行きます。

授業の一般目標 この授業では、1年次に学ばなかった、変則活用、文法項目、語彙、発音規則などを学習して行きます。文法項目は50程度、語彙は500程度を習得することを目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：韓国語の能力を高め、多様な構文が使えるようになり、基本的な日常会話ができるようになります。 技能・表現の観点：ハングル検定4級程度の文章、文法が分かるようになります。

授業の計画(全体) 授業は、次の様に構成されます。i) 小テスト(語彙、文法項目)、ii) 復習、iii) 新たな項目の説明、iv) 新たな項目の練習問題、v) 宿題

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方等の説明 授業外指示 2回目までに教科書を用意しておいてください。
- 第2回 項目 第1課 内容 理由の表現
- 第3回 項目 第2課 内容 意図の表現、心理動詞の他動詞化
- 第4回 項目 第3課 内容 連体形1
- 第5回 項目 第3課 内容 意図の表現、
- 第6回 項目 第4課 内容 条件表現
- 第7回 項目 第4課 内容 例示、決定
- 第8回 項目 第5課 内容 変則1、理由
- 第9回 項目 第5課 内容 後文の前提、逆接
- 第10回 項目 第6課 内容 充分条件、継続相、完了相
- 第11回 項目 第6課 内容 義務、理由、変則2
- 第12回 項目 第7課 内容 理由、否定対極表現
- 第13回 項目 第8課 内容 時間の前後、決定
- 第14回 項目 第9課 内容 類推的表現
- 第15回

成績評価方法(総合) 成績は次の4点を基準とします。i) 期末テスト、ii) 小テスト、iii) 出席、iv) 宿題の提出 iii) と iv) は欠格条件です。

教科書・参考書 教科書：韓国語中級, 李昌圭, 白帝社, 2005年 / 参考書：辞書を用意してください。補足説明、練習問題のために、プリントを配ります。

連絡先・オフィスアワー wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	和田学				

授業の概要 この授業では、共通教育のハングル初級1, 2と前期の言語学演習で履修した内容を基礎として韓国語の能力を伸ばすことを目的にしています。共通教育では学習していない文法項目、語彙などを学習すると同時に、ハングル検定3級の問題を解いて行きます。

授業の一般目標 この授業では、1年次に学ばなかった、変則活用、文法項目、語彙、発音規則などを学習して行きます。文法項目は30程度、語彙は500程度を習得することを目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：韓国語の能力を高め、多様な構文が使えるようになり、基本的な日常会話ができるようになります。 技能・表現の観点：ハングル検定3級程度の文章、文法が分かるようになります。

授業の計画(全体) 授業は、次の様に構成されます。i) 小テスト(語彙、文法項目)、ii) 復習、iii) 新たな項目の説明、iv) 新たな項目の練習問題、v) 宿題

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方等の説明
- 第2回 項目 第9課 内容 変化、感嘆、試図
- 第3回 項目 第9課 内容 経験、不可能、並行動作
- 第4回 項目 第10課 内容 進行、感嘆
- 第5回 項目 第10課 内容 引用、下称
- 第6回 項目 第10課 内容 可能性、確言
- 第7回 項目 第11課 内容 引用、後文の前提
- 第8回 項目 第11課 内容 結果状態
- 第9回 項目 第12課 内容 Counter factive
- 第10回 項目 第12課 内容 変則3
- 第11回 項目 他動詞、自動詞
- 第12回 項目 使役構文
- 第13回 項目 受動構文、自発構文
- 第14回 項目 回想過去
- 第15回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 成績は次の4点を基準とします。i) 期末テスト、ii) 小テスト、iii) 出席、iv) 宿題の提出 iiiとivは欠格条件です。

教科書・参考書 教科書：韓国語中級, 李昌圭, 白帝社, 2005年 / 参考書：辞書を用意してください。補足説明、練習問題のために、プリントを配ります。

連絡先・オフィスアワー wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習(言語理論)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 4年生の卒業論文テーマを題材にして、論文指導を行う。

授業の一般目標 1. 言語データの取り扱い方について学習する。 2. 論文の書き方について学習する。

授業の計画(全体) 毎回4年生が順番に自分の研究テーマについて発表し、全員で討論する。3年生は授業を通して自分の卒論テーマを考える。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	個別言語演習（その他の地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 フィールド言語学の演習である。実践練習用として、エチオピアのオモ・クシ系の言語のテープを聞きながら、音声、語彙、文法の記述を試みる。

授業の一般目標 1．言語データを具体的にどのように取り扱うかについて学習する。 2．一つの言語の文法記述をすることを通して、音韻、形態、統語、意味といった言語学の主要分野に関する理解を深める。

授業の計画（全体） 音声、語彙、文法の記述練習をする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方
- 第 2 回 項目 音声聞き取り練習 1
- 第 3 回 項目 音声聞き取り練習 2
- 第 4 回 項目 語彙書き取り練習 1
- 第 5 回 項目 語彙書き取り練習 2
- 第 6 回 項目 語彙書き取り練習 3
- 第 7 回 項目 語彙書き取り練習 4
- 第 8 回 項目 形態素抽出練習 1
- 第 9 回 項目 形態素抽出練習 2
- 第 10 回 項目 形態素抽出練習 3
- 第 11 回 項目 形態素抽出練習 4
- 第 12 回 項目 文法分析 1
- 第 13 回 項目 文法分析 2
- 第 14 回 項目 文法分析 3
- 第 15 回 項目 文法分析 4

成績評価方法（総合） 出席点。課題。レポート。

メッセージ ノートパソコンを利用する。前期に音声学の授業を受講していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報処理学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This course is an “Introduction to Computational Linguistics”. How can computers be made to use a human language? There are two aspects: 1. How can a human language be exhaustively described in a form which computers can use? 2. How can the computer be programmed to use the description? This course will concentrate on the first question.

授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of formal linguistics presented in terms of language description for computational use.

授業の計画 (全体) After a survey of the field and its history, we will look at the basics of grammatical description. Programme: What is Computational Linguistics? History; Basic linguistics; Description of a language; Unification grammar.

成績評価方法 (総合) Written examination

教科書・参考書 教科書：Gengo zyouhou syori, Makoto Nagao, Iwanami Syoten, 1998 年；Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年 / 参考書：必要に応じてプリントを配布する。授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This course is an Introduction to Computational Linguistics. How can computers be made to use a human language? There are two aspects: 1. How can a human language be exhaustively described in a form which computers can use? 2. How can computers be programmed to use the description? This course will concentrate on the first question.

授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of formal linguistics presented in terms of language description for computational use.

授業の計画(全体) We will look at how grammar and meaning can be described and represented, and at why and how the description must extend beyond basic grammar. Programme: semantic representation; inference; discourse representation; knowledge representation. If there is time, we will look at probabilistic language processing.

成績評価方法(総合) Written examination

教科書・参考書 教科書: Gengo zyouhou syori, Makoto Nagao, Iwanami Syoten, 1998 年; Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年 / 参考書: 必要に応じてプリントを配布する。授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡昭夫				

備考 集中授業

開設科目	言語理論と自然言語処理	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉村 賢治				

備考 集中授業

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This course is an introduction to Morphology - the structure of words

授業の一般目標 An understanding of the basic techniques of morphological description from a computational linguist's point of view.

授業の計画 (全体) We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from Japanese, English and other languages.

成績評価方法 (総合) Assessment will be by one practical assignment: a morphological analysis

教科書・参考書 教科書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治著, サイエンス社, 2000年；吉村賢治(著)「自然言語処理の基礎」サイエンス社 2000年 / 参考書：必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This course is an introduction to Syntax - the structure of sentences

授業の一般目標 An understanding of the basic techniques of describing the grammar of a language from a computational linguist's point of view.

授業の計画 (全体) The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.

成績評価方法 (総合) Assessment will be by one practical assignment: a syntactic analysis

教科書・参考書 教科書：吉村賢治 (著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 / 参考書：Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年；吉村賢治 (著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	堀江薫				

授業の概要 この授業では、世界の言語の多様性(バリエーション)と共通性(ユニバーサル)の両面をとらえようとする「言語類型論」という学問分野を分かりやすく説明します。この授業を通じて、参加者の方が自分の母語や、学んでいる外国語の特徴を、世界の言語の構造的なタイプの中で位置づけて理解できるための基礎的知識を提供することを目指します。

授業の一般目標 この授業では、世界の言語の多様性(バリエーション)と共通性(ユニバーサル)の両面をとらえようとする「言語類型論」という学問分野をわかりやすく説明し、参加者の方が自分の母語や、学んでいる外国語の特徴を、世界の言語の構造的なタイプの中で位置づけて理解できるための基礎的知識を身につけることを目的とします。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：言語の構造的な分類(タイポロジー)とそれぞれのタイプの間の相違、また同じタイプに属する言語の中でのバリエーション、さらに世界の多くの言語で見られる共通的な傾向を具体的な言語現象の例に基づいて正しく理解することを目指します。 **思考・判断の観点**：言語の構造的な分類と言語間の共通性の観点から、母語や学んでいる外国語の特徴を分析し、母語と外国語の類似点・相違点を正しく理解できるようになることを目指します。

授業の計画(全体) (I) 最初に言語の構造的タイプの分類(タイポロジー)と言語間の共通性(ユニバーサル)の概念について概説します。(II) 日本語、英語といったなじみの深い言語から、他のアジア言語、さらによりなじみの薄い世界の言語の具体的な言語現象の例をもとに言語の構造的タイプ、言語間の共通性、同じタイプに属する言語間のバリエーションなどを分かりやすく解説します。(III) 言語の特徴の地理的分布を示すための言語構造地図(Atlas of language structures)を示します。(IV) 言語の類型、共通性と、言語以外の要因(認知・文化・コミュニケーション等)の相互関係について解説します。

成績評価方法(総合) 毎回の授業への参加(20%)と、レポート(80%)を総合して評価します。

教科書・参考書 教科書：初回でプリントを配布し、それを使用します。 / 参考書：言語類型論入門, リンゼイ・J・ウェイリー, 岩波書店, 2006年; 世界の言語と日本語, 角田太作, くろしお出版, 1992年; 言語普遍性と言語類型論, バーナード・コムリー, ひつじ書房, 1992年; The World Atlas of Language Structures, Haspelmath, M. et al., Oxford University Press, 2005年

連絡先・オフィスアワー 毎時間の講義終了後に質問、相談がある場合に行います。

備考 集中授業

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	菊澤 律子				

授業の概要 文献資料のない言語を対象とした比較(歴史)言語学的研究では、現在話されている言語の単語や文法構造を比較することで言語変化の過程を再建し、そこに映された人びとの歴史(先史)を解明しようと試みる。本講義では、太平洋地域とマダガスカルで話される「オーストロネシア諸語」を対象に、代名詞の体系の歴史的変遷、語彙の比較に基づく有用植物の利用、能格から対格への文法変化など、最新の研究トピックをいくつか選び、語彙や文法変化再建の手法の説明や理論的背景など比較言語学の基礎的な知識を織り込みながら紹介する。

備考 集中授業

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	伊藤 雅光				

備考 集中授業

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 A beginners' course in computer programming using the programming language Prolog. Prolog is a programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses; running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language.

授業の一般目標 プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

授業の計画(全体) Week by week we will introduce the basic techniques of Prolog programming and practice using them.

成績評価方法(総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子(著)「Introduction to Prolog Prolog入門」(授業で配布します。)/ 参考書：記号の世界(コンピュータ入門; 5. 楽しいプログラミング; 2), "中島秀之, 上田和紀著", 岩波書店, 1992年; Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986年; Prolog のソフトウェア作法(岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985年; 松田紀之(著)「PROLOGを楽しむ」オーム社 平成5年中島英之・上田和紀(著)「楽しいプログラミングII」岩波新書 1992 古川康一(著)「Prolog 入門」オーム社 1986 黒川利明(著)「Prolog のソフトウェア作法」岩波新書 1989

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 Advanced programming in Prolog (NOT for beginners)

授業の一般目標 implementation of larger programming projects.

授業の計画 (全体) Natural language programming in Prolog. Three projects: (1) analysis and translation of English and Japanese numbers (2) holding a conversation with the computer in English (3) translation between English and Japanese.

成績評価方法 (総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子(著)「Introduction to Prolog Prolog 入門」(授業で配布します。)/ 参考書：記号の世界(コンピュータ入門; 5. 楽しいプログラミング; 2),”中島秀之, 上田和紀著”, 岩波書店, 1992 年; Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986 年; Prolog のソフトウェア作法(岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985 年; 松田紀之(著)「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀(著)「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一(著)「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明(著)「Prolog のソフトウェア作法」岩波新書 1989

メッセージ 授業は殆ど英語で行います。

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 論文を書くための演習です。パソコンを用いた言語データの取り扱い方について学習します。データベースの作成及び分析を行います。

授業の一般目標 1 . 各自が集めてきた言語データを使って、データベース化を試みる。 2 . TeX による論文作成術を身につける。

授業の計画(全体) 各自の研究テーマに沿って、具体的に言語データを収集する。4年生は卒論テーマを対象にし、3年生以下は興味のあるテーマ毎にグループに分かれて言語データを集めることになる。集めた言語データは、その性質により分析に最も適したデータベースソフトを使って分析を試みる。なお、論文作成術として TeX を各自のノートパソコンにインストールし、論文の書き方についても併せて学習する。

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化学科 各コース共通科目

開設科目	文学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	木村一信				

授業の概要 「移動」の日本近代・現代文学 というテーマを設定したい。日本の近代は、「移動」(社会的・階層的・空間的)するところから始まったが、文学もまた同様に、さまざまな「移動」を表象することとなった。「留学」、「上京」、「汽車の旅」、「異文化体験(異国体験)」、「移民」、「戦争」、さらには「観光」といった具合である。日本近現代文学の具体的な作品を通して、「移動」のさまを考えてみたい。 / 検索キーワード 授業の概要に記した「 」で示した事項をキーワードとする。

授業の計画(全体) キーワードにそって、日本の近現代文学を具体的にとりあげ、分析し、「移動」のさまを考える。まず、「移動」ということがどのような事柄なのかを見、森鷗外の「舞姫」、夏目漱石の「坊っちゃん」、「三四郎」、志賀直哉の「網走まで」、さらには川端康成の「伊豆の踊子」、「雪国」、「古都」、石川達三「蒼氓」、また、戦争を題材とした作品を取りあげていく。

成績評価方法(総合) 小テスト・授業内レポート 40% + 授業態度・授業への参加度 40% + 出席 20% = 100%

教科書・参考書 教科書：未定、

備考 集中授業

人文学部 各学科共通科目

開設科目	法学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	道廣 泰倫				

授業の概要 まず、法とは何であるかという法の基礎理論を学び、次いで法体系の各法である憲法、行政法、刑法、訴訟法、民法、商法、労働法、社会保障法および国際法を概論的に学ぶ。

授業の一般目標 学生諸君が、一般社会人として必要な法的知識と法的なものの考え方を身につけて、法的に対応できる社会人・職業人となることを目標とする。

授業の計画（全体） 授業中にて、説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 法と他の社会規範との比較
- 第 2 回 項目 法による社会秩序の維持と正義の実現
- 第 3 回 項目 権利と義務から成る法律関係
- 第 4 回 項目 公法、私法および社会法による法の分類
- 第 5 回 項目 憲法 内容 基本的人権、国の統治機構
- 第 6 回 項目 行政法 内容 国の行政、自治体の行政
- 第 7 回 項目 刑法 内容 犯罪の成立要件
- 第 8 回 項目 訴訟法 内容 民事訴訟、刑事訴訟
- 第 9 回 項目 民法 内容 物権、債権、親族、相続
- 第 10 回 項目 商法（会社法） 内容 株式会社、合名会社、合資会社、合同会社
- 第 11 回 項目 労働法 内容 個別的労働関係、団体的労働関係
- 第 12 回 項目 社会保障法 内容 児童福祉、高齢者福祉
- 第 13 回 項目 国際法 内容 国際紛争の平和的解決
- 第 14 回 項目 法の解釈の方法 内容 文理解釈、論理解釈
- 第 15 回 項目 前期末試験

成績評価方法（総合） 試験の成績に出席を加味する。（全授業の 3 分の 2 以上の出席を要する。）

教科書・参考書 教科書：現代法学（第 2 版）、道廣泰倫、法律文化社、2002 年

開設科目	現代法（国際法を含む。）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	道廣 泰倫				

授業の概要 法は古代法から中世法、近代法および現代法へと発展してきているので、まず古代法、中世法および近代法の特徴について学び、次いで、とくに近代法との関係で、現代法の特徴を各法の基本原理をとおして学ぶ。

授業の一般目標 近代法の体系は私法と公法から成っていたが、現代法の体系は、さらに社会法が追加されている。なぜそうなったのかを理解することを目標とする。

授業の計画（全体） 授業中にて説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古代法の特徴 内容 ハムラビ法典
- 第 2 回 項目 中世法の特徴 内容 教会法、都市法、封建法
- 第 3 回 項目 近代法の特徴 内容 私法、公法
- 第 4 回 項目 日本国憲法の基本原理 内容 民主主義、自由主義、平和主義
- 第 5 回 項目 行政法の基本原理 内容 法治主義
- 第 6 回 項目 刑法の基本原理 内容 罪刑法定主義
- 第 7 回 項目 財産法の基本原理 内容 契約自由の原則、過失責任の原則
- 第 8 回 項目 家族法の基本原理 内容 個人の尊厳と両性の本質的平等
- 第 9 回 項目 商行為法の基本原理 内容 迅速な商取引の決済
- 第 10 回 項目 会社法の基本原理 内容 株主平等の原則
- 第 11 回 項目 社会保障法の基本原理 内容 生存権の保障
- 第 12 回 項目 訴訟法の基本原理 内容 当事者主義
- 第 13 回 項目 国際法の基本原理 内容 国際平和
- 第 14 回 項目 現代法の特徴 内容 社会法の登場
- 第 15 回 項目 前期末試験

成績評価方法（総合） 試験の成績に出席を加味する。（全授業の 3 分の 2 以上の出席を要する。）

教科書・参考書 教科書：現代法学（第 2 版）、道廣泰倫、法律文化社、2002 年

開設科目	人文地理学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	川村 博忠				

授業の概要 16世紀中頃日本人がはじめて西洋人と接触して以来、長い鎖国の時代を経て、19世紀後半に門戸を開くまで約300年間における日本人の海外知識の進展過程を世界地理書の著述および世界地図の刊行などを主軸にして考える。/ 検索キーワード 鎖国 坤輿万国全図 新井白石 山村戈助 高橋景保

授業の一般目標 鎖国という情報の閉ざされた環境のもと、ときには封建社会の迫害を受けながらも世界知識の摂取に尽力して近世における世界地理学(興地学)の発展に寄与した近世日本人の知識潮流の系列を理解したい。

授業の計画(全体) 授業中において説明する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 近世以前日本人の世界観
- 第2回 項目 三国世界観からの脱却
- 第3回 項目 朱印船時代の海外知識
- 第4回 項目 長崎で萌芽した續地理学
- 第5回 項目 新井白石の世界地理研究
- 第6回 項目 漢訳西洋知識の受容
- 第7回 項目 経世論の北方への関心の高まり
- 第8回 項目 蘭学の興隆と新しい世界観の勃興
- 第9回 項目 地動説の登場
- 第10回 項目 世界地誌と地図の飛躍的進展
- 第11回 項目 蘭学の公学化と幕府の思想統制
- 第12回 項目 洋学への転換と方図の出現
- 第13回 項目 幕末遣外使節の西洋体験
- 第14回 項目 東洋系世界図の変容と通俗版世界図の流布
- 第15回 項目 明治啓蒙期における地理学

成績評価方法(総合) 期末試験と出席状況によって評価する。出席は特に重視する。

教科書・参考書 教科書：近世日本の世界像, 川村博忠著, ぺりかん社, 2003年 / 参考書：参考書に関しては、授業で紹介する。

メッセージ 受講中は私語を慎んで欲しい。受講にはできるだけ「世界地図」を持参されたい。

開設科目	自然地理学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	貞方 昇				

授業の概要 日本列島の現景観が、いかに人間の営みと密接に結びついて作られてきたかを理解することを目指す。すなわち、日本人が縄文時代以来、古代、中世などの歴史時代を経て今日に至るまで、自然の諸条件をどのように利用して、私たちが今日見るような日本の土地 景観を作り上げてきたかを学ぶ。
 / 検索キーワード 日本列島、自然環境、土地環境、景観

授業の一般目標 日本列島の現景観が、以下に人間の営みとともに歴史的に作られてきたかを理解する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに：自然 と土地環境
- 第 2 回 項目 I . 日本列島の 土地環境基盤と 人間生活への意 義 1 . 島孤とし ての特徴 (日本列島の自 然条件 1)
- 第 3 回 項目 2 . 地球環境 変動のもとでの 日本列島 (日本列島の自 然条件 2)
- 第 4 回 項目 II . 新石器時代 の日本列島と人 間生活 1 . 縄文期遺 跡立地と土地環 境
- 第 5 回 項目 2 . 全国各地 の水田遺構と土 地環境
- 第 6 回 項目 III . 古代の土地 環境利用とその 変貌 1 . 古墳群の 立地と土地環境 の変化
- 第 7 回 項目 2 . 条里制土 地割と土地環境 変化 3 . ため池と 環境利用
- 第 8 回 項目 IV . 中世の土地 環境利用とその 変貌 1 . 辺境の開 墾と土地環境変 化
- 第 9 回 項目 2 . 戦国大名 の土地開発と環 境変化
- 第 10 回 項目 V . 近世の土地 環境利用とその 変貌 1 . 大規模河 川改修と土地環 境変化
- 第 11 回 項目 2 . 新田開発 の推移と土地環 境変化
- 第 12 回 項目 3 . 鉱物採取 と土地環境変化
- 第 13 回 項目 VI . 近・現代の 土地環境利用と その変貌 1 . 大規模農 地・宅地造成と 土地環境変化
2 . 大規模土 石 (砂利・陶 土) 採取と土地 環境変化
- 第 14 回 項目 3 . 掘り込み 式港湾と土地環 境変化 4 . 大規模地 形改変の量的評 価と土地環境変 貌の意義
- 第 15 回 項目 まとめ：日本列 島の土地環境と は

成績評価方法 (総合) 授業時の課題、地図作業、期末試験をあわせて評価する。

教科書・参考書 教科書： 授業時にプリント・地図類を配付する。 / 参考書： 土地に刻まれた歴史 (岩波新書) , 古島敏雄, 岩波書店, 1967 年 ; 中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌, 貞方 昇, 溪水社, 1996 年 ; 古代の環境と考古学, 日下雅義編, 古今書院, 1995 年 ; 歴史地理調査ハンドブック, 有菌正一郎他, 古今書院, 2001 年 ; 地形環境と歴史景観, 日下雅義編, 古今書院, 2004 年

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00 ~ 13:00

開設科目	地誌	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤井 宏志				

授業の概要 国際化の進んだ現在、日本は世界中の国々と国際関係をもち、日常的に交流するようになった。偏見なしに豊かな交流を行うには、これらの国々の自然、政治、経済、文化、社会など総合地誌として正確な理解が必要である。ここでは、正確な情報の得にくい途上国の地誌を中心に学ぶ。 / 検索キーワード 総合地誌、地誌情報、国際交流、途上国

授業の一般目標 途上国の地誌を学び、正確な情報を理解し、わが国や私達の果たすべき役割を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各国の地誌情報を分析し、理解する。 思考・判断の観点：各国の現状と将来について論理的に説明できる。 関心・意欲の観点：途上国について関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：日常の情報の中で途上国を主体的に考えることができる。

授業の計画（全体） 外国地誌の学び方の難しさをパラオ共和国を例にとり学ぶ。その後、アジアの国々、ラテンアメリカの国々、アフリカの国々について学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地誌入門（1） 内容 外国を理解することの難しさ 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 2 回 項目 地誌入門（2） 内容 パラオ共和国を例とする地誌の学び方（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 3 回 項目 地誌入門（3） 内容 パラオ共和国を例とする地誌の学び方（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 4 回 項目 アジア 内容 アジアの地誌の特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 5 回 項目 フィリピン（1） 内容 フィリピンの地誌（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 6 回 項目 フィリピン（2） 内容 フィリピンの地誌（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 7 回 項目 タイ 内容 タイの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 8 回 項目 ラテンアメリカ 内容 ラテンアメリカの特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 9 回 項目 日本人移民 内容 ラテンアメリカの日本人移民（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 10 回 項目 日本人移民 内容 ラテンアメリカの日本人移民（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 11 回 項目 パラグアイ（1） 内容 パラグアイの地誌（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 12 回 項目 パラグアイ（2） 内容 パラグアイの地誌（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 13 回 項目 アフリカ 内容 アフリカの地誌の特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 14 回 項目 エジプト 内容 エジプトの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 15 回 項目 コートジボワール 内容 コートジボワールの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント

成績評価方法（総合） 出席状況を重視する。

教科書・参考書 教科書：毎時間プリントを配布。 / 参考書：授業中に指示します。

メッセージ 各国の人々と各国の地球上の位置が頭に浮かぶように

連絡先・オフィスアワー 082 - 878 - 8112

開設科目	政治史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 主に 1931 年の満州事変から 1945 年の日本敗戦までの 15 年間にわたり続けられたアジア太平洋戦争史を中心に講義を勧める。 / 検索キーワード 戦争責任 過去の克服 歴史とは何か

授業の一般目標 政治史だけでなく、社会史・文化史などにも触れながら、この時代を対象とする歴史認識をどのように形成していくかを考える。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の概要説明
- 第 2 回 項目 満州事変への道 (1)
- 第 3 回 項目 満州事変への道 (2)
- 第 4 回 項目 日中戦争の背景 (1)
- 第 5 回 項目 日中戦争の背景 (2)
- 第 6 回 項目 軍部政権と政党政治 (1)
- 第 7 回 項目 軍部政権と政党政治 (2)
- 第 8 回 項目 国家総動員体制の確立
- 第 9 回 項目 大政翼賛会の成立
- 第 10 回 項目 日米英戦争の原因 (1)
- 第 11 回 項目 日米英戦争の原因 (2)
- 第 12 回 項目 戦局の展開と帰結
- 第 13 回 項目 日本の敗戦過程 (1)
- 第 14 回 項目 日本の敗戦過程 (2)
- 第 15 回 項目 全体の総括
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 適時レポートの提出を求める。最終試験は論述試験を課す。

教科書・参考書 教科書：近代日本の政軍関係, 纈纈厚, 大学教育社, 1987 年 ; 『日本陸軍の総力戦政策』, 纈纈厚, 大学教育出版, 1999 年 ; 『侵略戦争』, 纈纈厚, 筑摩書房, 1999 年 / 参考書：日本近代史概説, 纈纈厚他, 弘文堂, 2003 年 ; 近代日本政軍関係史の研究, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年 ; 侵略戦争, 纈纈厚, 筑摩書房, 1999 年 ; 文民統制, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年 ; いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制, 纈纈厚, 凱風社, 2006 年

メッセージ 歴史学アプローチからする現代の読み解きを

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	ギリシア語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	筒井 明子				

授業の概要 言葉は人間の思考の発露です。「That is Greek to me」と語らえる様に、ギリシア語は先ず音読、そして字体の特異さの為にしょっぱなはとっつきにくいと思います。前半は音読できて、ギリシア語の文章を書く訓練を繰り返します。この反復作業によって、文法力が増加します。学生諸君は、一つだけに疑問をしばって、毎回の授業に臨んでください。「一つ一つ、確実に」をモットーに、この作業を一年間を通じてやり遂げて後には、「ギリシア語なんてこんなものか」と思える様になって欲しいと思いますし、その様に指導して行くつもりです。 / 検索キーワード 西洋思想の源流

授業の一般目標 前期 ギリシア語初歩の基礎的な知識を獲得する。 後期 ギリシア語の基礎的な文法力を応用できるようにする。

授業の計画(全体) 前期 ギリシア語の音読、筆記を踏まえて、初級の知識を身につける。最初の内には作文も課す。 授業の進度は適宜変更する。 後期 前半期での基礎的知識の応用力をつけると共に、構文把握力を身につける。 授業の内容、進み方は適宜変更する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 字母・発音・音韻の分類・氣息記号 内容 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。
- 第 2 回 項目 字母・発音・音韻の分類・氣息記号
- 第 3 回 項目 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 4 回 項目 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 5 回 項目 動詞変化・現在直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 6 回 項目 名詞変化・第一変化(A - 変化(1)) 内容 作文もする
- 第 7 回 項目 名詞変化(A - 変化(2)) 内容 作文もする
- 第 8 回 項目 未来直説法・能動相 A - 変化(3) 内容 作文もする
- 第 9 回 項目 A - 変化(4) 未完了過去・直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 10 回 項目 名詞第二変化 形容詞 内容 作文もする
- 第 11 回 項目 前置詞 アオリスト直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 12 回 項目 現在完了及び過去完了・直説法・能動相 指示代名詞及び強意代名詞 内容 作文もする
- 第 13 回 項目 直説法・能動相・本時称の人称語尾 直説法・能動相・副時称の人称語尾
- 第 14 回 項目 「ある」「言う」の現在直説法 疑問代名詞及び不定代名詞
- 第 15 回 項目 中間試験
- 第 16 回 項目 現在・未来過去及び未来直説法・中動相
- 第 17 回 項目 アオリスト、現在完了・過去完了及び未来完了のの通訳法中動相 再帰代名詞、相互代名詞及び所有代名詞
- 第 18 回 項目 第2 アオリスト直接法能動相及び中動相 直接受動相・同士の主要部分
- 第 19 回 項目 第3 変化の名詞(1) 能相欠動詞、約音動詞(1)
- 第 20 回 項目 第3 変化の名(2) 約音動詞(2)
- 第 21 回 項目 黙音幹動詞の完了諸形・直接法中受動相 第3 変化の形容詞(1)
- 第 22 回 項目 流音幹動詞のアオリスト、未来現在完了、過去完了の直説法能動及び中動相 第3 変化の名詞(3)
- 第 23 回 項目 接続法能動相 接続中動及び受動相
- 第 24 回 項目 母音交替 条件文
- 第 25 回 項目 約音動詞の接続法 不定法(1)
- 第 26 回 項目 不定法(2) 第3 変化の名詞(4)
- 第 27 回 項目 関係代名詞 希球法能動相

第 28 回 項目 希球法中動及び受動相 第 3 変化の形容詞 (2)

第 29 回 項目 約音動詞の希球法 第 3 変化の名詞 (5)

第 30 回 項目 年度末試験

成績評価方法 (総合) 年間を通して、ギリシア語の基礎的文法力を理解できているか。年間を通して、ギリシア語の基礎的構文把握力が身についているか。作文、訳、試験、テキストの練習問題を訳させ、最終試験の結果を見て判断する。主として平素の努力を重視する。

教科書・参考書 教科書：ギリシア語入門 (改訂版), 田中美知太郎、松平千秋 (共著), 岩波書店 / 参考書：A Greek-English Lexicon Oxford intermediate, ; 参考書は希望者のみ

開設科目	ラテン語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	筒井 明子				

授業の概要 言葉は人間の思考の発露です。pessimism,optimism の語源はラテン語の ppessimus,optimus です。この様にラテン語は近代後の様々な言語に多大な影響をあたえてきた語学です。西洋思想に関心がある人は是非とも受講してください。テキストは様々な原文が使われており、最初の内は文体の違いに戸惑うかもしれませんが、逆に言えば、このテキストをこなすと、どんな原文にも応用が効くようになっていきます。一年間継続して学習した後にはラテン語の中、上級者程度の力がつきますし、その様に指導して行くつもりです。

授業の一般目標 前期 ラテン語の中級程度の文法力を身につける。後期 普通のラテン語が難なく読め、ラテン語が様々な語学に与えている影響を理解する。中・上級者向けの構文把握力を身につける。

授業の計画(全体) 前期 ラテン語の基礎的文法力を身につける。 授業の進度は適宜変更する。後期 ラテン語の構文を理解できるようにする。応用問題を適宜レポートして課す。 授業の進度は適宜変更する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 字母・発音・音節・アクセント
- 第 2 回 項目 字母・発音・音節・アクセント
- 第 3 回 項目 動詞変化(第 1、第 2 変化動詞)
- 第 4 回 項目 名詞変化(第 1 変化名詞)
- 第 5 回 項目 名詞変化(第二変化名詞) 形容詞変化
- 第 6 回 項目 前置詞 動詞変化(第 3、第 4 変化動詞)
- 第 7 回 項目 人称代名詞 未完了過去・直説法・能動相
- 第 8 回 項目 名詞変化(第 3 変化名詞(1)) 未来・直説法・能動相
- 第 9 回 項目 指示代名詞 第 3 変化・形容詞変化
- 第 10 回 項目 完了・直説法・能動相 名詞変化(第 3 変化名詞(2))
- 第 11 回 項目 関係代名詞 過去完了・未来完了・直説法
- 第 12 回 項目 名詞変化(第 3 変化名詞(3)) 疑問文
- 第 13 回 項目 命令法・能動相 名詞変化(第 3 変化名詞(4))
- 第 14 回 項目 受動相・直接法・現在・未完了過去・未来 形容詞変化(第 3 変化形容詞(2))
- 第 15 回 項目 中間試験
- 第 16 回 項目 副詞 受動相・完了系時称
- 第 17 回 項目 形容詞と副詞の比較級と最上級
- 第 18 回 項目 名詞変化・第 4 変化名詞 形容詞・副詞の不規則比較級・最上級
- 第 19 回 項目 命令法・受動相 名詞変化・第 5 名詞変化
- 第 20 回 項目 分詞 不規則動詞
- 第 21 回 項目 数詞 絶対的奪格
- 第 22 回 項目 不定法(1) 不定法(2)
- 第 23 回 項目 接続法・現在 非人格動詞及び非人称用表現
- 第 24 回 項目 接続詞の形容詞不定代名詞 接続法・未完了過去 Supinum
- 第 25 回 項目 Gerundium Gerundivum
- 第 26 回 項目 接続法・完了・過去完了 ギリシア系名詞の変化
- 第 27 回 項目 接続詞と従属文 名詞的な目的文
- 第 28 回 項目 副詞的な目的文 傾向・結果文
- 第 29 回 項目 間接疑問文 比較文
- 第 30 回 項目 年度末試験

成績評価方法(総合) 前期 ラテン語の基礎的变化を身につけて、問題を訳させる。主として平素の努力を重視する。後期 テキストの練習問題を音読して、訳出する。後期末に最終試験を行う。主として平素の努力を重視する。

教科書・参考書 教科書：新ラテン文法, 松平千秋・国松吉之助(共著), 東洋出版 / 参考書：羅和辞典(改訂新版), 田中秀央編, 研究社, 1966年; (希望者のみ)

開設科目	書道	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	佐貫 陸子				

授業の概要 本授業では実用書から芸術書まで応じられる書技を演習し、審美眼を養い、素質教育(一人一人の素質を高める)の有効な一手段として活用出来るようにする。/ 検索キーワード 書く。

授業の一般目標 漢字五体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)と仮名の美を学ぶ。特に楷書・行書は指導者レベルまで書写能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 書体の変遷と筆法を理解する。 思考・判断の観点: 文字をデフォルメし、運筆のリズムを工夫して自分なりの表現を試みる。 関心・意欲の観点: 1年もしくは半年、1つの古典を追求してみる。 態度の観点: ふだんから創作に役立つ詩文(詩、短歌、俳句、小説、歌詞)を理解しておく。 技能・表現の観点: 行書での部首の書き方を修得し、手本書きに応用する。

授業の計画(全体) 前期は漢字五体の基本を中心に実力を養い、後期は仮名の基本、漢字、仮名交じり書を学び、指導者として、自分で手本が書けるように技能を身につける。後期15週については前期授業中に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文房四宝、行書の基本事項 内容 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。
- 第 2 回 項目 行書の基本
- 第 3 回 項目 行書(蔵鋒について)
- 第 4 回 項目 行書(呉昌碩から学ぶ)
- 第 5 回 項目 行書(呉昌碩から学ぶ)
- 第 6 回 項目 行書(王羲之)
- 第 7 回 項目 篆書(基本点画) 篆刻(印稿)
- 第 8 回 項目 篆刻(印稿) 行書(空海の書)
- 第 9 回 項目 篆刻(印稿・布字) 行書(空海の書)
- 第 10 回 項目 篆刻(運刀)
- 第 11 回 項目 隸書(基本点画) 篆刻(運刀)
- 第 12 回 項目 草書
- 第 13 回 項目 楷書(背勢)
- 第 14 回 項目 楷書(向勢)
- 第 15 回 項目 楷書(方筆)

教科書・参考書 教科書: 特に指定しない。教材はプリントを配布する。/ 参考書: 講義の中で適宜紹介する。

メッセージ 根気が大切です。上手、下手ではなく、懸命な努力が魅力あるものに変えていくことを考えなおさなくては意味がありません。安易に書いても進歩しません。書を通じて何ものかを掴んでくれることを期待します。通年なので、油断しないで頑張ってください。書道ノートを作成し、毎回の講義内容を記録、整理しておくこと。

連絡先・オフィスアワー 0 8 3 6 - 5 8 - 5 2 3 6

開設科目	生涯学習概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北川健				

授業の概要 生涯学習体系の論理と意義、その導入と体系化の経緯、進展状況などを概観する。また生涯学習の公的支援を前提に、それに必要な知識・方法、あわせて社会教育の基本を学ぶ。 / 検索キーワード 生涯学習支援

授業の一般目標 (1)生涯学習の論理と意義を理解する。(2)生涯学習体系の導入と展開を知る。(3)生涯学習展開の日本の特質を承知する。(4)生涯学習支援に必要な基本知識を備える。(5)社会教育の基本を知り、これに則した判断を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生涯学習の基本的な事項について説明できる。 思考・判断の観点：生涯学習の理念や体系に則した思考と判断ができる。 関心・意欲の観点：生涯学習の支援にみずから関心と意欲を培う。 態度の観点：生涯学習の意義を理解し、学習支援の姿勢を持つ。 技能・表現の観点：生涯学習支援の基本に則して能力を発揮できる。

授業の計画(全体) 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真も用いる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生涯学習論の登場と受容
- 第 2 回 項目 生涯学習の政策的推進
- 第 3 回 項目 生涯学習振興法の特質
- 第 4 回 項目 生涯学習体系の地域的編成
- 第 5 回 項目 大学での生涯学習対応
- 第 6 回 項目 日本のリカレント教育
- 第 7 回 項目 学習機会提供の拡大
- 第 8 回 項目 日本型生涯学習の特質
- 第 9 回 項目 生涯各期の学習傾向と課題
- 第 10 回 項目 学習支援の基本と方法
- 第 11 回 項目 参加体験学習と学習ボランティア
- 第 12 回 項目 社会教育と社会教育法 1
- 第 13 回 項目 社会教育と社会教育法 2
- 第 14 回 項目 生涯学習批判論からの指摘
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。(2) 期末試験の成績を基本に、(1)などを斟酌して総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：別途指示

開設科目	博物館概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 学芸員資格を目指す学生のために博物館の歴史、政策、仕事を概説する。市民参加型博物館の意味を理解し、自ら活動するための方向性を把握する。 / 検索キーワード 博物館・学芸員・展示・博物館法・文化財保護法

授業の一般目標 博物館は資料を収集・保管・展示し、一般の人々への利用に供し、調査研究するところと考え、具体的な内容について人文系博物館を中心に示していきます。大は国立の博物館のシステム、小さいところでは市町村立、私立の博物館・資料館のシステムまで様々ありますが、具体的事例を示しながら学芸員の役割について明らかにします。各博物館 や文部科学省のホームページにアクセスしながらより理解を深めたいと思います。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：博物館に関する基本的項目の説明ができる。 思考・判断の観点：法律、制度の基本を理解し行動や判断の基本とすることができる。 関心・意欲の観点：博物館活動の社会的役割を理解し、自らの専門との関連性を認識することができる。 態度の観点：学芸員社会的役割を理解し自らの行動と結びつけることができる。 技能・表現の観点：自らの企画を的確に表現できる。

授業の計画(全体) 次の5つの側面から講義を行う(1)博物館の歴史、(2)博物館に関する政策と法律、(3)博物館の機能、(4)博物館の仕事、学芸員の仕事、(5)博物館での企画と展示

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館とは何か 内容 授業全体のガイダンス。博物館の仕事の流れを示す。
- 第 2 回 項目 博物館の法律 内容 博物館法を読む。
- 第 3 回 項目 博物館の歴史 1 内容 ヨーロッパ・アメリカの博物館史 授業外指示 インターネットで博物館の検索を予習として行う。
- 第 4 回 項目 博物館の歴史 2 内容 日本の博物館前史
- 第 5 回 項目 博物館の歴史 3 内容 日本の博物館-明治から現代まで
- 第 6 回 項目 行政の中の博物館 1 内容 社会教育施設として 授業外指示 文部科学省・文化庁のホームページ検索の宿題
- 第 7 回 項目 行政の中の博物館 2 内容 博物館関連予算(国と地方公共団体)
- 第 8 回 項目 文化財保護法と博物館 内容 文化財保護法を読む
- 第 9 回 項目 地域振興と博物館 内容 伝産法、新農業基本法他との関連について
- 第 10 回 項目 学校教育と博物館 内容 小中学校総合科目と学芸員の協力関係について 授業外指示 インターネットでの総合科目事例の検索の宿題
- 第 11 回 項目 展示企画とデザイン 内容 学芸員に必要な企画力について 授業外指示 博物館のホームページデザインの分析宿題
- 第 12 回 項目 博物館における情報管理 内容 情報のデジタル化と資料データの基本的扱い方
- 第 13 回 項目 博物館の事例紹介 内容 北海道開拓記念館・国立民族学博物館・萩博物館他
- 第 14 回 項目 博物館の新しい方向 内容 市民参加型博物館・エコミュージアム
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

成績評価方法(総合) 出席を重視する。中間と期末の2回のレポートを予定。この評点と出席によって総合的評価をする。出席率70%以下は評価の対象とならない。

教科書・参考書 教科書：博物館学概論, 中村たかを編, 源流社, 1996年 / 参考書：テーマに沿ってその都度紹介する。文献コピーを配布する。

メッセージ これからは学芸員に専門的能力とともに企画力、表現力、情報処理能力が求められています。積極的な授業態度を期待します。宿題でインターネット検索を行うので、情報コンセント接続に慣れておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木
曜日 12:00~14:00

開設科目	博物館学各論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡辺一雄				

授業の概要 学芸員資格取得に必要な必修科目のひとつである「博物館資料論」を中心に講義する。「博物館資料論」は、博物館資料の収集・整理保管・展示等に関する知識・技術の習得を図るもので、講義では、併せて、博物館資料としての文化財を取りあげ、文化財保護のしくみやその取り扱いについてもふれる。 / 検索キーワード 学芸員 博物館 文化財

授業の一般目標 博物館資料の取り扱いに関する知識・技術の習得を図る。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館と学芸員 内容 授業のガイダンス 博物館と学芸員に関する復習
- 第 2 回 項目 博物館資料とは 内容 博物館資料の定義と意義
- 第 3 回 項目 収集と整理・保管 内容 資料の収集方針と取得 資料の記録 整理と収蔵
- 第 4 回 項目 保存 内容 展示室・収蔵庫の保存 環境
- 第 5 回 項目 修復 内容 伝統的修復技術と保存科学
- 第 6 回 項目 活用 I 内容 展示の意義と種類
- 第 7 回 項目 活用 II 内容 展示以外の活用
- 第 8 回 項目 調査・研究 内容 博物館における調査研究活動の意義
- 第 9 回 項目 博物館と情報 内容 情報機器・情報環境
- 第 10 回 項目 考古資料 内容 考古資料の特質と取り扱い
- 第 11 回 項目 民俗資料 内容 民俗資料の特質と取り扱い
- 第 12 回 項目 文書 内容 文書資料の特質と取り扱い
- 第 13 回 項目 文化財保護のしくみ I 内容 文化財の種類 文化財保護のしくみ
- 第 14 回 項目 文化財保護のしくみ II 内容 博物館と文化財
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 期末試験および授業態度 (出席など) で評価する。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。毎週、資料を配付する。 / 参考書： 授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー watanabe@baiko.ac.jp

開設科目	博物館学各論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北川健				

授業の概要 博物館「経営論」の立場から、(1) 教育普及活動、(2) 組織・職員、(3) マネジメント論、(4) 行財政制度、(5) 情報論について、先端事例をOHP映像で紹介し、転換期にある博物館の課題と動向を概観する。

授業の一般目標 (1) 博物館「経営論」「情報論」登場の意義を理解する。(2) 博物館教育の普及進展について理解する。(3) 博物館の経営形態とそのマネジメントを知る。(4) 外国博物館の社会的基盤についても知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：博物館の経営や情報の基本的事項について知っている。思考・判断の観点：博物館について経営論や情報論と関連づけて考えることができる。関心・意欲の観点：博物館関係の情報や動向に関心を持ち、博物館への問題意識を持つ。態度の観点：展覧会を観覧したり、博物館でのボランティアも体験したりしている。技能・表現の観点：センスある短文やイラスト表現を伴った広報案などが企画できる。

授業の計画(全体) 配付資料をテキスト代わりにして、実際的な認識を図るため、OHPによる投影写真を多用する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館に見る博物館の公理
- 第 2 回 項目 科目「博物館経営論」の登場
- 第 3 回 項目 学芸員の実務業務と業務環境
- 第 4 回 項目 博物館の事業化と学芸員編成
- 第 5 回 項目 博物館での教育部門の前面化
- 第 6 回 項目 マネジメント論とマーケティング論
- 第 7 回 項目 企業体博物館に見る経営戦略
- 第 8 回 項目 テーマパークに見る経営戦略
- 第 9 回 項目 アメリカの博物館の経営基盤
- 第 10 回 項目 公立博物館の運営と行財政制度
- 第 11 回 項目 公立財団博物館の矛盾と問題
- 第 12 回 項目 独立行政法人館と市場化テスト
- 第 13 回 項目 新しい民営化と指定管理者制度
- 第 14 回 項目 博物館情報と博物館の情報化
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 毎回小テストを行うことで、出席確認をするとともに理解度を把握する。評価限度 5%程度。(2) 適宜、数回にわたって「課題」を出し、「自主レポート」を提出する機会を与えることもある。(3) 期末テストを行い、その成績に即して、また(1)(2)を斟酌して評価する。

教科書・参考書 教科書：使用しない / 参考書：別途紹介

開設科目	図書館概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	加藤 宏文				

授業の概要 新しい「学習指導要領」が示され、「生きる力」としての真の「学力」が、改めて問い直されようとしている。中で、その中核には、「総合的な時間」の設定に代表される「問題解決的学習」への指向が、顕著である。たとえば、環境問題・国際理解・福祉などを、学習者の主体的な活動を通して達成することが求められている。これらは、図書館、とりわけ学校図書館が他館とのネットワークのもと、「司書」の専門性を保証することを抜きには、考えられない。「学校図書館」に「司書」の孕み持つ問題を考え合っていく。／検索キーワード 学校図書館・司書

授業の一般目標 「情報化社会」における光と影とを総合的に認識することを前提にして、「教育改革」の混迷の中で、学校経営や教育課程の改変が、学校図書館の本質に、どのような影響を与えようとしているのかを、まず理解する。その上で、「図書館の自由に関する宣言」、「学校図書館法」、「倫理綱領」等を踏まえて、「司書」の捉える具体的な問題点を整理し、学習者が主体的に展望を持つことを求める。

授業の計画（全体） 1 「情報化社会」の意義について、考慮する。 2 学校図書館司書教諭の諸問題について、考察する。 3 「図書館の自由に関する宣言」の精神を認識する。 4 「情報化社会」におけるプライバシーについて、認識する。 5 多文化社会の中での「図書館」の意義役割について認識する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「情報化社会」の光と影とを見据える。
- 第 2 回 項目 「教育改革」の中の学校経営を考える。
- 第 3 回 項目 「司書」を通して学校経営を考える。
- 第 4 回 項目 教育過程の変遷と学校図書館との関係を考える。
- 第 5 回 項目 「図書館の自由に関する宣言」は、「学校図書館法」に何を求めているのか。
- 第 6 回 項目 「学校図書館」経営の原点は、どこにあるのか。
- 第 7 回 項目 「学校図書館」経営の実際を考える。
- 第 8 回 項目 「学校図書館」にとって、ネット・ワークとは何か。
- 第 9 回 項目 情報公開とプライバシーとは、どう関わるのか。
- 第 10 回 項目 学校文化の創造拠点として、「学校図書館」は、何をなすべきか。
- 第 11 回 項目 国際化社会に生きる「学校図書館」とは何か。
- 第 12 回 項目 学校で、どのような「司書」になるのか。
- 第 13 回 項目 演習（1）
- 第 14 回 項目 演習（2）
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：特に使用しない。／参考書：講義の中で、随時紹介していく。

メッセージ 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつゝ「評価」を重ね、後半3次に亘り、論述を求める。遅刻者の入室は許可しない。

開設科目	図書館資料論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	加藤 宏文				

授業の概要 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは、分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」(資料)にとり囲まれている。これらを収集・提供する側に立って、図書館には、どのような変革が求められているのか。その組織化を前提として、収集および提供には、どのような問題が生じつつあるのか。「IT革命」の実際を吟味する中で、人と人との関係から考察をする。/ 検索キーワード 資料・コレクション

授業の一般目標 資料(情報)の歴史的なあり方を大観した上で、収集の実際に即してその構築の仕方、評価のあり方を理解する。その上で、提供とのかかわりにおいて、「図書館の自由」は現在、どのような現実に直面しているかをも吟味し、出版・流通界の激変にも対応できる理念と方法とを獲得する。

授業の計画(全体) 1. 図書館にとって「資料」とは何であるのかを認識する。 2. 「資料」の類型とその収集の方法について、認識する。 3. 「資料」の収集・提供の自由について、認識する。 4. 特に学校図書館にとっての「資料」の収集提供について考察する。 5. 出版・流通界の変革の中での「資料」について考察する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館には、どんな仕事があるのか。
- 第 2 回 項目 情報は、どのように記録されてきたのか。
- 第 3 回 項目 資料には、どのような種類があるのか。
- 第 4 回 項目 資料の類型には、どのような特質があるのか。
- 第 5 回 項目 資料には、どのような収集法があるのか。
- 第 6 回 項目 コレクションは、どのように構築されるのか。
- 第 7 回 項目 コレクションには、どのような問題が生起するのか。
- 第 8 回 項目 コレクションは、どのように評価されつづけるのか。
- 第 9 回 項目 収集・提供に、「自由」はどのように関わるのか。
- 第 10 回 項目 収集・提供の「自由」は、どのような事例を生んできたのか。
- 第 11 回 項目 出版・流通界の変革は、収集・提供にどのような影響を与えているのか。
- 第 12 回 項目 学校図書館は、どのように収集・提供をしているのか。
- 第 13 回 項目 学校図書館は、どのような収集・提供を求めているのか。
- 第 14 回 項目 情報化・国際化は、収集と・提供との間に何をもたらしているのか。
- 第 15 回 項目 図書館で、何を使命として務めるのか。

教科書・参考書 教科書：特に使用しない。/ 参考書：講義の中で、随時紹介していく。

メッセージ 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求め、「評価」を重ね、後半、数次に亘り、論述を求める。遅刻者の入室は、許可しない。

開設科目	生涯学習施設経営論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大森 善一				

授業の概要 生涯学習の振興、図書館サービスの充実を図る視点から図書館経営に係る組織、管理運営、予算、事業計画等企画立案ができるよう専門的な知識習得について解説する。

授業の一般目標 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画（全体） 図書館政策をまず行政面から解説し、図書館経営にかかわった実務経験に基き人事、組織、予算、事業計画等について解説する。また、図書館の経営とは教育機関としての特性に基づくサービスを果たすための諸条件とは何か。その諸条件の整備から生まれる効果が、どのような効率を地域社会にもたらすかを明らかにしようとする試みが大切である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 図書館経営の視点 内容 図書館経営とは何か図書館が教育機関としての専門性
- 第 3 回 項目 図書館と地方自治体 内容 行政組織の中における図書館
- 第 4 回 項目 地方自治体法規と図書館 内容 法令・条例・規則
- 第 5 回 項目 予算の編成と執行 内容 図書館予算の編成方法とその適正な予算執行
- 第 6 回 項目 図書館施設・設備の充実と物品管理 内容 施設の維持、物品の管理図書館資料の除籍
- 第 7 回 項目 図書館資料の収集整理、保存、提供 内容 選書、発注、受入、分類、目録、配架までの手順
- 第 8 回 項目 図書館資料の収集整理、保存、提供 内容 選書、発注、受入、分類、目録、配架までの手順
- 第 9 回 項目 図書館経営における館長の職責 内容 館長の役割と経営方針職員体制の確立
- 第 10 回 項目 職員の研修 内容 専門職としての位置づけ図書館職員の職責 図書館ボランティアとのかわり
- 第 11 回 項目 図書館サービスの評価と計画 内容 図書館サービスの現状分析図書館サービスの計画と実行
- 第 12 回 項目 図書館サービス計画の実行と評価 内容 計画実現のための条件づくり自己学習
- 第 13 回 項目 教育機関施設 内容 図書館、美術館、博物館、民族資料館等行政と地方議会とのかわり
- 第 14 回 項目 図書館とコンピューター 内容 図書館ネットワークの構築
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書： 図書館経営論, 竹内紀吉, 東京書籍

開設科目	資料特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北川 健				

授業の概要 図書館など公的な資料保存施設での近世文献資料の取扱い業務を前提に、書誌学や古文書学の初歩を学ぶとともに、主として和本の読み方の基本を練習する。読み方は変体仮名を主範囲とし、『女（おんな）大学』を読み始められる程度までを目標とする。

授業の一般目標 1 近世文献資料についての公的保存の役割を理解する。 2 近世文献資料にかかわる書誌学の初歩知識を学ぶ。 3 近世文献資料にかかわる古文書学の初歩知識を学ぶ。 4 近世文献資料の読み方について初歩練習をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：和本や古文書の基本的な事項について説明できる。 思考・判断の観点：和本や古文書について基本的な扱い方があることをわきまえる。 関心・意欲の観点：近世文献資料の内容を少しでも理解しようと初歩的にも取り組むことができる。 態度の観点：近世文献資料の意義を理解し、これらを大切に扱おうとする態度をもつ。 技能・表現の観点：変体仮名の基礎的な読み方ができる。

授業の計画（全体） 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真や VTR も用いる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近世文献資料保存施設の法的根拠と機能
- 第 2 回 項目 近世文献資料取扱い業務の実際
- 第 3 回 項目 書誌学から見た和装本の体裁と様式（1）
- 第 4 回 項目 書誌学から見た和装本の体裁と様式（2）
- 第 5 回 項目 古文書学による古文書の見方の基本
- 第 6 回 項目 変体仮名の字源と読み方の基本（1）
- 第 7 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（1）
- 第 8 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（2）
- 第 9 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（3）
- 第 10 回 項目 御家流による草書体漢字の読み方
- 第 11 回 項目 近世の女性書簡（候文）の読み方（1）
- 第 12 回 項目 近世の女性書簡（候文）の読み方（2）
- 第 13 回 項目 貝原益軒『女大学』の一部を読む
- 第 14 回 項目 近世の歴史的用語と用字の読み方
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合）（1）毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。（2）期末試験の成績を基本に（1）を斟酌して総合的に評価する。 評価割合備考：期末試験は 100～95%、小テストは場合により 5%、出席は小テスト成績に含む。

教科書・参考書 参考書：別途指示。

開設科目	図書館サービス論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	大森 善一				

授業の概要 利用者と直接関わる図書館サービスの意義、その役割と活動状況の認識、資料の選択・収集・整理・提供のシステム等、図書館サービスの充実を図るため、その専門的な知識の習得について解説する。

授業の一般目標 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画(全体) 利用者との接点から解説し、図書館サービスの意義、利用者対象別等、具体的に説明し、図書館の最大の使命である図書館サービスの重要性について解説する。また、図書館に対する社会の要請も時代によって変化し、新しいサービスが生まれる。これら地域社会のニーズによって図書館サービスを充実させることが大切である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 図書館サービスの意義 内容 図書館の社会的な機能 図書館サービスの内容と種類
- 第 3 回 項目 図書館サービスと図書館資料 内容 図書館資料の種類 各種資料の特徴とサービス
- 第 4 回 項目 図書館資料の提供準備 内容 資料の選択、収集、整理、保存、提供のシステム
- 第 5 回 項目 図書館資料の提供準備 内容 資料の選択、収集、整理、保存、提供のシステム
- 第 6 回 項目 図書館資料の提供 内容 資料提供の意義 読書案内、予約、リクエスト、レファレンスサービスの重要性
- 第 7 回 項目 貸出と閲覧 内容 貸出の意義 閲覧とは何か 利用環境の整備
- 第 8 回 項目 複写サービスと著作権法 内容 複写サービスの意義 著作権法第 31 条にかかわる問題点
- 第 9 回 項目 利用者対象別と図書館サービス 内容 図書館と生涯学習とのかわり 児童、一般人、高齢者、障害者へのサービス
- 第 10 回 項目 図書館サービスと著作権 内容 貸出と著作権の問題 視聴覚資料と著作権の問題
- 第 11 回 項目 教育、文化活動 内容 広報活動、集会事業
- 第 12 回 項目 図書館の相互協力 内容 図書館間の協力のあり方とその必要性
- 第 13 回 項目 図書館サービスの課題 内容 サービス変化の要因 生涯学習に適応したサービス
- 第 14 回 項目 図書館サービスと職員(司書)の意欲 内容 司書としてのプライド
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：図書館サービス論, 前園主計編著, 東京書籍

開設科目	資料組織概説	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	加藤 宏文				

授業の概要 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」にとりまかされている。この混迷の中で、地域や民族の独自性を尊重しつつ、かつグローバルな価値を追求するためには、「情報」にどう対処するか、その具体的なスタンスや方法が、厳しく問われている。図書館における収集と提供の「自由」を活かすための資料の「組織」法の具体を考え合う。 / 検索キーワード 資料・組織

授業の一般目標 資料が「組織」されなければならない理由を理解した上で、その制御の具体的なあり方に触れ、標準化のもたらす長短を考察する。さらに、具体的に各人の主題意識を確認した上で、「組織」の実態に迫りつつ、検索・分類・キーワード・件名などの関係を吟味し、その改善方法を獲得し合う。

授業の計画(全体) 1. 情報化・国際化の中で「資料」とは何なのかを認識する。 2. 「資料」を「組織」することの意義を認識する。 3. 「書誌」による標準化がもたらす限界を認識する。 4. 「主題」によるアクセスへの対応の実際について実践する。 5. 自らの学習・研究生活の中で、「資料」「組織」の方法を改革する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報化・国際化社会において、「資料」とは何か。
- 第 2 回 項目 「資料」は、なぜ「組織」されるようになったのか。
- 第 3 回 項目 情報化技術は、「組織」化に何をもたらしたのか。
- 第 4 回 項目 「書誌」を制御する。
- 第 5 回 項目 「制御」の国際標準化は、何をもたらしたのか。
- 第 6 回 項目 「目録」は、どのように改善されてきたのか。
- 第 7 回 項目 情報化・国際化社会の中で、主題意識を確かにする。
- 第 8 回 項目 主題で情報を制御できるのか。
- 第 9 回 項目 情報を分類する。
- 第 10 回 項目 「分類」には、どんな工夫があるのか。
- 第 11 回 項目 主題検索・分類目録・キーワード・件名目録の関係を、吟味する。
- 第 12 回 項目 「シソーラス」は、専門分野をどう整理するのか。
- 第 13 回 項目 「非統制語」観は、どんな問題を提起するのか。
- 第 14 回 項目 データベースをネットワークに生かす。
- 第 15 回 項目 「資料」を「組織」したら、何が可能になるのか。

メッセージ 随時、「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつつ、「評価」を重ね、後半数時に亘って、「組織」の実際を工夫することを求める。遅刻者の入室は許可しない。

開設科目	情報サービス概説	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大森 善一				

授業の概要 図書館業務推進の中で資料提供、情報サービスは重要な領域に値する。特に図書館における情報サービスの意義、方法、情報源について学習する。またレファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。

授業の一般目標 図書館司書として自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画(全体) 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス等についても総合的に解説する。また参考図書を選択収集、検索の知識と資料提供の実際を解説する。レファレンスサービスとは何かを明らかにし、その業務内容、情報源の種類もあわせて解説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 情報サービスの意義 内容 情報サービスの内容とその必要性
- 第 3 回 項目 情報サービスと図書館 内容 情報サービスと図書館とのかかわり
- 第 4 回 項目 情報サービスと図書館 内容 情報の利用 情報ニーズの種類 書誌サービス
- 第 5 回 項目 図書館におけるレファレンスサービス 内容 直接サービスと間接サービス レファレンスサービスの業務内容
- 第 6 回 項目 情報源とレファレンス・コレクション 内容 情報源とその種類 館内・外の情報源レファレンスブックの選択収集
- 第 7 回 項目 レファレンス質問とレファレンスプロセス 内容 レファレンス質問の内容 質問者と応答者のかかわり方
- 第 8 回 項目 質問の受付と内容の確認 内容 質問受付票への記録 口頭、電話、文書
- 第 9 回 項目 探索方略と質問の分析 内容 探索方略の意義と検討及び方式
- 第 10 回 項目 探索の手順と情報源の入手 内容 探索の一般的な手順 未解決の問題
- 第 11 回 項目 回答の提供と事後処理 内容 回答の適切さ 回答サービス後の事務処理
- 第 12 回 項目 レファレンス質問とその解決資料 内容 レファレンスブックからの情報源の検索 総記、哲学、宗教、歴史、社会科学、自然科学
- 第 13 回 項目 レファレンス質問とその解決資料 内容 工学、技術、産業、芸術、スポーツ、語学、文学
- 第 14 回 項目 図書館間の情報サービス相互利用の活用 内容 図書館間の情報入手により質問者への回答
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：問題解決のためのレファレンスサービス, 長沢雅男, 日本図書館協会

開設科目	情報機器論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田 孝子				

授業の概要 本授業では、文系にふさわしいコンピュータの基礎知識を得るとともに、それをどのように活用していったら良いかということ学ぶ。 / 検索キーワード コンピュータの構造、ハードウェア、ソフトウェア、データ表現、文字処理、オペレーティング・システム

授業の一般目標 (1) コンピュータを扱う上で最低限知っておかなくてはならない情報処理概論(文系向きに) (2) 図書館や博物館の中で、どのように役立てていくかを主体的に考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 半年を通じて行わなければならない手順などの手順説明 重要!! 授業外指示 このガイダンス時に出席のなかった者は履修を認めません。
- 第 2 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 ハードウェアについて
- 第 3 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 ハードウェアについて
- 第 4 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 情報の表現方法
- 第 5 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 情報の表現方法
- 第 6 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 文字の表現
- 第 7 回 項目 テスト実施
- 第 8 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 オペレーティング・システム
- 第 9 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 オペレーティング・システム
- 第 10 回 項目 ネットワークの仕組み 内容 インターネットの仕組み
- 第 11 回 項目 ネットワークの仕組み 内容 インターネットの仕組み
- 第 12 回 項目 テストの実施
- 第 13 回 項目 情報メディアについて 内容 図書館・博物館での情報機器の活用
- 第 14 回 項目 情報メディアについて 内容 視聴覚メディアの活用
- 第 15 回 項目 総合テストの実施

教科書・参考書 教科書：Webですべて提供 / 参考書：その都度紹介

メッセージ 情報処理に関する基礎知識という内容ですが、コンピュータの操作に関する内容ではありません。

連絡先・オフィスアワー 授業支援システムの中の「質問」を使用して下さい。

備考 集中授業

開設科目	レファレンスサービス演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松本 敬吉				

授業の概要 レファレンスサービスは、図書館利用者の情報要求に応じ、適切な情報ないし情報源を提供、あるいはそれらの入手方法について指導・援助するサービスです。本講では、主要な参考図書やデータベースの実際を解説します。また、附属図書館所蔵のそれらを利用し、参考質問の回答演習を行います。有用なホームページ・データベースの実際も学習し、参考書誌の作成演習も行います。/ 検索キーワード 情報リテラシー、参考業務、参考図書、情報検索、インターネット検索

授業の一般目標 1. 各種レファレンス・ツール(電子情報を含む)を知り、その活用方法を理解する。 2. 参考質問(例題)に回答し、レファレンスツールの理解を深める。 3. 参考書誌を作成する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館のレファレンスサービスについて
- 第 2 回 項目 主要参考図書の解説
- 第 3 回 項目 主要図書館のホームページの実際
- 第 4 回 項目 主要データベースの実際
- 第 5 回 項目 インターネット検索の実際
- 第 6 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 7 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 8 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 9 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 10 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 11 回 項目 参考業務の実際
- 第 12 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 13 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 14 回 項目 レファレンス三題漸
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 成績評価方法 - 定期試験、宿題/授業外レポート

教科書・参考書 教科書: 新版情報源としてのレファレンスブックス, 長澤雅男、石黒祐子共著, 日本図書館協会 / 参考書: 大学生と図書館(第3版), 日本図書館研究会編, 日本図書館研究会; 情報と文献の検索 第3版, 長澤雅男, 丸善; チャート識情報アクセスガイド, 大串夏身著, 青弓社

メッセージ あなたが興味をもつ主題について、あるいはその主題の周辺について、先人が調査研究を行い、情報を発信しています。それらを把握した上で更に発展させるために情報リテラシーを高めてください。研究の重複をできるだけ避けたいものです。司書資格を取得しても、図書館員になれるチャンスはあまりありません。大学生活は限られています。自分の専門分野を深めるための時間を十分にとられることを希望します。ただ、情報化社会、特に大学においては「情報」に関する知識は必須です。卒業後の人生において、情報リテラシーを身につけておくことは無駄にならないと考えます。

連絡先・オフィスアワー e-mail kmatu@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-972-6952

開設科目	情報検索演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田 孝子				

授業の概要 コンピュータやネットワーク技術、情報記録媒体の発展は、図書館活動に多大な影響を与えています。また、従来の検索方式に加えて CD-ROM による検索、通信回線利用のオンライン検索、インターネット利用による情報検索と多様化してきています。このような現状の中で、多くの情報からの的確な情報を探し出すテクニックである「情報検索」が最近とみに重要視されてきました。この授業では、「情報を検索する」意味やその手段を学んでいきます。そして、図書館業務の中での「情報検索の役割」がどのような位置にあるのかを学んでいきたいと思っています。/ 検索キーワード 知的活動、情報検索、検索技術、コンピュータ、ネットワーク

授業の一般目標 情報検索では、キーワードの設定が非常に重要です。そのキーワードについての基礎知識と効率的な使い方を学ぶことを目標としています。また、調べるコツのようなものを習得する。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 この授業のガイ < BR > ダンス（授業の < BR > 方針、授業支援 < BR > システムの使い < BR > 方）授業外指示 受講登録を行う < BR > ので、第 1 週目 < BR > に欠席の者は履 < BR > 修できません。
- 第 2 回 項目 情報検索の必要性
- 第 3 回 項目 インターネットでの情報検索
- 第 4 回 項目 情報の分類と種類
- 第 5 回 項目 データベースの基礎知識
- 第 6 回 項目 テスト（第 2 週から第 5 週までの内容）
- 第 7 回 項目 キーワードの概念
- 第 8 回 項目 キーワードの概念
- 第 9 回 項目 検索に要する技術
- 第 10 回 項目 検索に要する技術
- 第 11 回 項目 テスト（第 7 週から第 10 週までの内容）
- 第 12 回 項目 検索結果のまとめ方
- 第 13 回 項目 図書や雑誌の探し方
- 第 14 回 項目 図書や雑誌の探し方
- 第 15 回 項目 総合テスト

成績評価方法（総合） テスト：80% 演習：10% 出席：10%

教科書・参考書 教科書：Web 上で提供 / 参考書：授業内で指示

メッセージ この授業は、単元の区切りごとにテストを行います。情報処理に関する基礎知識を必須としていますので、必ず操作に関する基礎知識をマスターしておいてください。出席管理、小テスト、レポート提出管理等は全てコンピュータで行います。質問や連絡したいことがあったら、授業内で利用する授業支援システムを使用して下さい。

連絡先・オフィスアワー 授業支援システムの「質問」コーナーを使ってください。

開設科目	資料組織演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	松本敬吉				

授業の概要 前期に資料目録法演習を、後期に資料分類法演習を行います。 資料目録演習法では主として「日本目録規則」に基づいて、各種の図書館資料についてそれぞれの記述・標目・配列を演習します。「書架配架法」や「主題牽引法」(件名目録法、シソーラス)についても解説します。 資料分類法演習では「日本十進分類法」に基づいて、分類体系・補助表・分類規程を理解し、分類記号付与作業を演習します。「書架配架法」や「主題牽引法」(件名目録法、シソーラス)についても解説します。 / 検索キーワード 資料目録法、資料分類法、件名目録法、シソーラス

授業の一般目標 1. 日本目録規則(記述・標目・配列)を理解・修得する。 2. 日本十進分類法を理解し修得する。 3. 主題検索法を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本目録規則
- 第 2 回 項目 記述に関する総則
- 第 3 回 項目 タイトルと責任表示の記述
- 第 4 回 項目 版、資料の特性、出版・頒布、形態等の記述
- 第 5 回 項目 シリーズ、注記、標準番号等の記述
- 第 6 回 項目 標目総則およびタイトル標目
- 第 7 回 項目 著者標目、件名標目、分類標目
- 第 8 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 9 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 10 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 11 回 項目 洋書の目録作成演習
- 第 12 回 項目 逐次刊行物の目録作成演習
- 第 13 回 項目 目録の機械化
- 第 14 回 項目 排列
- 第 15 回 項目 定期試験
- 第 16 回 項目 NDC の構成
- 第 17 回 項目 形式区分
- 第 18 回 項目 地理区分、海洋区分
- 第 19 回 項目 言語区分、言語共通区分、文学共通区分
- 第 20 回 項目 一般分類規定
- 第 21 回 項目 特殊分類規定(人文科学)
- 第 22 回 項目 特殊分類規定(人文科学)
- 第 23 回 項目 特殊分類規定(社会科学)
- 第 24 回 項目 特殊分類規定(社会科学)
- 第 25 回 項目 特殊分類規定(自然科学)
- 第 26 回 項目 特殊分類規定(産業、総記)
- 第 27 回 項目 図書館記号法・別置法
- 第 28 回 項目 件名目録法
- 第 29 回 項目 シソーラス
- 第 30 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験、宿題 / 授業外レポート

教科書・参考書 教科書: 資料組織演習(新訂版), 吉田憲一著, 日本図書館協会; 日本目録規則(1987年版改訂2版), 日本図書館協会分類委員会編, 日本図書館協会; 日本十進分類法(新訂9版), 日本図書館

協会分類委員会編, 日本図書館協会 ; 基本件名標目表 (第 4 版), 日本図書館協会件名標目委員会編, 日本図書館協会 ; 「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」は図書館の「三種の神器」です。特に「日本十進分類法」講義時に使用しますので必ず入手してください。 / 参考書 : 資料組織法 (第 5 版), 志保田務、高鷲忠美共著, 第一法規 ; 和書目録法入門 (図書館員選書:8), 柴田正美編, 日本図書館協会 ; 英米目録規則 (第 2 版・日本語版), , 日本図書館協会

メッセージ 司書資格を取得しても、図書館員になれるチャンスはあまりありません。大学生活は限られています。自分の専門分野を深めるための時間を十分にとらえることを希望します。ただ、情報社会、特に大学において「情報」に関する知識は必須です。人生において、情報リテラシーを身につけておくことは無駄にならないと考えます。

連絡先・オフィスアワー e-mail kmatu@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-972-6952

開設科目	専門資料論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	畠中 弘				

授業の概要 今日のような変化の激しい社会では、適切で有効な情報を検索する能力は不可欠である。情報資源によって「情報にアクセスし、検索する方法」を知ることが重要になっている。図書館で提供できる情報は、記録された資料に基づく情報である。/ 検索キーワード 情報リテラシーをもつ人のための文献情報活用法

授業の一般目標 図書館で扱う情報資源(資料)やツールが多様化し、それを「使いこなす」ためのスキルや知識も多様化している。必要な情報を必要な形で正確・適切・迅速に提供することにある。学習や問題解決に活用し得るような情報資源をベースにした学習プロセスが、効率的に展開できることを期待したい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生涯学習と情報リテラシー、そして図書館 内容 情報と図書館の関係
- 第 2 回 項目 学術図書・学術雑誌の定義 内容 学術情報とは
- 第 3 回 項目 専門資料の意義、生産、種類、性格 内容 専門資料とは何か
- 第 4 回 項目 人文科学の概念と特性 内容 人文科学の諸分野
- 第 5 回 項目 社会科学の概念と特性 内容 社会科学の諸分野
- 第 6 回 項目 自然科学の概念と特性 内容 自然科学の諸分野
- 第 7 回 項目 工学・技術の概念と特性 内容 工学・技術の諸分野
- 第 8 回 項目 人文科学情報の種類と特性 内容 人文科学分野の情報・資料
- 第 9 回 項目 社会科学情報の種類と特性 内容 社会科学分野の情報・資料
- 第 10 回 項目 自然科学情報の種類と特性 内容 自然科学分野の情報・資料
- 第 11 回 項目 工学・技術情報の種類と特性 内容 工学・技術分野の情報・資料
- 第 12 回 項目 人文科学の主要な一次資料と二次資料 内容 原典、史料、学術図書、学術雑誌、大学紀要等
- 第 13 回 項目 社会科学の主要な一次資料と二次資料 内容 社会科学的認識のための情報源
- 第 14 回 項目 自然科学、工学・技術の主要な一次資料と二次資料 内容 二次資料の重要性
- 第 15 回 項目 専門資料とメディアの多様化 内容 ネットワーク系メディアの特徴、リンク集、その他

成績評価方法(総合) 成績評価方法 - 宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度、出席

教科書・参考書 教科書：専門資料論(JLA 図書館情報学テキストシリーズ; 8), 三浦逸雄 / 野末俊比古 編著, 日本図書館協会, 2005 年 / 参考書：新訂専門資料論[新訂](新現代図書館学講座; 9), 中森強 編著, 東京書籍, 2004 年; 専門資料論[改訂](新・図書館学シリーズ; 8), 戸田光昭ほか, 樹村房, 2006 年; 年刊参考図書解説目録(1990-2007), 日外アソシエーツ編集部編, 日外アソシエーツ(紀伊國屋書店)

メッセージ (1) 遅刻・欠席をしないように健康管理に充分留意すること。(2) 出席カードを配付して、出席状況を把握する。(3) 授業内容が広範囲にわたるので、授業中の説明・解説を理解し易くするため予習・復習を実行すること。

備考 集中授業

開設科目	児童サービス論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本 安彦				

授業の概要 公共図書館における児童を対象とする各種サービス、児童資料の概要、児童図書館の運営等について総合的に解説する。特に、できるだけ多くの資料を紹介しながら、ヤングアダルトサービスや2000年の「子ども読書年」以降の子ども読書活動推進状況についても解説する。理解を助けるため適宜VTRを使用する。/ 検索キーワード 児童図書館、児童サービス、子ども読書活動推進

授業の一般目標 1. 児童サービスの基本理念と実際の業務・技術を学習することにより、公共図書館における「児童サービス」の位置付けや、基本的な事項を理解する。2. 児童資料についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：児童サービスの歴史と現状等について総合的に説明できる。思考・判断の観点：児童資料の選択ができる。関心・意欲の観点：各児童に適したサービスができる。態度の観点：公共図書館における児童サービスについて主体的に考える。技能・表現の観点：児童書の書評・紹介文が書ける。その他の観点：自分の考えを文章化できる。

授業の計画(全体) ・授業は、教科書を使用し、講義形式で行い、適宜VTRを視聴する。 ・できるだけ幅広く児童資料を紹介する。 ・毎回、授業に関する事項を記述し、提出してもらう。疑問点は次回説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 教科書販売 内容 授業の目標と進め方 授業に臨む態度、評価方法
- 第 2 回 項目 児童サービスの意義 内容 児童サービスの位置付け 児童サービスの概要、歴史等
- 第 3 回 項目 児童の成長と児童サービス 内容 乳幼児サービス 児童サービス 授業外指示 公共図書館で赤ちゃん絵本を借りて読んでみる
- 第 4 回 項目 児童資料の特色と選択(1) 内容 絵本 児童文学 授業外指示 公共図書館から絵本と児童文学を借りて読んでみる
- 第 5 回 項目 児童資料の特色と選択(2) 内容 昔話、その他の伝承文学 ノンフィクションと詩 授業外指示 昔話・ノンフィクション・詩の本を読んでみる
- 第 6 回 項目 児童資料の特色と選択(3) 内容 知識の本、逐次刊行物 レファレンスサービス 授業外指示 知識の本を読んでみる
- 第 7 回 項目 ヤングアダルトのための資料 内容 ヤングアダルトサービスについて ヤングアダルトサービスの資料 授業外指示 公共図書館のヤングアダルトコーナーの本を読んでみる
- 第 8 回 項目 児童サービスの実際と技術(1) 内容 児童サービスの実際(VTR 視聴) 読み聞かせ、ストーリーテリング 授業外指示 公共図書館のおはなし会を見学してくる
- 第 9 回 項目 児童サービスの実際と技術(2) 内容 ブックトークの実際(VTR 視聴) アニメーションについて
- 第 10 回 項目 児童サービスの実際と技術(3) 内容 書評、紹介文の作成方法 著作権について
- 第 11 回 項目 児童図書館の運営(1) 内容 資料の収集・整理・管理 資料提供サービス 授業外指示 公共図書館で児童資料がどのように配架されているか見てくる
- 第 12 回 項目 児童図書館の運営(2) 内容 レファレンスサービス、フロアワーク 集会、行事、展示、PR 授業外指示 公共図書館で展示、PRの工夫を見てくる
- 第 13 回 項目 児童図書館の運営(3) 内容 関連機関との連携・協力 子ども読書推進活動 授業外指示 県内の子ども読書活動団体を調べてくる
- 第 14 回 項目 全体のまとめ
- 第 15 回 項目 試験 内容 最終授業時間に B4 1 枚で記述式試験を行う

成績評価方法(総合) ・毎回、A5用紙に授業に関する事項について記述し、提出する。 ・最終授業時間に B4 1 枚に記述式試験をする。 ・児童書に関するレポートを提出する。 以上を総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 児童サービス論 新訂版, 堀川照代 編著, 日本図書館協会, 2005 年

メッセージ 児童サービスで扱う資料は、乳幼児向け絵本からヤングアダルトまでと幅広い世界です。実際にできるだけたくさんの資料と出会い、児童書、児童サービスの魅力にふれてください。

教職に関する科目

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 教員免許状の取得を希望する者に対して、教師をとりまく状況、教職の意義、魅力、教員の役割、職務内容、組織としての学校、教職観の変遷等について講義する。/ 検索キーワード 教師、教育職員、学校教育、教員免許状

授業の一般目標 (1) 教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解し、教員の役割、職務内容等についての基礎的な知識を習得する。(2) 自己の教師としての適性を考えさせるとともに、教職への意欲や一体感の形成を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解する。教員の役割、職務内容を説明できる。思考・判断の観点：教師をとりまく状況、教職の役割等について検討することができる。関心・意欲の観点：教職について関心をもち、その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。態度の観点：教師を巡る諸問題について、論理的、協調的な議論ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の目的・概要の説明、教師とは誰か？ 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 教師－生徒関係
- 第 3 回 項目 教科等の指導
- 第 4 回 項目 子どもの学ぶ意欲を伸ばす
- 第 5 回 項目 学級経営と教師
- 第 6 回 項目 生徒指導
- 第 7 回 項目 家庭・地域社会と学校
- 第 8 回 項目 教師の問題行動とメンタルヘルス
- 第 9 回 項目 学校の管理・運営と教師(1)
- 第 10 回 項目 学校の管理・運営と教師(2)
- 第 11 回 項目 教員の身分と服務(1)
- 第 12 回 項目 教員の身分と服務(2)
- 第 13 回 項目 教師の資質向上
- 第 14 回 項目 学校像の再構築
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し、解答案を作成させる。(3) 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				
<p>授業の概要 未定</p> <p>授業の一般目標 未定</p>					

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田 権一				

授業の概要 教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目的を倫理学に、教育の方法を心理学に求める」としている。受講者が、将来、教育現場で教育実践効率化のために活かせるような、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指定された受講者は、その時間のテーマについて、ノートを完成させ、考察した内容(ノートレポート)を1週間後に提出することになる。このレポートは提出して1週間後に返却する。/検索キーワード 教育、心理学、発達、家庭教育、学習、人格、学級経営、教育評価

授業の一般目標 (1) 受講者が、教職を目指すものとして教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門としての立場から具体的に考えることや対応を志向する契機となることを目指す。また、教育や心理学関連の分野での文章表現を体験する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 生徒の立場を把握した上で、教師の立場から適切な判断ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 身近な問題を文章表現できる。

授業の計画(全体) 教育と心理学、教育心理学研究法、被教育者としての生徒の発達、家庭教育、認知と学習、人格と防衛機制、学級経営とリーダーシップ、評価の種類と方法について、順に、各テーマを1～3回に分けて説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 教育と心理学、< BR >教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第 2 回 項目 教育心理学研究法
- 第 3 回 項目 被教育者の発達 内容 発達段階
- 第 4 回 項目 家庭教育 内容 親子関係、学校教育
- 第 5 回 項目 学習 内容 学習の原理、条件づけ
- 第 6 回 項目 学習 内容 学習の原理 (VTR)
- 第 7 回 項目 学習 内容 授業理論
- 第 8 回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第 9 回 項目 人格 内容 適応と防御機制
- 第 10 回 項目 人格 内容 スクールカウンセラー (VTR)
- 第 11 回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第 12 回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第 13 回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第 14 回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第 15 回 項目 討論

成績評価方法(総合) (1) 所定以上の出席状況(欠格条件) (2) ノートレポート、(3) 定期テスト結果。これらを資料として評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学からみた教育の世界, 藤土圭三(監), 北大路書房 / 参考書：心理学辞典, 中島義明ほか, 有斐閣, 1999年; 適宜、補助資料を配布する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉田 香奈				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ学生を対象に、日本の教育制度を規定する法令・規則について解説する。生涯学習の概念について概説した後、学校教育の制度、教育を受ける権利の保障、教育課程の編成、児童生徒の在学管理と懲戒、教育職員の職務、教育行政、社会教育に関する法規について説明する。 / 検索キーワード 教育法規、生涯学習、教育制度、学校教育

授業の一般目標 教育に関する基本的な法規を理解し、教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育に関する基本的な法規を理解する 思考・判断の観点：教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 シラバス、教科書第 1 章
- 第 2 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 3 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（1） 内容 教科書第 3 章
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（2） 内容 教科書第 3 章
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規（1） 内容 教科書第 4 章
- 第 7 回 項目 教育課程の編成と法規（2） 内容 教科書第 4 章
- 第 8 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（1） 内容 教科書第 5 章
- 第 9 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（2） 内容 教科書第 5 章
- 第 10 回 項目 教育職員の職務と法規（1） 内容 教科書第 6 章
- 第 11 回 項目 教育職員の職務と法規（2） 内容 教科書第 6 章
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規（1） 内容 教科書第 7 章
- 第 13 回 項目 教育行政の推進と法規（2） 内容 教科書第 7 章
- 第 14 回 項目 社会教育の推進と法規 内容 教科書第 8 章
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規，田代直人編，ミネルヴァ書房，2003年 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 教科書を必ず購入すること。

連絡先・オフィスアワー 大学教育センター吉田（共通教育棟 3 階） Email: ykana@yamaguchi-u.ac.jp、
オフィスアワー：火曜日 14:00-16:00

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸光城				

授業の概要 高等学校・中学校における「各教科」、「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて、その教育作用の全体構造を概観しつつ、授業における教育方法を具体的に説明する。 / 検索キーワード 教育方法, 授業, 教育課程

授業の一般目標 (1) 学校における「授業」の意義・役割を理解する。 (2) 授業における指導方法の基本を具体例を通して学ぶ。 (3) 現代教育方法理論を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各指導方法がイメージできる。 思考・判断の観点: 本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。 関心・意欲の観点: 学校の授業に対する問題意識と興味関心を高めることができる。 態度の観点: 将来の授業実践を意識して大学生生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目「教育」とはな < BR > にか 内容 林竹二「授業巡 < BR > 礼」の視聴
- 第 2 回 項目 学校教育作用の < BR > 構造 内容「教授」と「教 < BR > 育」のバランス < BR > と協同
- 第 3 回 項目 高等学校教育課 < BR > 程の基本
- 第 4 回 項目 授業設計の方法 内容「学習指導案」 < BR > の基本と実例
- 第 5 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 I 内容 一斉授業
- 第 6 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 II 内容 小集団指導
- 第 7 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 III 内容 個別指導
- 第 8 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 IV 内容 録画授業の視聴
- 第 9 回 項目「総合的な学習 < BR > の時間」の意 < BR > 義、実践事例
- 第 10 回 項目 教育機器の活用
- 第 11 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 I 内容 デューイの問題 < BR > 解決思考論
- 第 12 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 II 内容 デューイの教育 < BR > 方法論
- 第 13 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 III 内容 ブルーナーの教 < BR > 育方法論
- 第 14 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 IV 内容 ブルーナーの教 < BR > 育課程論、学習 < BR > 意欲論
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 1. 毎回の出欠確認 2. 授業内レポート(数回) 3. 録画授業感想文 4. 最終定期試験

教科書・参考書 教科書: なし / 参考書: 随時紹介する

メッセージ 少なくとも受講中は、間もなく高等学校(中学校)の教師として授業するのだという姿勢で、聞き考えて欲しい。

連絡先・オフィスアワー Tel. 090-1189-8047 (携帯)

開設科目	国語科教育法 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本 恵一良				

授業の概要 国語科の領域「読むこと」の指導を中心に、その歴史の変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身に付ける。 / 検索キーワード 国語科教育、「読むこと」の指導、授業構想

授業の一般目標 「読むこと」の指導における歴史の変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践に関わる諸能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「読むこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点等を説明することができる。 思考・判断の観点：「読むこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：意欲的に「読むこと」の授業を構想することができる。 態度の観点：グループ協議等に積極的に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点：開発した学習材をもとに学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

授業の計画（全体）（１）授業は毎回プリントを配布し、参考文献等についてはその都度紹介する。（２）毎時、課題についてのシートを提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 国語科における「読むこと」内容 シラバスの説明 「読むこと」の目標、指導事項等 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある。
- 第 2 回 項目 「読むこと」の指導について（１）内容 読書指導について I 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「読むこと」の指導について（２）内容 読書指導について II 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「読むこと」の指導について（３）内容 韻文の指導について I 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「読むこと」の指導について（４）内容 韻文の指導について II 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「読むこと」の指導について（５）内容 小説の指導について I 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「読むこと」の指導について（６）内容 小説の指導について II 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「読むこと」の指導について（７）内容 論説文の指導について I 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 「読むこと」の指導について（８）内容 論説文の指導について II 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 「読むこと」の授業構想（１）内容 学習指導案の作成に向けて 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 「読むこと」の授業構想（２）内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 学習指導案の検討 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 模擬授業（１） 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 模擬授業（２）
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。（１）学期末試験（２）毎時の課題シート（３）出席状況

教科書・参考書 教科書：使用しない。毎回プリントを配布する。 / 参考書：適宜紹介する。

開設科目	国語科教育法 II	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 中等教育における国語科教育の歴史を概説し、国語科教育の今日的課題について、教育制度・教科書・教育理論等から検証してゆく。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 近代国語科教育の歩みを知り、現代の国語科教育が抱える課題解決の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代国語教育史についてあらましを説明できる。 思考・判断の観点：現代の国語科教育が抱える問題の所在を指摘し、指摘認識に裏付けられた広い視点から問題解決にあたることができる。。 関心・意欲の観点：近代国語科教育の歴史について関心を深め、今日の課題について考察する意欲をもつ。 態度の観点：国語科教育の諸問題について、多角的視点から検討を加えることができる。 技能・表現の観点：考察した結果を高等や文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。(2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業内容の説明
- 第 2 回 項目 国語科教育の内容と目標 内容 国語科教育の内容と目標概説
- 第 3 回 項目 近代国語科教育の黎明期 (1) 内容 明治期の国語科教育 (1)
- 第 4 回 項目 同 (2) 内容 同 (2)
- 第 5 回 項目 児童中心主義と国語科教育 (1) 内容 大正期の国語科教育 (1)
- 第 6 回 項目 同 (2) 内容 同 (2)
- 第 7 回 項目 国家主義と国語科教育の充実 内容 昭和戦前期の国語科教育
- 第 8 回 項目 皇国思想と国語科教育 内容 戦時中の国語科教育
- 第 9 回 項目 戦後の国語科教育 (1) 内容 戦後の新生・国語科教育 (1)
- 第 10 回 項目 同 (2) 内容 学習指導要領の流れ (2)
- 第 11 回 項目 同 (3) 内容 同 (3)
- 第 12 回 項目 国語科教育の現状と問題点 (1) 内容 言語教育と文学教育
- 第 13 回 項目 同 (2) 内容 読解指導と作文指導
- 第 14 回 項目 同 (3) 内容 今日の課題について
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

メッセージ 主体的な問題意識をもって授業に参加してください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語科教育法 III	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科の領域「書くこと」の指導を中心に、その歴史の変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身につける。 / 検索キーワード 国語科教育、「書くこと」の指導、授業構想

授業の一般目標 「書くこと」の指導における歴史の変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「書くこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点を説明することができる。 思考・判断の観点：「書くこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：意欲的に「書くこと」の授業を構想することができる。 態度の観点：グループ協議に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点：開発した学習材をもとに学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

授業の計画（全体） (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。(2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらうとともに、作成した指導案を提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 国語科における「書くこと」内容 シラバス説明、「書くこと」の目標、指導事項等 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある
- 第 2 回 項目 「書くこと」の指導について 1 内容 歴史の変遷と様々な方法、今日的課題 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「書くこと」の指導について 2 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「書くこと」の指導について 3 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「書くこと」の授業構想 1 内容 指導に当たって留意すべきこと 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「書くこと」の授業構想 2 内容 学習指導案の作成に向けて 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「書くこと」の授業構想 3 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「書くこと」の授業構想 4 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 学習指導案の検討 1 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 学習指導案の検討 2 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 模擬授業 1 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 模擬授業 2 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 模擬授業 3 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 模擬授業 4 授業外指示 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 学習指導案 (4) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

開設科目	社会科教育学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 学校教育において「社会科」はなぜ必要なのか。「社会科」でこそ可能な学習とは何か。このような社会科の本質論にかかわる課題をいくつか取り上げ、「新学習指導要領案を作成する」ことを通じて検討する。この検討を通して受講者個々人が日本の社会科 50 年の歩みを批判的に継承した自分なりの「社会科」指導観を創造できるようにしたい。

授業の一般目標 1. 社会科という教科の成り立ちに関して説明できる。 2. 社会科に関するカリキュラム的な発想を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 以下の概念を理解している ・総合社会科 分化社会科 ・認識形成 態度形成 思考・判断の観点： 学習指導要領等の資料に対し、カリキュラム的な観点から論評することができる 態度の観点： 毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点： カリキュラム的な観点から社会科指導計画等を構想し、発表することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 いま社会科で何が問題か 内容 学校社会科教育 をとりまく状況
- 第 2 回 項目 社会科で教える 内容は誰が決めているか 内容 社会科における「内容」の概念
- 第 3 回 項目 社会科の「内容」をめぐって 何が問題になってきたか 内容 「総合的」な社会の学びか、「分科的」な社会の学びか
- 第 4 回 項目 社会科は子どもが「どう」なることをめざすのか 内容 社会科において「目標」とは何か
- 第 5 回 項目 社会科は子どもに、何をどのように「わからせて」いるか 内容 社会科の認識原理は何か
- 第 6 回 項目 社会科は「積み上げる」教科か、「ひっくり返す」教科か 内容 社会科のカリキュラム構成原理
- 第 7 回 項目 小学校の社会科はどのように構成されるべきか 内容 小学校児童にとって「社会」とはどういうものなのか
- 第 8 回 項目 中学校「地理的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「地理的分野」の内容はこれでよいか
- 第 9 回 項目 中学校「歴史的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「社会科歴史」の存在とその意味
- 第 10 回 項目 中学校「公民的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「公民的分野」の成立根拠
- 第 11 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（1） 内容 現行学習指導要領をめぐる論点と課題の整理
- 第 12 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（2） 内容 「20XX 年版」学習指導要領の構想・発表・検討（1）
- 第 13 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（3） 内容 「20XX 年版」学習指導要領の構想・発表・検討（2）
- 第 14 回 項目 社会科で身につける「学力」とはどのようなものか 内容 社会科評価論の現状と課題
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

教科書・参考書 教科書： 特に定めない 随時資料配付 / 参考書： 社会科重要語 300 の基礎知識（重要語 300 の基礎知識；4）、森分孝治、片上宗二編集、明治図書出版、2000 年；社会科教育学ハンドブック：新しい視座への基礎知識、社会認識教育学会編、明治図書出版、1994 年；『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書、2000 社会認識教育学会『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当
学生に連絡

開設科目	中等地理歴史教育論 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 現行の中学校・高等学校の地理歴史教育のカリキュラムを概観し、特に争点となるポイントを取り上げて論究する。後半は小グループで任意の題材を 1 つ取り上げ、単元構成、指導計画、テスト問題作成などを行い、発表・検討する。

授業の一般目標 1 . 中等地理・歴史授業における学習指導の分析力と実践力を養う。 2 . さまざまな地理・歴史授業の事例や互いの発表資料に対して教科教育としての分析を行い、それを踏まえて単元と授業を構想できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：以下の概念を理解している。・社会科歴史 社会科地理・内容構成・単元構成・教材構成 思考・判断の観点：地理・歴史に関する授業計画や授業実践、評価問題に対し、授業構成論の観点から論評することができる。 態度の観点：毎回の授業に出席している 技能・表現の観点：地理・歴史に関する内容研究を踏まえて単元計画、授業計画、評価計画をたてることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地理・歴史教育概論 (1) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (1) - 中学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 2 回 項目 地理・歴史教育概論 (2) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (2) - 高等学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 3 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (1) 内容 教育実習における地理・歴史授業の分析
- 第 4 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (2) 内容 地理・歴史授業のための教材研究と内容構成
- 第 5 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (3) 内容 教材研究と単元計画
- 第 6 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (1) 内容 単元計画の検討 (1)
- 第 7 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (2) 内容 単元計画の検討 (2)
- 第 8 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (3) 内容 単元計画の検討 (3)
- 第 9 回 項目 地理・歴史授業における学習指導 内容 学習指導案の書式と構成
- 第 10 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (1) 内容 学習指導案の検討 (1)
- 第 11 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (2) 内容 学習指導案の検討 (2)
- 第 12 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (3) 内容 学習指導案の検討 (3)
- 第 13 回 項目 地理・歴史教育における評価 (1) 内容 地理・歴史授業とテスト問題
- 第 14 回 項目 地理・歴史教育における評価 (2) 内容 地理・歴史のテスト問題の検討
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内小レポート、最終レポートで総合評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：社会認識教育学会『中学校社会科教育』学術図書出版社、1996 社会認識教育学会『地理歴史科教育』学術図書出版社、1996

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室, Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法改正問題を取りあげ、9.11以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。 / 検索キーワード 平和教育 国際平和 日本の役割 憲法9条 自衛隊

授業の一般目標 1. 9.11以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。 2. 独自の立場から、憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 憲法前文・9条を中心に憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： 憲法改正問題について独自の意見をまとめ、討論することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 憲法改正に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 8 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度 = 20～40% 受講者の発表（プレゼンテーション）や授業内での制作作業（作品） = 40～60%

教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。 / 参考書： 当面なし

連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	英語科教育学概論	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業では、以後の発展科目への基盤となるような、英語科教育学の諸領域における 基礎的な事項や用語を概説する。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 英語科教育学における基礎的な事項や用語について幅広い知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語科教育学における基礎的な事項や用語について簡単に説明できる。 思考・判断の観点： 1. 授業内で扱った内容を自分なりに整理することができる。 関心・意欲の観点： 1. 自身の英語学習経験と照らし合わせながら、英語科教育学の扱う各領域への関心を高める。

授業の計画(全体) プリントと教科書の該当箇所を参照しながら授業をすすめる。詳しくは授業計画(授業単位)を参照。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 総論・英語科教育学の守備範囲 内容 英語科教育学の扱う諸領域について説明する。
- 第 2 回 項目 日本の英語教育史 内容 江戸末期、明治、大正、昭和期及び現在の英語教育について簡単に歴史を追う。特に戦後については学習指導要領の変遷を解説する。
- 第 3 回 項目 英語教育目的論 内容 主に実用論と教養論の系譜を追って説明する。
- 第 4 回 項目 カリキュラム・シラバス 内容 カリキュラム・シラバスの概念やシラバスの種類について説明する。
- 第 5 回 項目 言語習得理論 内容 言語習得観とそれに基づく仮説について解説する。
- 第 6 回 項目 コミュニケーションをめぐる考察 内容 コミュニケーションとコミュニケーション能力の捉え方について説明する。
- 第 7 回 項目 各種教授法 内容 様々な教授法の特徴について解説する。
- 第 8 回 項目 中間試験 内容 筆記試験
- 第 9 回 項目 学習者論 内容 年齢、適性、動機づけなどの学習者要因を説明する。
- 第 10 回 項目 授業の構成と展開 内容 典型的な授業の流れと留意点について説明する。
- 第 11 回 項目 発音、語彙、文法の指導 内容 発音、語彙、文法の指導とその留意点について解説する。
- 第 12 回 項目 リスニングの指導、スピーキングの指導 内容 リスニングの指導、スピーキングの指導とその留意点について解説する。
- 第 13 回 項目 リーディングの指導、ライティングの指導 内容 リーディングの指導、ライティングの指導とその留意点について解説する。
- 第 14 回 項目 評価論 内容 評価やテストの捉え方について説明する。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) (1) 定期試験の成績、(2) 授業内レポート、(3) 期末レポートで評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『新しい英語科教育法 - 理論と実践のインターフェイス - 』, 青木昭六(編著), 現代教育社, 2002年 / 参考書：授業内で紹介する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)

開設科目	実践英語科教育学	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語の授業の構成（指導課程）や教材研究の方法について学習する。授業案の作成についても扱う予定である（実地指導講師担当）。模擬授業を実際に体験することにより、指導方法についても一定の知識と技能を得ることを目標とする。また、この授業を通し、教育実習の研究課題を得ることもねらいとしている。

授業の一般目標 英語の授業の構成（指導過程）を理解すること。教材研究の方法を習得すること。授業案の作成ができるようになること。模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を得ること。教育実習の研究課題を得ること。

授業の計画（全体） 新出単語や新出構文の導入（文法説明を含む）などのテーマを取り上げ、英語の授業の構成（指導過程）を理解する。また、教材研究の方法についても学習し、授業案の作成ができるようにする。さらに、模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を獲得する。教育実習の研究課題を得ることもこの授業を通して達成したいねらいである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 単語の提示
- 第 2 回 項目 新出構文の導入
- 第 3 回 項目 場面や場面の重要性、発問の仕方
- 第 4 回 項目 模擬授業
- 第 5 回 項目 模擬授業
- 第 6 回 項目 中学校の指導例
- 第 7 回 項目 高等学校の指導例
- 第 8 回 項目 タスク
- 第 9 回 項目 発音の指導
- 第 10 回 項目 リーディングの指導
- 第 11 回 項目 ライティングの指導
- 第 12 回 項目 発音模擬指導
- 第 13 回 項目 オーラル インタラクション： 生徒から反応を引き出す
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 調整週

成績評価方法（総合） 発表、レポート、テストの成績によって評価する。

教科書・参考書 参考書：『英語科教育法の構築と展開』，青木昭六（編著），現在教育社，2002年

連絡先・オフィスアワー <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/>

開設科目	英語科教育学 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 実践英語科教育法と並行履修することにより、(また、模擬授業を体験することにより) 英語の教師としての留意点や教授法について学ぶ。具体的には、発問、フィードバック、教授法、4 技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学ぶ。

授業の一般目標 発問やフィードバックについての知識を持つ。教授法に関する知識を持つ。4 技能の指導に関する基本的な知識と技能を持つ。教具や教育メディアの利用技術についての知識と技能を持つ。指導要領に関する知識を持つ。

授業の計画 (全体) 実践英語科教育法と並行履修することにより、英語の教師としての留意点や教授法について学習を行う。具体的には、発問、フィードバック、教授法、4 技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学習する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教授案 (挨拶、REVIEW、導入、文法的説明)
- 第 2 回 項目 コミュニケーション活動
- 第 3 回 項目 発問及びリーディング
- 第 4 回 項目 中学校の指導例 1
- 第 5 回 項目 中学校の指導例 2
- 第 6 回 項目 リスニングの指導
- 第 7 回 項目 絵本の導入
- 第 8 回 項目 教授法 (1) 文法訳読法、直接教授法、オーラルメソッド、オーラルアプローチ
- 第 9 回 項目 教授法 (2) サイレント・ウェイ、全身反応学習、コミュニケーションアプローチ、タスクの考え方 内容 学生による模擬授業
- 第 10 回 項目 教授法 (3) : 第 2 言語習得理論と外国語指導 ナチュラル・アプローチ 内容 学生による模擬授業
- 第 11 回 項目 教育メディア、教具などについて
- 第 12 回 項目 クラスルーム・イングリッシュなど
- 第 13 回 項目 指導要領と求められるコミュニケーション能力
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 調整週

教科書・参考書 参考書 : 『英語科教育法の構築と展開』, 青木昭六 (編著), 現在教育社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/>

開設科目	英語科教育学 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語教育学概論、実践英語科教育法、英語科教育学 I の履修をベースに主として、各種指導法、指導技術、言語材料、言語技能、評価論の中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の一般目標 文法の指導、語彙指導、4 技能の指導方法、言語習得、スピーキングなどの評価方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の計画（全体） 文法の指導、語彙指導、4 技能の指導方法、語用論的視点からの指導、言語習得、スピーキングなどの評価・テスト方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文法の指導（ 1 ）
- 第 2 回 項目 文法の指導（ 2 ）
- 第 3 回 項目 文法の指導（ 3 ）
- 第 4 回 項目 スピーキングの評価
- 第 5 回 項目 言語テストと評価
- 第 6 回 項目 英語の語彙指導（コロケーションを含む）
- 第 7 回 項目 スローラーナーの指導
- 第 8 回 項目 動機付け（英語を楽しく学ぶには？）ゲーム、その他の工夫
- 第 9 回 項目 第二言語習得、対照分析、エラー分析、中間言語、化石化、エラー訂正
- 第 10 回 項目 テスティングと統計処理（エクセルを用いて）
- 第 11 回 項目 リスニングの指導（模擬授業）
- 第 12 回 項目 リスニングの指導（模擬授業）
- 第 13 回 項目 調整週
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 発表とテストの成績によって評価を行う。

教科書・参考書 参考書：『英語科教育法の構築と展開』，青木昭六（編著），現在教育社，2002 年

連絡先・オフィスアワー <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/>

開設科目	英語科教育学 III	区分	講義と演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業では、英語教育学概論、英語科教育学 I、II などの履修をベースに、教師論、学習者論、指導法、教材論などについて扱う。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 英文の専門書を読むことを通して、英語学習指導についての知識を深めるとともに、教育実習での経験などを踏まえながら幅広い省察の視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語学習指導のあり方とその留意点について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について考え、自分の意見を述べることができる。 関心・意欲の観点： 1. 様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について関心を高める。 態度の観点： 1. 他者との率直な意見交換と省察を通して、理解を深めようとする。

授業の計画（全体） 授業は、教科書と補助プリントを用い、その内容に関するディスカッション・演習を含む形式で進行する。受講者には教科書の内容に関するプレゼンテーションを課す予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 優れた教師とは何か
- 第 2 回 項目 学習者の様々な特徴
- 第 3 回 項目 指導と学習の展開方法
- 第 4 回 項目 指導と学習の捉え方
- 第 5 回 項目 言語の指導法（一般）
- 第 6 回 項目 リスニングの指導法
- 第 7 回 項目 スピーキングの指導法
- 第 8 回 項目 リーディングの指導法
- 第 9 回 項目 ライティングの指導法
- 第 10 回 項目 教科書の使い方
- 第 11 回 項目 授業計画の立て方
- 第 12 回 項目 様々な場面への対処法
- 第 13 回 項目 調整週
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 定期試験の成績、プレゼンテーションの内容、レポート（ないしは小テスト）、ディスカッション・演習への取り組みなどを総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： How to Teach English, Jeremy Harmer, Longman, 1998 年 / 参考書： 授業内で紹介する。

メッセージ この授業では専門書を英語で読む機会を提供します

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	中国語科教育法 I	区分	講義	学年	3
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 前半は、国内で利用可能な中国語教材について紹介しその研究をする。後半は、「外国人学漢語難点積疑」の中から、日本人にとってむずかしい表現について解説した叙述を選び、受講者とともに講読する。最後に、受講者一人一人が、学習上疑問が生じやすい現代中国語の文法トピックを選んで、研究結果を発表する。 / 検索キーワード 中国語、教材、文法、教育

授業の一般目標 中国語教育者として知っておくべき教材や文法に関する知識の概略を身につけ、疑問点を自分で解決する能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現行の中国語教材の特徴について理解する。現代中国語文法の特徴のいくつかと使用上の注意点について理解する。 **関心・意欲の観点：** 中国語教育実践に関する問題意識を持ち、教育法を工夫することができる。 **技能・表現の観点：** 疑問・関心を持ったテーマについて、自主的に研究し、研究結果について効果的な口頭報告をすることができる。

授業の計画（全体） 前半は、担当者が、毎回テーマ別に中国語教材の紹介をし、受講者とともに実際に使ってみることによって、その特徴を研究する。後半は、「外国人学漢語難点積疑」の No.121 以下からふさわしい節（主として各種の動詞表現や修飾語等に関する部分）を選んで講読する。受講者は、毎回講読部分（翻訳と練習問題）について予習をしていくことが不可欠である。最後に、受講者各人に、現代中国語の文法から自由にテーマを選んで、研究結果を順番に口頭発表してもらおうと共に、中国語教育に関し自由なテーマを選んでレポートを書いてもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教材について (1) 内容 発音教材 中国語発音のコツ
- 第 2 回 項目 教材について (2) 内容 ヒアリング教材
- 第 3 回 項目 教材について (3) 内容 単語教材・作文教材
- 第 4 回 項目 教材について (4) 内容 文法教材と参考書
- 第 5 回 項目 教材について (5) 内容 リーディング教材
- 第 6 回 項目 教材について (6) 内容 検定試験・入試センター試験
- 第 7 回 項目 文法について 講読 (1)
- 第 8 回 項目 文法について 講読 (2)
- 第 9 回 項目 文法について 講読 (3)
- 第 10 回 項目 文法について 講読 (4)
- 第 11 回 項目 文法について 講読 (5)
- 第 12 回 項目 文法について 講読 (6)
- 第 13 回 項目 研究発表 (1)
- 第 14 回 項目 研究発表 (2)
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法（総合） 毎回の授業における課題の達成度と、1 回の研究発表とにより知識・理解と技能・表現上の目標到達度を評価する。また、レポートにより、関心・意欲の観点について評価を行う。評価割合はそれぞれ 80%（理解 60%、技能 20%）、20%とする。なお出席が 3 分の 2 に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：外国人学漢語難点積疑、葉はん云、吳中偉、北京語言文化大学出版社、1999 年；授業中に講読部分を配布します。 / 参考書：授業中に紹介します。

メッセージ 教育実習などにも役立つよう、発音や朗読、ヒアリングなど技能の向上もめざすつもりで参加してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 Tel.933-5250 オフィスアワー月曜日 12:50-16:00

開設科目	道徳教育	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 道徳の語源と意味について学習し、西欧における道徳観の変遷について哲学的歴史的な観点から理解する。また、シュプランガーの倫理教育思想を道徳教育と関連させながら学習し、人間としての生き方について考察する。さらに、道徳教育の目的・内容・方法と「道徳の時間」の展開の仕方や指導方法を学び、実践的指導力を養う。 / 検索キーワード 道徳、道徳観、シュプランガー、道徳教育、道徳の時間

授業の一般目標 1. 道徳の語源と意味について理解し、道徳の本質的な意味について考察する。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解する。 3. シュプランガーの教育の3つの概念や6つの価値類型を道徳教育と関連させながら理解し、人間としての生き方について考察する。 4. 道徳教育の目的・内容・方法について理解する。 5. 「道徳の時間」の展開や指導方法を理解し、実践的指導力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 道徳の語源と意味について理解できる。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3. シュプランガーの教育の3つの概念と6つの価値類型について理解できる。 4. 道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。 5. 「道徳の時間」の展開や指導方法を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 道徳の本質的な意味やシュプランガーの教育理論と関連させながら、人間としてのよりよい生き方について考えることができる。 2. 日常生活の中で、状況に応じて適切な判断をすることができる。 関心・意欲の観点： 1. 道徳教育や心の教育への関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 日常生活の中で、適正な思考や判断に基づいた態度や行動をとることができる。 技能・表現の観点： 1. 「道徳の時間」の指導方法や、そのための技能と技術を身につけることができる。

授業の計画(全体) 道徳についての本質的な意味を哲学的、歴史的な観点から考察した上で、道徳教育の目的・内容・方法について学び、「道徳の時間」の展開方法や指導方法を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 道徳の語源と意味 内容 ギリシア語、ラテン語、ドイツ語等から道徳の意味を探る。
- 第 2 回 項目 道徳律と道徳性 内容 外面的道徳と内面的道徳、モラルとエートス
- 第 3 回 項目 道徳観の変遷(1) 内容 ソクラテスとアリストテレス
- 第 4 回 項目 道徳観の変遷(2) 内容 1. アウグスティヌスとトマスアキナス 2. カント
- 第 5 回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念と道徳 内容 1. 発達の援助 2. 文化財の伝達 3. 良心の覚醒
- 第 6 回 項目 シュプランガーの6つの価値類型と道徳 内容 理論的価値、経済的価値、審美的価値、権力的価値、社会的価値、宗教的価値
- 第 7 回 項目 道徳教育の目的(1) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第 8 回 項目 道徳教育の目的(2) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第 9 回 項目 道徳教育の内容(1) 内容 1. 主として自分とのかかわりに関すること 2. 主として他人とのかかわりに関すること 2.
- 第 10 回 項目 道徳教育の内容(2) 内容 1. 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること 2. 主として集団や社会とのかかわりに関すること
- 第 11 回 項目 道徳教育の方法 内容 問答法、ディベート、役割演技、ドラマ化等による方法
- 第 12 回 項目 「道徳の時間」の展開(1) 内容 「気づく - 捉える - 深める - 見つめる - 生かす」という「道徳の時間」の展開について説明する。
- 第 13 回 項目 「道徳の時間」の展開(2) 内容 具体的な「道徳の時間」の指導案を提示して説明する。
- 第 14 回 項目 学習指導案の書き方 内容 実際に「道徳の時間」の指導案を書かせる。
- 第 15 回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書： 道徳と心の教育 (MINERVA 教職講座 ; 7), ”山崎英則, 西村正登編著”, ミネルヴァ書房, 2001 年 ; 道徳と心の教育、山 英則 . 西村正登編著、ミネルヴァ書房、2001 年 / 参考書： 使用しない。

メッセージ 道徳の本質を哲学的歴史的な観点から理解すると同時に、道徳教育に関する実践的な指導力が身につくように努めて下さい。理論面と実践面の両面から道徳教育にアプローチしていきます。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	杉山直子				

授業の概要 本授業では、学校教育で教科外活動に位置する特別活動について、その意義と実践のあり方について考察する。意義を考える中で、教育・子どもに関する現代的問題、子どもの発達と教育の関係について理解を深め、教育の機能・構造について、学ぶ。そして、その中の訓育について理解を深め、学校教育における特別活動の目標・内容・方法を考察する。 / 検索キーワード 訓育, 教科外活動, 学校行事, 生徒会活動, 学級活動

授業の一般目標 (1) 人間の発達における教育の必要性、目的、方法を理解する。 (2) 教育の機能と領域について理解する。 (3) 学校教育における特別活動の意義、方法を理解し、望ましい指導のあり方について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育、その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 自己の教育体験を客観化できる。 2. 理論をもとに思考・判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 講義をもとに教育に関心を持ち、問題意識を持つことができる。 態度の観点： 1. 講義に集中し思考する態度がとれる。 2. 集団活動に参加できる。 技能・表現の観点： 1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分を意識し行動できる。

授業の計画(全体) 第1章 人間の発達と教育 1、人間の発達と教育の関係 2、教育の構造 3、学校教育における陶冶と訓育 第2章 学校教育における「特別活動」の意義 1、学校教育における「特別活動」の変遷 2、現学習指導要領における「特別活動」 第3章 「特別活動」の指導のあり方 1、個の受容と教育的要求 2、望ましい集団のあり方 3、子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに 内容 本授業の概要と注意事項
- 第2回 項目 人間の発達と教育(1) 内容 人間の発達と教育の関係ーヒトと人間ー 授業外指示 これまでの教育に関する授業を思い起こす。
- 第3回 項目 人間の発達と教育(2) 内容 人間とは 授業外指示 人間らしさ、人間の独自性について、様々な領域で考えてみる。
- 第4回 項目 人間の発達と教育(3) 内容 環境と子どもたちの発達の問題 授業外指示 現在の子どもたちの環境を知る。
- 第5回 項目 「話し合い」活動 内容 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う。 授業外指示 意見を出すための情報収集
- 第6回 項目 教育の構造
(1) 内容 教育に関する歴史的把握と構造 授業外指示 陶冶と訓育について、具体的にイメージする。
- 第7回 項目 教育の構造
(2) 内容 陶冶と訓育
- 第8回 項目 学校教育の構造 内容 教科と教科外活動 授業外指示 学習指導要領に目を通す。
- 第9回 項目 学校教育における特別活動の意義(1) 内容 特別活動の歴史的変遷
- 第10回 項目 学校教育における特別活動の意義(2) 内容 現学習指導要領における教育課程の基準 授業外指示 「生きる力」について考えてみる。
- 第11回 項目 学校教育における特別活動の意義(3) 内容 現学習指導要領における特別活動の目標・内容 授業外指示 自己の特別活動としての教育体験を思い起こす。
- 第12回 項目 特別活動の指導のあり方(1) 内容 個の受容と教育的要求
- 第13回 項目 特別活動の指導のあり方(2) 内容 方法原理である望ましい集団の組織方法 授業外指示 集団遊び、討議などについて思い起こす。
- 第14回 項目 特別活動の指導のあり方(3) 内容 子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方
- 第15回 項目 試験

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。(2) 最後に試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領, 文部科学省, ; 高等学校学習指導要領, 文部科学省, ; 上記の書物は、主に第2章で使用。第1章・第3章はプリントを配布。 / 参考書：プリントを資料として使用する。その他参考文献は、授業中に指示。

メッセージ 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、校内暴力など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがいかに寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。／検索キーワード 子どもに対する「支え」と「引き上げ」

授業の一般目標 学校にうまく適応できなかったり、進路選択に迷っている子どもたちに対し、教師としてあるいはスクールカウンセラーとして、どのようにサポートしていけばよいらうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も、置かれている状況も違うので、個々のケースに対応しうるような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、いかに克服していくかが鍵となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いの葛藤の中で、解決策を、教師自らが苦しみながら生みしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。 思考・判断の観点：個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点：評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った見方ができるようになりたい。 態度の観点：今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

授業の計画（全体）子どもの個性の伸張と、社会の成員としての資格をいかに融合させていくかが、結局子どもたちの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるか、また支援していくかを詳しく解説していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 - 問題となっていること -
- 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
- 第 4 回 項目 教育相談における「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い -
- 第 5 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 小学校編 -
- 第 6 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 中学校編 -
- 第 7 回 項目 現代の子どもにおける「キレる」ということ
- 第 8 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 高等学校編 -
- 第 9 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
- 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 - 不登校 -
- 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 - 非行 -
- 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 - 軽度発達障害 -
- 第 13 回 項目 教育相談における心理検査
- 第 14 回 項目 教育相談における心理療法 - ブリーフセラピーや認知行動療法を中心に -
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作のテキストを配布します。（一冊 500 円） / 参考書：教室で生かすカウンセリングマインド - 教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年；生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年

メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官	林伸一				

授業の概要 「総合演習」は教職免許に必要な科目である。本年度は、「言語教育を通して学ぶもの、言語と価値観」という包括的なテーマのもとに、7人の教員がオムニバス形式で講義あるいは演習形式の授業をする。/検索キーワード 言語教育、価値観、異文化、異言語、言語表現、漢字、詩

授業の一般目標 異なる分野の教員が提示する様々な学問的・経験的アプローチに接する中で、問題を自ら見出し、自ら解決する能力の向上を目指す。

授業の計画(全体) 本授業は、教員免許の取得を目指す学生のための授業で、今年度は「言語教育を通して学ぶもの、言語と価値観」というテーマで7名の教員が各自の授業内容を2回で講義する。言語と文化の観点で講義または演習をする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 言語教育を通じて学ぶものは?(1) 内容 言語と価値観・異文化理解について 授業外指示 高橋俊章(教育学部) 授業記録 10月1日
- 第2回 項目 言語教育を通じて学ぶものは?(2) 内容 教授内容と自分との関連性について 授業外指示 高橋俊章(教育学部) 授業記録 10月15日
- 第3回 項目 中国における異言語学習とその歴史(1) 授業外指示 更科慎一(人文学部) 授業記録 10月22日
- 第4回 項目 中国における異言語学習とその歴史(2) 授業外指示 更科慎一(人文学部) 授業記録 10月29日
- 第5回 項目 価値観と異文化(1) 内容 今次大戦に敗れたわけ 授業外指示 添田建治郎(人文学部) 授業記録 11月5日
- 第6回 項目 価値観と異文化(2) 内容 外来語 授業外指示 添田建治郎(人文学部) 授業記録 11月12日
- 第7回 項目 日常の言語表現の分析(1) 授業外指示 武本雅嗣(人文学部) 授業記録 11月19日
- 第8回 項目 日常の言語表現の分析(2) 授業外指示 武本雅嗣(人文学部) 授業記録 11月26日
- 第9回 項目 漢字と私たち(1) 授業外指示 富平美波(人文学部) 授業記録 12月3日
- 第10回 項目 漢字と私たち(2) 授業外指示 富平美波(人文学部) 授業記録 12月10日
- 第11回 項目 「詩を読む」とはどういうことか(1) 授業外指示 根ヶ山徹(人文学部) 授業記録 12月17日
- 第12回 項目 「詩を読む」とはどういうことか(2) 授業外指示 根ヶ山徹(人文学部) 授業記録 1月8日
- 第13回 項目 言語と価値観(1) 内容 ほめる言語表現とほめられてうれしい価値観について 授業外指示 林伸一(人文学部) 授業記録 1月16日
- 第14回 項目 言語と価値観(2) 内容 マインド・マップのつくりかた 授業外指示 林伸一(人文学部) 授業記録 1月21日
- 第15回 項目 課題レポート提出
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回

- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 各教員による評価を集計して総合的に評価する。全教員に共通しているのは、出席率の重視で、その他は各教員の裁量に任される。各教員の評価方法は(レポート、小テスト、授業への参加度など)について、それぞれの授業の中で説明する。

メッセージ オムニバスの授業の中から時代のニーズや教師として必要な観点を学んで欲しい。

連絡先・オフィスアワー マネージャーは、人文学部林伸一(研究室 210-2 室)で、メールアドレスは hayashix@yamaguchi-u.ac.jp である。オフィスアワーは、木曜 10 時から 12 時

開設科目	事前・事後指導	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡他				

授業の概要 中学校・高等学校での教育実習について、教育実習の目標の達成を確かなものとするため、教育実習前、教育実習後に行う指導である。主な内容は、次の通り。事前指導：授業の参観、教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義、レポート 事後指導：教育実習に関する発表やレポート、発表・レポートについての討議

授業の一般目標 1 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につける。(事前指導) 2 教育実習を総括して、指導力の向上を図る。大学での学習と教育実習で得られた経験とを有機的に結合させ、新しい視点や課題を得る。(事後指導)

授業の計画(全体) 事前指導として、学習指導、生徒指導、授業参観等に関する中学校・高等学校教員による講義、教科に分かれての授業参観、教科別指導等を行う。事後指導は実習後に実習生によるレポート作成、体験発表等を行う。

成績評価方法(総合) 出席状況及びレポート等によって評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	教育実習(中)	区分	実習	学年	その他
対象学生		単位	4単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための教育実習を中学校において行う。中学校教諭免許を主たる免許とする場合の教育実習である。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。 3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 附属中学校・県内公立中学校において、実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を、あわせて行い、中等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	教育実習(高)	区分	実習	学年	3年生-4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 中学校教諭免許・高等学校教諭免許に必要な教育実習を、中学校・高等学校において行う。高等学校教諭免許のみを取得する場合、幼稚園教諭免許・小学校教諭免許を主たる免許とし、あわせて、中学校教諭免許・高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習である。

授業の一般目標 1.教育の理論と実践との一体化をはかる。 2.教育活動全般にわたる認識を深める。 3.生徒に対する理解を深める。 4.教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 附属中学校において実地授業を行う(ただし、情報の高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習は、出身校等、高等学校において行う)。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、中等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

1 年生用開設科目

開設科目	哲学・思想入門	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古荘、高木、豊澤、脇條、アラム、柏木、奥津、藤川				

授業の概要 この講義では、哲学・思想コースの教員全員が交代で1～2回ずつ授業を担当します。それぞれの教員が専門とする学問分野で扱われる実際の内容に接することが、哲学・思想コースの学問分野への最良の案内となると考えます。/ 検索キーワード 哲学・思想、哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想、美学・美術史

授業の一般目標 哲学・思想コースの各分野（哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想、美学・美術史）が扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各分野の扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。 思考・判断の観点：各分野にふさわしい思考、判断ができるようになる。

授業の計画（全体） 哲学（脇條）、倫理学（古荘）、宗教学（アラム）、中国哲学（高木、林）、日本思想（豊澤、柏木）、美学・美術史（奥津、藤川）の各教員がそれぞれ1～2回の授業担当の予定。各教員の専門分野から入門に適した内容を取りあげて講義を行う。

成績評価方法（総合）各教員ごとにレポート（あるいは試験）を課し、合計点を100点に換算する。出席80％程度必要。

メッセージ 哲学・思想コースってどんな勉強をするんだろう、と思っている皆さんにより導入となる授業にしたいと思います。

開設科目	哲学概論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。 / 検索キーワード 哲学、必然的真理、科学、自由、心と身体、神

授業の一般目標 最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋哲学の基本問題を理解する。 思考・判断の観点：哲学的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 「必然的真理」、「科学的知識」、「因果と自由」、「心身問題」、「神の問題」などの基本的な哲学の問題を取り上げ、それに対する諸哲学者の試みを概観する。

成績評価方法（総合） 試験による。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本倫理思想史 III	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 日本の倫理思想の諸相 日本の倫理思想の諸相をさまざまなトピックスを取り上げて考察します。指定教科書『日本文化の歴史』は歴史家の執筆にかかるものですが、それを垂直に、倫理思想詩風に、掘り下げを試みます。過去の日本の思想が実に豊穡で、しかも自己自身のものの感じ方、考え方の基盤を形成していることを自覚できるはず。 / 検索キーワード 日本の倫理思想

授業の一般目標 (1) 日本思想のさまざまな内容の要点を正確に理解し、自らの先入見を打破すること。(2) 日本思想に関する俗説を、俗説として認識し、それと距離を置くこと。(3) 日本の思想の諸相に関する自らの見解を構成すること。

授業の計画(全体) テキスト『日本文化の歴史』(岩波新書新赤版 668)を参照しつつ、聖徳太子、空海、浄土教、『平家物語』、中世神道、近世儒学、国学、等々を解説します。受講者は、予め、該当周辺箇所を読んできてください。

成績評価方法(総合) 各授業時間の最後に 10 分程度を費やして、授業内レポートを課します(30 点)。学期途中でレポートを 1 回、提出してください(30 点)。 期末試験を実施します(40 点)。

教科書・参考書 教科書：『日本文化の歴史』, 尾藤正英, 岩波新書, 2000 年 / 参考書：『日本倫理思想史』, 佐藤正英, 東京大学出版会, 2003 年; 『日本思想史入門』, 相良亨編, ペリかん社, 1982 年; 『概説日本思想史』, 佐藤弘夫他, ミネルヴァ書房, 2005 年; 参考書は、講義の際に、適宜紹介いたします。

メッセージ 現代のわれわれは、過去の日本のことについて疎くなっています。先ず出席して、知識を獲得してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	宗教学概論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域（宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など）の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教の様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学、宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学、民族宗教、民間信仰・民俗宗教、国教、世界宗教、シャーマニズム、呪術、アニミズム、自然崇拜、トーテミズム

授業の一般目標 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は、レジュメと映像的な資料に沿って進める。

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。 2．小テストは13回（ほぼ毎回）行うが、10回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。 3．筆記試験を学期末の試験期間中に行う。

教科書・参考書 教科書：授業のレジュメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	美学・美術史概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 「西欧美術史学」の歴史について概説します。日本の美術史学も西欧美術史学の発展とともに多様に展開してきました。地球時代に日本の大学で美術史を学ぶことの意義を、受講生の皆さんとともに考えてみたいと思います。 / 検索キーワード 様式史、イコノロジー、芸術心理学、芸術社会学、フェミニズム、ポストコロニアリズム

授業の一般目標 1 . 西欧美術史学の知的遺産の基本部分を学ぶ。 2 . 西欧美術史学を相対化して捉える視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西欧美術史学で使用される専門用語のいくつかについて説明ができる。 思考・判断の観点：西欧美術史学の古典的な著作を読むにあたり、今日的で批評的な視点で読解し、有用性と問題点をそれぞれ指摘することができる。 関心・意欲の観点：自ら美術作品の鑑賞体験と幅広い読書体験とを養うことに努める。

授業の計画（全体）美術史について全般的な見取り図を得るため、最初、西洋美術の流れ、日本近現代美術の流れ、をそれぞれ概括したのち、講義の後半で西欧美術史学の歴史をたどる、という手順で講義を進めます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 西洋美術史（一）内容 古代・中世
- 第 3 回 項目 西洋美術史（二）内容 ルネサンス
- 第 4 回 項目 西洋美術史（三）内容 近現代
- 第 5 回 項目 日本近現代美術史（一）内容 戦前
- 第 6 回 項目 日本近現代美術史（二）内容 戦後
- 第 7 回 項目 西欧美術史学の歴史（一）内容 列伝史
- 第 8 回 項目 西欧美術史学の歴史（二）内容 様式史
- 第 9 回 項目 西欧美術史学の歴史（三）内容 イコノロジー
- 第 10 回 項目 西欧美術史学の歴史（四）内容 芸術心理学
- 第 11 回 項目 西欧美術史学の歴史（五）内容 芸術社会学
- 第 12 回 項目 西欧美術史学の歴史（六）内容 新しい美術史
- 第 13 回 項目 西欧美術史学とポストコロニアリズム
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法（総合）期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。ウェブサイト（<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>）から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書：西洋美術史ハンドブック、高階秀爾ほか編、新書館、1997年；カラー版西洋美術史、高階秀爾監修、美術出版社、1990年；美術史学の歴史、ウッド・クルターマン、中央公論美術出版、1996年；美の思索家たち、高階秀爾、青土社、1993年；美術史を語る言葉 22 の理論と実践、ロバート・S・ネルソンほか編、ブリュッケ、2002年

メッセージ 美術展を見るのが楽しくなります。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	西洋史概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 14 世紀から 15 世紀のヨーロッパに訪れたのは、飢饉・黒死病・戦争を契機とする大不況である。このなかで西ヨーロッパの農奴制は解体過程に入る。西ヨーロッパの封建領主のかなりの部分が没落してゆく。しかし、領主制は消滅したわけではなく、15 世紀の末には、再編成されるのである。他方、東ヨーロッパでは、農民は「再販農奴制」のなかに組み込まれてゆく。国制史的には、14 世紀から 16 世紀初頭の時期は封建国家 (人的結合国家) から絶対主義国家 (近代国家の初期段階) への過渡期にあたる。イタリアでは、コンパクトながら、高度の行政技術を持つ巨大都市国家が出現する。しかし、のちのヨーロッパ国家制度に最も大きな影響を与えたのは、フランスとイングランドという二つの大国における国家形態の変化であった。両国では、財政官僚制度と司法官僚制度の整備を通じて王権の伸長と凝集力の大きい国家組織の確立のための並々ならぬ努力がなされ、かなりの成果が得られた。人々の基本的忠誠の対象は、家族・共同体・教会から国家へと徐々に変わっていったのである。

授業の一般目標 この講義では、ヨーロッパのとりわけ 14 世紀から 16 世紀初頭までの時期を見てゆく。この時期にヨーロッパは崩壊の度を強めてゆき、明暗ともに強烈なヨーロッパ近代社会がその姿を徐々に現わそうとしていた。農奴制とその解体、領主制の再編成、「再販農奴制」の出現、封建国家から絶対主義国家への移行など、言葉は難しいが、できるだけやさしく、面白く語ってみたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業の一般目標の点について、知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点： 授業の一般目標の点について、自分で深く考える。 関心・意欲の観点： ヨーロッパ封建社会の政治社会的崩壊について強い関心を持つ。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 1 章 ヨーロッパ中世封建制社会 内容・中世とは・中世封建社会
- 第 2 回 内容・中世農業革命
- 第 3 回 内容・商品経済と都市の発展
- 第 4 回 項目 第 2 章 14・15 世紀の大不況 内容・概観・飢饉
- 第 5 回 内容・黒死病・戦争
- 第 6 回 内容・農民一揆と都市内部の闘争・不況からの脱出
- 第 7 回 内容・主要地域の貴族と農民の状態
- 第 8 回 内容 (補) ポルトガルが海外進出の先頭に立った理由
- 第 9 回 内容 (補) ルネサンスという概念
- 第 10 回 項目 第 3 章 14 世紀～16 世紀初頭の政治 内容・概観・イタリアの都市国家
- 第 11 回 内容・イベリアの王国
- 第 12 回 内容・百年戦争前後のイングランドとフランス
- 第 13 回 内容・ブルゴーニュの興亡・神聖ローマ帝国
- 第 14 回 内容・モスクワ公国
- 第 15 回 項目 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回

第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 100 点満点の試験を行なう。ノートなどの持込は不可。無断欠勤 1 回につき 5 点マイナス。

教科書・参考書 参考書：授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階 407 号室。amak@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋史概論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 後期の授業で扱うのは、教会と文化の問題である。この時代は、神中心のヨーロッパ中世文化がやや相貌を変え、近代的人間観の確立を促すルネサンスの出現を見る。不況の泥沼のなかで、なぜルネサンスの花が開くのか。その理由を明らかにしなければならない。また、イタリア、フランス、イングランド等に見られる世俗性に重きを置いた自国語文学の出現を、力をこめて論じたい。美術の発展についても詳述する。さらに、いま一つの重要な精神運動である宗教改革についても時間の許す限り考察してみたい。

授業の一般目標 外見上神に束縛された人間が、やがて神以外の価値あるもの - 人間性とか自然 - に向ううす気がつき始めたのがこの頃の時代精神だった、といえはそれで簡単なのだが、厄介なことにルネサンスとは反対の宗教改革（信仰の内面化と大衆への浸透）という事実がある。これをどう理解すべきか。歴史は実に難しい。そして面白い。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業の概要と一般目標で触れた点に知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点： 授業の概要と一般目標で触れた点を、自分で深く考える。 関心・意欲の観点： ヨーロッパの信仰と理性の転変について、強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 4 章 14 世紀～16 世紀初頭の教会 内容・キリスト教について・教会の発展
- 第 2 回 内容・農民・貴族と教会・危機の時代の到来
- 第 3 回 内容・叙任権闘争・アヴィニョンへの教皇庁の移転
- 第 4 回 内容・教会の大分裂・きょうかいいかいかくを n 「」・教会の大分裂・教会改革を求める声の高まり
- 第 5 回 内容・異端の群れ
- 第 6 回 内容・教皇の動き
- 第 7 回 項目 第 5 章 14 世紀～16 世紀初頭の文化 内容・概観・俗語による自然主義文学
- 第 8 回 内容・スコラ学の衰退
- 第 9 回 内容・イタリアの人文主義
- 第 10 回 内容・北方の人文主義
- 第 11 回 内容・エラスムス
- 第 12 回 内容・法律家・官吏・政治思想家
- 第 13 回 項目 第 6 章 ルネサンス美術 内容・ゴシック・リアリズム・イタリアの科学的自然主義と古典主義
- 第 14 回 内容・盛期ルネサンス
- 第 15 回 項目（宗教改革について）

成績評価方法（総合） 期末試験を実施する。ノートなどの持込は不可。無断欠席は 1 回につき 5 点マイナス。

教科書・参考書 参考書： 授業中に指示する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階 407 号室。amak@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、主に現代産業社会のマクロな構造と過程について概観する。/ 検索キーワード 社会的行為、社会構造、社会変動、近代化、社会階層、官僚制、情報化・消費化社会、グローバル化

授業の一般目標 (1) 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。(2) 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。

授業の計画(全体) 社会学の歴史、基本概念、現代社会の構造と変動について学んでいく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の研究对象としての「社会」
- 第 2 回 項目 社会学の誕生
- 第 3 回 項目 社会学の成立と発展
- 第 4 回 項目 社会学の成立と発展(2)
- 第 5 回 項目 社会学の成立と発展(3)
- 第 6 回 項目 近代化と産業化
- 第 7 回 項目 産業社会と階級・階層
- 第 8 回 項目 産業社会と階級・階層(2)
- 第 9 回 項目 産業社会と官僚制組織
- 第 10 回 項目 高度産業化と「ゆたかな社会」
- 第 11 回 項目 産業社会における中心的価値観の変容
- 第 12 回 項目 「情報化・消費化社会」の成立
- 第 13 回 項目 グローバル化のなかの現代社会
- 第 14 回 項目 高度産業社会のゆくえ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%

教科書・参考書 教科書：社会学講義, 富永健一, 中央公論新社, 1995 年 / 参考書：社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997 年；クロニクル社会学, 那須壽, 有斐閣, 1997 年；現代社会学講義, 佐藤慶幸, 有斐閣, 1999 年；社会学(第 4 版), A. ギデンズ, 而立書房, 2004 年；できるだけ『社会学小辞典』を用意し、授業に出てくる用語、人名などを各自で調べてほしい。その他の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

メッセージ 社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているので、できれば年間を通して受講することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	社会学概論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学とは何か、社会学の方法としての社会調査とは何かを、現代社会の社会問題を考えながら学んでいく。

授業の一般目標 社会学とはどのような学問であるか、社会学の基礎知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会学、社会調査の知識を身につける 思考・判断の観点：社会的ものの味方ができる 関心・意欲の観点：社会問題に関心を持つ 態度の観点：社会に対して関心を持つ

授業の計画（全体）社会学と社会学の方法としての社会調査の概要を、身近な社会である、家族や地域社会から全体社会を考えながら学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の方法としての社会調査
- 第 2 回 項目 社会調査の歴史
- 第 3 回 項目 中範囲理論と社会的想像力 内容 科学的目的の社会調査
- 第 4 回 項目 量的調査と質的調査 内容 社会調査方法の選択
- 第 5 回 項目 統計調査に見る家族の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 6 回 項目 現代家族の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 7 回 項目 統計調査にみる地域社会の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 8 回 項目 都市社会のモノグラフ（シカゴ学派の事例研究） 内容 事例調査の実際
- 第 9 回 項目 スラム社会の社会構造（ストリートコーナースァエティ） 内容 参与観察の実際
- 第 10 回 項目 現代都市の諸問題 内容 質的調査の実
- 第 11 回 項目 社会階層と社会移動（SSM調査から） 内容 統計的調査の実際
- 第 12 回 項目 社会移動と生活構造 内容 統計的調査の実際
- 第 13 回 項目 生活意識と生活問題 内容 統計的調査の実際
- 第 14 回 項目 フィールド調査の楽しみと調査倫理 内容 社会調査の責任と貢献
- 第 15 回 項目 社会学と社会調査

成績評価方法（総合）授業の進捗段階ごとに行う小レポートと、出席、試験を総合的にみて評価する。

開設科目	比較社会文化論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティーや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的 政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。 / 検索キーワード ひとつの言語、言語の呼称、言語共同体、国家語、母語、母国語

授業の一般目標 日本社会に生きていると、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。 思考・判断の観点：ヨーロッパ近代言語学の成立の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える 関心・意欲の観点：自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする 態度の観点：出席と質問（授業の最後に質問票を配布する）

授業の計画（全体） 基本的に教科書に添って進む。まずことばについて〈われわれ〉が語ってきたこと、をそれぞれの言語的経験に即して議論し、次に言語的近代の成り立ちを考え、それから、言語的近代を超える営みとしての、手話、文学言語、〈国際語〉について考える予定である。なお、内容が多岐にわたっているため、第三章を扱えるかどうかは、授業の進行状況に依拠する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「母語」「ネイティブ」という概念について
- 第 2 回 項目 <やさしい言語> <むずかしい> 言語とはどういうことか
- 第 3 回 項目 ことばが<通じる> <通じない> とはどういうことか？
- 第 4 回 項目 ことばが<できる> <できない> とはどういうことか？
- 第 5 回 項目 ことばの乱れとことばの変化はどうちがうのか？
- 第 6 回 項目 言語の呼称
- 第 7 回 項目 言語的近代の成り立ちと日本
- 第 8 回 項目 南アジアの多言語状況と言語的近代の受容過程
- 第 9 回 項目 ロシア語を話すユダヤ人は、ロシア人か？ユダヤ人か？
- 第 10 回 項目 言語は土地に根ざすのか？それともヒトに根ざすのか？
- 第 11 回 項目 近代言語学が言語とみなしてこなかった言語：手話とろう者について
- 第 12 回 項目 母語以外の言語で執筆する作家たち
- 第 13 回 項目 <国際語> 概念の解体と<国際語> の内実
- 第 14 回 項目 ヨーロッパの多言語状況の動向
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：言語的近代を超えて～<多言語状況>を生きるために～, 山本真弓編著, 明石書店, 2004 年

開設科目	比較社会文化論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 「一枚の分布地図と一枚の写真から」と題して、日本各地の民俗事象を毎回1つずつ取り上げ、これを示した分布地図と写真(映像)を手がかりに、その意味を読み取る。この内容を毎回繰り返すことで、日本の民俗文化の多様性を発見し、これまでとは違う日本像を描けるようになる。/ 検索キーワード 民俗学 分布地図 民俗地図

授業の一般目標 1. 日本社会・文化のありようを全国的見地から具体的な事象を例にしてとらえる。2. 日本社会の基盤的な形成のされ方について考え、理解をする。

授業の計画(全体) 1. 民俗学的見地から、日本社会・文化の基盤的性格を理解する。2. 分布地図と写真(映像)を用いて、日本社会・文化のありようを全国的視野で把握する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨と進め方の説明
- 第 2 回 項目 民俗地図 内容 「民俗地図」の歴史と効果について
- 第 3 回 項目 分布地図を読む(1) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 4 回 項目 分布地図を読む(2) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 5 回 項目 分布地図を読む(3) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 6 回 項目 分布地図を読む(4) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 7 回 項目 分布地図を読む(5) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 8 回 項目 分布地図を読む(6) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 9 回 項目 分布地図を読む(7) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 10 回 項目 分布地図を読む(8) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 11 回 項目 分布地図を読む(9) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 12 回 項目 分布地図を読む(10) 内容 取り上げる具体的事象は初回授業で提示
- 第 13 回 項目 日本社会の見方(1) 内容 民俗学的手法から日本を考察する
- 第 14 回 項目 日本社会の見方(2) 内容 日本社会や文化を知るための比較法を考える
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 1. 毎回の授業に対する簡単なコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います。2. 欠席は欠格条項(全体の75%以上の出席がないと期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届出により認めます。)

教科書・参考書 教科書: 今年度は教科書は用いない。必要に応じてプリントを配付する。/ 参考書: 授業中に随時紹介します。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟2階210号室。いつでも随時訪ねてください

開設科目	日本語学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 「音声・音韻」日本語の音声・音韻とは何か、その働きと特徴などについての理解を深める。

授業の一般目標 日本語は「日本人・日本文化を映し出す鏡」だと言われている。その表現手段としての日本語の「音声・音韻」について学習して基礎的な知識を得るとともに、それに関わる諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「音声・音韻」に関する基本的な知識・理解が身についているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「音声・音韻」に関する基本的な知識に基づいて、日本語について考える姿勢を養う。 関心・意欲の観点：授業に対する取組を判断する。

授業の計画（全体）日本語学の諸分野のうち、「音声・音韻」に関する問題について取り扱う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語が伝えるもの
- 第 2 回 項目 ことばの形成
- 第 3 回 項目 音声・音韻とは何か
- 第 4 回 項目 音韻の働き
- 第 5 回 項目 音韻の働き
- 第 6 回 項目 母音と子音の調音の方法
- 第 7 回 項目 母音と子音の調音の方法
- 第 8 回 項目 語頭と語中尾の調音
- 第 9 回 項目 日本語の音声組織
- 第 10 回 項目 日本語の音声組織
- 第 11 回 項目 日本語の音声・音韻の単位
- 第 12 回 項目 日本語の音声・音韻の単位
- 第 13 回 項目 母音の無声化
- 第 14 回 項目 八行音の変化
- 第 15 回 項目 第十五週 筆記試験

成績評価方法（総合）試験 50%、関心・意欲 30%、出席 20%（質問カード）

教科書・参考書 教科書：新しい国語学, 佐田智明、添田建治郎ほか, 朝倉書店, 1988 年；新しい国語学, 添田建治郎, 朝倉書店, 1988 年；生協で購入。 / 参考書：愉快的日本語講座, 添田建治郎, 小学館, 2005 年

メッセージ 昨今押され気味の日本語の大切さを再認識してほしい。日本語はかけがえのないことば。

連絡先・オフィスアワー 電話（933-5249）オフィスアワー：添田建治郎研究室（火曜日の 1 時～2 時 30 分）

開設科目	日本語学 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語および日本文化に関する諸問題をペアワークまたはグループ討議を通して検討する。/
 検索キーワード 日本語、日本文化、異文化

授業の一般目標 自分一人の考えに閉じこもらずに、他者との意見交換を通して、柔軟な考え方を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語および日本文化に関する知識・理解を深める 思考・判断の観点：ステレオ・タイプの考え方を脱して、適切な判断ができるようにする。 関心・意欲の観点：日本語・日本文化に関する関心だけでなく、異文化に関する関心を持つようにする。異文化を理解しようとする意欲を育てる。 態度の観点：積極的に授業に参加し、自分の意見を恥ずかしがらずに伝えるようにする。 技能・表現の観点：簡潔に授業内容にかんする感想・意見・質問をまとめることができる。 その他の観点：対人関係を自らすすんでつくることができるようにする。

授業の計画(全体) 構成的グループ・エンカウンターの手法を用いて、日本語と日本文化に関する諸問題をテーマにディスカッションする。

成績評価方法(総合) 出席と小レポート、課題を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 木曜、午前 10 時～12 時

開設科目	中国文学史 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 中国古代から清朝まで(民国以前)の文学について概観する。 中国文学は「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画(全体) 文献資料を読み進めながら、中国文学の特質『詩経』と『楚辞』、六朝文学、隋・唐代の文学等について言及する予定。

成績評価方法(総合) 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論, 岩城秀夫, 朋友書店

開設科目	中国文学史 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 「中国文学史 I」に引き続き，中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して，基本的知識を得，個々の作品の読解を通じて，中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画（全体） 文献資料を読み進めながら，宋詞，近世の演劇・小説，元・明・清の文学等について言及する予定。

成績評価方法（総合） 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論，岩城秀夫，朋友書店

開設科目	言語学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 「ことば」が科学的研究の対象になることを理解してもらおう。具体的には、日本の幾つかの地域を選び、そのアクセントを記述する。それらには、このような違いがあるにも拘らず、言語学適法法に基づいて説明すれば、あくまでもズレであって、相違ではないことに気付かせる。それらは本来同一の言語的特徴に還元できることを発見させる。つまり、言語の体系である共時態は、過去のつながり、通時態の反映であることもんだいにする。取扱う地域は、鹿児島市、都城市、京都市、東京である。 / 検索キーワード 方言、アクセント、韻律単位、拍、音節

授業の一般目標 この科目は主に一年生を対象にしたものである。従って一番の目標は、学生にことばに対する興味を喚起することである。そのために、方言とアクセントということを講義の対象として選んだ。身近な方言が科学的研究の対象になることを理解してもらいたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学の基本的考え方。 思考・判断の観点：論理的な思考能力。言語学が理系科目に近いことへの理解。 関心・意欲の観点：ことばに関心を持ち続ける。 態度の観点：講義に積極的に参加する態度。 技能・表現の観点：考えた事を、自分のことばでまとめ発表する。

授業の計画（全体） 自家版のテキスト「方言とアクセント」に沿って、講義を進める。またテキストとともに、その地域の方言をアクセントに重点を置いて録音した資料を聴いてもらう。そして、アクセントには規則性があることを学んでもらう。

成績評価方法（総合） 定期試験、60%。授業外レポート、20%、出席 20%。

メッセージ 当然のことであるが、必ず予習、復習をすること。そうしないと言語学の考え方は分からない。

連絡先・オフィスアワー 人文6階、617研究室、 e-mail:takanori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ヨーロッパ言語概説(ドイツ)III	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 現代ドイツ語の諸相について概説します。前期は、「世界の中のドイツ語」、「ドイツ語の特徴」、「ドイツ語と英語との関係」、「ドイツ語の方言」などのテーマを扱う予定です。 / 検索キーワード
ドイツ語、言語、文化、社会

授業の一般目標 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。 思考・判断の観点：言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。 関心・意欲の観点：言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。

授業の計画(全体) 毎回のテーマごとにプリントを配布し、それに基づいて講義を行ないます。授業に関連する重要表現などは、文化的な観点から解説します。質問は随時受け付けますので、積極的に参加してください。

成績評価方法(総合) レポート7割+授業への参加度3割で評価します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：プリント使用。 / 参考書：授業中に紹介します。

メッセージ 共通教育で習うドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ヨーロッパ言語概説(ドイツ)	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 現代ドイツ語の諸相について概説します。後期は、「ドイツ語における性差」、「外来語」、「慣用句」、「言葉から見たドイツの社会変化」などのテーマを扱う予定です。 / 検索キーワード ドイツ語、言語、文化、社会

授業の一般目標 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。 思考・判断の観点：言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。 関心・意欲の観点：言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。

授業の計画(全体) 毎回のテーマごとにプリントを配布し、それに基づいて講義を行ないます。授業に関連する重要表現などは、文化的な観点から解説します。質問は随時受け付けますので、積極的に参加してください。

成績評価方法(総合) レポート7割+授業への参加度3割で評価します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：プリント使用。 / 参考書：授業中に紹介します。

メッセージ 共通教育で習うドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ヨーロッパ文学入門(ドイツ)III	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ドイツ近代文学について解説する。フランスで革命があったころの、ドイツの18世紀から19世紀にかけては、理性を信頼し、発展を夢見る啓蒙主義の時代であったが、同時に、その啓蒙主義が敵視する「迷信」が跳梁跋扈する時代でもあった。山師ペテン師たちが招霊術、観相学、動物磁気学、催眠術を騙って活躍する時代だった。時代の転換期に、人々の記憶に宿る古い夢は、新しい時代の到来がもたらす不安と混じり合って、奇妙な迷信の世界が展開された。本講義では、いわば、啓蒙主義の裏側を、文学作品を通して探検することになる。

授業の一般目標 文学に対する興味と理解を深める。

授業の計画(全体) 講義では、以下の作品を順不同で取り扱うだろう。ゲーテ『大コプタ』(カリオストロとフリーメーソン。招霊術がテーマ)、『コリントの花嫁』(吸血鬼) シラー『視霊者』(招霊術師、秘密結社) カント『視霊者の夢』(スエーデンボルク) ハイネ『ローレイ』(人魚)、『精霊物語』(古いゲルマンの神々) ホフマン『催眠術師』、『砂男』 アイヒェンドルフ『大理石像』(幽霊)等。

成績評価方法(総合) 指定図書を読んだうえでの小レポートを幾度か提出してもらい、それを通算で期末に評価する。

教科書・参考書 教科書：無し。 / 参考書：適宜指示する。

開設科目	ヨーロッパ文学入門(フランス)I	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 講義題目を「19世紀後半のフランス小説」とする。19世紀後半のフランスの代表的小説を取り上げ、その小説を具体的に検討・分析することをとおして、文学の流れを把握したい。どの作品を取り上げるかといえば、フロベールの『ボヴァリー夫人』、バルベール・ドールヴィイの『妻帯司祭』『魔性の女たち』、エミール・ゾラの『居酒屋』『ナナ』『ジェルミナル』、モーパッサンの『脂肪の塊』『女の一生』『ピエールとジャン』、ユイスマンスの『さかしま』『彼方』を考えている。これらの作品を紹介することによって、フランスの小説がどのようなものであるのか、具体的に知ってもらいたいと願っている。

授業の一般目標 文学史の授業であるが、歴史を前面に出すのではなく、代表的作品を具体的に取り上げることによって、文学の流れの理解を目指す。歴史の話は、ともすれば退屈であり、作品を具体的に知ってもらうことによって、興味が湧けば、実際に読んでもらいたいと願うからである。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：19世紀後半の主要な作家や作品を具体的に知り、あわせて、フランス文学の流れを把握することができる。 **思考・判断の観点**：作家や作品の歴史的背景を学ぶことで、現代に生きることの意味を考察することができる。人間とは何か、いかに生きるべきかを考えることができる。 **関心・意欲の観点**：フランス文学への積極的な関心を持つことができる。また、授業で取り上げる作品を実際に読むことができる。

授業の計画(全体) 概要のところでも述べたように、フロベールの『ボヴァリー夫人』、バルベール・ドールヴィイの『妻帯司祭』『魔性の女たち』、エミール・ゾラの『居酒屋』『ナナ』『ジェルミナル』、モーパッサンの『脂肪の塊』『女の一生』『ピエールとジャン』、ユイスマンスの『さかしま』『彼方』といった作品を解説・分析したい。今挙げた作家について、フロベールには4回、バルベール・ドールヴィイには1.5回、ゾラには2.5回、モーパッサンには3.5回、ユイスマンスには2.5回ほどの時間を充てる予定である。

成績評価方法(総合) 試験またはレポート(70%)と平常点(30%)との総合で、成績評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：フランス文学史, 饗庭孝男他, 白水社, 1979年; フランス文学史, 田村毅・塩川徹也, 東京大学出版会, 1995年; 授業中、適宜紹介する。

メッセージ 文学とは、知識ではなく、何よりもまず読むことだと思う。授業で取り上げる作品を実際に読んでもらいたいと願っている。

連絡先・オフィスアワー 人文学部613研究室、月曜日14:30~16:00.

開設科目	一般言語学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 「一般言語学」というのは、日本語や英語などの個別言語に特化することなく、人間の言語一般を指す「ことば」です。この授業では、様々な具体的な言語現象（主に受講生の母語である日本語）を取り上げながら、言語学では言語というものをどのように扱っているかについて、できるだけわかりやすく説明します。具体的には、言語学の主要テーマに関して、その研究方法について概説します。皆さんは大なり小なりことばに関心があると思いますが、言語学を勉強することで、ことばのしくみについての理解が深まり、今までのことばについての間違っただけの思いこみにきつと気づくはずで、ことばについての新たな発見の旅をはじめませんか？

授業の一般目標 1. 言語学とはどういう学問であるかを理解する。 2. 言語学の主要分野についての理解を深める。 3. 言語の多様性を理解する。 4. 言語学の基本的な考え方を身につける。

授業の計画（全体） 言語の研究、一般音声学、音韻論、形態論。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 言語の研究 1 内容 ソシユールの「一般言語学講義」
- 第 3 回 項目 言語の研究 2 内容 チョムスキー流の言語研究
- 第 4 回 項目 言語の研究 3 内容 チョムスキー以外の言語研究
- 第 5 回 項目 一般音声学 1 内容 音声学の分野
- 第 6 回 項目 一般音声学 2 内容 音声表記
- 第 7 回 項目 音韻論 1 内容 音素とは
- 第 8 回 項目 音韻論 2 内容 プラーク学派の音韻論
- 第 9 回 項目 音韻論 3 内容 生成音韻論
- 第 10 回 項目 形態論 1 内容 個別言語の音韻論
- 第 11 回 項目 形態論 2 内容 形態素とは
- 第 12 回 項目 形態論 3 内容 語形変化
- 第 13 回 項目 形態論 4 内容 語形成
- 第 14 回 項目 形態論 5 内容 形態変化
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） 出席点。課題。期末テスト。

教科書・参考書 教科書：『言語学 第 2 版』，風間喜代三他，東京大学出版会，2004 年；レポート課題用教材は授業中に提示。 / 参考書：授業中に適宜提示。

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	一般言語学 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 「一般言語学」というのは、日本語や英語などの個別言語に特化することなく、人間の言語一般を指す「ことば」です。この授業では、様々な具体的な言語現象（主に受講生の母語である日本語）を取り上げながら、言語学では言語というものをどのように扱っているかについて、できるだけわかりやすく説明します。具体的には、言語学の主要テーマに関して、その研究方法について概説します。皆さんは大なり小なりことばに関心があると思いますが、言語学を勉強することで、ことばのしくみについての理解が深まり、今までのことばについての間違っただけの思いこみにきつと気づくはずで、ことばについての新たな発見の旅をはじめませんか？

授業の一般目標 1. 言語学とはどういう学問であるかを理解する。 2. 言語学の主要分野についての理解を深める。 3. 言語の多様性を理解する。 4. 言語学の基本的な考え方を身につける。

授業の計画（全体） 統語論、意味論、言語類型論、歴史言語学。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 統語論 1
- 第 3 回 項目 統語論 2
- 第 4 回 項目 統語論 3
- 第 5 回 項目 意味論 1
- 第 6 回 項目 意味論 2
- 第 7 回 項目 意味論 3
- 第 8 回 項目 意味論 4
- 第 9 回 項目 言語類型論 1
- 第 10 回 項目 言語類型論 2
- 第 11 回 項目 言語類型論 3
- 第 12 回 項目 歴史言語学 1
- 第 13 回 項目 歴史言語学 2
- 第 14 回 項目 歴史言語学 3
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） 出席点。課題。期末テスト。

教科書・参考書 教科書：『言語学 第2版』，風間喜代三他，東京大学出版会，2004年；レポート課題用教材は授業中に提示。 / 参考書：授業中に適宜提示。

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp